

「ブックスタートがもたらすもの」 に関する研究レポート

NPOブックスタート 編著



「ブックスタートがもたらすもの」 に関する研究レポート

NPO ブックスタート 編著

編集協力 佐々木宏子 秋田喜代美

第1部考察 佐々木宏子

はじめに

ブックスタートは、すべての赤ちゃんのまわりで楽しくあたたかいひとときが持たれることを願い、一人ひとりの赤ちゃんに、絵本をひらく楽しい体験と共に、絵本を手渡す活動である。市区町村自治体の事業として主に自治体の財源で取り組まれ、2014年6月末現在、全国1741の市区町村のうち881自治体（50.6%）が実施している（NPOブックスタート調べ）。活動を行う自治体に生まれたすべての赤ちゃんが対象となる乳幼児健康診査（以下、健診または乳幼児健診）などの機会¹に、図書館・保健センター・子育て支援課・市民ボランティアなどが連携して行う。

ブックスタートは、1992年に“Share books with your baby!”のキャッチフレーズとともに、英国で始まった。絵本を読む（read books）のではなく、赤ちゃんが絵本をひらく楽しいひとときを分かち合う（share books）……。そのきっかけを、すべての赤ちゃんのもとへ届けようと始まった活動は、日本では2000年の「子ども読書年」を機に紹介され、その後、世界各地へと広がっている。²また、2001年4月に発足したNPOブックスタートは、日本における推進団体として活動の理念を正確に伝え、各地域で充実した活動を継続できるよう、様々な事業を行っている。

このたび私たちNPOブックスタートがこの『「ブックスタートがもたらすもの」に関する研究レポート』を発行するのは、「ブックスタートにはどのような効果があるのか」という問いに対するNPOブックスタートとしての答えを用意したいと考えたからである。市区町村自治体の公的事业として、主に税金を使って実施される事業であるブックスタートにとって、これは問われ続ける質問でもある。

あるものの「効果」は、その「目的」と対になって語られることがあり、「子どもへの読みきかせ」という文脈においては、「想像力が豊かになる」「語彙が豊

富になる」「知能が上がる」といった「効果」を分かりやすい数値等で示すことが期待されることも多い。しかしブックスタートはそれらを目的とした活動ではないため、私たちはこれまで活動の目的と、子どもへの読みきかせの教育的な側面とを結びつけることはしてこなかった。そして本来ブックスタートが目指したshare booksの時間の中で生まれる、親子のふれあいや気持ちの通い合い、喜びや楽しさなどに注目し、それらに対する人々の共感を集めながら活動を推進してきた。

また、ブックスタートは目に見える分かりやすい効果を調査等ではっきりと示しづらい活動でもある。赤ちゃんが育つ環境は様々な要素が複雑に影響しあっており、“ブックスタートによって”「親子の絆が深まった」「赤ちゃんが幸せに成長した」ということを証明することは非常に難しい。また実施自治体では、ブックスタートの開始と同時に、地域の中で様々な読書推進や子育て支援の取り組みを行うことも多く、何か「効果」のようなものが現われたとしても、それが“ブックスタートだけによって”もたらされたとは言い切れない場合も多い。そもそも絵本をいっしょに楽しむことの意味や、そこで生まれる幸せな時間にどのような意味があるのかを説明することは難しく、人の心に起こることを数値だけで測り示すこともできないだろうと考えてきた。このような理由から、NPOブックスタートでは、2000年に行った東京都杉並区における試験実施以降、ブックスタートの効果等に関する調査は行わず、実施地域への支援に注力してきた。

こうした前提を踏まえた上で、本研究レポートでは「ブックスタートがもたらすもの」について考えたい。第1部と第2部ではその対象を「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」とし、第3部では「活動を実施する市区町村自治体や関係者」とする。

第1部と第2部では、「絵本のひととき」が「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」にもたらすものが、“ブックスタートによって”より多くの家庭に届いている可能性について、2段階の分析によって検討した。

¹ 実施自治体のうち、ブックスタートを集団の乳幼児健診で行っているのは75%。「集団の乳幼児健診を実施していない」等の理由から、新生児訪問や育児相談等の母子保健事業で行っているのは18%、子育て支援センターや図書館等でブックスタートのための日を設定するなどして行っているのは7%である（2014年2月時点）。

² ブックスタートについては、204ページを参照のこと



目次

まず第1部では、赤ちゃん絵本をひらく時間の具体的な事例を分析し、「絵本のひととき」とはどのような時間なのか、その時間が「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」に何をもたらしているのかを明らかにする。次に第2部で、ブックスタートの対象となった保護者へのアンケート調査を分析し、「ブックスタート」が各家庭で赤ちゃん「絵本のひととき」を持つ具体的なきっかけになっているかを検討する。つまり、ブックスタートという形を持った活動が、家庭で「絵本のひととき」を持つきっかけとして機能していることが明らかになれば、活動を実施することによって、より多くの家庭で「絵本のひととき」がもたらす成果が享受されていると推測できるのではないかと考えた。

またブックスタートは地域で多くの人に関わり、地域に根ざした活動として展開されている。そこで第3部では、各地の実施状況の詳細や関係者の発言等を分析し、ブックスタートが「活動を実施する市区町村自治体や関係者」にもたらすものについて明らかにしたい。

本研究レポートの作成にあたっては、佐々木宏子 鳴門教育大学名誉教授と、秋田喜代美 東京大学大学院教授に専門的な見地からの助言をいただき、編集の協力をお願いした。また佐々木氏には、第1部で明らかにしたことに対する考察も加えていただいた。

本文では、赤ちゃんや子どもといっしょに絵本を読む行為を「読みきかせ」と記した。実際に赤ちゃんや子どもと絵本をひらく時には、大人が一方向的に絵本を「読んできかせる」というよりは、双方の言語的／非言語的なやりとりが中心となるため、近年では例えば「読みあい」という言葉が使用されることもある。しかし今回は、「子どもといっしょに本をひらく」行為を指す言葉として、より一般的に普及しており、より多くの人が同じイメージを抱きやすいと判断し、「読みきかせ」という言葉を使用したことをお断りする。

はじめに… 2

第1部 絵本のひとときは、 「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」に何をもたらすか … 9

(1) 赤ちゃんとの関係を育む過程を豊かなものに

1. 小さな赤ちゃん絵本をひらくということ… 14
2. 「通じた！ 分かっていたんだ！」の幸せ… 18
3. 絵本の世界を共有したものだけに分かること… 20
4. 絵本の世界と現実の世界がつながる… 24
5. 子どもの個性に気づく… 26

(2) 絵本を介して生まれる喜び

1. やりとりが生み出す楽しさ… 30
2. 父親であることの喜び… 31
3. 子どもと読み手の成長を見つける… 33
4. 子育ての喜びをともに分かち合う… 35

(3) 子育ての助けとなるもの

1. 親も子も心を落ち着かせる道具として… 37
2. 自分自身との対話… 40

(4) 受け継がれる絵本のひととき… 42

(5) いっしょに生きていた証し… 44

まとめ… 47

第1部 資料

参考にしたウェブサイト… 49

考察の参考文献… 49

第2部 ブックスタートは、 赤ちゃんと絵本をひらくきっかけになっているか … 51

調査概要

調査協力者／方法／時期／質問項目／集計／自治体データ… 53

結果と分析

(1) 「赤ちゃんと絵本のひととき」についての傾向

1. 家庭での絵本の読みきかせの有無と頻度… 57
2. 読みきかせをしている人… 59

(2) ブックスタートが絵本のひとときを持つきっかけになったか

1. 「ブックスタート実施月齢」と「家庭での読みきかせ開始月齢」に
関連がみられる… 62
2. ブックスタートで手渡された絵本が活用された… 67

(3) ブックスタートでの体験は、保護者が「絵本のひととき」に対して、 どのような認識を持つことにつながったか… 70

(4) ブックスタートがより多くの家庭で

「絵本のひととき」を持つきっかけとなるために考慮できること

1. 家庭での絵本の読みきかせの状況… 73
2. 「読みきかせをする人」としての父親の存在… 78
3. ブックスタートでの体験… 78
4. ブックスタートをより具体的なきっかけとするために考慮すべき点… 81

まとめ… 84

第3部 ブックスタートは、 市区町村自治体や関係者に何をもたらすか … 87

(1) 地域の子育て環境

1. 組織と人の連携を基盤とした子育て支援推進の枠組み

- ① 複数の行政機関の連携… 91
- ② 公と民の連携… 93
- ③ 連携の上に成り立つネットワーク… 94

2. 保護者と地域の人々のつながり

- ① 保護者と行政職員… 96
- ② 保護者とボランティア… 97
- ③ 保護者と保護者… 99

3. 公共施設の設備と子育て支援活動の充実

- ① 図書館… 100
- ② 保健センター… 103
- ③ 子育て支援センター… 104
- ④ 保育園・幼稚園… 105

4. 子育てしやすい地域への愛着… 106

(2) 母子保健事業

1. 健診の様子… 109

2. 対象者の個別の状況に合わせた対応

- ① 具体的なアドバイス… 111
- ② 「支援を必要としている人」に気づく… 112
- ③ 日本語以外の母語を話す方、障がいのある方への対応… 113
- ④ 参加しなかった方（健診未受診者）への対応… 114

- 3. 健診受診率や満足度の向上… 115
- 4. ブックスタート後の健診内容の充実… 116

(3) 活動に携わる人々

1. 行政職員

- ① 業務の意義を再発見する… 117
- ② 業務に役立つ具体的な学びを得る… 118

2. 市民ボランティア

- ① 親子との関わりから得るもの… 120
- ② 地域の人々との関わりから得るもの… 120

まとめ… 122

第3部 資料

- NPO ブックスタート発行物… 124
- ブックスタートと行政の計画… 125

おわりに… 126

巻末資料

- 第2部アンケート調査結果（数表／自由記述）… 132
- ブックスタートについて… 204

第 1 部

絵本のひとときは、「赤ちゃん」「保護者」
「親子の関係性」に何をもたらすか

考察 佐々木宏子

第1部では、小さな赤ちゃん絵本をひらくことによって、そこでは実際に何が起こっているのか、赤ちゃんはどのような様子を見せ、保護者は何に気づき、どのようなことを感じているのかを探りたい。そして、そうした経験が「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」に何をもたらしているのかについて考えてみたい。

こうした問いへの答えを探るため、「赤ちゃんとの間に豊かな絵本のひとときが持たれる」とは、実際にどのようなことなのかを把握すべく、以下のとおり分析を行った。

まず2011年12月から2012年3月にかけて、「赤ちゃん絵本をひらくひととき」の時間に多様な発見の機会を見だし、自分の子どもと定期的に絵本を読んでいる保護者に協力を依頼して事例を収集した。

協力の内容は「赤ちゃん（2歳くらいまで）と絵本をひらく時間の中で生まれたやりとりやコミュニケーション、その時間を通して読み手が気づいたこと、感じたこと、考えたこと、そのときに抱いた思いなどに関する「事例」（出来事、エピソード）を自由に記録する」ということである。

上記に該当する保護者を探すにあたっては、「各地域でブックスタートの活動に携わっている図書館職員や保健師」、また「NPOブックスタート職員の知人」の中から該当すると思われる方に声をかけ、NPOブックスタート職員の中にも該当する者があればそこに含め、合計20名の記録協力者を得た。彼らにはまず本研究レポートの概要と協力依頼の内容について口頭で説明し、のちに文書で依頼した。

また本研究レポートの作成にあたり、全国7自治体で、ブックスタートの対象となった合計3,245名の保護者にアンケート調査を行った（アンケート調査の詳細は第2部に記す）。その自由記述欄に書かれたコメントからも、第1部での分析の対象となる事例を集めた。

さらにNPOブックスタートが2001年より発行している「ブックスタート・ニュースレター」のコラム『絵本のひととき』（一般の保護者が赤ちゃん絵本を楽しむ様子を、お気に入りの絵本とともに紹介する）に掲載された原稿からも

事例を集めた。また広く一般の赤ちゃん絵本と保護者が、絵本を通してどのような時間を過ごしているのかの全体像をつかむため、赤ちゃん向けの絵本を発行している複数の出版社のウェブサイトや、読者参加型の絵本情報ウェブサイト等に掲載された絵本のレビューなどからも事例を集めた。^{3 4}

分析の手続きとしては、まず収集した事例を研究テーマに関連する箇所に着目して読み込み、他の事例の中の類似した部分を合わせて具体例として集め「主題項目」を生成した。そして主題項目ごとに、主題項目名・定義・具体例・分析の視点等を書きとめる理論的メモからなる「分析ワークシート」を作成した。

以下に生成した主題項目の一例を示す。事例を読み進めると「二人でなんとなく『じゃあじゃあびりびり』にでてきたね」と意見が合致するような感覚を知りました」「親子で共通の符丁というか“あれのことだな”と認識できる楽しさがある」「それからは、娘にちょっと移動してほしいときなどに、『ぴーぴーぱくしてくださーい』と言うのが“家族語”になりました」といったものが散見されたため、これらをく絵本の世界を共有したものだけに分かること>として主題項目を作成した。またそれを「絵本に出てきた絵や言葉、登場人物の行為等がその絵本をいっしょに読んだ間柄でしか通じない特別な意味をもって認識され、その後、再度絵本を読んだ時や、絵本をひらいていないような場面においても、その共有された親密性をいっしょに楽しむこと」と定義した。

いくつかの「主題項目」が生成されたところで、1項目または複数項目を包括する「カテゴリー」を作成し、主題項目やカテゴリー間の関係を検討して、「赤ちゃん絵本をひらくひととき」がもたらすものについて整理し、まとめた。⁵

3 参考にしたウェブサイトについては、49ページを参照のこと。

4 ウェブサイトから引用した事例については、サイト運営主体を通してレビュー投稿者に事例の掲載許可を得た。

5 質的研究の分析方法については、以下の文献を参考にした。西條剛央、『ライブ講義・質的研究とは何か（SCQRM ベーシック編）』（新曜社、2007年）、『ライブ講義・質的研究とは何か（SCQRM アドバンス編）』（新曜社、2008年）

事例のあとには、長年にわたり絵本を通した乳幼児の発達心理をテーマに研究をされてきた、佐々木宏子 鳴門教育大学名誉教授に考察を加えていただいた。事例から浮かびあがる赤ちゃんとの保護者の姿や親子の関係をどのように捉えることができるのか……、一人ひとりの赤ちゃんの個性を何よりも尊重し、冷静かつあたたかく親子の関係を見つめる、ひとつの視点を提供していただいている。

各事例では、登場する子どもの名前は仮名とした。また取り上げた事例の記録協力者と、ニュースレターのコラム執筆者、ウェブサイト等から収集したレビューの投稿者については、事例の最後に「仮名・子どもとの続柄、子どもの出生順位・性別」を記載した。アンケートの自由記述欄から取り上げた事例の回答者については、「アンケートに協力した自治体の認識記号・子どもとの続柄、子どもの出生順位」を記した。

事例に登場する絵本のタイトルが分かっているものの、それが部分的に引用した箇所には書かれていない場合には、タイトルを事例の最初に記した。また事例当時の子どもの年齢／月齢が分かっている場合も同様とした。事例はできる限り原文のままで記載したが、漢字の使い方や送り仮名等については、原文の主旨を損なわない範囲で訂正を加えたものもある。

参考として、事例に登場する赤ちゃんの年齢／月齢を記してあるが、赤ちゃんがある反応を示す時期やその有無には個人差があり、読み手とのコミュニケーションの深まり方も個々のケースによって様々である。また今回集めた事例の中には、何組もの親子が類似した経験をしているものがある一方で、一組の親子だけが経験しているものもある。

本研究レポートの第 1 部の目的は、赤ちゃんとの絵本をひらいた時の様子を年齢／月齢に沿ってパターン化したり、「この絵本はこう楽しめる」というような絵本ごとの一般的な原則を作り出すことではない。赤ちゃんとの読み手の組み合わせの数だけ起こりうる多様な「絵本のひととき」の具体性に注目し、事例の内容が普遍性を感じさせるものであったり、「絵本のひとときがもたらすもの」の広が

りや可能性を示唆するものである場合には、年齢／月齢や類似例の数に関係なく、等しく扱った。

個々の親子の間で繰り広げられる「絵本のひととき」はそれぞれに独自のものである。それゆえ「絵本のひとときがもたらすもの」に関する研究においては、集める事例の数が多くなるほど、新たな知見が得られる可能性が増すともいえる。本分析は「絵本のひととき」がもたらすものの多くを捉えているが、ここに書かれたものがすべてではないことをお断りする。

以下、「絵本のひととき」が「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係」にもたらしているものについて、事例を通して見出された内容を次の 5 つの視点から整理したものをレポートする。

- (1) 赤ちゃんとの関係を育む過程を豊かなものに
- (2) 絵本を介して生まれる喜び
- (3) 子育ての助けとなるもの
- (4) 受け継がれる絵本のひととき
- (5) いっしょに生きていた証し

(1) 赤ちゃんとの関係を育む過程を豊かなものに

生まれたばかりの赤ちゃんは言葉を読さず、体を思うように動かすこともできない。何かあれば泣くばかりに見える赤ちゃん、意思の疎通を図ることはなかなか難しい。しかし生まれてから2～3年が経てば、身体が発達するだけでなく、意味のある言葉を読するように、会話が成り立つようになる。そして共感したり、ユーモアを交えたりしながら豊かなコミュニケーションを図ることができるようになる。

赤ちゃんが、目を見張るような成長を見せる生後数年間というのは、実は保護者や周りの人たちが赤ちゃんという存在を理解し、その子とのつきあい方を学び、一人の人間との関係を一から作り上げる時間でもあるのではないだろうか。

今回の分析を通して見えてきたのは、絵本を介した赤ちゃんと保護者のやりとりは、言葉のコミュニケーションに至るまでの最初の数年間の過程を、楽しさ、喜び、驚き、感動、安らぎのある豊かなものにしているのではないかということである。

1. 小さな赤ちゃん和絵本をひらくということ

赤ちゃんは、聴力はかなり発達しているが、視力はものが見えてはいるものの焦点が定まっていなような状態で生まれてくるといわれている。生まれたばかりの赤ちゃんの目の前で絵本をひらいても、赤ちゃんは、私たちと同じようには絵本の世界を捉えていないのだから。



それでも次第に赤ちゃんは、目に映る絵や聞こえてくる声に小さな反応を示すようになる。以下に紹介する事例からは、その様子に保護者が気づき、未知の世界に触れるような静かな驚きとともに赤ちゃんに向き合っている様子が伝わってくる。

事例

- 長男が3か月の頃、『ひとりであんちできるかな』（きむらゆういち／作 偕成社）を読みました。私が「うーん うーん」と、おおげさに言うからか、息子もいっしょに2、3回「うーん」と声を出したのでとても驚きました。（小林さん・母親、第1子・男）
- 次男が5か月の頃、『はらぺこあおむし』（エリック・カール／作、もりひさし／訳 偕成社）を読みました。すると、いちごの絵に顔を近づけ、お口をつけてなめなめました。食べ物だけが出てくるページでは、両手で本を握って、口をもぐもぐさせながら、よだれを垂らしていました。離乳食はまだ始めていなかったのですが、家族の食事を、いつもよだれを垂らしてみていた次男。絵本の中の食べ物にもとても反応して、びっくりしました。（小林さん・母親、第2子・男）

考察

佐々木宏子（乳幼児発達研究・鳴門教育大学名誉教授）

初めて赤ちゃんを育てる親の多くは「赤ちゃんはただ泣いてミルクを飲んでの繰り返し」と感じることはないかと思います。実際に「泣いて・ミルクを飲んで・おしめを換えて」の時間のほうが圧倒的に多いことも事実です。しかしそのような時間の合間に「赤ちゃんって面白いな」という瞬間が持てるか持てないかで、子育ての事情は大きく変わるのではないのでしょうか。

自然の中に連れ出し、様々に変化するものに会おうと、赤ちゃんは目をきょろきょろさせて興味のあるところを大人に教えてください。また、あやし言葉やわらべうたなどで顔と顔を見合わせ、ジェスチャーを交えつつ、笑顔と心地よいリズムカルな人の声で交流すると、赤ちゃんは様々な反応を返してくれます。こうした中から、まだ言葉を読せない赤ちゃんとのコミュニケーションが生まれます。

残念ながら現代は、そうした育児文化の世代間伝承が、断たれてしまっています。わらべうたなどが果たしてきた役割を、絵本が引き継いだようなところがあるのでしょうか。

赤ちゃん絵本の中には、オノマトペの言葉がとても多いです。歌うように柔らかな、日本語独特のリズムで包み込んでいくような言葉があふれています。こうした絵本は、わらべうたなどとはまた異なる新しい日本語のリズムやメロディを活かした文章と、そ

れを視覚化した絵などにより、親子のあいだにコミュニケーションの回路を作りあげるのではないかと考えます。

ただ絵本を読み始めるのは、早ければ早いほどよいというものでもありません。赤ちゃんは一人ひとり違う個性を持っていますし、赤ちゃんが小さなうちは実体験や直接触れ合って遊ぶことが大切です。ですから「赤ちゃんが絵本に出会う時期」については、私はそれほどこだわらなくてもいいのではないかと考えています。

聞こえてくる声に耳をすませ、小さな反応をするだけだった赤ちゃんは、次第に絵本により積極的な関わり方をするようになる。それに対して読み手は、この子は何に興味があるのか・ないのか、何が好きなのか・嫌いなのか、どうすれば喜んでくれるのか、と想像する。そして絵本の絵（線・形・色）や言葉、読み手の声や読み方などの情報と、赤ちゃんの反応を関連づけて、目の前の小さな存在を理解しようと一生懸命になる。そこには「あなたのことが知りたい」という、コミュニケーションの原点となる思いが込められているようだ。



事例

- ある日の午後、自宅でソファに座り、明彦を腕に抱えて『じゃあじゃあびりびり』（まっいのりこ／作 偕成社）を読んでみた。明彦に本を読んでやるのはこれが初めてなので、どんな反応をするかなと少しわくわくしながらページをひらくと、真剣な表情で私が読むのを聞き、「ひこうき ぶーんぶーん」のところでは、「あー！」と声をあげた。飛行機が気に入ったのかな、「ぶーん」という音が好きなのかな、と思ってそのページを繰り返してみたが、2回目からは反応はなかった。（牧田さん・母親、第3子・男）
- 8か月の終わり頃には、『ととけっこうよがあげた』（ましませつこ／絵、こばやしえみこ／案 こぐま社）を読むと、「うー」と声を出して喜び、「こっこさん、おはよう」のところで手を挙げるようになった。話をよく聞いて絵もよく見ていたんだなぁと感心し、絵本を読んでやるのがより一層楽しくなった。（大野さん・母親、第1子・女）

考察

佐々木：赤ちゃんとの share books は、単に読み手の側が一方向的に語りかけているわけではないですね。人とコミュニケーションをとろうとするときに、自分だけが言いたいことを言ってもだめなのと同じです。つまり、赤ちゃんの方も本を見て聞いて感じたことを、いろいろな形で表現してくれるのですが、それを読み手が受け止めるということが大切だと思います。

例えば読み手は、「この絵はよく見るのに、他の絵はぜんぜん見ない」とか「このページにくるといつもこうするわ」とか「5か月の時はこんなこと言わなかったのに、10か月になると反応がまったく変わったわ」ということに気づくことがあります。そしてどういう調子で語りかければこの子は一番よく反応してくれるだろうか、どんな反応を返してくれるだろうか、それは何故なんだろうか、と考えながら本をひらくようになっていきます。

そういうことを繰り返していくと、赤ちゃんとの絵本の時間の中で、母、父、祖父母、保育士といった読み手が、「この子はこういうことを考えているんだ、感じているんだ」とか「こんなものを内側に持っているんだ」ということ、つまり子どもの想像力や独自性みたいなものを発見していくことができます。

小さい人とつきあうということは、そういうことを発見して、共感共鳴することなのだと思います。そこが大事なところで、それをキャッチすることが子どもを育てるということなのでしょう。反対にその発見がうまくできないと、子どもがただ手間のかかる、うるさいだけの存在に思えてきてしまうのではないのでしょうか。

2. 「通じた！ 分かっていたんだ！」の幸せ

やがて赤ちゃんが絵本の決まった場面で喜ぶようになると、読み手は思わず大喜びする。自分が働きかけたことに対して明らかな反応があり、しかも赤ちゃんを喜ばせることができたということが、読み手を幸せな気持ちにさせるのだ。読み手はもう一度その楽しんでいる様子を見たいと思い、何度も繰り返しその絵本を読むようになる。



事例

- 新米ママの私が生後数ヶ月の息子と一緒に初めて読んだ本は、当時自宅にあった絵本『ノントンにんにんにこにこ』と『ノントンもぐもぐもぐ』（キヨノサチコ / 作・絵 偕成社）でした。（中略）
本の中の驚く場面で「うっひゃあ〜」と言うと、声の音が滑稽だったのか、けらけらと声を出して笑いました。その笑い声が聞きたくて、何度も読み返した覚えがあります。（水沢さん・母親、第1子・男）
- 『ぶうさんのブー』（100% ORANGE 及川賢治・竹内繭子 / 作 福音館書店）咲枝が8か月〜10か月の頃、暇さえあれば、毎日毎晩という頻度で読んでいました。（中略）見開きいっぱいの子豚が出てくることを予想して、指で「早く早く」と言わんばかりにページをめくろうとして、そわそわ。とうとう子豚が登場すると、満面の笑みで「うんぎい〜っ」と声を出して笑っていました。この咲枝の笑い声が聞きたくて、パパもママも競って読みかかせていた思い出の一冊です。（浅野さん・母親、第1子・女）
- （7か月の頃）『ぶーぶーぶー』（こかぜさち / 文、わきさかかつ / 絵 福音館書店）後半のトラックが出てくる部分などは、読む前から身構えて次にくる音を待っている感じで、読んでいるこちらもその反応がおもしろくて、何度も読みました。（D市・母親、第1子）

考察

佐々木：絵本の中の絵の変化やそれを示すオノマトペの連続に、赤ちゃんの大興奮が始まることがあります。読み手が放つリズムや音韻と交流しながら、身体ごと共鳴しよう

とするのです。するとそのような赤ちゃんの大きな反応が、逆に読み手の読み方にヒントを与え、新しいリズムやメロディを生み出すことがあります。赤ちゃんとの share books は、まさに双方向のやりとりやリズムの中で作られていくのですね。

0歳の時期は赤ちゃんが言葉を話せないこともあり、「通じているのかな」「分かっているのかな」と手探りでコミュニケーションを図っているようなところがある。それだけに「通じた！ 分かっていたんだ！」と感じたときの喜びは大きく、印象深いものとなり、思いがけない感動が生まれることもある。

事例

- 『ずかん・じどうしゃ』（山本忠敬 / 作 福音館書店）最初、普通の自動車を「パパの（乗っている車）」と認識していましたが、タクシーにも「パパ」と言うので、「これは車の頭に四角いのがついているからタクシーよ」と言っていました。
赤ちゃんの頃に何気なく声をかけながら読んでいたのですが、1歳を過ぎてから、「タクシー」と言うと、子どもは自分の頭をポンポンとたたきました。何かな？ と思っていたのですが、私が赤ちゃんの頃に、「タクシーは車の頭に何かついてるねー」と息子の頭をポンポンとしていたことを覚えていたんです。
私は本当に初めて感動しました。聞いているのかな、わかっているのかな、と思っていたことが、本当に聞いていて、本当に伝わっていたんです。赤ちゃんだった子どもは、言葉で表現できなかったけれど、成長とともに、「何かしら聞いていたよ」って伝えてくれたように思いました。（幸田さん・母親、第1子・男）
- 1歳前後の頃、庭の紫蘇の葉をいっしょにつんだ後、自分で本棚へ行き、絵本を取り出して紫蘇の葉のページを開いていた。その姿を見て、言葉は出ないけど、よくわかっているのだなと感激で涙が出た。（大沢さん・母親、第1子・男）

考察

佐々木：「タクシー」の事例のように、最初は「何しているのかな」と思っている、ある時にピーンとひらめくことがあります。しかもこれは、赤ちゃんといっしょにその

絵本を読んでいた人にしか分からないこと。そのことがさらに感動を深めるのですね。

子育てをする上でこういう経験をしたり感動を味わうということが、親にとって大事なことのように思います。赤ちゃんなら赤ちゃん時代、よちよち歩きの頃であればその時期に、子どもというのはこんな風に物事を捉え始めていくものなのだとすることを発見するのです。その発見は、全身を突き動かすほどの大きな感動を生み出すことにもなるのですね。それが1歳、2歳の時期の赤ちゃんの存在の豊かさなのだろうと思います。

こうした経験はまた、読み手が「子どもの目で世界を捉える」ということのトレーニングのようでもあります。子どものすることの中に自分の辿ってきた道を重ね、子どもといっしょにもう一度人生を生きなোসというような喜びがあります。

3. 絵本の世界を共有したものだけに分かること

赤ちゃんは次第に読み手に積極的に働きかけたり、“いっしょに絵本を読むこと”を楽しんでいる様子を見せる。特に「あれと同じだね」と確認しあうことは、赤ちゃんの大きな喜びとなるようだ。赤ちゃんと読み手が心を通わせ、双方向のコミュニケーションが成立したことを実感する瞬間だ。



事例

- 『ぶーぶーぶー』を何度も何度も読んであげたり、暗記して外でも語りかけるようにしていたら、外で赤や青などの車を見つけると指をさすようになりました！！また、テレビのリモコンに同じ色がついているのに気が付くと、自分で本を持ってきて「同じ！！」という感じに一生懸命教えてくれました。(D市・母親、第1子)
- 9か月頃から、家の中や、お散歩をしていると、「あっ、あっ！！」と指をさすようになりました。「ぶーぶーだね。」「わんわんだね。」「じゃあじゃあだね。」そのつど私は言います。二人でなんとなく『じゃあじゃあびりびり』にでてきたね、と意見が合致するような感覚を知りました。(市原さん・母親、第1子・女)

考察

佐々木：絵本以外のメディアの中には、人が介在しなくても、自分でスイッチを押せばよかったり、一人で遊べるものもありますよね。でも絵本の世界を赤ちゃんが体験するためには「必ずそこに人が介在する」必要があります。大人が自分の声で読んで、赤ちゃんと同じ世界に入るからこそ、子どもは何かを発見したときに「この人なら分かってくれる」という確信とともに、大きな安心感を得るのでしょう。多くの場合、絵本をいっしょに読み合う二人は生活経験も共有しているので、本を通してその内容が生活全般に大きく広がっていくのが面白いところですね。

絵本でいっしょに体験したことが、二人だけにしか分からない遊びへと発展することもある。絵本の絵や言葉、登場人物の行為などが、その絵本をいっしょに読んだ間柄でしか通じない特別な意味をもって認識されると、改めてその絵本を読んだ時や、絵本をひらいていない場面でさえも、その秘密の中で遊ぶことができるのだ。

事例

- 『ぴょーん』(まつおかたつひで／作・絵 ポプラ社) 彼女の一番のお気に入りには、「かたつむりが…」「だめか…」のところ。いつもそこでは、二人で“ごろん”とズッコケていたので、1歳を過ぎ、走り回っている時も、ふいに「かたつむりが」と言うと「だめか」と言わんばかりにズッコケるようになりました。(市原さん・母親、第1子・女)
- 『どんどこもんちゃん』(とよたかずひこ／作・絵 童心社) は最後の、「どーん」とお母さんの胸に飛び込んでいくシーンが、私も娘もお気に入り、6歳になった今でも、遠くで手を広げると、すごいスピードで「どーん！！」と飛び込んできます。(市原さん・母親、第1子・女)
- 2歳を過ぎた頃、『ちいさなたまねぎさん』(せなけいこ／作・絵 金の星社)を読む。ネズミが台所に出てきたページは、文章がないけれども、最初に読んだ時に私と顔を見あわせたので、それ以降も毎回読む時は「あ、でた！」という表情をしながら顔を見あわせるというのが定番になった。(竹沢さん・母親、第2子・女)
- 『おーくんおんぶ』(かたやまけん／作 福音館書店)では、「ちがうちがう」と男の子が

言うページでいっしょに振り付けもしながら読んだ。これは普段の生活の時には「違う」と言う時よく使い、楽しかった。日常生活における否定の言葉が、「ちがうちがう」の振り付けをしながら言うことで、マイルドになった。(竹沢さん・母親、第1子・男)

●私が庭で「スコップで掘ってみて」と言うのと娘が「こぐまちゃんみたいに？」と言います。親子で共通の符丁というか、「あれのことだな」と認識できる楽しさがあると同時に、絵本の一場面でも意外と子どもの心に残っているのだなと親のほうに驚くことがあります。(草野さん・母親、第1子・女)

●娘が1歳3か月頃から読み始めた『ピーピーぱくしまーす』(片山健/作 福音館書店)動物たちが「ピーピーぱくしまーす」と言って後ろに進みながら、クレヨンで線を描いていく絵本です。この絵本は特にパパのお気に入り、読み方に工夫を凝らすので、娘もニコニコしてしゃべり楽しんでいました。

あんよが上手になってきたある日、パパが娘に場所を移動して欲しくて、「みーちゃん、ちょっとこっちにきてて〜」とお願ひしたのですが、娘はなかなか動いてくれません。何度かお願いした後、パパが「みーちゃん、ピーピーぱくしまーす」と言うと、今度はすんなり移動してくれました。それからは、娘にちょっと移動してほしいときなどに、「ピーピーぱくしまーす」と言うのが“家族語”になりました。

おしゃべりが上手になった今では、娘も私たちに、「ママ、ピーピーぱくしまーすねー」と言うようになりました。(桑田さん・母親、第1子・女)

●娘の1歳の誕生日に、保育園からプレゼントしていただいた『だるまさんの』(かがくいひろし/作 ブロンズ新社)は、園でもよく読みかきせをしているとのこと。さっそくページをひらいてみた。(中略)ノリノリ状態はさらに続き、「て(手)」「は(歯)」「け(毛)」のページでは、自分の手のひらを私に見せて「テェー」、口を大きく開き歯を指さしながら「ハァー」、腕を伸ばして頭を手で触りながら「ケー」と、ますます大きな声も出して面白がった。

最後のページは「お(尾)、あったっけ？」という落ち。さてさて、娘はどう反応するのだろうか？と観察していると、手をお尻に近づけるかなという親の単純な予想に反して、首を左右に振ったのだ。何かが嫌だったのかしら？そう思いながら、もう一度最初から読んでみるも、最後のページでは同じ反応。そこでようやく、「(尾は)無い」と言っていると気づき、娘に「尾は無いのね。ナイナイね」と話しかけると、そうよそうよと言わんばかりの得意げな表情に。どうやら保育園では、最後にみんなでナイナイと首を振るのがお決まりだったのだ。(大野さん・母親、第1子・女)

考察

佐々木：二人の間でしか分からない秘密を持つことは、「誰かと分かり合う」という最初のかたちです。最初はお母さんとだとしても、これがお父さん、きょうだい、おじいちゃん、おばあちゃんといった家族へとひろがり、「ピーピーぱくしまーす」のような言葉も生まれるのです。やがてそれが友だちや新しく出会う人へと広がります。保育園や幼稚園に入ればそれが集団の中でも発生して、子どもの世界は大きく広がります。集団での経験については、事例の中にもあったように、親には何を言っているのかさっぱり分からない……というようなことも多く出てくるでしょう。

絵本というのは共同注視(ジョイント・アテンション)と言われる関わりを作り出します。これは「あなたが興味を持つものを、私も興味を持つ」ということで、人間にとって大切な「共同性」を育む基礎となります。他者が持っている意見を自分が受け入れ、こちらが持っている意見を他者が受け入れるということです。

赤ちゃんが絵本をひらくと、同じものを見ながらこちらの表情をよく見ていますよね。読み手の反応から、人間的な感情や世の中の仕組みなどをじっと読み取っているのです。いっしょに見ている人が「これは面白い」と笑うと「ああ、ここで笑っていいんだ」と安心したり、「こういうところでこの人は笑うんだ。私はおかしくないけど……」と思ったり。人間の心の悲しみ、怒り、驚き、くやしき、おかしさなどの感情は、生まれつき持っているものではなく、育てていかなくてはならない大切なものです。

親子、家族、地域という関わりの中で、同じ物に同じ意味を掴むことができるということは、とても大切なことです。その内容は文化によっても大きく異なるものですが、社会の中で生きていく上での原体験となるものですね。赤ちゃんは、そういうコード、信号、情報、サインというすべてのものを、肉体を通して身につけていかなければならないスタートラインに立っているのです。共通するものを増やしていく、共同性を育むというところの楽しい道具のひとつが絵本であると言えるでしょう。

4. 絵本の世界と現実の世界がつながる

少し大きくなった赤ちゃんは、絵本の世界と現実の世界の境界線がないかのように、それぞれの世界を自由に行き来する。読み手はいっしょになって遊びつつも、その様子を興味深く観察しながら、「この子には今、世界がどのように見えているのだろうか」と思いをめぐらせることになる。



事例

- 他の事をしながら、ある本のフレーズを言うと、その本を探して持ってきてくれる。(中略) 悪いことをしたときに怒って「怒った顔！」というと、『かおかおどんなかお』（柳原良平／作 こぐま社）。そのフレーズを聞いて「！」とひらめいたように探しに行くのが面白い。(石上さん・母親、第1子・女)
- 1歳を過ぎる頃(中略)、面白いと思ったのは、子どもが絵本の世界と現実の世界を関連づけた反応を示してきた時で、例えば『くだもの』（平山和子／作 福音館書店）という絵本でみかんがでてくると、「ほらこれでしょ」とばかりに実際に隣の部屋に行ってみかんをとってきたり、『たまごのあかちゃん』（かんざわとしこ／文、やぎゅうげんいちろう／絵 福音館書店）の「でておいで」という場面では両手をひらひらさせて「おいで」と招く動作をしたりして、日常の世界と絵本の世界をリンクさせている様子が見られました。
『しろくまちゃんのほっとけーき』（森比左志、わだよしおみ、若山憲／作 こぐま社）を読んでいる時、「これはお母さんのだね」と言うので何のことかと思うと、絵本に出てくる花瓶が私のマグカップと同じような色形だったのと言っているのです。(草野さん・母親、第1子・女)
- 娘を見ていると、バナナを食べてからバナナがでてくる絵本を読むなど、経験が増えて絵本に登場するものが身近になると、楽しさが倍増しているようです。そう感じるようになってからは特に、絵本に新しく出会うものが出てくると、できるだけ実際に体験させてあげようと思うようになりました。例えば、絵本でペンギンを見たことをきっかけに水族館に行ってみたり、シーソーがでてきたら公園でシーソーに乗ってみたり、スイカがでてきたら八百屋さんに買いに行ってみたり、といった具合です。
娘がまだ話さなかった頃は親の自己満足のような気がしましたが、おしゃべ

りが上手になった今では、絵本の絵を指さしながら散歩の途中で見かけた猫を思い出して「ねこちゃんかわいかったねー!」、八百屋さんでの会話を思い出して「すいか、もううってないのー?」と言ったりするようになりました。(桑田さん・母親、第1子・女)

- 長女が1歳半のとき事件がおこりました。見ていない隙にベランダの柵の間から『ねないこだれだ』（せなけいこ／作・絵 福音館書店）を捨ててしまったのです。つぶれてしまった本をなでながら「いたかったね」と私が言うと、申し訳なさなそうに「こわーい」と表紙のおばけから目をそらして本をなでた娘の様子が昨日のここのように浮かびます。幼い子どもにとっては、絵本の中のファンタジーは大人が考えるよりもずっと身近なものだということが実感としてわかった体験でした。(寺田さん・母親、第1子・女)

考察

佐々木:会話の中に絵本で知った単語が出ると反応したり、スーパーに行ったときに「あれだよ、あれだよ」と教えてくれたりすることがよくありますね。単語レベルのこともあれば、日常の活動について言うこともあります。

子どもはまるで、神経細胞がつながるような感じで、絵本同士や、絵本の中のもの（絵や言葉や状況など）と現実の世界のものを結び付けていきます。子どもにとって想像と現実の世界はそれぞれに「出たり入ったり」できるというよりも、むしろ複雑な網目模様をもつ織物のように入り組んでいるような気がします。

そのような世界でいきいきと過ごす子どもたちの様子に、大人が気づいて共鳴することによって、はじめて絵本から想像の世界が広がっていくのです。人間の子どもは、わずか1歳過ぎであっても、「今ここ」を忘れて絵本の中で描かれている世界に入り込み、そこに身をおくことができるのです。考えてみれば、とても不思議な能力です。

5. 子どもの個性に気づく

絵本の時間を通して、赤ちゃんの個性に気づくこともある。まだ小さな赤ちゃんであっても、兄妹とも、読み手である自分とも違う、一人の個性あふれる人間であるということに、改めて気づくのである。



事例

- 1歳2か月のころだったが、息子は『はらぺこあおむし』をしょっちゅう引っ張りだしてくるものの、決して親に読んでとは持ってこないのだ。一人でひっそりと座って眺めている。娘は常に「読んで読んで」とせがむ子だったために、「読んで」と言ってこない絵本があるなんて！と驚いたものだ。(土屋さん・母親、第1子・女、第2子・男)
- 『シャンプーだいすき』『ひとりでうちでできるかな』『いいおへんじでできるかな』『はみがきあそび』（きむらゆういち／作 偕成社）（中略）これらの本はページの中に一枚動かす紙がついているが、それらを見たあと元に戻してから次に進むという、几帳面な部分を娘が見せた。兄に比べてテキトウな性格ではないかと思っていたが、そうではないらしいということを垣間みることができた。(竹沢さん・母親、第1子・男、第2子・女)
- 1歳頃になると動物の絵本を取り出しては、好んで見たがるようになった。色々な動物を指さして「アーワアーワ（彼女の“定義”では、自分の知っている犬猫以外の動物全般を指すらしい）」と声を出すので、「これは象」「これはライオン。ガオーって鳴くのね」「かわいいね。いいこいいこしてみようか」などと話しかけると、真似して声を出したり、絵本の中の動物をなでなでしたりして楽しむようになった。
『どうぶつのおかあさん』（小森厚／文、藪内正幸／絵 福音館書店）は、3歳になる乗り物派の甥は全く関心を示さなかったが、娘は読み終わると「メイッ（もう一回）」と繰り返して催促するので、この子は動物が好きなんだと実感した。（中略）実の子どもでも、その子の好みや性格は最初からわかる訳ではなく、いっしょに生活していく中で少しずつ理解できるのだと思う。絵本の好みや読んでやっているときの様子を通して見えてくる娘の内面を発見できることは、私にとって楽しみとなっている。（大野さん・母親、第1子・女）

- 親がきっと選ばなかったであろう絵本を、娘が「読んで！」と持ってくることもたびたびです。反対に私の思い入れのある絵本やベストセラーの絵本を、期待したほど楽しんでくれないことも少なくありません。そんな娘の姿をみるたびに、一般的な“よい”や自分自身の思いにとらわれずに、子どもの目線や個性を大切にしくちゃなあ、と思っています。（桑田さん・母親、第1子・女）

考察

佐々木：日本ではどうしても「隣の子といっしょじゃなきゃいやだ」という感覚で、平均値に追いつこうとしたり、他の子と比べたりすることが多いような気がします。また大人の規範に沿って言うことを聞かせることがしつけや教育であるとする考えにもよく出会います。これはどちらも、子どもを一個の個性ある人間として認めた上でコミュニケーションをとるということが意識されていないからだろうと思います。

小さな赤ちゃんであっても、自分の見方、考え方を持った一人の人間です。ミルクが熱燗じゃなきゃダメな子もいるし、ぬる燗が好きの子もいる。夜はゆっくり眠るリズムの子もいれば、お腹が空いて何度も泣く子もいる。お兄ちゃんともお姉ちゃんとも違う個性がある。

絵本をいっしょに読んでいると、ときどき意表をつくようなその子独自の読み方が出てきます。「私はそうは感じなかったよ」「僕はそうは思わなかった」という自己表現をしたり、親が好きだと思った絵本が嫌いだったり、その反対もあります。そしてそれが「うちの子はこんな個性を持っているんだ」とか「君はずいぶんお兄さんと違うんだね」ということの発見につながります。

それはもう、その子の個性であり「善い悪い」という現世的な価値観を超えるものですよね。数十年経てば変わってしまうような今の時代の価値観を押し付けるのではなく、子どもは自分で選択しながら、新しい価値観を身につけていくはずだという、「距離感」を持ちながら子どもと向き合っていくことが大切なのではないでしょうか。

赤 ちゃんの中には、絵本にあまり興味を持たない子もいる。最初から絵本が好きな赤ちゃん、しばらく経ってから絵本に興味を持つ子や、まったく持たずに大きくなる子もいる。それもまた絵本を通して発見される個性と言えるのではないだろうか。

事例

- 子どもが生まれたら、絵本のひとときをたくさん持ちたいと思っていた私。まだハイハイができない頃まではずいぶん読んでいたのだが、自分で自由に動けるようになってからは、すっかり興味をなくしてしまい、こちらが読んであげようと誘っても、断られることが多い。どうやらおもちゃで遊ぶほうが楽しいらしい。(森さん・母親、第1子・男)
- (1歳7か月) 未だに静かに応じてくれず、ただページを好き勝手にめくったり途中で勝手に本を閉じたりしてばかりで、読みきかせることがほとんどできません。ページを破いたりもします。ストーリーを1ページ1ページめくりながら進めていくことができないので、(ページを飛ばし飛ばしめくってしまうので)、今はストーリー性の少ない「動物」といった本を好んで読んでいます。(D市・母親、第1子)
- 読みきかせは大切だと思うし、関心がありました。が、いざやってみると、1歳4か月ごろにならないと子どもが興味を示さず、本をかじるばかりだった。コミュニケーションを取りたいと思うのだが、自分一人で読んでいることが多く、(私)自身もすぐにくじけてしまった。1歳6か月ころからやっと自分で絵本を持ってくるようになり、読むがすぐに飽きる。(C市・母親、第1子)

考察

佐々木: やはり一般的には「本は読まないよりも、読んだ方がいい」というような前提があるからでしょうか。保護者の方も、本は知的で将来役に立ちそうだというのがあるから、なんとなく読んでほしいという方が多いかもしれませんね。

また「子どもはこの時期にこういう本に出会えば、こんな子どもになる」とか「早くから読みはじめれば、早くから言葉が話せるようになり、早くに一人で読めるようになる」と、どの子も同じ階段を上っていくようなイメージにとらわれていることも多いように思います。実際には、子どもがみんな同じコースを辿るなんて、ありえないことです。

「小さい頃は絵本が大好きだったけれど、小学校に上がったらまったく読まなくなってしまった」という話もよく聞きますし、反対に、幼児期に絵本と出会っていなくても、大人になって本が大好きになった人もいます。本は早く読み始めるのが良く、遅いのは困ることで、読まないのは悪いこと……というものではありません。

赤ちゃん和絵本をひらくということの最終的な目的を「本を読む子どもになってほしい」というところに置くので、無理が生じてしまうのではないのでしょうか。赤ちゃんにとっての絵本は、あくまでも親子関係を豊かに取り持つことができる楽しいツールのひとつ、ということだと思います。それくらいの幅とゆとりをもって「赤ちゃん和絵本をひらく」ことの意味を考えるとよいのではないのでしょうか。

もちろん絵本が嫌いな子、まったく興味がない子はいます。その子たちはもっと具体的な生活の中での刺激を求めているということもあるでしょう。積み木やブロックで一息懸命遊ぶ子もいるし、音楽が好きな子もいれば、ぬいぐるみでごっこ遊びをするのが好きな子もいます。それがその子の個性です。

絵本を読むか読まないかは、子ども自身が選ぶこと。それが赤ちゃんを信じるということでもあると思います。赤ちゃん和絵本のひとときは、いろいろな選択肢がある中で、赤ちゃんが「これを見てみよう」と「絵本」を選んで初めて成り立つものですから、おとなが無理に読ませようとするものではないと思います。

(2) 絵本を介して生まれる喜び

絵本のひとときは、子育ての日常に様々な喜びをもたらしてくれる。一冊の絵本をひらき、その世界をいっしょに楽しむこと自体が、日々の小さな喜びとして積み重なっていくものでもある。ここではそこで生まれる様々な喜びのうち、絵本という媒体であったからこそ見出されるいくつかについて記す。

1. やりとりが生み出す楽しさ

小さな赤ちゃんの時期の絵本の楽しみ方は、単にいっしょに絵本をひらいて読むだけに留まらない。意味の世界に入る前の時期は特に、絵本を介した“やりとりが生み出す楽しさ”が中心になる。そこから赤ちゃんとの向き合い方のバリエーションも広がっていく。



事例

- ブックスタートで『くっついた』（三浦太郎／作 こぐま社）をいただきました。握手をしたり、ちゅうしたり、ほっぺたをくっつけたり、コミュニケーションが広がりました。（F市・母親、第1子）
- 『じゃあじゃあびりびり』こちらで「みず」と言うと「じゃあじゃあ……」、「ふみきり」と言うと「かんかんかん……」と答えたりして、理解力だけでなく親子の言葉のふれあいにもなり、とっても楽しませてもらってます！（B市・母親、第1子）
- 『ぶーぶーぶー』の本は早い頃から気に入りました。歩けるようになった今では、自分で本棚から持ってきては「よんで」とお願いし、私と一緒に「ぶーぶーぶー」と声を出して楽しんでいます。最後の「ぶーぶーぶわあーん」のところは、車が走っているように本を動かすと大喜び。最近では本を持ち、自分でも車を走らせています。（D市・母親、第1子）

- 何冊かの本で同じ絵柄があるところを開いたり（たとえば人参の絵や魚の絵など）、「この絵の歌を歌ってほしい」（“いっぽんでもニンジン”や“おべんとう箱の歌”など）とアピールしたり、絵本を使って遊びが広がるのが楽しい。（大沢さん・母親、第1子・男）
- ブックスタートでいただいた本は、私も暗唱できる程に。寝る前は部屋を暗くして、子どもに聞かせています。好きなフレーズになると笑顔になったり、手を叩いて喜んでいます。きつと絵を見なくても、その絵がイメージできているんでしょうね。絵本のもうひとつの良さが分かったような気がしました。（D市・母親、第1子）

考察

佐々木：子どもは自由に放たれば放たれるほど自分を出し、面白いことを言ったりやったりします。小さな子どもでも、その年齢なりの感性や経験、ものを考える力を外に向かって発信しているんですね。そばで相手をしているだけで面白くて楽しい。絵本を読んでいると、そういった瞬間がたくさん訪れると思います。

2. 父親であることの喜び

普段、母親に比べて子どもと過ごす時間が少なく、なりがちな父親にとっても、絵本の時間は、子どもと深く関わり、子育ての喜びを実感する機会になっているようだ。



事例

- 父親とのコミュニケーションにとっても役立っている。父親が帰宅するとまっさきに本を持ってひざに座り、読んでもらっている。（D市・母親、第1子）
- 平日なかなか娘と遊ぶことのできないパパ。それでも、お決まりの絵本をひらくだけで、あっという間に二人の世界に入り込んで楽しんでいる。（土屋さん・母親、第1子・女）

- 『びよーん』 その夜、僕は「かえるが…」「びよーん！！」というのに合わせて、彼女の真上まで絵本をギュッと持ち上げました。すると、彼女は「キャハハハハ！」と声をあげてカエルのジャンプする絵を嬉々として見上げました。続いて「こねこが…」「びよーん！！」「キャハハハハ！」気をよくした僕は次のページをひらくと同時に、高々と絵本を持ち上げて「いぬが…」「びよよよよよおおおーん！！」……「キャハハハハ！！」勢いあまって彼女はお布団の上にそのまま引っくり返ってしまいました。あの時のことを思い出すと、どんなに大変なことに取り組んでいても、頬が緩んでしまいます。（土屋さん・父親、第1子・女）
- （男の子と女の子の双子）男の子のお気に入りには『まり』（谷川俊太郎／文、広瀬弦／絵 クレヨンハウス）。（中略）いつも同じところで「おっこっちゃった！」とか「まり」と声を上げるのが私にはたまらない瞬間です。女の子のお気に入りには『おどります』（高畠純／作 絵本館）。動物たちの踊りと私のおかしな読み方に「きゃっきゃ」と声を出しながら喜んでいきます。登場するゴリラはお父さんと思っているらしく、指をさしては「おとうさん！」と呼んでくれます。（中略）私にとっても仕事から帰り、子どもたちとゆっくりふれあえるひとときであり、疲れを癒してくれます。（三橋さん・父親、第1子／第2子・男女）
- 「いない、いない」と言うと、「ばあ」と答えてくれたことが初めての会話になりました。「ワンワン」と言いながら「犬」を指さしてくれたことが初めての言葉のメッセージになりました。平日は夜しか会えないパパでも、子どもの初めての体験に遭遇できる機会が読みみかせですよ。（橋本さん・父親、第1子・女）

考察

佐々木：面白いのは『びよーん』のお父さんの「あの時のことを思い出すと、どんなに大変なことに取り組んでいても、頬が緩んでしまいます」という言葉です。どんな思いからこの言葉が出てきたのでしょうか。自分が娘を喜ばせることができ、しかも彼女が引っくり返ってしまうほどの喜びを表現したということ、心の底から何かを通じ合えたという大きな感動でしょうか。このお父さんは何かとても深いものを感じているように思えます。子どもが「かわいい」ということだけでなく、「あの時の経験が自分の根源的な命に火をつけ、燃やし続ける機能を持っている」というようなことなのだろうと想像します。

人間というのは、いじめられても、戦争があっても、迫害を受けても、こういうところで得た、突き上げるような情感や感動を燃やし続けながら、生きてきたのではないのでしょうか。「これさえあれば、人生を生きていける」というような、何か新しく世界を広げるようなものを含んでいるように思えるのです。

言葉が出る前の小さな赤ちゃんを育てていると、そうした根源的なエネルギーに触れ合うことがあるのです。すると自然に「育てさせてくれてありがとう。あなたといっしょに過ごしたことが、自分の人生にとってとても大きな意味があったのだ」というような感覚になっていきます。このお父さんは図らずも、そのことをスッと表現してくれているように思います。

3. 子どもと読み手の成長を見つける

毎日の生活の中では見過ごしてしまいがちな赤ちゃんの小さな成長も、絵本を介することで発見され、記憶に留まりやすくなることもある。特に絵本の場合は、身体の成長よりも言葉や認識能力の発達、心理的な成長に気付くことが多く、子どもの育ちを深く見つめるきっかけにもなる。



事例

- 絵本を通して、数や色、生き物など区別していることがわかるので、子どもの成長がよく感じられる。（D市・母親、第1子）
- 聞いていただけだったのに、月齢が進むにつれ、同じトコで笑うようになったり、自分でページをめくったり、同じ動作をしたりと、出来るコトが増えて楽しいです。（E市・母親、第1子）

- 『ふわふわほんとはね』（いりやまさとし／作・絵 学習研究社）1歳を過ぎた頃には、本の中の「ぴよちゃんきょうだい」という言葉を、（はっきり言葉にはなりませんが）確かに発していると分かる時が多々あり、しっかり記憶していることに驚かされました。（水沢さん・母親、第1子・男）
- 最近（中略）「だるまちゃんがありました。かみなりちゃんがありました。ごろごろーとおちてきました。」と一人でつぶやきながらあたかも読んでいる時のように絵本を開いていることがあり、思わず笑ってしまいます。こちらが読み間違えると「違うよ！」と指摘されたり、子どもの記憶力と成長ぶりに驚かされています。（草野さん・母親、第1子・女）
- （11か月）『だれかしら』（多田ヒロシ／作 文化出版局）の絵本を読むと「ぱちぱちぱち」のところで、手をたたくようになる。娘が、絵本の内容を理解し、それを行動で示せるようになったのだ。（土屋さん・母親、第1子・女）
- 『ねないこだれだ』（せなけいこ／作 福音館書店）最後のページにある、シリーズものの紹介のところの『あーんあん』（同）と『いやだいやだ』（同）の表紙の顔が妙に気に入る、そのページに来ると、その顔が泣いている顔、いやだと言っている顔であることを教えたわけでもないのに、「えーんえーん」と泣き真似をしたり、「いやだ！ いやだ！」と威勢よく怒ったりしていた。「へえー、表情を見て相手の気持ちが読み取れるようになったんだ」と、春太の成長を確認する機会になった。（森さん・母親、第1子・男）

時には、子どもの絵本の楽しみ方や成長の中に、読み手である自分自身を省みるきっかけを見出すこともある。

事例

- 娘が生まれてすぐに我が家の本棚に加わった『がたんごとんがたんごとん』（安西水丸／作 福音館書店）。娘は0歳の間、ほとんど関心を示しませんでした。ところが1歳7～8か月になったころ、この絵本に大ブームがやってきました。（中略）勝手な推測ですが、生活の中で電車に乗ったり電車を見たりする機会がぐんと増えて、電車が身近になったことが理由のひとつのような気がします。同じ絵本でも、成長に応じて子どもの接し方が変わることを、実感しました。（中略）2歳を過ぎておしゃべりが上手になった今では、私に加えるアドリブ（「のせてくださいーい」という動物や物に、「いいよー」「オッケー」「どうぞー」などと答える）を、真似するようになりました。言い方までそっくりに話す姿を見ると、娘にとって私の言葉や行動のひとつひとつがお手本なんだなと感じ、少し身が引き締まるような気持ちがしています。（桑田さん・母親、第1子・女）

考察

佐々木：絵本の構成が単純でやりとりを促すものであると、子どもは文章の一部を文字通り“share”（ともに分かち合う）してくれます。また、記憶の発達からやりとりは複雑な構造を持ち始めます。

絵本の文章をなぞるだけの“share”から、謎かけ問答のような“share”、片足を絵本に置きもう片一方を現実を持ち込む“share”もあります。この“share”のありようが広く深くなると、大人が驚くほどの子ども個人の解釈が生まれ、読み手は子どもの成長や個性の発見をします。

このときの“share”が面白いのは、大人の読み手が無意識に行っているジェスチャーや表情なども子どもはめざとく取り込み、それを再現しますので、読み手は突然に現れた自分をそこに発見し赤面したり、ひどく「反省」し落ち込んだりすることもあります。

4. 子育ての喜びをともに分かち合う

子育てとは親が親になっていく過程でもある。そして子育ての楽しさとは、子どもと向き合った子どもたちの成長を見つけたときの喜びを誰かと分かち合うときに、さらに大きくなるのではないだろうか。絵本の時間は、ともに親へと成長していくパートナーの子育ての様子を見つめ、子育てをともに楽しむ機会も作り出している。



事例

- 次男がお座りできるようになった頃『いないいないばあ』（松谷みよ子／文、瀬川康男／絵 童心社）を読んでやりました。表紙のくまを見せると、じっと見つめます。絵本を

ひらいて、にやんにやん、ねずみさんと続き、くまのページを見せると、次男の手が伸びて絵本をつかみました。すると、ページを表紙の方に戻して、表紙のくまにさわって、また、くまのページを開いたのです。その時、親ばかですが、「表紙のくまと絵本の中のくまがいっしょであることに気付いたのかしら？ すごい！」と思ってしまいました。もう1回読んでやっても、同じことをしました。帰ってきたパパにそのことを話したところ「へえ～」と興味はあまりない様子。でも、その後、次男の服をお店で選ぶとき、パパは迷わずくまのイラストが描いてある物を選んでいました。理由を聞くと、「弘士がくまが好きだから」と。あなたも親ばかねと思いました（笑）。（小林さん・母親、第2子・男）

- （生後2か月頃から読み始め、しばらくたったある日）仰向けになって聞いていた娘が読んでいる私を見て笑い、声を合わせるように声を出したのです。この時、主人といっしょにほめてあげると、とびきりの笑顔が返ってきました。（鈴木さん・母親、第1子・女）
- 『ともだち』（ヘレン・オクセンバリー／作 文化出版局）最近では、夫は「ウサギさんと、おともだち～」「ネコさんと、おともだち～」と、1歳2か月になった娘の様子に合わせて、ゆっくりした調子で抑揚をつけながら語っている。娘も「（おともだ）チー」と語尾を上げ、首を横に倒しながら夫と目を合わせてニコニコ笑顔になる。私にとっても、二人の様子を眺めるのはとても楽しい。自分が絵本を読んでやる時には、娘の表情やしぐさをじっくり見ないので、娘を客観的に見る時間にもなっている。（大野さん・母親、第1子・女）
- 毎日はあっという間ですが、そんな中で絵本を間に挟んでゆっくりする時間は貴重なものです。子どもの声を聞きながらマイペースでやりとりできるのがテレビとはまた違う良さだと思います。私が気に入っている写真で、夫と娘が絵本を読んですごく楽しそうに笑っている写真があるのですが、こういう笑顔が見られることこそが絵本を楽しむ一番の醍醐味かなと思います。（草野さん・母親、第1子・女）

考察

佐々木：「あなたも親ばかね」の事例からは、無関心なようであって、きちんと聞いているお父さんの様子が伝わってきます。お母さんも「彼は彼なりに努力しているんだ」ということを感じ、絵本を挟んで家族の絆が深まっていくことでしょう。

本当はお父さんもいろいろな感想や面白さを感じているはずなのに、それをはき出す時間や機会が少ないため、持てる父性が活かし切れていないことが多いことを残念に思います。

最近では父親を中心とする読みきかせの同好会などが生まれ始めていますので、ブログやツイッターでユニークな発信がもっと増加すれば、絵本と幼い子どもとお父さんの関係は飛躍的に発展することと思います。そこでどんな意見や感想が現れるのかは、母親からは好奇心一杯で待ち望まれていることでしょう。

（3）子育ての助けとなるもの

赤ちゃんとの絵本のひとときは、育児中の保護者の助けとなることがある。赤ちゃんを上手にあやしてくれることもあれば、子育ての悩みなどにいっしょに向き合ってくれることもある。日常のあわただしい時間の流れから、赤ちゃんを読み手を、こことは違う世界へと連れて行ってくれるのだ。

1. 親も子も心を落ち着かせる道具として

赤 ちゃんの機嫌が悪くなったり、何をしても泣き止まないときに絵本をひらくと、ふとご機嫌が直ることがある。

事例

- 子どもが生まれ2年が経ちましたが、常に絵本が身近にありました。今では眠くなった時やぐずったときに「絵本読もうか」と誘うとすぐに機嫌が直ってしまうなど、絵本は心の安定にも繋がっているようです。（丸山さん・母親、第1子・女）



- 少し落ち着こうか……と言うときに本を出すと静かに読んでいたのでとても助かり、徐々に本の数も増えていった気がします。(B市・母親、第1子)
- ブックスタートでいただいた絵本がお気に入り、泣いているときや機嫌の悪い時に読んであげるとすぐに泣き止み、とても喜んでいました。(B市・母親、第1子)
- 『でてこいでてこい』（はやしあきこ／作 福音館書店）娘がぐずり、あやしても機嫌が治らないと「でてこい、でてこい」と絵本をひらくのです。ジーッと眺めていたり、ページをめくる私の手が気になったり、ページの角を噛みたがったり、ドンドンたたいたりしているうちに娘にも笑顔が戻り、私もホッと胸を撫で下ろします。(市原さん・母親、第1子・女)
- 何故だか急に泣いて、泣き止むきっかけがなくなっているような時は、あの手この手を使って気分転換させようと試みることになる。窓の外を見せる、外に連れ出す、うちわであおぐ、歌をうたう、音の出るおもちゃを鳴らしてみる、やむを得ず大人の持ち物（電話、鍵など）を渡してしまう……など、とっさに色々なことを試してきたように思うが、絵本にも助けられている。
最初は、娘が見ている“景色”を変えてみよう、少し大きいサイズで色も鮮やかな『もこもこ』(谷川俊太郎／作、元永定正／絵 文研出版)をパッと開いて見せたと記憶している。娘の気持ちがふっと絵本に向いて泣き止み、内心「おっ、うまくいった」とほっとしたことを覚えている。
1歳を過ぎると、絵本の中の文章を読んでみて泣き止むこともあった。泣いている娘の前で、『どんぶらどんぶら七福神』（みきつきみ／文、柳原良平／画 こぐま社）を開いて、リズムよく文章を読んでいくと、次第に絵本の世界にひき込まれたようで、少しずつ機嫌を取り戻し、何事もなかったかのように再び遊び始めたのだった。
もちろん毎回絵本で泣き止む訳ではないが、目の前にパッと広がる色鮮やかな世界を見たり、リズムのある言葉を聞くと、気分が変わりやすいのではないと思う。これからも、絵本にも助けてもらいながら、娘の泣きと向き合うことになるだろう。(大野さん・母親、第1子・女)
- （子どもが）寝ぐずりする時も読んで覚えた本の内容を聞かせるとおとなしくなったりします。イライラするよりも同じものを読んで同じ時間を共有することで心が落ち着き、私自身にもよい面が多いように思います。(B市・母親、第1子)

最後の事例でも指摘されているように、絵本のひとときは、赤ちゃんのご機嫌だけでなく、読み手の気持ちを自然と穏やかにしてくれることがある。

事例

- 親がイライラする時、絵本の読みきかせをすると、子どもが笑顔になる。それを見て、イライラを反省したり、また、子どもをギュッと抱きしめる。生活（育児）に必要なものだと思う。(E市・母親、第2子)
- 本を読むことが苦手でしたが、子どものために少しずつ、できる限り毎日読むことで、自分が楽しんで読みきかせをするようになりました。絵本を読んであげることで、自分が一番リラックスした時間が持てることに気が付きました。読みきかせは子どものため……と思ってやっていますが、実は、自分のためなのかもしれない……とも思っています。(D市・母親、第2子)

考察

佐々木:確かに赤ちゃんの機嫌の悪いときに絵本をひらくと機嫌が直ることがあります。「今の、このもつれた世界をご破算にして、こっちの世界に二人で飛び込もうよ」ということですね。また一方で、例えば「お医者さんに行く」というようなときに、お気に入りの絵本を持っていくということもよくありますね。それは「非日常に飛び込むけれど、日常を共有したものを携えているからそんなに怖くない」ということです。絵本の世界がどちらにもなりうるところが面白いですね。

このような場面切り替えには、歌やおもちゃ（人形・ぬいぐるみ・積み木など）によっても得られることが多いものです。ただしその中でも絵本が特別なのは、読み手の大人にも手軽に共有できるツールだということでしょう。おもちゃを出したり片づけたりすることもなく、まさに静かにページを開きまた閉じることでその時間は特別な役割を果たしてくれます。

2. 自分自身との対話

子育てをしていると、大小様々な心配事や悩みが生まれることがある。小さい赤ちゃんの頃には、体の成長や発達が気になり、大きくなるにつれてきょうだいとの関わりや仕事と子育ての両立、しつけの仕方などに悩むこともある。絵本のひとときは、そんな不安や悩み、葛藤や揺れ動く気持ちに寄り添い、読み手にさりげない気づきを与えてくれる。それは、赤ちゃんとの関わりや絵本の登場人物との出会いの中で保護者がしている、自分自身との静かな対話でもある。

事例

●『おさじさん』（松谷みよ子／文、東光寺啓／絵 童心社）6か月が過ぎ、離乳食を始めた頃に読み始めました。なぜなら、離乳食をなかなか食べてくれなかったのです。そんな娘によく読んでやりました。今振り返ると、そんなに深刻に悩まなくても……と思うのですが、当時、新米ママの私は食べてくれないと、なんとなく不安になり、同じ月齢の子がパクパク食べているのを見ると、焦ったりしていました。けれど、この本の可愛らしさに癒され、たとえひと口しか食べなくても「ああ、おいしい」と、娘の頭を撫でてあげられる余裕が持てたような気がします。（市原さん・母親、第1子・女）

●決して小さく生まれたわけでもない子どもの体がなかなか成長していかないことは、初めての育児での大きな壁となって、焦りの日々を過ごしていました。「成長にはおっぱいが足りないのだ」そう思い込んでいたので、日々の食事や授乳のことで頭がいっぱいになり、ブックスタートでもらった絵本のこともしばらく忘れていたほどです。生後半年ほどたち、絵本のことを思い出して娘の前で開いてみました。その瞬間に娘の目が絵本に釘づけになったのをはっきりと感じました。（中略）子どもの表面的な成長ばかりを気にしていた最初の半年間でしたが、その後は絵本をひらくたびに反応するわが子の姿に目から鱗が落ちる思いでした。指さしから、「あっ、あっ」と声を発するようになり、『くつついた』では語尾の「た」をいっしょに言えるようになって……というふうに、子どもの成長の足跡にはいつも絵本が存在がありました。（大久保さん・母親、第1子・女）

●春太は普段あまり絵本に興味を示さないが、1歳を過ぎたころから、読みきかせをおやすみ前の儀式にすることにした。私としては、家にある絵本をどうにかして活用したい、ベッドに入ってびったりくっついてゆっくりと絵本を読めば、春太も安心して、すんなり寝付いてくれるのではという思いがあったのだ。しかし、読んでいると、春太は全く寝る気配がなくて、むしろ元気になってしまう。誰か

に、「寝る前の絵本は、落ち着いた、ねんねに関するような内容の物を選んだほうがいい」と聞いたので、早速『おやすみなさいコッコさん』（片山健／作 福音館書店）を購入し読みきかせてみた。

すると、最初の数回はじっと聞いていた春太だったが、段々と読むのを嫌がるようになり、ついには、私とその本を手にとると、「このえほんダメ！」と言って床に投げ捨てられてしまった。単に、春太の好みに合わなかっただけかもしれないが、もしかしたら、早く寝かしつけたいという、大人の下心を見透かされたのではと感じた。それから、どんな内容であっても春太が選んだ絵本を読むようにしている。それで寝るのが遅くなったとしても、平日は仕事で朝と夜しかいっしょにいられないのだから、この寝る前の儀式を、純粋に親子のふれあいを楽しむ時間としてとらえることにした。絵本を使って何かを教えようとか、何かをさせようとかというのは、やっぱり大人のエゴなんだなと感じた。（森さん・母親、第1子・男）

●『ママだいすき』（まど・みちお／文、ましませつこ／絵 こぐま社）私が職場復帰し、我が家の生活は一変。慌ただしいものとなりました。私の不規則な勤務で、浩志と過ごす時間は激減です。（中略）ある日、久しぶりに（この本を）読んだ後、自分で絵本をめぐり、母鳥が巣にいるヒナに餌を運ぶ絵をじっと見ていました。ヒナの絵のところには「あママだ ママだ」と文があります。彼がその絵に惹かれたのは、ヒナの巣の背景が大好きな緑色だったからかもしれません。それからしばらく、その絵ばかり見ていました。（中略）最近、浩志は他のページや別の絵本も楽しめますが、やはり、寝る前にヒナの絵を見ると落ち着くようです。「ママ」と言いながら見ます。「ママ、最近いないことが多いけど、ちゃんと僕のところへ帰ってきてね」とも言っているのかな？ 私は買い物袋を下げ帰宅する自分の姿と母鳥の姿を重ね「お互いに頑張りましょう……」という気分です。（渡辺さん・母親、第1子・男）

考察

佐々木：絵本は、読み手の子ども理解を促したり、そのことを通して、読み手が内省を深めるきっかけを与えたりすることがよくあります。それは絵本というものが、作家と画家が大切にしている子どもへのメッセージを核として生まれたものだからです。しかも、40年、50年も読み継がれてきた絵本は、時代・国境・言語・文化を超えて多くの家族によって支持されてきたわけですから、普遍性と深い子ども観が保証されています。

このように絵本は、子育てや夫婦についての深い省察に満ちており、どんな育児書よ

りも優れた心理学書になりうる場合があります。優れた絵本は、単に子どものためというだけでなく、子育てや子ども理解の範疇を超えて、さらには人生や家族、自然環境と人間の生き方、愛と平和の問題などについても豊かなヒントに満ち満ちているのです。

(4) 受け継がれる絵本のひととき

誰かといっしょに絵本をひらき、読み手と気持ちを通わせる喜びや、ともに同じ世界で遊ぶ楽しさを経験すると、今度は自分が読み手となって、その時間を大切な誰かのために再現したいという思いが生まれるのではないだろうか。弟妹と、友だちと、そして自分の子どもが生まれたときに親として、自然と絵本を手にとるようになるのかもしれない。



事例

- 次男に読んでいる間、隣でじっと本を見つめている友美。それを見て次男が「オレが友ちゃんに読んであげる！」と張り切って始めました。ちょうどあやすと笑うようになった時期でもあり、お兄ちゃんたちも読んであげるのが楽しくて仕方ない様子でした。(谷川さん・母親、第1子・男、第2子・男、第3子・女)
- 娘は「最初から順に最後まで読む、書いてあるとおりに読む」といった絵本の読み方にとらわれず、自由に、弟が喜ぶように読む。娘も、弟に「読んでー」とせがまれること自体がうれしいし、また、自分のしたことによって弟が喜ぶこと、弟が反応してくれること、それがうれしいのである。二人でそれらしく絵本を開いているとなんとも微笑ましいものである。(土屋さん・母親、第1子・女、第2子・男)
- (次男が生まれたときの里帰り出産で)2歳になってまもなく、私の出産のため初めて一人で実家に泊まることになった長男は、毎晩「もいっかい、もいっかい」を繰り返して、パー

バの声がかかるほど何度も絵本を読んでもらい眠りについていったとのこと。次男を連れて実家に戻った日、そんな長男が「弟」に真っ先にしたことは大好きな本を読んであげることでした。パーバに読んでもらっていた『きりかぶ』(なかやみわ/作 偕成社)のシリーズ3冊を抱え、玄関で私たちの到着を待っていたのです。(中略)まだ甘えたい盛りの長男が、突然現れた弟にどのように接するのか不安だった私は、楽しそうに弟に絵本を読んであげている長男を見て嬉しくて、そしてジワリと涙が出てきたのです。(中野さん・母親、第1子・男、第2子・男)

- (保育園年中のとき)延長保育で子どもが少なく、息子は下のクラスの子と過ごしていたのですが、私が迎えに行った時、息子が下のクラスの子数人に絵本を読みきかせていたのです。「ちょうちょだよ〜、ひらひらひら〜、お鼻にとまるよ」と、小さい子の鼻に触れたりしながら、私にも気づかずに絵本を読みきかせていました。その様子を見て、どんな絵本でも、親子でその時間を楽しんでいれば、「誰かから絵本を読んでもらって楽しかった、だから今度は自分が読んであげる」といった気持ちが、子どもの心に芽生えるのかもしれない、と思いました。(小林さん・母親、第1子・男)
- (中略 現在本棚に並ぶ絵本の大半は)私自身の子ども時代の思い出がたくさん詰まったもので、ひらくと古い本の匂いとともに懐かしい記憶がよみがえってきます。毎晩ベッドの中で母親に読んでもらったこれらの絵本の数々は、自分が母親となって読み返しても微笑ましくなるものばかりで、幼い娘を膝の上にのせていっしょにページをめくるたび、彼女のあたたかい体温や、柔らかい肌を何度となく体感じては、母としての幸せをかみしめています。(中略)そしていつの日か、娘に子どもができたときには、これらの思い出(覚えていてくれるかな?)とともに、彼女にもまた、絵本を通して親になった喜びを存分に味わってほしいと願っています。(緒方さん・母親、第1子・女)

考察

佐々木: 親が子どもといっしょに絵本を読んだことが、きょうだいや友だちとの間へと広がり、さらには世代を越えて受け継がれていくようになってきています。これは子育て文化としての share books が持つ、とても大切な側面のひとつではないかと思います。

(1)「3. 絵本の世界を共有したものだけに分かること」の考察でもお話ししたとおり、絵本には「共同性を育む」という特徴がありますが、その「共通の意味を紡ぐ」背景には「文化」があります。赤ちゃんはある家族の一員として生まれたために、その家族の、

その地域の文化の中で、自分という人間になっていくのです。

本というのは、人々が「これだけは残しておきたい」という思いや知恵がストックされてきたものです。絵本を読むということは、実際にそれを自分たちの暮らしの中で立ち上げ、広げていくということです。絵本は、私たちが小さい子どもたちとの間で楽しんできた文化遺産として、残され受け継がれていくものではないでしょうか。

(5) いっしょに生きていた証し

絵本をひらくひとときは、赤ちゃんを読み手が互いのぬくもりを感じながら同じ世界を経験し、深い一体感を感じる時間になることがある。そしてそれは、心を通わせた者がそのときいっしょに生きていた証しとなる。

事例

●私は、春太の誕生日には1冊絵本を選び、余白にその時の私の春太への思いをメッセージとして書き込んでプレゼントしている。1歳の時は『わたしのあかちゃん』（高林麻里／作　のら書店）、2歳の時は『ちびゴリラのちびちび』（ルース・ボーンスタイン／作、岩田みみ／訳　ほるぷ出版）を選んだ。これから春太が成長していく過程には、楽しいことばかりではなく、苦しいこと、辛いこと、自分一人で立ち向かわなければならないことが当然ながらあると思う。また、順繰りにいけば、親は子どもより先に死んでいくもの。それはいつになるかわからないけれど、もしもその時が早く来てしまったとしても、いっしょに生きていた証しを、絵本を通して残しておきたかった。生きていくとはなんと苦しいことなのだろうと、春太の心が本当にたくたになってしまった時に、親が直接助けることができなかったとしても、この絵本やメッセージを読むことで、私と肌を触れ合わせて、絵本を楽しんだ幸せな時間を思い起こし、自分の原点を、自分は一人ではないということをなんとなく感じて、また前を向いて歩いて行けるのであれば、私が春太に与えてやることのできる、もっとも尊いものなのではないかと思っているのである。（森さん・母親、第1子・男）

●私の父は育児にはかなり無関心な父親だったようだ。（中略）育児の経験のない父は孫とのコミュニケーションの取り方がよく分からないようで、孫の姿を遠巻きに眺めていることが多かった。

私はある時ふと思いつき、父に『がたんごとんがたんごとん』という絵本を手渡した。（中略）父は反発するかと思ったが、喜んで本を受け取ると、孫をひざに乗せてさっそく読みきかせ始めた。（中略）「のせてくださいー」「いいですよー」アドリブを織り交ぜながら読み進む父。息子も気分が乗ってきて質問する。「なんで、しゅうてんなの？　なんで、みんなおりるの？」「もうお友だちが乗れるところがないからだよ」父なりのその答えを聞いて、私は少し驚いた。何度も読みきかせているのに、私は汽車が満員になることに気付いていなかった。父はきっと、一度さらりと読むだけで「読んであげた」と得意気になって終わりだろうと思っていたのに、思った以上に真面目に取り組んでいたようだ。息子もとても楽しかったらしい。

それからしばらくの間、おじいちゃんの読みきかせは会うたびの行事になったのだが、思えばそのころから父の病気が進行し体の動きが不自由になり始めていたので、絵本の読みきかせは体に負担をかけずに孫と遊べて、父にとってもありがたいコミュニケーション方法だったのかもしれない。その時間だけはいつもソファーに沈めていた体を起こして楽しそうに絵本を読みきかせていた。息子は小さかったからもう覚えていないかもしれないけど、私は父の孫への深い愛情をその時にしっかり確認させてもらった気がする。私は今でもこの絵本を手にするたびに、亡き父の言霊を感じて、「ありがとう」と言いたくなる。（高野さん・母親、第1子・男）

考察

佐々木:「愛された、幸福だった」という経験というのは、子どもの中のどこかにはしっかり残っているものだと思います。しかし幸せな時というのはそれが当たり前で、特にそのことを意識することがないだけに、消化されつくしてしまっていて記憶には残っていないものかもしれないですね。

世代をこえて読み継がれる絵本が出てきていますから、自分が子どもを持ち、子どもの頃に読んでもらった絵本を目の前においたときに、「あ、私はこの本をこんな風に読んでもらったな」、「あのときは楽しかったな、うれしかったな」ということがまざまざと蘇り、幸福な感情が受け継がれるということを実感することもあるでしょう。

絵本を読み合うということは、そのことが将来の何かの礎になるというよりも、この

世に生を受け人生を終えるまでのすべての時間にわたって、人生を味わうことを示唆し、ヒントを与えてくれることのように思います。

乳幼児期から始まり、もう少し大きくなるときょうだい、児童期から青年期にかけては友人や恋人と読みあう。そして父母となり祖父母となって小さい人たちとともに読み合う。

もちろん文学やエッセイなども読み合いのツールになりますが、優れた絵本は短く直截に心に届く詩が核をなしています。その核となる意味は、幾重にも解釈が可能であり、感じることや考える空間を無限大に提供してくれます。

うれしいとき心が沈んだとき、少し立ち止まり休み、考える空間が欲しいとき、いつでも待っていてくれます。

まとめ

第1部では、ブックスタートがすべての赤ちゃんのまわりに届けたいと願う「絵本のひととき」が、「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」に何をもたらすのかを検討した。

まず絵本のひとときがあることによって、赤ちゃんとの言葉によるコミュニケーションに至るまでの過程が、豊かなものになりうることが分かった。まだ意味の世界に入る前の小さな赤ちゃんの時期は、言葉で意思の疎通を図ることが難しいため、保護者は赤ちゃんとの関わりにとまどうことがある。そんな時期に絵本をひらくと、読み手は赤ちゃんの小さな反応に気づき、それを受け止め、応えることの繰り返しによって、少しずつ赤ちゃんとの関わりを深めていくことができるのではないだろうか。

その時期を経て、やがて赤ちゃんが絵本の中で語られる言葉や絵に決まった反応を示すようになると、「通じた！ 分かっていたんだ！」という大きな感動が生まれることがある。そして同じ絵本の世界を共有した赤ちゃんと読み手だからこそ分かり合える事柄を見つけ、二人だけにしか通じない秘密の中で遊ぶようになると、保護者は双方向のコミュニケーションが成立しはじめたことを実感する。

「絵本のひととき」を通して、保護者は小さな赤ちゃんがどのように世界を捉えながら成長していくのかを丁寧に見つめる機会を得て、その内面にある想像力や個性を発見し、共感し、数々の幸せな瞬間を体験したり、思いがけない感動を覚えていることがあることも分かった。

また、こうした時間は赤ちゃんにとって「誰かと分かり合う」という最初の形を体験することにもなる。それ自体が赤ちゃんにとっても大きな喜びであると同時に、その体験を通して赤ちゃんは、これから社会で生きていくために必要となる「共同性」を育んでいくのだ。

また、絵本は子育ての日常に多様な喜びを生み出してもいる。赤ちゃんとの絵本のひとときとは、読み手が一方的にそこに書かれた文字を読むものではない。

絵本をひらくことによって赤ちゃんとの“やりとり”が生まれ、そこに様々な遊びのバリエーションも生まれる。また、母親に比べると赤ちゃんと過ごす時間が少なくなりがちな父親には、短い時間であっても絵本を介することで赤ちゃんとの向き合い、深く心を通わせる機会を作り出すこともある。さらに絵本のひときは、子どもの成長を見つけたり、子育ての喜びをパートナーと分かち合う機会も作り出しうるということが分かった。

また絵本は子どもを育てる保護者の助けとなることもある。それは、絵本をひらけば簡単に“こことは違う世界”へと移動することができるからであり、赤ちゃんの機嫌が悪いときや読み手がイライラしているときなどに、自然と気持ちを穏やかにしてくれることがあるからである。読み手は、絵本に描かれた内容や登場人物、絵本を介しての赤ちゃんとの関わりから、自分自身を見つめ直す機会をも得ていることが分かった。

また誰かといっしょに絵本をひらく喜びを経験した子どもは、少し大きくなってからそれをきょうだいや友人との間で再現することがある。そしてやがて自分が親になったときに、自然と我が子とも絵本をひらくようになるのかもしれない。

今回収集した事例の分析からは、今後「絵本のひときは」が世代を超えて受け継がれ、ある瞬間にある人と心を通わせ、共に生きたことの証しとして、大切に人の心に留められるようになる可能性をも見出すことができた。

続く第2部では、「ブックスタート」という活動が、赤ちゃんと保護者が絵本をひらくひときはを持つ具体的な“きっかけ”として機能しているかどうかを、活動の実施自治体で行ったアンケート調査を分析し、検討する。

第1部 資料

参考にしたウェブサイト

【2001年度から2013年度の期間の「ブックスタート赤ちゃん絵本20冊*」を発行している出版社の中で、本の読者レビューを掲載しているウェブサイト】

* NPO ブックスタートでは2年に一度、独立した中立的な「絵本選考会議」を開き、ブックスタートで手渡される絵本の候補となる20冊を選出している。

- ・あかね書房 <http://www.akaneshobo.co.jp/>
- ・偕成社 <http://www.kaiseisha.co.jp/>
- ・金の星社 <http://www.kinnohoshi.co.jp/>
- ・くもん出版 <http://www.kumonshuppan.com/>
- ・講談社 <http://www.kodansha.co.jp/>
- ・こぐま社 <http://www.kogumasha.co.jp/>
- ・童心社 <http://www.doshinsha.co.jp/>
- ・B L 出版 <http://www.blg.co.jp/blp/>
- ・福音館書店 <http://www.fukuinkan.co.jp/>

【本の読者レビューを掲載している、絵本情報ウェブサイト／書籍販売ウェブサイト】

- ・Amazon.co.jp <http://www.amazon.co.jp/>
- ・絵本ナビ <http://www.ehonnabi.net/>
- ・honto <http://honto.jp/>
- ・楽天ブックス <http://books.rakuten.co.jp/book/child/>

考察の参考文献

- ・佐々木宏子（1975）『絵本と想像性—三歳まえの子どもにとって絵本とはなにか』高文堂出版社
- ・佐々木宏子（1993）『新版 絵本と子どものこころ—豊かな個性を育てる』JULA 出版局
- ・佐々木宏子（2006）『絵本は赤ちゃんから—母子の読み合いがひらく世界』新曜社

第 2 部

ブックスタートは、赤ちゃんと
絵本をひらくきっかけになっているか



第2部

ブックスタートは、赤ちゃんと絵本をひらくきっかけになっているか

第2部では、自治体で行われている「ブックスタート」という活動が、家庭で赤ちゃんと保護者が絵本をひらくひとときを持つ具体的な“きっかけ”になっているかどうかを、全国7自治体で行ったアンケート調査をもとに検討する。それを探ることで、第1部で明らかにした「絵本のひととき」によってもたらされる豊かな成果が、ブックスタートによってさらに多くの家庭に届く可能性を示したい。

調査概要

調査協力者

アンケート調査は、7つの自治体で実際に対象者としてブックスタートを経験した保護者に対して行った。一定期間の内に必要となる回答数を得るため、人口20万人から70万人前後の規模の市に絞り込んだ上で、地域的な偏りがなく、またブックスタートの対象となる赤ちゃんの月齢が分散するようにも配慮して候補地を選択し、各自治体に協力を依頼した。地域の保健センター等で行われる乳児健診は、おおよそ生後3～4か月、6～7か月、9～11か月の時期のいずれかに行われているため、ブックスタートもそれと同時期に行われることが多い。今回のアンケート調査は、ブックスタート実施月齢3～4か月（Ⅰ期）が3自治体、6～7か月（Ⅱ期）が2自治体、9～11か月（Ⅲ期）が2自治体の、合計7自治体で行った。

方 法

ブックスタート実施後に行われる1歳6か月児健診または1歳8か月児健診の機会に合わせて質問紙法（自記式）で実施した。それぞれの自治体の状況に応じて、5自治体では健診の事前案内に調査票を同封して郵送し、健診時に回答を記入したものを持参してもらい回収した。2自治体では、健診当日に調査票を配布し、待ち時間に記入してもらい当日回収した。

時 期

2011年4月～8月。ただし、実査開始／終了時期は自治体ごとに異なる。

質問項目

- ・子どもの出生順位
- ・回答者属性
- ・家庭での読みきかせの状況（読みきかせの有無、頻度、開始月齢、読みきかせをし

- ている人、理由)
- ・ブックスタートの感想（事業趣旨の記憶、実施会場での印象、手渡された絵本の活用、事業継続意向）
 - ・ブックスタートに関する意見・感想（自由記述）

※この他に、当該自治体独自の質問項目を追加した場合もあるが、本研究レポートではそれらの項目は分析対象としない。

集 計

集計は、全回答者の内、「ブックスタートを実施している健診を受診した」と答えた方を対象として行った。また、各設問の無回答または不明の回答については、集計対象からは除き集計した。なお、各設問の比率は、端数処理（四捨五入）をしているため合計が100%にならないことがある。

自治体データ

※ 次ページ参照

●自治体データ（数値はいずれも調査実施時のもの）

	A市	B市	C市	D市	E市	F市	G市		
地域人口	約42万	約58万	約19万	約72万	約20万	約32万	約21万		
出生数	約4,300	約4,300	約1,600	約5,800	約1,700	約3,600	約1,900		
調査協力者	3～4か月 児健診にて ブックスタート・ パックを受け取り、 2011年 6月～7月 にA市にて 1歳6か月 児健診を受診した 赤ちゃんの保護者	3～4か月 児健診にて ブックスタート・ パックを受け取り、 2011年 4月～5月 にB市にて 1歳6か月 児健診を受診した 赤ちゃんの保護者	3か月児 健診にて ブックスタート・ パックを受け取り、 2011年 5・7・8月 にC市にて 1歳8か月 児健診を受診した 赤ちゃんの保護者	6か月児育 児相談にて ブックスタート・ パックを受け取り、 2011年 4月～5月 にD市にて 1歳6か月 児健診を受診した 赤ちゃんの保護者	6か月児 健診にて ブックスタート・ パックを受け取り、 2011年 6月～7月 にE市にて 1歳6か月 児健診を受診した 赤ちゃんの保護者	9～11か月 児健診にて ブックスタート・ パックを受け取り、 2011年 5月～6月 にF市にて 1歳6か月 児健診を受診した 赤ちゃんの保護者	10か月児健 康相談にて ブックスタート・ パックを受け取り、 2011年 5月～7月 にG市にて 1歳6か月 児健診を受診した 赤ちゃんの保護者		
	ブックスタート 実施月齢	3～4か月	3～4か月	3～4か月	6か月	6～7か月	9～11か月	10か月	
	調査 実施月齢	1歳6か月 ～1歳7か月	1歳6か月 ～1歳7か月	1歳8か月 ～1歳9か月	1歳6か月	1歳6か月 ～1歳7か月	1歳8か月頃	1歳6か月	
調査方法	1歳6か月 児健診受付 時に調査票 を配布。 待ち時間に 記入してもらったもの を当日回収。	1歳6か月 児健診の対 象者に事前 に送付する 問診票など の資料とともに調査票 を郵送し、 健診時に 回収。	1歳8か月 児健診の対 象者に事前 に送付する 問診票など の資料とともに調査票 を郵送し、 健診時に 回収。	1歳6か月 児健診の対 象者に事前 に送付する 問診票など の資料とともに調査票 を郵送し、 健診時に 回収。	1歳6か月 児健診の対 象者に事前 に送付する 問診票など の資料とともに調査票 を郵送し、 健診時に 回収。	1歳6か月 児健診の対 象者に事前 に送付する 問診票など の資料とともに調査票 を郵送し、 健診時に 回収。	1歳6か月 児健診受付 時に調査票 を配布。 待ち時間に 記入してもらったもの を当日回収。	合計 (実数) または 平均 (比率)	
調査票 配布数	386 (健診参加者数)	704 (健診対象者数)	432 (健診対象者数)	991 (健診対象者数)	298 (健診対象者数)	594 (健診対象者数)	423 (健診参加者数)	3,828	
回収数 (回収率)	363 94.0%	612 86.9%	322 74.5%	796 80.3%	267 89.6%	512 86.2%	373 88.2%	3,245 85.7%	
集計対象	306	523	263	704	247	447	352	2,842	
回 答 者 属 性	母親	96.0%	97.7%	99.2%	99.1%	98.8%	90.9%	97.4%	97.0%
	父親	4.0%	2.3%	0.8%	0.7%	0.4%	7.5%	2.3%	2.6%
	祖母	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.8%	1.4%	0.3%	0.4%
	祖父	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	親戚	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%
出 対 象 順 児	第1子	56.5%	51.7%	46.0%	48.4%	45.3%	45.2%	53.4%	49.5%
	第2子	32.2%	34.3%	42.2%	39.3%	40.9%	32.9%	33.2%	36.4%
	第3子以降	11.3%	14.0%	11.8%	12.3%	13.8%	21.9%	13.4%	14.1%

今回のアンケート調査への協力が得られた7自治体で行われているブックスタートは、「一人ひとりの赤ちゃんに、絵本をひらく楽しい体験とともに、絵本を手渡す」という活動の基本的な形は共通している。しかし活動の中心となるワーキンググループ⁶のあり方は地域それぞれに異なり、自治体の規模が大きくなれば実施会場が複数になることも多い。実際にどのような会場で、どのような人々が、どのようなメッセージを伝えながら親子と向き合っているのかといった点は、当然のことながら違いがあるため、保護者がそれぞれのブックスタートで体験する内容は、異なる部分もあるだろう。

今回のアンケート調査では、7自治体で合計3,245人の保護者から回答を得た（その中で、当該自治体でブックスタートを受けたのは合計2,842人）。アンケートの設問では、ブックスタートでの体験そのものと、家庭での絵本の読みきかせの状況のそれぞれについて聞いているが、ブックスタートでの体験は後者を回答する際にも影響を及ぼしているかもしれない。そのため調査結果には、各地のブックスタートの内容の違いが反映されている可能性も否定できない。

しかし今回の研究ではそうした点に注目するのではなく、地域それぞれに違いがあるブックスタートを受けてもなお、多くの自治体に共通してみられる傾向に着目し、そこからブックスタートという形を持つ活動の普遍的な可能性を探ることとした。

また定性的な意見を収集するために、可能な限りアンケート用紙を事前に郵送するとともに、自由記述回答欄を大きめにとり、記入しやすくするなどの配慮をした。⁷

6 各実施自治体において、関係する行政機関（図書館・保健センター・子育て支援課等）や市民ボランティアなどが連携して構成される。
7 アンケートの調査結果（数表／自由記述）は、巻末資料を参照のこと。

結果と分析

（1）「赤ちゃんとの絵本のひととき」についての傾向

1. 家庭での絵本の読みきかせの有無と頻度

家庭での読みきかせの頻度について、「週3～5回」または「ほぼ毎日」と回答した家庭の比率は56.8%（7自治体平均）となり、調査を行った全地域における半数以上の家庭で、絵本のひとときが子どもとの時間の持ち方のひとつとして定着している様子がうかがえる。さらに「週1～2回」と回答した家庭を含めるとその比率は平均80.3%で、頻度の差は多少あるが、これらの家庭では子育ての日常生活の中に絵本のひとときが入り込んでいるとみられる。

一方で読みきかせを「全くしたことがない」家庭は平均1.8%、また頻度を「週1回未満」と回答した家庭は平均17.3%であった。子どもとの関わりの中で絵本のひとときが積極的には持たれていない家庭も、少なからず存在することが分かる。

● 表1 ご家庭でお子さんと絵本を見たり、読みきかせをしたりすることはありますか？その頻度は？

			全くした ことがない	することが ある	週1回未満	週1～2回	週3～5回	ほぼ毎日	無回答	総計
Ⅰ期	A市 [3～4か月]	(n=302)	3.3%	96.7%	18.2%	22.5%	20.2%	35.4%	0.3%	100.0%
	B市 [3～4か月]	(n=522)	1.7%	98.3%	14.8%	24.7%	25.7%	32.4%	0.8%	100.0%
	C市 [3～4か月]	(n=261)	3.1%	96.9%	19.9%	22.6%	22.2%	32.2%	0.0%	100.0%
Ⅱ期	D市 [6か月]	(n=703)	1.3%	98.7%	14.5%	18.5%	26.3%	38.1%	1.3%	100.0%
	E市 [6～7か月]	(n=247)	0.0%	100.0%	17.8%	23.5%	23.9%	34.4%	0.4%	100.0%
Ⅲ期	F市 [9～11か月]	(n=447)	0.7%	99.3%	15.9%	27.1%	26.2%	28.6%	1.6%	100.0%
	G市 [10か月]	(n=352)	2.3%	97.7%	19.9%	25.9%	20.2%	31.8%	0.0%	100.0%
平均			1.8%	98.2%	17.3%	23.5%	23.5%	33.3%	0.6%	

さらに、家庭での読みきかせ頻度に対する、きょうだいの有無による影響を見るために、子どもの出生順別に比較すると、第2子以降の方が読みきかせの頻度は少なくなる傾向が見られた。

●表2 ご家庭でお子さんと絵本を見たり、読みきかせをしたりすることはありますか？その頻度は？
(対象児出生順別)

		対象児 出生順	全くし たこと がない	するこ とがあ る	週1回未満	週1～2回	週3～5回	ほぼ毎日	無回答	総計
Ⅰ期	A市 [3～4か月]	第1子 (n=170)	0.6%	99.4%	18.8%	17.1%	20.6%	42.4%	0.6%	100.0%
		第2子以降 (n=131)	6.9%	93.1%	17.6%	29.8%	19.1%	26.7%	0.0%	100.0%
	B市 [3～4か月]	第1子 (n=270)	1.5%	98.5%	9.3%	20.4%	25.2%	43.0%	0.7%	100.0%
		第2子以降 (n=251)	2.0%	98.0%	20.3%	29.5%	26.3%	21.1%	0.8%	100.0%
	C市 [3～4か月]	第1子 (n=121)	2.5%	97.5%	12.4%	17.4%	25.6%	42.1%	0.0%	100.0%
		第2子以降 (n=140)	3.6%	96.4%	26.4%	27.1%	19.3%	23.6%	0.0%	100.0%
Ⅱ期	D市 [6か月]	第1子 (n=340)	1.5%	98.5%	10.6%	15.9%	24.4%	45.9%	1.8%	100.0%
		第2子以降 (n=361)	1.1%	98.9%	18.0%	20.8%	28.3%	31.0%	0.8%	100.0%
	E市 [6～7か月]	第1子 (n=112)	0.0%	100.0%	17.0%	17.0%	23.2%	42.9%	0.0%	100.0%
		第2子以降 (n=135)	0.0%	100.0%	18.5%	28.9%	24.4%	27.4%	0.7%	100.0%
Ⅲ期	F市 [9～11か月]	第1子 (n=202)	0.5%	99.5%	9.4%	25.2%	27.2%	36.6%	1.0%	100.0%
		第2子以降 (n=245)	0.8%	99.2%	21.2%	28.6%	25.3%	22.0%	2.0%	100.0%
	G市 [10か月]	第1子 (n=188)	2.7%	97.3%	15.4%	21.8%	20.7%	39.4%	0.0%	100.0%
		第2子以降 (n=164)	1.8%	98.2%	25.0%	30.5%	19.5%	23.2%	0.0%	100.0%
平均		第1子	1.3%	98.7%	13.3%	19.2%	23.9%	41.7%	0.6%	
		第2子以降	2.3%	97.7%	21.0%	27.9%	23.2%	25.0%	0.6%	

2. 読みきかせをしている人

読みきかせをしている人については、98.5%（7自治体平均）の家庭で母親が赤ちゃん和絵本を読み、平均58.0%の家庭では父親も読んでいる。また、祖父母との同居や祖父母が近所に住む家庭の比率は不明だが、祖母が読んでいる家庭は平均25.8%、祖父は平均7.3%あり、孫とのコミュニケーションに絵本のひとときが役立っていることがうかがえる。

●表3（ご家庭での読みきかせについて）誰が読んでいますか？（複数回答）

			母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
Ⅰ期	A市 [3～4か月]	(n=282)	98.6%	61.0%	28.0%	8.2%	15.6%	2.5%
	B市 [3～4か月]	(n=506)	98.0%	55.3%	20.4%	6.7%	20.9%	3.2%
	C市 [3～4か月]	(n=252)	98.4%	58.3%	22.2%	4.4%	25.4%	2.4%
Ⅱ期	D市 [6か月]	(n=683)	98.8%	57.1%	27.7%	9.2%	26.2%	2.6%
	E市 [6～7か月]	(n=245)	98.8%	64.5%	35.9%	10.2%	24.1%	1.6%
Ⅲ期	F市 [9～11か月]	(n=436)	99.1%	56.0%	20.0%	3.9%	29.1%	3.4%
	G市 [10か月]	(n=344)	98.0%	53.5%	26.7%	8.4%	22.4%	2.6%
平均			98.5%	58.0%	25.8%	7.3%	23.4%	2.6%

また、家庭で読みきかせをする人に対する、きょうだいの有無による影響をみるために、子どもの出生順別に比較すると、第2子以降ではきょうだいとの関わりが生まれる一方で、父親や祖父母が読む比率が低くなる傾向があった。（次ページ表4参照）

前出の表2では、第2子以降の方が読みきかせの頻度は少なくなる傾向が見られたが、それは第2子が生まれたことにより保護者の時間的・精神的な余裕がなくなりがちであることが影響しているのかもしれない。ここでは、それを補うかたちで、年長のきょうだいとの絵本のひとときが持たれていることが読み取れる。今回のアンケート対象児の50.5%（7自治体平均）には年長のきょうだいがいるが、そのうちの平均45.3%の家庭で、きょうだいも赤ちゃん和絵本を読んでいることが分かった。

●表4 (ご家庭での読みきかせについて) 誰が読んでいますか? (複数回答・対象児出生順別)

		対象児 出生順	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
Ⅰ期	A市 [3～4か月]	第1子 (n=165)	98.8%	67.3%	30.3%	9.7%	1.2%	1.8%
		第2子以降 (n=116)	98.3%	52.6%	24.1%	6.0%	36.2%	3.4%
	B市 [3～4か月]	第1子 (n=263)	99.2%	67.3%	25.1%	11.0%	0.0%	4.2%
		第2子以降 (n=242)	96.7%	42.6%	15.3%	2.1%	43.8%	2.1%
	C市 [3～4か月]	第1子 (n=118)	99.2%	64.4%	25.4%	5.9%	0.8%	4.2%
		第2子以降 (n=134)	97.8%	53.0%	19.4%	3.0%	47.0%	0.7%
Ⅱ期	D市 [6か月]	第1子 (n=331)	99.4%	65.6%	32.6%	12.1%	1.2%	3.0%
		第2子以降 (n=350)	98.3%	49.4%	23.1%	6.6%	49.7%	2.3%
	E市 [6～7か月]	第1子 (n=111)	99.1%	65.8%	41.4%	11.7%	2.7%	0.0%
		第2子以降 (n=134)	98.5%	63.4%	31.3%	9.0%	41.8%	3.0%
Ⅲ期	F市 [9～11か月]	第1子 (n=199)	100.0%	64.8%	28.1%	2.5%	0.5%	4.5%
		第2子以降 (n=237)	98.3%	48.5%	13.1%	5.1%	53.2%	2.5%
	G市 [10か月]	第1子 (n=183)	98.9%	60.7%	33.3%	13.1%	2.2%	2.7%
		第2子以降 (n=161)	96.9%	45.3%	19.3%	3.1%	45.3%	2.5%
平均		第1子	99.2%	65.1%	30.9%	9.4%	1.2%	2.9%
		第2子以降	97.8%	50.7%	20.8%	5.0%	45.3%	2.4%

アンケートの自由記述欄では、以下のような声が聞かれた。

自由記述より

- テレビばかりじゃなく、絵本はママとふれあいが深まってよいです。(D市)
- 子どもの手の届くところに本をおいておくと、読んでほしい時に自分で持ってくるので、母親とふれあいたい時なんだなあと、すごくわかりやすい。(D市)
- 初めての子どもにどう関わってよいかわからなかった父親も、絵本を介して、自然に遊んでくれるようになりました。(C市)

- 父親とのコミュニケーションにとっても役立っている。父親が帰宅すると真っ先に本を持ってひざに座り、読んでもらっている。(D市)
- 父親は絵本に関して「まだ早い」という考えだったけど、ブックスタートで絵本をもらって来たら、読みきかせをしてもらえるようになったので、きっかけとしてとても良かったと思う。(E市)
- 病院に行く時や祖父母の家に行く時には、必ず頂いた絵本を持って行きました。(C市)
- 『もこもこ』の本は3歳児のお姉ちゃんも大好きです。二人とも大はしゃぎで、大人にはわからないおもしろさがあるのだと感じました。(A市)
- 姉がよく読んであげていて、それを見てほほえましく思い、私も読みきかせをもっとしたいと思いました。(D市)
- 姉(3歳)はまだ字が読めませんが、その姉が妹(1歳)に覚えている範囲で読みきかせていた。姉妹が絵本にこんなに興味があるってことを知ったのはブックスタートのおかげ。(F市)

(2) ブックスタートが絵本のひとときを持つ きっかけになったか

1. 「ブックスタート実施月齢」と 「家庭での読みきかせ開始月齢」に関連がみられる

アンケート調査では、「家庭での読みきかせを開始した月齢」について「ブックスタートが実施された月齢」または「その直後の月齢」の時期を選択した人の比率が、他の時期に比べて高かった。これはブックスタート実施の対象月齢に関わらず、Ⅰ期（ブックスタート実施月齢3～4か月）、Ⅱ期（同6～7か月）、Ⅲ期（同9～11か月）に共通した傾向として表れた（F市を除く）。

表5の各市のデータの上段は、「家庭での読みきかせ開始月齢」への回答を元に、月齢ごとに回答者全体におけるその比率を色分けして示した。濃い色ほど比率が高いことを示すが、下段の矢印が示すブックスタート実施月齢とその直後の時期に読みきかせを開始した家庭が多いことが読み取れる。このことから、多くの家庭においてブックスタートが絵本のひとときを持ち始める具体的なきっかけとして機能したことが推測される。

また中段では、月齢ごとに回答者全体におけるその比率を累計値で示した。Ⅰ期においては3～4か月の時点で35～40%前後の家庭が読みきかせを開始したと答えている。それに対しその時期のⅡ期・Ⅲ期の比率は10～20%台である。同様にⅡ期の5～6か月の時点では、その比率はすでにブックスタートを実施したⅠ期と同様に50%台であるのに対し、Ⅲ期は30～40%台である。その後の7～8か月の時点でもその傾向は継続し、Ⅰ期・Ⅱ期の70%台に対し、Ⅲ期は40～60%となっている。全自治体において、読みきかせ開始時期の比率の累計値が近づくのは、Ⅲ期でブックスタートが実施される9～11か月の直後の、11～12か月の時点となっている。

●表5 （ご家庭での読みきかせについて）何か月の頃から？

				1～2か月	3～4か月	5～6か月	7～8か月	9～10か月	11～12か月	それ以降	総計
Ⅰ期	A市	(n=284)	比率	10.9%	29.9%	17.3%	13.7%	9.5%	9.9%	8.8%	100.0%
			累計	10.9%	40.8%	58.1%	71.8%	81.3%	91.2%	100.0%	—
		ブックスタート実施月齢			↔						
	B市	(n=501)	比率	11.2%	30.1%	20.6%	9.6%	12.2%	11.2%	5.2%	100.0%
			累計	11.2%	41.3%	61.9%	71.5%	83.6%	94.8%	100.0%	—
		ブックスタート実施月齢			↔						
Ⅱ期	C市	(n=249)	比率	8.8%	26.1%	21.3%	14.1%	12.0%	12.0%	5.6%	100.0%
			累計	8.8%	34.9%	56.2%	70.3%	82.3%	94.4%	100.0%	—
		ブックスタート実施月齢			↔						
	D市	(n=680)	比率	9.0%	16.6%	26.5%	20.0%	12.8%	11.0%	4.1%	100.0%
			累計	9.0%	25.6%	52.1%	72.1%	84.9%	95.9%	100.0%	—
		ブックスタート実施月齢				↔					
Ⅲ期	E市	(n=242)	比率	8.7%	14.5%	27.7%	21.9%	10.7%	10.3%	6.2%	100.0%
			累計	8.7%	23.1%	50.8%	72.7%	83.5%	93.8%	100.0%	—
		ブックスタート実施月齢				↔					
	F市	(n=433)	比率	9.7%	15.2%	21.2%	14.3%	20.1%	13.9%	5.5%	100.0%
			累計	9.7%	24.9%	46.2%	60.5%	80.6%	94.5%	100.0%	—
		ブックスタート実施月齢						↔			
Ⅲ期	G市	(n=344)	比率	5.2%	12.2%	16.0%	9.9%	28.8%	21.5%	6.4%	100.0%
			累計	5.2%	17.4%	33.4%	43.3%	72.1%	93.6%	100.0%	—
		ブックスタート実施月齢						↔			

〇〇% 25%以上 〇〇% 20%以上25%未満 〇〇% 15%以上20%未満

また表6（次ページ参照）に見られるとおり、こうした傾向はブックスタート対象児の出生順位に関わらずに同様に見られた。このことから、対象児の前にすでに子育てを経験していたとしても、ブックスタートを受けることが、対象児と絵本のひとときを持ち始めるきっかけになっていることが推測される。

さらにブックスタートでのどのような体験が、絵本のひとときを持つきっかけとなったかを探るために、アンケートの自由記述欄の回答を見てみると、ブックスタートの会場で初めて絵本をひらいたときの我が子の様子を見た体験が印象的であったという感想が聞かれた。

自由記述より

- ブックスタートがあって、はじめて我が子がこんなに絵本に興味があったのか！ということを知り、読みきかせを始めるきっかけになったので、良かったと思います。(B市)
- 3～4か月児健診で絵本に反応するとは思っていなかったで、すごく楽しそうにしていたビックリした。(B市)
- ブックスタートで初めて絵本を体験しましたが、自分の子どもがすごく楽しそうだったのでビックリしました。それがわかって私もすごく嬉しかったです。(D市)
- 健診の時に6か月でも本を見る事を知り、子どもと遊ぶのがより楽しくなりました。(D市)
- 娘のすごい嬉しそうなアクションを、今でも忘れられない位、ブックスタートは思い出深い素敵な行事でした。(D市)
- ブックスタートを受けた時、子どもが声をあげて笑ったところを見てすごくあたたかい気持ちになりました。(D市)
- 6か月の子どもにはまだ早いと思っていたが、子どもが真剣に見ているのを見て、本の読みきかせを始められました。(D市)
- ブックスタートでボランティアさんが読んでくれた時、子どもがすごく反応がよく、楽しそうで「こんなに本で笑うんだあ」と初めて知る事ができました。それまで本を読んであげてもあまり反応がなくて、読むのをやめてしまったりしていましたが、頂いた本はとても気に入ったみたいで、たくさん活用させてもらいました。(D市)

●表6（ご家庭での読みきかせについて）何か月の頃から？（対象児出生順別）

対象児出生順			1～2か月	3～4か月	5～6か月	7～8か月	9～10か月	11～12か月	それ以降	総計
I期	A市	第1子 (n=165)	比率 10.9%	31.5%	18.2%	15.8%	8.5%	7.9%	7.3%	100.0%
		累計	10.9%	42.4%	60.6%	76.4%	84.8%	92.7%	100.0%	—
		第2子以降 (n=118)	比率 10.2%	28.0%	16.1%	11.0%	11.0%	12.7%	11.0%	100.0%
		累計	10.2%	38.1%	54.2%	65.3%	76.3%	89.0%	100.0%	—
	ブックスタート実施月齢		←→							
	B市	第1子 (n=261)	比率 10.7%	33.7%	23.0%	8.0%	11.5%	10.3%	2.7%	100.0%
		累計	10.7%	44.4%	67.4%	75.5%	87.0%	97.3%	100.0%	—
		第2子以降 (n=239)	比率 11.7%	26.4%	18.0%	11.3%	13.0%	11.7%	7.9%	100.0%
		累計	11.7%	38.1%	56.1%	67.4%	80.3%	92.1%	100.0%	—
	ブックスタート実施月齢		←→							
	C市	第1子 (n=116)	比率 6.0%	35.3%	22.4%	8.6%	9.5%	11.2%	6.9%	100.0%
		累計	6.0%	41.4%	63.8%	72.4%	81.9%	93.1%	100.0%	—
		第2子以降 (n=133)	比率 11.3%	18.0%	20.3%	18.8%	14.3%	12.8%	4.5%	100.0%
		累計	11.3%	29.3%	49.6%	68.4%	82.7%	95.5%	100.0%	—
	ブックスタート実施月齢		←→							
II期	D市	第1子 (n=328)	比率 8.2%	17.4%	29.9%	22.0%	11.0%	9.1%	2.4%	100.0%
		累計	8.2%	25.6%	55.5%	77.4%	88.4%	97.6%	100.0%	—
		第2子以降 (n=350)	比率 9.7%	16.0%	23.1%	18.3%	14.6%	12.6%	5.7%	100.0%
		累計	9.7%	25.7%	48.9%	67.1%	81.7%	94.3%	100.0%	—
	ブックスタート実施月齢		←→							
	E市	第1子 (n=110)	比率 8.2%	20.0%	22.7%	21.8%	10.0%	10.9%	6.4%	100.0%
		累計	8.2%	28.2%	50.9%	72.7%	82.7%	93.6%	100.0%	—
		第2子以降 (n=132)	比率 9.1%	9.8%	31.8%	22.0%	11.4%	9.8%	6.1%	100.0%
		累計	9.1%	18.9%	50.8%	72.7%	84.1%	93.9%	100.0%	—
	ブックスタート実施月齢		←→							
III期	F市	第1子 (n=198)	比率 8.1%	18.2%	23.7%	17.7%	18.7%	8.6%	5.1%	100.0%
		累計	8.1%	26.3%	50.0%	67.7%	86.4%	94.9%	100.0%	—
		第2子以降 (n=235)	比率 11.1%	12.8%	19.1%	11.5%	21.3%	18.3%	6.0%	100.0%
		累計	11.1%	23.8%	43.0%	54.5%	75.7%	94.0%	100.0%	—
	ブックスタート実施月齢		←→							
	G市	第1子 (n=183)	比率 6.0%	12.0%	15.3%	12.6%	30.1%	19.7%	4.4%	100.0%
		累計	6.0%	18.0%	33.3%	45.9%	76.0%	95.6%	100.0%	—
		第2子以降 (n=161)	比率 4.3%	12.4%	16.8%	6.8%	27.3%	23.6%	8.7%	100.0%
		累計	4.3%	16.8%	33.5%	40.4%	67.7%	91.3%	100.0%	—
	ブックスタート実施月齢		←→							

〇〇% 25%以上 〇〇% 20%以上25%未満 〇〇% 15%以上20%未満

●「ブックスタート」以前から、読みきかせはしたいとは思っていましたが、数ある絵本の
中からどれを最初の一冊にしたらいいのか迷い、本屋に行っても買わずに帰ってきたり、
また自分の子どもにはまだ早いかも（落ち着いて読みそうにないとか、ビリビリに破っ
たりしそうだとか）と思って、先延ばしになっていました。しかし「ブックスタート」で、
4～5冊の本の中から子どもが嬉しそうに1冊を選ぶのを見たり、係の方が、よい意味
で適当に（書いてある文章通りに読むわけではなかったり）読むのを聞いて、あまり難
しく考えなくていいんだと思って、気が楽になり、早速楽しく始められました。（F市）

I期、II期、III期のどの期においても、「家庭での読みきかせの開始時期」と「ブッ
クスタート実施時期」に関連性があり、また活動がどの月齢期で実施されたとして
も、赤ちゃんが生後12か月に達する頃には、ブックスタートが実施されたことにより
90%前後の家庭で絵本のひとときが持たれていることが明らかになった。

ただそれぞれの期における「きっかけ」は、必ずしも同じ作用からもたらされたもの
とは限らないとも推測される。

近年では赤ちゃんとの絵本の読みきかせに関する情報は、インターネットや育児雑誌
等を通じて、多くの子育て中の保護者に届いている可能性があり、自治体の中には赤ちゃ
んの時から絵本に親しむことのできる環境づくりを進めているところもある。また第1
部でも紹介したとおり、絵本をひらいた時の赤ちゃんの反応は、月齢が大きくなるほど、
分かりやすく、読み手も絵本のひとときを楽しみやすくなる傾向がある。

I期（3～4か月児）にブックスタートを受けたことによる「きっかけ」は、自由記
述欄でも聞かれたとおり、まだ小さな赤ちゃんが思いがけなく反応をしたことへの驚き
もあるかもしれない。しかし上述した点を考慮すると、多くはその子の子育てを始めて
間もない保護者が、赤ちゃんのために手渡された「絵本」と新鮮な出会いをしたことによ
る「物理的な作用によるきっかけ」である可能性が高いと推測されるのではないだろう
か。

その一方で、III期（9～11か月児）での「きっかけ」とは、10か月近く子育てを
する中で、赤ちゃんとの読みきかせについて関心を持つ機会があり、さらにブックスタート
によって、絵本をひらいたときの我が子の分かりやすい反応を目にしたことによる「心
理的な作用によるきっかけ」である可能性の方が高いと推測できるかもしれない。

2. ブックスタートで手渡された絵本が活用された

ブックスタートを受けての感想として「絵本がもらえてうれしかった（そう思う＋や
やそう思う）」と回答した対象者は98.7%（7自治体平均）おり、ほとんどの保護者が
絵本そのものを受け取ったことを肯定的に捉えていることが分かる。

●表7 ブックスタートを受けて、どのように感じましたか？
「絵本がもらえてうれしかった」

			計	そう思う	ややそう 思う
I 期	A市 [3～4か月]	(n=298)	98.7%	82.6%	16.1%
	B市 [3～4か月]	(n=498)	97.4%	79.3%	18.1%
	C市 [3～4か月]	(n=240)	98.3%	74.2%	24.2%
II 期	D市 [6か月]	(n=672)	99.1%	88.1%	11.0%
	E市 [6～7か月]	(n=238)	98.3%	85.3%	13.0%
III 期	F市 [9～11か月]	(n=405)	99.8%	91.4%	8.4%
	G市 [10か月]	(n=310)	99.4%	84.5%	14.8%
平均			98.7%	83.6%	15.1%

また「ブックスタートで受け取った絵本を活用している（していた）か」との質問に
対して、「かなり活用している（いた）」「活用している（いた）」と回答した対象者の合
計は、どの実施時期においても80%以上の高比率で見られた。（次ページ 表8参照）

●表8 ブックスタートで受け取った「絵本」を活用しています（しました）か？

		計	かなり活用 している (した)	活用 している (した)
Ⅰ 期	A市 [3～4か月]	(n=297)	85.5%	37.7%
	B市 [3～4か月]	(n=504)	88.5%	45.2%
	C市 [3～4か月]	(n=257)	83.3%	34.6%
Ⅱ 期	D市 [6か月]	(n=683)	92.1%	42.0%
	E市 [6～7か月]	(n=239)	92.1%	43.9%
Ⅲ 期	F市 [9～11か月]	(n=419)	92.6%	41.5%
	G市 [10か月]	(n=312)	90.7%	44.2%
平均			89.2%	41.3%
				47.9%

アンケートの自由記述欄には、ブックスタートで絵本そのものを受け取ったことがきっかけとなって絵本を読むようになったという声が寄せられた。

自由記述より

- ブックスタートを受けるまで絵本をほとんど持っていなくて、絵本と接するきっかけのひとつになりました。初めはどんな感じ、内容のものがよいかなど、参考になると思います。(E市)
- 第1子の場合は特に、読みきかせを始めるきっかけになっていいと思う。そんな小さい時に絵本を読んであげるというのは意外だった。どんな本を選ぶかも最初は難しいので赤ちゃん向けの本をもらえるのはうれしい。(E市)
- 本を受け取ったときはまだ本を持ってなかったので、よいきっかけになったと思います。(G市)
- 読みきかせを始めるタイミングや、初めての絵本はどのようなものがよいのか判らない人も多いかと思うので（……というかそんな余裕もない状態でした、私は。）ブックスタートは素晴らしいサービスだと思います。(D市)

アンケート調査からは、多くの保護者が絵本を受け取ったことをうれしいと感じ、活動が絵本のひとときを体験する機会だけでなく、絵本そのものを手渡すことを評価していることが推測された。「絵本をプレゼントされた」という意外性を含んだ喜びは、家で早速、読みきかせを始めてみようという動機のひとつとなり、手渡された絵本が活用される（た）ことにつながったと考えられるのではないだろうか。

(3) ブックスタートでの体験は、 保護者が「絵本のひととき」に対して、 どのような認識を持つことにつながったか

ブックスタートを受けての感想として「楽しかった」「ほっとする時間がもてた」「読みかせ時の子どもの様子を見られてよかった」「赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった」「子どもとのコミュニケーションに役立ちそう」に「そう思う」「ややそう思う」と回答した対象者の合計は、どの実施時期においても、80%以上の高比率で見られた。

●表9 ブックスタートを受けて、どのように感じましたか？

			① 楽しかった			② ほっとする時間がもてた		
			計	そう思う	やや そう思う	計	そう思う	やや そう思う
Ⅰ期	A市 [3～4か月]	(n=295)	92.9%	49.8%	43.1%	(n=292)	86.6%	35.6%
	B市 [3～4か月]	(n=498)	94.0%	41.4%	52.6%	(n=498)	83.7%	30.5%
	C市 [3～4か月]	(n=236)	89.0%	41.5%	47.5%	(n=235)	81.3%	33.6%
Ⅱ期	D市 [6か月]	(n=669)	95.4%	53.2%	42.2%	(n=666)	86.6%	36.8%
	E市 [6～7か月]	(n=238)	94.5%	56.7%	37.8%	(n=239)	89.1%	40.6%
Ⅲ期	F市 [9～11か月]	(n=402)	98.8%	62.7%	36.1%	(n=402)	93.3%	44.0%
	G市 [10か月]	(n=309)	97.7%	57.0%	40.8%	(n=309)	89.6%	39.5%
平均			94.6%	51.8%	42.8%		87.2%	37.2%

			③ 読みかせ時の子どもの様子を見られてよかった			④ 赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった		
			計	そう思う	やや そう思う	計	そう思う	やや そう思う
Ⅰ期	A市 [3～4か月]	(n=295)	94.6%	58.6%	35.9%	(n=295)	89.8%	56.3%
	B市 [3～4か月]	(n=497)	91.8%	49.7%	42.1%	(n=495)	90.9%	54.4%
	C市 [3～4か月]	(n=234)	90.6%	50.9%	39.7%	(n=234)	88.5%	50.0%
Ⅱ期	D市 [6か月]	(n=669)	94.5%	63.4%	31.1%	(n=670)	93.9%	63.9%
	E市 [6～7か月]	(n=239)	95.4%	65.3%	30.1%	(n=239)	93.3%	59.4%
Ⅲ期	F市 [9～11か月]	(n=400)	96.0%	65.3%	30.8%	(n=405)	95.1%	71.6%
	G市 [10か月]	(n=309)	97.7%	65.0%	32.7%	(n=310)	95.2%	65.2%
平均			94.4%	59.7%	34.6%		92.4%	60.1%

			⑤ 子どもとのコミュニケーションに役立ちそう		
			計	そう思う	やや そう思う
Ⅰ期	A市 [3～4か月]	(n=298)	97.0%	66.4%	30.5%
	B市 [3～4か月]	(n=500)	98.2%	68.0%	30.2%
	C市 [3～4か月]	(n=235)	95.7%	61.7%	34.0%
Ⅱ期	D市 [6か月]	(n=668)	97.9%	76.6%	21.3%
	E市 [6～7か月]	(n=239)	98.7%	67.8%	31.0%
Ⅲ期	F市 [9～11か月]	(n=405)	98.8%	80.2%	18.5%
	G市 [10か月]	(n=309)	98.4%	73.8%	24.6%
平均			97.8%	70.7%	27.2%



またアンケートの自由記述欄では、ブックスタートがきっかけとなって赤ちゃんとの絵本をひらく楽しさを知り、さらに他の絵本へと興味が広がっていった様子も語られている。

自由記述より

- 『じゃあじゃあびりびり』は今でも大好きで読んであげると大喜びです。ここから絵本の世界が始まったので、大変感謝しています。(B市)
- 子どもが絵本を気に入っていて、1日何回も、読んでと本を持ってきます。ブックスタートで絵本をもらわなかったら、他の絵本をあんまり読みきかせていなかったかもしれません。絵本をもらえて良かったです。(B市)
- ブックスタートで受け取った絵本をくり返し読むうちに、子どもの反応が良くなり、楽しい時間を持っています。それをきっかけに他の絵本もたくさん読むようになりました。(B市)
- 絵本をもらってから、どんな本を喜んでくれるのかとか考えて本屋さんで選んだり、図書館で借りてみて子どもの様子を見てから買ったりするようになりました。(E市)

こうしたことから、ブックスタートによって多くの保護者が「絵本のひととき」を体験し、それを「楽しい」「ほっとする時間がある」ものとして受け止め、「赤ちゃんとのコミュニケーションに役立つものだ」という肯定的な印象を持つ機会になったと考えられる。赤ちゃんとの関わりの中では、様々な媒体がコミュニケーションツールとなりうるが、ブックスタートは「絵本」というツールの持つ機能を効果的に保護者に伝え、絵本への支持を広げることには役立っていると言えるだろう。

(4) ブックスタートがより多くの家庭で「絵本のひととき」を持つきっかけとなるために考慮できること

(1)『赤ちゃんとの絵本のひととき』についての傾向」でも記したとおり、今回のアンケート調査では、ブックスタートを受けた後も、各地域で約2割程度の人が、絵本の読みきかせを「全くしたことがない」(7自治体平均1.8%)、または、読みきかせの頻度について「週1回未満」(7自治体平均17.3%)と回答している。ここでは、絵本の読みきかせの頻度が「週1回未満～2回」の家庭をL群(Low frequency群)とし、家庭での絵本の読みきかせの状況や、彼らがブックスタートでどのような体験をしたのかを探り、それを、頻度が「週3回～ほぼ毎日」であるH群(High frequency群)と比較することで、ブックスタートをより多くの親子にとっての「きっかけ」とするためには、どのような点を考慮したらよいのかを検討したい。

1. 家庭での絵本の読みきかせの状況

家庭での読みきかせの状況について、L群の回答には以下のような特徴があらわれた。

①L群が「楽しいので」「子どもとふれあう時間になる」を選択した比率は、H群と比較して低かった。

●表10 ご家庭での読みきかせの状況について、そうお答えになった理由は何ですか？「楽しいので」

	Ⅰ期			Ⅱ期		Ⅲ期		平均
	A市 [3～4か月]	B市 [3～4か月]	C市 [3～4か月]	D市 [6か月]	E市 [6～7か月]	F市 [9～11か月]	G市 [10か月]	
L群 (週1未満～週2回)	(n=112) 26.8%	(n=191) 17.3%	(n=105) 17.1%	(n=214) 19.6%	(n=97) 24.7%	(n=171) 31.0%	(n=157) 26.8%	23.3%
H群 (週3回～ほぼ毎日)	(n=158) 56.3%	(n=293) 47.8%	(n=138) 46.4%	(n=430) 53.0%	(n=137) 52.6%	(n=231) 61.9%	(n=181) 59.7%	53.9%

●表11 ご家庭での読みきかせの状況について、そうお答えになった理由は何ですか？
「子どもとふれあう時間になる」

	Ⅰ期			Ⅱ期		Ⅲ期		平均
	A市 [3～4か月]	B市 [3～4か月]	C市 [3～4か月]	D市 [6か月]	E市 [6～7か月]	F市 [9～11か月]	G市 [10か月]	
L群 (週1未満～週2回)	(n=112) 37.5%	(n=191) 46.6%	(n=105) 46.7%	(n=214) 39.7%	(n=97) 51.5%	(n=171) 62.6%	(n=157) 54.8%	48.5%
H群 (週3回～ほぼ毎日)	(n=158) 68.4%	(n=293) 72.0%	(n=138) 73.2%	(n=430) 70.2%	(n=137) 73.7%	(n=231) 82.7%	(n=181) 70.7%	73.0%

L群はH群と比較して、赤ちゃんとの絵本のひとときに対して肯定的な印象を持っている人の比率が低いことが分かる。これは、実際にそのような体験をしたことや、絵本のひとときが赤ちゃんとの関わりを豊かなものにしたりと育児に役立ったと実感した経験が、少ないからではないかと推測される。

②L群で「子どもが関心を示さない」を選択した比率は、H群と比較して高かった。また、Ⅰ期（ブックスタート実施月齢3～4か月）のL群の方が、Ⅱ期（同6～7か月）・Ⅲ期（同9～11か月）のL群に比べて、その比率が高かった。

●表12 ご家庭での読みきかせの状況について、そうお答えになった理由は何ですか？
「子どもが関心を示さない」

	Ⅰ期			Ⅱ期		Ⅲ期		平均
	A市 [3～4か月]	B市 [3～4か月]	C市 [3～4か月]	D市 [6か月]	E市 [6～7か月]	F市 [9～11か月]	G市 [10か月]	
L群 (週1未満～週2回)	(n=112) 15.2%	(n=191) 13.1%	(n=105) 13.3%	(n=214) 14.0%	(n=97) 10.3%	(n=171) 6.4%	(n=157) 7.0%	11.3%
平均	13.9%			12.2%		6.7%		
H群 (週3回～ほぼ毎日)	(n=158) 1.9%	(n=293) 0.7%	(n=138) 2.2%	(n=430) 0.5%	(n=137) 0.0%	(n=231) 1.7%	(n=181) 0.0%	1.0%
平均	1.6%			0.2%		0.9%		

アンケートの自由記述欄では、以下のような意見も聞かれた。

自由記述より

- 本当はもっと読んであげたい！！と思っているのですが……。ただ3～4か月だとちょっと早いような……。まだ反応がない子もいると思うので、反応がないとまだいいかな～と思ってしまいそうな気がします。(B市)
- いつ頃から子ども自身から本を読んで欲しいとせがむようになったかは覚えていないのですが、3～4か月の頃はあまり興味を示していなかったように思います。私(母親)の方が、この時期は無理して読みきかせていた感じでした。(B市)
- 6か月健診の時に本をもらって、早速、家で読みきかせをしてみたが、ほとんど興味を示さなかった。少し指さしていただくくらい。全然じっとしていないのでムリだった。それ以来やらずじまい。(D市)
- 読んであげても全く興味を示さず、絵本を奪い自分で持っている事が多く、結局、読みきかせが出来ようになったのは1歳になる頃でした。(F市)

これらの回答者の中には、第1部(1)「5. 子どもの個性に気づく」で指摘したとおり、赤ちゃんが実際に「絵本にまったく興味がない」といった人も含まれるだろう。そうしたケースでは、親に関心があっても絵本をひらく機会が持ちにくいと推測される。

またL群の回答を期ごとに比較すると、ブックスタート実施時期が早いほど「子どもが関心を示さない」と感じる人の比率が高くなっている。これは赤ちゃんの月齢が低いほど、絵本をひらいたときの反応が無かったり、読み取ることが難しい場合が多いことと関連していると思われる。

各地域で行われるブックスタートの対象となる赤ちゃんの月齢は、その自治体で行われる「集団の母子保健事業」の対象月齢と合わせて設定されている場合が多い。それはそうした機会が、保護者の絵本や読みきかせに対する関心の有無に関わらず、地域に生まれたすべての赤ちゃんに会える機会だからである。そうした機会を利用するのは、ブックスタートの大きな特徴のひとつでもある。生後3～4か月までにブックスタートを行っている地域は、全実施自治体の46%（2014年2月時点）を占めるが、それは多くの自治体が集団の3～4か月児健診と合わせて活動を行っているからである。

(2)「1.『ブックスタート実施月齢』と『家庭での読みきかせ開始月齢』に関連がみられる」の図表の分析においては、Ⅰ期とⅢ期において「きっかけ」をもたらした作用がそれぞれ「物理的なもの」「心理的なもの」として異なる可能性について指摘した。

また第1部では、赤ちゃんとの絵本の時間の具体的な事例を紹介したが、赤ちゃんが豊かに反応し、保護者がそれに応える様子の多くは、赤ちゃんが生後6か月から10か月の頃から始まることが記録されている。

表12において、ブックスタートの実施時期が早いほど、「子どもが関心を示さない」を選択した回答者が多かったことと、上述の内容を合わせて検討すると、ブックスタートの対象月齢は早いほどよいというわけではないことが分かる。ブックスタートを実施する場面においては、対象月齢によって赤ちゃんの反応の大きさや、保護者の体験や受け止め方が異なる可能性があることを理解して、それぞれの対象者に合わせた対応をしていくことが重要だと考えられる。

より多くのL群の回答者が「子どもが関心を示さない」と感じていることについては、後述の「3. ブックスタートでの体験」においてもさらに分析し、またそのことを活動の実施にどう活かすことができるかについては「4. ブックスタートをより具体的なきっかけとするために考慮すべき点」においても詳しく検討することとする。

③L群で「時間にゆとりがない」を選択した比率は、H群と比較して高かった。

●表13 ご家庭での読みきかせの状況について、そうお答えになった理由は何ですか？
「時間にゆとりがない」

	Ⅰ期			Ⅱ期		Ⅲ期		平均
	A市 [3~4か月]	B市 [3~4か月]	C市 [3~4か月]	D市 [6か月]	E市 [6~7か月]	F市 [9~11か月]	G市 [10か月]	
L群 (週1未満~週2回)	(n=112) 16.1%	(n=191) 20.9%	(n=105) 27.6%	(n=214) 17.3%	(n=97) 19.6%	(n=171) 16.4%	(n=157) 9.6%	18.2%
H群 (週3回~(ほぼ毎日)	(n=158) 0.6%	(n=293) 2.0%	(n=138) 2.9%	(n=430) 2.3%	(n=137) 1.5%	(n=231) 0.9%	(n=181) 0.0%	1.5%

なおL群の「時間にゆとりがない」という回答に関して、きょうだいの有無による影響をみるために子どもの出生順位別に比較すると、第2子以降の方がそのように回答する比率が高かった。

●表14 ご家庭での読みきかせの状況について、そうお答えになった理由は何ですか？
「時間にゆとりがない」(L群・対象児出生順位)

		Ⅰ期			Ⅱ期		Ⅲ期		平均
		A市 [3~4か月]	B市 [3~4か月]	C市 [3~4か月]	D市 [6か月]	E市 [6~7か月]	F市 [9~11か月]	G市 [10か月]	
L群 (週1未満~週2回)	第1子	(n=55) 12.7%	(n=73) 6.8%	(n=33) 15.2%	(n=80) 10.0%	(n=34) 14.7%	(n=66) 6.1%	(n=68) 7.4%	10.4%
	第2子以降	(n=57) 19.3%	(n=117) 29.1%	(n=72) 33.3%	(n=132) 22.0%	(n=63) 22.2%	(n=105) 22.2%	(n=89) 11.2%	22.8%

アンケート自由記述欄では以下のような声も聞かれた。

自由記述より

- 絵本は忙しさにかまけてしまい、なかなかゆっくりみる時間が持てずにいます。(B市)
- 今は、忙しくあまり読んであげられませんが、時間を見つけて読んであげたいです。(F市)
- 第1子の時は小さい時から沢山の絵本を読めたけれど、二人目からは忙しくて読みきかせの時間を作ることがあまりできていない。(C市)
- 絵本を読んであげたいが、忙しく、読む時間がありません。(中略) もっと、読んであげたいという気持ちはあります。(E市)

2. 「読みきかせをする人」としての父親の存在

L群はH群と比較して、「読みきかせをする人」として「父親」を選択した比率が低かった。

●表 15 (ご家庭での読みきかせについて) 誰が読んでいますか? (複数回答)

	I 期					
	A市 [3~4か月]		B市 [3~4か月]		C市 [3~4か月]	
	母親	父親	母親	父親	母親	父親
L群 (週1未満~週2回)	(n=118)		(n=203)		(n=110)	
	96.6%	41.5%	96.6%	40.4%	97.3%	50.0%
H群 (週3回~ほぼ毎日)	(n=163)		(n=299)		(n=142)	
	100.0%	74.8%	99.0%	65.2%	99.3%	64.8%

	II 期				III 期				A市・G市 平均	
	D市 [6か月]		E市 [6~7か月]		F市 [9~11か月]		G市 [10か月]		母親	父親
	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親		
L群 (週1未満~週2回)	(n=227)		(n=101)		(n=188)		(n=161)		97.2%	43.4%
	98.2%	39.2%	97.0%	51.5%	98.4%	40.4%	96.3%	41.0%		
H群 (週3回~ほぼ毎日)	(n=449)		(n=143)		(n=242)		(n=183)		99.6%	68.2%
	99.1%	65.9%	100.0%	74.1%	100.0%	67.8%	99.5%	64.5%		

3. ブックスタートでの体験

「ブックスタートを受けてどのように感じたか」との問いに対して、L群の回答には以下のような特徴があらわれた。

- ①「自分には難しいと感じた」「自分の子どもにはまだ早いと感じた」にL群が「そう思う」「ややそう思う」を選択した比率は、H群と比較して高かった。

●表 16 ブックスタートを受けて、どのように感じましたか?
「自分には難しいと感じた」(そう思う+ややそう思う)

	I 期			II 期		III 期		平均
	A市 [3~4か月]	B市 [3~4か月]	C市 [3~4か月]	D市 [6か月]	E市 [6~7か月]	F市 [9~11か月]	G市 [10か月]	
L群 (週1未満~週2回)	(n=120)	(n=195)	(n=98)	(n=222)	(n=97)	(n=170)	(n=140)	
	30.0%	21.5%	19.4%	21.2%	23.7%	27.6%	27.1%	24.4%
H群 (週3回~ほぼ毎日)	(n=164)	(n=289)	(n=132)	(n=435)	(n=140)	(n=222)	(n=163)	
	12.2%	10.7%	8.3%	10.3%	12.9%	5.4%	11.0%	10.1%

●表 17 ブックスタートを受けて、どのように感じましたか?
「自分の子どもにはまだ早いと感じた」(そう思う+ややそう思う)

	I 期			II 期		III 期		平均
	A市 [3~4か月]	B市 [3~4か月]	C市 [3~4か月]	D市 [6か月]	E市 [6~7か月]	F市 [9~11か月]	G市 [10か月]	
L群 (週1未満~週2回)	(n=121)	(n=195)	(n=98)	(n=221)	(n=98)	(n=170)	(n=140)	
	34.7%	25.6%	29.6%	22.2%	20.4%	15.9%	22.1%	24.4%
H群 (週3回~ほぼ毎日)	(n=160)	(n=289)	(n=132)	(n=435)	(n=140)	(n=221)	(n=163)	
	13.1%	17.3%	22.0%	10.6%	13.6%	5.4%	10.4%	13.2%

- ②「赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった」にL群が「そう思う」を選択した比率は、H群と比較して低かった。⁸

●表 18 ブックスタートを受けて、どのように感じましたか?
「赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった」(そう思う)

	I 期			II 期		III 期		平均
	A市 [3~4か月]	B市 [3~4か月]	C市 [3~4か月]	D市 [6か月]	E市 [6~7か月]	F市 [9~11か月]	G市 [10か月]	
L群 (週1未満~週2回)	(n=120)	(n=195)	(n=97)	(n=221)	(n=98)	(n=172)	(n=141)	
	44.2%	48.2%	39.2%	52.5%	48.0%	69.2%	57.4%	51.2%
H群 (週3回~ほぼ毎日)	(n=164)	(n=288)	(n=130)	(n=435)	(n=140)	(n=225)	(n=163)	
	65.2%	60.1%	58.5%	70.3%	67.9%	74.2%	74.2%	67.2%

⁸「そう思う+ややそう思う」では、L群・H群ともに高い比率になるため、「そう思う」のみで分析を行った。

第1部の(1)「1. 小さな赤ちゃんと絵本をひらくということ」でも指摘したとおり、0歳の赤ちゃんの絵本に対する反応は非常に小さいこともあり、赤ちゃんがいつでも絵や語りかけに対して笑顔を見せたり、手足を動かすといった分かりやすい反応をするとは限らない。まったく見向きもしないという反応もある。また同じ赤ちゃんの反応を見ても、「すごい!」と感じる人もいれば、「反応がまったくない」と感じる人もいる。

第2部の(2)「1. 『ブックスタート実施月齢』と『家庭での読みきかせ開始月齢』に関連がみられる」のアンケート自由記述欄の分析では、ブックスタートの会場で絵本をひらいたときの我が子の様子を初めて見た時の驚きや感動が、絵本のひとときを持つきっかけになったといういくつかの感想を紹介した。回答者の中には、「赤ちゃんの反応に気づく」という点について、ブックスタートで以下のような体験をした保護者もいる。

自由記述より

●子どもがどんな絵に興味がありそうか、目を向けていなくても耳で聞いていると気づかせてくれました。まだ子どもの反応がはっきり感じられなかった時の気づきのポイントを教えてもらえたので、読みきかせの前の絵本に興味を示すまでをじっくり見守れた気がします。(D市)

このように様々な体験がある中で、より多くのL群の回答者が、ブックスタートを受けて「自分には難しいと感じた」「自分の子どもにはまだ早いと感じた」と答え、「赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった」とは感じにくかったということは、ブックスタートの会場では、赤ちゃんが絵本に反応しなかったり、反応をうまく見出すことができなかったのではないかと考えられる。またそのことをどう解釈するかという点について、十分な説明が受けられなかった、あるいは説明されても分かりにくかった可能性もあるのではないだろうか。これらのことから、ブックスタートでの体験は、その後の家庭での絵本のひとときの持たれ方に大きく影響することが推測される。

4. ブックスタートをより具体的なきっかけとするために考慮すべき点

L群の回答者の家庭での読みきかせの状況や父親の関わり、彼らのブックスタートでの体験をH群の回答者のそれと比較したところ、絵本の読みきかせが子育ての日常に楽しみとして取り入れられるためには、いくつかの要因が関係しており、またブックスタートがより具体的なきっかけとなるためには、活動においてさらに考慮できる点があることが分かった。

第1部の(3)「子育ての助けとなるもの」では、絵本のひとときが赤ちゃんと読み手を、日常のあわただしい時間の流れから、こことは違う世界へと連れて行ってくれることから、赤ちゃんのご機嫌だけでなく読み手の気持ちを自然と穏やかにしてくれることがあつてを指摘した。

また子育てをしていると、大小様々な心配事が生まれることもあるが、絵本のひとときは、そんな不安や悩み、葛藤や揺れ動く気持ちに寄り添い、時には読み手にさりげない気づきを与えてくれることがあるとも記した。

第1部の(2)「4. 子育ての喜びをともに分かち合う」では、絵本のひとときが、ともに親へと成長していくパートナーの子育ての様子を見つめ、子どもと向き合ったり子どもの成長を見つけたときの喜びを誰かと分かち合う機会をも作り出していることを指摘した。

しかし、絵本のひとときにそのような機会や価値を作り出す可能性があるとしても、子育てを穏やかに楽しめる環境が整い、読み手である保護者に精神的な余裕がなければ、子どもと絵本をひらくこと自体が難しいということも、また現実なのである。

アンケート調査では、より多くのL群の回答者が家庭での読みきかせの状況について「時間にゆとりがない」と答えた。小さな子どもを育てていると何かと時間や手間がかかり、特に共働き家庭においては、帰宅してから子どもを寝かしつけるまでのあいだに、絵本をひらく時間を見つけることさえ難しいということもあるだろう。

また、L群の回答者は「読みきかせをする人」として「父親」を選択した比率が低いことも分かった。

現代の地域社会においては、孤立した環境で育児に追われる母親が、一人で悩みを抱え込んでしまうことがある。そうした状況を改善するために、各地で人と人とのつながりを取り戻し、親だけでなく多くの人の手をかけて子どもを育む環境を作っていこうという取り組みが進められている。また子どもを育てる世代の労働者が、より柔軟な働き方を選択できるよう、国や企業も含めた新たな仕組みの運用が求められてもいる。どちらもブックスタートや家庭での絵本のひとときの持たれ方に深く関わってくる、社会的課題である。

こうした社会状況の中でブックスタートを実施し、すべての家庭に絵本を手渡すということは、子育て中の保護者にとって「絵本のひととき」が“さらなる負担”として受け止められてしまう可能性があるということにも配慮しなくてはならない。こうした点にも気を配りながら、今後の活動を進めていく必要があるだろう。

これらのことと合わせて、(2)「ブックスタートが絵本のひとときを持つきっかけになったか」でまとめた内容を検討してみると、ブックスタートがより多くの家庭にとって具体的なきっかけとなるためには、今後の活動の実施においてどのような点を考慮すればよいのかが見えてきた。

【ブックスタートの実施において考慮すべき点】

- 保護者が実際に赤ちゃんと絵本のひとときを体験し、「楽しかった」「赤ちゃんとふれあいの時間になって良かった」「またやってみたい」と実感し、赤ちゃんと絵本をひらくことについて肯定的な印象を持ち帰ることができるような機会をつくる。
- 赤ちゃんの様子を保護者といっしょに見てその反応に応えたり、分かりやすいものだけでなく、赤ちゃんの小さな反応も見つけられるような機会を作る。
- 赤ちゃんが何も反応を示さなかったり、うまく反応を見出すことができなくても、その時に赤ちゃんが興味を持っていることについて話したりしながら、反応がないことを否定的に受け止めることのないような働きかけが必要となる。「赤ちゃんの成長とともに、絵本に対する反応や楽しみ方も大きく変わってくること」「赤ちゃん一人ひとりに、豊かな個性があること」「赤ちゃんにも絵本の内容や読み方に好みがあること」「子どもの成長に合わせて参加できる、地域で行われているフォローアップ活動の情報」などを丁寧に伝える。対象となる赤ちゃんの月齢が低い場合には、このことが特に重要となる。
- 母親だけでなく、父親をはじめ、赤ちゃんの周りの誰でもが読みきかせを楽しめるような、支援・働きかけ・情報提供を行う。
- 読みきかせを“上手に、毎日やらなくてはならないこと”としてではなく、“気軽に、好きな時に、楽しめること”として伝える。

まとめ

第2部のアンケート調査では、ブックスタートが多くの家庭において、「絵本のひととき」を持ち始める具体的なきっかけとして機能していることが推測された。このことは2000年に行われたブックスタートの試験実施での調査においても明らかにされている。（「ブックスタート パイロットスタディ 4か月児調査結果概要」 第1回ブックスタート全国大会報告書 NPO ブックスタート支援センター 2002.12.1 P.24-29）

ブックスタート実施自治体では「家庭で読みきかせを開始した月齢」について「ブックスタートが実施された月齢」または「その直後の月齢」を選択した人の比率が、他の時期に比べて高く、この傾向はブックスタート実施の対象月齢に関わらず、どの自治体においても共通の傾向として表れた。またブックスタートで手渡す絵本が、多くの家庭で活用されている（された）ことも明らかになった。

さらに、ブックスタートでの体験を通して、多くの保護者が「絵本のひととき」を「楽しい」「ほっとする時間をもてる」ものとして受け止め、「赤ちゃんとのコミュニケーションに役立つもの」という肯定的な印象を持つようになったと考えられる。またブックスタートがきっかけとなり、他の絵本へと興味が広がり、多くの家庭で絵本が赤ちゃんとのコミュニケーションツールとして受け入れられていることもうかがわれた。

アンケートに協力してくださった家庭の中には、ブックスタートを受けてもなお、「絵本のひととき」が積極的には持たれていない家庭もあった。読みきかせの頻度の低い家庭の回答と、頻度の高い家庭の回答との比較を通して、赤ちゃんとの絵本のひとときを持つには、それが楽しく、赤ちゃんとのふれあいの時間になると感じる体験をすることが重要であり、さらに子育ての日常における時間的なゆとりや、精神的な余裕が持てるような環境と、それを作り出すためのさらなる具体的な支援や働きかけ、情報提供が必要であることが分かった。

ブックスタートで手渡す絵本がより具体的なきっかけとなるためには、保護者がブックスタートの会場でどのような体験をするかが大きく影響していると考えられる。絵本をひらいたときの赤ちゃんの様子を見たり、赤ちゃんの反応をどのように解釈するかを知ることが、きっかけづくりに大きく影響していると推測されるためだ。また活動が対象とする赤ちゃんの月齢によって、保護者のブックスタートでの体験や受け止め方が異なることを理解して、それぞれに合わせた対応をしていくことが重要であることも分かった。

第1部では、「絵本のひととき」が「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」に豊かな成果をもたらしうることを明らかにした。第2部でのアンケート調査の結果の分析からは、ブックスタートの対象となった多くの家庭において、活動が「絵本のひととき」を持つきっかけとして機能している可能性が示された。このことから、ブックスタートによってより多くの家庭で「絵本のひととき」による豊かな成果が享受されていることが推測される。

各地域でのブックスタートの体験が保護者にとってより楽しく印象的なものとなり、持ち帰った絵本が赤ちゃんとの日々の生活で繰り返しひらかれ、そのことが子育ての日常により多くの感動や笑顔を生み出すものとなるよう、実施自治体とともにさらなる活動の充実を図りたい。

第 3 部

ブックスタートは、
市区町村自治体や関係者に
何をもたらすか

第1部と第2部を通して、ブックスタートは、対象となった家庭に親子で「絵本のひととき」を持つきっかけを届けており、「赤ちゃん」「保護者」「赤ちゃん」と保護者の関係性に豊かな成果をもたらしていることを明らかにした。

第3部では、ブックスタートが、対象となる赤ちゃんや保護者に対してだけでなく、活動を実施する市区町村自治体や活動に携わる関係者に対しても、肯定的な変化をもたらしているのではないかという仮定をもとに分析を行った。

NPO ブックスタートでは、これまで全国各地の実施自治体で活動の取材や見学をし、また各地の担当者等に電話やメールなどで活動の様子をお聞きし、具体的な活動事例の収集に力を入れてきた。その中の特徴的な活動については、特に詳しく情報を集め、各種発行物や主催イベントの中で紹介してきた。

そこで今回の分析を進めるにあたっては、NPO ブックスタートがこれまで発行してきた資料等の中で紹介している地域の事例を中心に、分析の対象となる事例を抽出した。「これまで発行してきた資料」とは、季刊発行されている「ブックスタート・ニュースレター」、実施に携わる関係者向けの資料『ブックスタート・ハンドブック』⁹、『ブックスタート広報アイデア集』¹⁰、事例集『はじめての取り組み』、『第1回全国大会報告書』、『第2回全国大会報告書』、『ブックスタート・フォローアップイベント in ふくおか 報告書』、ブックスタートの内容や活動事例を映像で紹介したDVD『ブックスタート しあわせ広げる、愛情ことば。』、ビデオ『3つの地域の事例から』、ビデオ『ブックスタート 本のひととき赤ちゃんといっしょ』、ブックスタートの歩みを各地の事例とともに伝えた書籍『赤ちゃん」と絵本をひらいたら ブックスタートはじまりの10年』などである。¹¹ また、NPO ブックスタート職員が実施地域に出向き、活動の取材や見学、関係者へのインタビューを通して得た情報も、再度当事者への事実確認をした上で、分析の対象とした。

そして抽出した事例からなる情報を元に、第1部と同様の分析手続きをとった。まず事例を、分析テーマに関連する箇所に着目して読み込み、他の事例の中の類似した部分を合わせて具体例として集め「主題項目」を生成した。そして主題項目ごとに、主題項目名・定義・具体例・分析の視点等を書きとめる理論的メモか

らなる「分析ワークシート」を作成した。

いくつかの「主題項目」が生成されたところで、一項目または複数項目を包括する「カテゴリー」を作成し、主題項目やカテゴリー間の関係を検討して、「ブックスタートが市区町村自治体や関係者にもたらすもの」について整理し、まとめた。

取り上げた事例については、情報が個人の発言である場合には、その部分をかぎカッコで囲い、最後に発言者の所属機関または立場の名称と自治体名を記した。またその情報が自治体の活動状況を記録したものである場合には、自治体名のみを記した。また各事例がどの発行物等に掲載されたものかを確認できるよう、自治体名のあとに、発行物等の認識記号¹²とともに発行年月やページ番号等を記した。

なおそれぞれの情報は、それが見学や取材、インタビューを通して得られた当時、また資料に掲載された当時に行われていた内容であり、現時点での活動状況とは異なる可能性があることをお断りする。

先述のとおり NPO ブックスタートでは全国の活動に関する情報収集とその共有に力を入れているが、2014年6月現在、活動の実施市区町村数は880を超えており、詳細について収集しきれていない活動事例もあると予想される。しかし本研究レポートでは、上記のとおり収集され、発行物に掲載されたものを中心に分析を進めた。

第3部では、こうして見出された内容を、それがもたらされた対象別に「地域の子育て環境」「母子保健事業」「活動に携わる人々」の3つの視点から整理したものをレポートする

9 ブックスタート実施に役立つさまざまな情報を、全国各地から届いた各種資料やNPOブックスタートが取材や見学を通して収集した写真や事例とともにまとめた冊子。

10 ブックスタートにおける広報活動のアイデアをまとめた冊子。

11 資料の詳細については、124ページを参照のこと。

12 発行物の認識記号については、次ページの一覧を参照のこと。

●発行物の認識記号

NL	「ブックスタート・ニュースレター」
HB	『ブックスタート・ハンドブック』（HBの後の数字は版数）
PR	『ブックスタート広報アイデア集』
Jirei	事例集『はじめての取り組み』
Zenkoku-1	『第1回全国大会報告書』
Zenkoku-2	『第2回全国大会報告書』
Fukuoka	『ブックスタート・フォローアップイベント in ふくおか 報告書』
DVD-Shiawase	DVD『ブックスタート しあわせ広げる愛情ことば。』
DVD-Shiawase-Book	DVD『ブックスタート しあわせ広げる愛情ことば。』別冊資料
VHS-3	ビデオ『3つの地域の事例から』
VHS-BS	ビデオ『ブックスタート 本のひととき赤ちゃんといっしょ』
Book	書籍『赤ちゃん絵本をひらいたら ブックスタートはじまりの10年』
Interview	活動の見学や取材、関係者へのインタビューを通して得た情報

（1）地域の子育て環境

1. 組織と人の連携を基盤とした子育て支援推進の枠組み

ブックスタートは、自治体の乳幼児健診等で行われるひとつの事業にすぎない。しかし、ブックスタートを実施することで、その地域の子育て環境には大きな変化がもたらされることがある。

それは活動を行うために、行政と住民が連携体制を組むことが、その地域での子育てについて考える組織と人のネットワークを作り出すからである。そしてそこで共有される「赤ちゃんが健やかに育ってほしい」「保護者が安心して子育てをできる地域を作りたい」という願いが、保護者も含めた人のつながりの中で大きく広がっていくからである。

さらにブックスタートのフォローアップ活動として、地域の公共施設において保護者が赤ちゃん連れでも出掛けることができ、そこで地域の人や絵本と出会えるような取り組みが充実することも、その理由のひとつだろう。

ブックスタートという事業を行うことで、地域の子育て環境をよりよくするための枠組みが作られ、その中に子育てに関わる人々のあたたかいつながりが生まれる可能性があるのだ。

①複数の行政機関の連携

活動が2000年に英国から日本に紹介されたとき、ブックスタートは「複数の行政機関による連携（パートナーシップ）」という、取り組み体制からも注目を集めた。ブックスタートは「対象者に絵本を手渡す」という活動の形から、一見「読書推進活動」とみなされ、行政の教育委員会や公立図書館のみが担当する事業だと捉えられることがある。しかし実際の取り組みは乳幼児健診等の機会に行われるため、活動を実施し充実させるためには、母子保健や子育て支援などの分野の行政機関とも連携して実施することが重要になる。行政機関の縦割りの壁を超えた体制づくりが必要である。

事例

- （ブックスタートの実施に向けた試みとして）「図書館に協力してもらい、健診会場の出口付近に絵本を並べ、健診が終わった親子に声を掛けていったのですが、残念なことに、人手も足りず、読みきかせに気づかずに帰ってしまう親子がほとんどでした。この経験を通じて、“ただ健診会場に図書館職員が出向くだけではうまくいかない。ブックスタートを成功させるためには、図書館だけでなく、健診に関わるスタッフとも、この事業を行う目的を共有し、連携をすることが不可欠だ”と実感しました。まずは、子どもに関わる各課に声をかけ、お互い顔をあわせて話をするところから始めたのです。」（社会教育課、沖縄県那覇市 NL24 2009/3）
- 「保健、福祉、生涯学習など、子育て支援の具体的な施策は各課で異なります。ブックスタートは、各分野が連携する初めての、そして唯一の事業です。」（健康管理センター、宮崎県三股町 NL17 2007/6）
- 「以前はまったく横の連携はありませんでした。長寿社会課と図書館とは、それぞれの目的が育児支援、読書推進と異なる部分がありますが、お互いがその目的を達成するためにもブックスタートは大きな力になるだろうと実施に向けて協議したところ、スムーズに連携を図ることができました。」（図書館、鳥取県倉吉市 Jirei P29）
- 「年間約 200 回。17 会場で実施されていて、既に軌道に乗っていた健診に、担当課が異なる新たな事業が加わるには、調整が必要な部分もありました。でも、どの課が担当であっても対象者には関係のないことですよ。様々な立場の方と“赤ちゃんと保護者の幸せ”のために何ができるか、アイデアを出し合えたことは、とても意義のあることだったと思います。」（図書館、新潟県新潟市 NL40 2013/3）
- 「他の課と部局を超えてつながることは大変な部分もありましたが、話し合いを重ねることで、お互い協力しましょうという体制ができました。市民にとって市役所はひとつであり、どこの部署がどう分かっているかなんて関係ないんです。」（図書館、神奈川県藤沢市 NL23 2009/1）
- 「子育てを応援するためにつながろうという思いが、職員の間で自然と育っていきました。今では、各機関がそれぞれの立場でブックスタートの意義を感じ、お互いの力を必要としています。こども課を中心に太い柱で支えられるようになったこの事業は、たとえば担当者が変わっても必ず続いていく。その基盤ができたと思っています。」（子育て支援センター、石川県加賀市 NL34 2011/9）

- 「これは、行政としては大変な試みなんですよ。行政は縦割りで仕切られているけれど、実は対象となる子どもは一人なんですよ。それなのに、問題に対してはそれぞれの課が別の対応をしていく。でもブックスタートでは、図書館と保健センターと一緒に『健診で読みきかせをしまおう！』と。かつて行政の中でこういう知恵を出して事業をやったことはないのではないかと思います。」（図書館、北海道恵庭市 NL9 2005/6）

②公と民の連携

ブックスタートでは、全体の 65%（2014 年 2 月時点）の自治体で地域住民がボランティアとして活動に協力している。また市民である母子保健推進員や民生委員が活動に関わる地域もある。彼らは実施会場で親子といっしょに絵本をひらいたり、絵本が入ったパックを手渡す役割を担当したり、会場の準備やパックのセット組みなどの事前準備を担当することもある。行政が人手不足で、ボランティアの協力が不可欠という場合もあるが、住民とともにブックスタートを行うこと自体に大きな意義を見出している自治体もある。



事例

- 「ブックスタートを開始するにあたって、市民の方に手を挙げていただき約 250 名のボランティアの方に参加いただいています。行政は時々勘違いして、ボランティアの方々を手足のように使えと思う職員が、残念ながらまだいるのですが、彼らは手足ではなくて頭脳なんです。そしてブックスタートという事業に魂を込めているのが、ボランティアの方々だと思ってます。」（市長、新潟県新潟市 DVD-Shiawase）
- 「誰にでも身近な存在である赤ちゃんに対して、行政とボランティアが対等な関係になったのがブックスタートなんです。」（図書館、北海道恵庭市 NL9（2005/6））
- 先輩ママといった市民がこの活動に関わってくれることは、「子育てを応援したい」という思いを自然な形で対象者に伝えられるという意味があります。（図書館、神奈川県藤沢市 NL23（2009/1））

- 「ブックスタート会場で、健診を終えたお母さん方と地域の人たちは、一期一会に近い出会いをします。会場のあたたかい空気をもブックスタート・バックの中に入れて持って帰っていただきたいという思いがあります。ボランティアの方々のあたたかい雰囲気、こういう人たちが地域の中にいて、ボランティアで子育て支援をしようと集まっているのだということを、対象者の皆さんに見ていただきたいのです。」(図書館、千葉県柏市 Zenkoku-2 P33)

③連携の上に成り立つネットワーク

こうして行政の異なる機関が連携し、さらに公と民とが連携する体制が生まれ、ブックスタート実施の中心となる組織が形作られる。各地でワーキンググループとも呼ばれるこの組織は、それぞれのメンバーが、所属する組織や立場を超えて同じ目的と願いを共有する、子育て支援を進めるための力強い枠組みとなる。



事例

- ブックスタート実施に向けた準備期間には、他市町村の活動に関する情報を収集すると同時に、それまで健診会場で親子への絵本の紹介をしていた、こども図書室のボランティア一人ひとりに思いを聞いた。
「皆さんが“赤ちゃんの幸せ”を心から願っているのだということに気づきました。だからこそブックスタートを、読書推進の活動に限定したくないと感じたのです。」(図書館、愛知県豊田市 NL27 2010/1)
- 年に1、2回、事務局である健康課、市役所内の4部署(市民課・図書館・子育て支援センター・子育て支援室)と社会福祉協議会とが集まり“ブックスタート推進会議”を開催している。毎回ブックスタート終了後に、ボランティアと健康課で意見交換を行い、そこで出た意見を参考に推進会議でブックスタートをより充実させるための話し合いを行う。そこではそれぞれの観点から意見が交わされ、よりよいアイデアが生まれている。
「会議を通じて図書館のおはなし会が盛況だという話を聞いたりすると、ブックスタートが地域の様々なところにつながっていることを実感します。それはブックスタートに携わるみんなの自信にもつながっています。」(健康課、愛知県尾張旭市 HB6 P24)

- 事業の運営にあたっては、連携する各機関やボランティア団体の代表など20名で構成する検討委員会が、2か月に一度顔を合わせて話し合いを行っている。
「現場から出された反省点や気づいたことを共有し、事業の見直しと運営の改善につなげています。また、市内の子育てに関わる情報を交換したり、異動などで新しく加わったメンバーが活動を理解する機会にもなっています。検討委員会は、事業を実施する上で欠かせない組織であり、毎回深い内容の話し合いになるんです。」(図書館、佐賀県武雄市 NL38 2012/9)
- 「事業を進めるときは、教育委員会も子育て支援課も、それぞれ一生懸命に考えますが、ときにはどうしても縦割りにならざるを得ないところもあって、意見が合わないこともあるんです。でもそこで、熱心に関わってくださる市民の存在があると、行政の中で意見が合うとか合わないとかではなく、協力してやっていこうという気持ちになります。ボランティアの皆さんが事業の牽引者となってくださっているからこそだと思います。」(子育て支援課、鳥取県境港市 NL22 2008/9)
- 「赤ちゃんの幸せのために一番良いやり方を考えようと、立場を超えて、みんなが燃えていました。」(ボランティア、鳥取県境港市 NL22 2008/9)

こうして作られたワーキンググループの組織と人のつながりは、ブックスタートという活動を超えて活かされることもある。

事例

- 保健師が「子ども読書活動推進計画」の策定委員に加わったり、保健センターに置く絵本の選書に図書館が協力をしたりと、ブックスタートをきっかけに、図書館と保健センターが互いに協力をする機会が増え、赤ちゃんや子どもはもちろん、お年寄りを対象とした事業でも連携を深めていくようになった。(滋賀県長浜市 NL20 2008/3)
- それまで行政の中で横のつながりが必要とされる事業は少なく、図書館と保健センターが共同で事業をするということはほとんどなかった。しかし、ブックスタートでの連携以降、保健センターでは絵本を図書館から借りて育児相談に使ったりするなど、互いの情報共有が進んだ。(愛知県飛島村 Jirei P19-21)
- 作成した子育て支援マップは、現在では未来課が担当する赤ちゃん訪問で手渡されるなど、ブックスタートの枠を超えて他事業の充実にも役立てられている。(佐賀県武雄市 NL38 2012/9)

2. 保護者と地域の人々のつながり

ブックスタートは、保護者が地域の人々と出会う機会も作り出している。ブックスタートの会場で、いっしょに我が子をあやしたり、絵本をひらきながら和やかな雰囲気の中で会話をしたりすることで、保護者は文字通り、地域の人々と“出会う”ことになる。そしてその出会いは、たとえ短い時間であったとしても、双方にとって印象的なものになることがある。保護者は、同じ地域で子育てをしている仲間がいることや、自分の子育てを応援してくれる人が身近にいることを知り、活動の実施に携わる者は、自分たちの活動が実際に赤ちゃんや保護者の笑顔につながっていることを実感することができるからだ。地域コミュニティを形づくっているものは、人と人との具体的なつながりだとも言える。ブックスタートは、子育てのよりよい環境づくりにおいても欠かすことのできない、顔の見える人のつながりを作り出している。

①保護者と行政職員

事例

- 「図書館に来館した時、わざわざ（ブックスタートで受け取った）絵本のお礼を言ってくる親子もいるんです。それをきっかけにお互いに話をするようになり、人と人との交流がどんどん広がっています。ブックスタートは図書館・母子保健の事業としてはもちろん、人と人とのつながりを作っていく上でも大切な事業だと思っています。」（図書館、岩手県大船渡市 NL36 2012/3）
- ブックスタートで手渡した図書館利用者登録申込書を手に来館する親子が増え、中には「あの時お会いした方ですね」と職員に話しかける保護者もいる。「この事業は家庭と絵本を結びきっかけだけでなく、図書館や地域とのつながりを持つきっかけにもなっていることを実感しています。」（図書館、大阪府河内長野市 NL30 2010/9）
- 「これまでは図書館に赤ちゃんが来ても、“赤ちゃんだ”と思っただけだったけれど、ブックスタートに関わるようになってからは、もうブックスタートを受けたかな、私がバックを手渡した子かなと思って、思わずカウンターを出て話しかけてしまうんです。」（図書館、東京都杉並区 Book P136）

- ブックスタートでの出会いがその後にもつながっていくように、ブックスタートに出向いた図書館職員が次回のおはなし会を担当し、保護者に親しみを感じてもらえるように工夫している。（滋賀県長浜市 NL20 2008/3）

- 「ブックスタートの場であれば、子どもとの関わり方として、具体的な“絵本”を紹介することができて、それといっしょに『子育て支援センターがありますから、どうぞ来てみてください』と伝えながら顔見知りになることもできる。そうすれば声をかけてくれた人がいるから、ちょっと行ってみよう、というふうになるかもしれない。これまではすべての人に声をかけることすらもできていなかったんですね。」（子育て支援センター、鳥取県米子市 Book P79）

②保護者とボランティア

事例

- 「赤ちゃんを連れての初めてののお出かけにもなる健診では、知り合いもなく待ち時間をじっと過ごしている保護者が見受けられます。実は、ブックスタートのボランティアの多くは同じ経験の持ち主なんです。だからこそ健診が地域の人とのふれあいの場であってほしいと願い、積極的に親子に話しかけるようにしています。」（ボランティア、佐賀県武雄市 NL38 2012/9）
- 一組一組の親子とじっくり話をすることができ、毎回会場のあちこちでボランティアと話し込む保護者の姿が見られる。中には、最後にもう一度ブックスタート会場に戻り、絵本のことや親子で出かけられる場所のことなどの話を聞いて帰る保護者もいる。（徳島県上板町 NL37 2012/6）



地域の人とのふれあいの場に

- 「4か月児健診のとき、不安なお顔でブックスタートの会場へやってきたママに、ブックの説明をしながら『今が一番大変な時よね』と言ったとき、ママの目から涙がポロポロとこぼれました。その方が8か月児健診の時に私を見つけてくださり、『あの時はありがとうございました。今、子育てとても楽しいです。』とニコニコと話してくださった時は、とてもうれしかったです。」(ボランティア、栃木県野木町 NL14 2006/9)
- 親戚が遠方に住んでいて、誰かに赤ちゃんを抱っこしてもらおう機会のなかった方が、ブックスタートでボランティアに赤ちゃんを抱っこしてもらえたことがとてもうれしくて、涙ぐまれたことがあった。(千葉県鎌ヶ谷市 NL28 2010/3)
- 「先日も、お父さんには少し日本語が通じるけれど、お母さんには通じないという外国出身の親子がブックスタートの会場に来ていたんですね。親子3組のグループでいっしょに本を読んだり、手遊びをすると、言葉は通じていないかもしれないけれど、赤ちゃんはニコニコとしっかりこちらを見て応えてくれる。その様子を見てお父さんもお母さんもすごく喜んでいて……。心が通じ合ったような気がした素敵な時間だったんです。」(ボランティア、鳥取県鳥取市 Book P135)
- 「ボランティアは自宅近くの会場を担当することが多いので、対象となる赤ちゃんや保護者と、同じ地区の住民ということになるんです。お互いの顔がわかるくらいのコミュニティ単位でブックスタートが行われているので、保護者にとっていちばん身近な地域で人と関わりを持てるという意味もあると思います。」(図書館、香川県高松市 NL18 2007/9)
- 「先日ショッピングセンターで『この前はありがとうございました』と言われて、“どなただったかしら？”と思ったらブックスタートでお会いしたお母さんだったんですよ。」(ボランティア、福井県福井市 NL11 2006/1)
- 「他の人が自分の子を気にかけてくれることの心地よさや安心感、人と人のつながりを、この機会に、すべての親子に感じて帰ってもらいたいです。健診は疲れるかもしれないけれど、いろいろな人に声を掛けられて、かわいいねって触れられて……。それを“うれしかった”と感じて帰ってもらいたいですね。健診やブックスタートの場を逃すと、なかなかそうした機会はありません。みんなで見守っているからいっしょに育てていこうよ、というメッセージをすべての親子に届けていきたいと思います。」(ボランティア、沖縄県那覇市 NL24 2009/3)
- 「ブックスタートを通じて、“みんな同じなんだよ、一人ひとりが大事なんだよ”っていうメッセージを送ることができる大人がいっぱい増えていけばいいと思うんです。赤ちゃんの笑顔から優しさをもらった人が、それを“地域のお母さんたち、大丈夫だよ。赤ちゃんた

ち、おいで、かわいいね”っていう気持ちで寄り添いながら、幸せを親子に返していく。そういうことをする人を増やしていくというのが、ブックスタートが一番目指していることなのではないかと思うんです。」(ボランティア、鳥取県鳥取市 Book P135)

③保護者と保護者

事例

- 「ブックスタートが始まってから、健診の場が今までよりも和やかになったのを感じます。それは読みきかせをいっしょに聞いたお母さん同士が話をしやすくなったことで、待ち時間に会話される姿が多くみられるようになったこと、健診のはじめにゆったりとした時間を持ってもらうことで、気持ちに少しゆとりができたことが関係しているように思います。」(保健センター、鳥取県鳥取市 Zenkoku-2 P10)
- 健診の待ち時間はどうしても長くなりがちだが、そこにブックスタートが入ったことで、保護者にとっても待ち時間は苦痛なものではなく、楽しいイベントの時間になった。和やかな雰囲気の中で会話も弾み、保護者どうしが知り合うきっかけにもなっている。(愛知県尾張旭市 HB5 P27)
- ブックスタートの場は、絵本のひとときを持つきっかけを届けるだけではなく、震災(東日本大震災)という同じ経験をした人が、思いを共有する場にもなっている。「保護者に『地震の時はどうしていたの?』と声をかけることもあります。そうすると、ミルクが無くて大変だったとか、退院してまだ2日目だったとか、みんな自分の体験を話してくれるんです。お互いの経験を話すことで、“私だけじゃないんだ。みんな同じところを通り抜けてきたんだ”と思ってもらえるのではないかと感じています。」(ボランティア、岩手県大船渡市 NL36 2012/3)



健診の待ち時間に親子で交流



3. 公共施設の設備と子育て支援活動の充実

ブックスタートの実施と並行して、図書館、保健センター、子育て支援センター、保育園・幼稚園・認定子ども園などの公共施設では、施設の設備や活動の充実が図られることもある。ブックスタートをきっかけにより多くの親子が利用することを想定して、事前に受け入れ体制を整える場合もあれば、実際に親子の利用が増えたことから、その変化に対応してなされる場合もあり、両方の要因が相互に作用しながらさらに充実していくこともある。

事例

- ブックスタートをきっかけに、子育てに関する情報を1枚の地図にした「子育て支援マップ」を作成した。保健センター、子育て支援センター、児童館や図書館といった行政機関だけでなく、子育てサークルのような民間団体もあわせて紹介することで、親子がこのマップさえ持ち歩けば、地域の様々な子育て支援施設に出掛けることができるようにした。(北海道恵庭市 HB5 P40)
- ブックスタートでは、赤ちゃんを連れて気軽に利用できる様々な事業についても丁寧に紹介している。
「ブックスタートは、絵本を通して親子がふれあうきっかけづくりでもありますし、市の子育て支援情報を一組一組の親子にお知らせする機会でもあります。この日をきっかけに、一歩足を踏み出して施設を利用してみようとか、絵本を読んでくれた職員がいるから催しに参加してみようという気持ちになってもらえたら、子育ての不安を少しでも取り除くことにつながるのではないかと思います。」(こども課、石川県加賀市 NL34 2011/9)

①図書館

事例

- 図書館では、ブックスタートの開始に伴い児童書担当の職員を二人増員した。また児童書コーナーもあたたかい雰囲気に変え、さらに赤ちゃん絵本の本棚も作った。(愛知県小牧市 NL4 2004/3)
- 全職員がローテーションでブックスタートに出向いて事業の内容を理解するなど、図書館全体で赤ちゃんを迎える体制を整えている。(栃木県野木町 NL25 2009/6)

- ブックスタートの開始をきっかけに、図書館内に授乳室やおむつ替え用のベビーベッドを設置し、また、地域の小学生が空き缶を集めて購入・寄贈したベビーカーを館内で貸し出すなど、赤ちゃん連れの親子を受け入れる体制を整えた。(香川県高松市 NL18 2007/9)
- 「(ブックスタートを開始して初めて) 赤ちゃんも図書館利用者ということを意識しました。まず、入り口にベビーカーを目立つように置き「この施設は赤ちゃんも来ていいんだな」ということを来館する方に示し、それから授乳室の案内や、赤ちゃんも参加できる催し物のチラシやポスターも掲示することで、「図書館が赤ちゃんを受け入れる」ということがだんだん浸透してきたと思います。」(図書館、北海道恵庭市 DVD-Shiawase)
- 「赤ちゃんを連れてゆっくり図書館を利用したい」「周囲の迷惑を考えてしまい、ゆっくり本が選べない」といった保護者の声を受け、赤ちゃん連れの利用を優遇する「赤ちゃんタイム」を設けた。ポスターやチラシ、館内アナウンスであらかじめ周知し、赤ちゃんの泣き声などに関しても大目に見てもらえるよう協力を呼びかけている。この時間帯はボランティアが利用案内や絵本の紹介などを行い、親子をサポートしているため、いつも以上に安心して利用できると好評だ。(東京都杉並区 HB6 P65)
- ブックスタートで手渡す「絵本リスト」には、乳幼児向けの絵本の紹介のほか、保護者向けの育児書や、赤ちゃんといっしょに楽しめるわらべうたを紹介している。リストに載っている絵本は、親子が手にとりやすいように背表紙にシールを貼り、図書館の絵本コーナーに配置している。(神奈川県湯河原町 HB6 P57)
- 「(ブックスタートで手渡す) 絵本リストで紹介している絵本は、背のラベルを変えて目立つようにしているのですが、貸し出しが多く、蔵書を増やさないといけなくなりました。絵本を手渡していなかった頃の保護者の方の反応と、ブックスタートをするようになってからの反応はまったく違いますね。」(図書館、鳥取県倉吉市 Jirei P32)



赤ちゃん絵本コーナーと授乳室の案内



図書館の入り口にベビーカー

●絵本コーナーと一般書のコーナーは少し離れているため、以前は絵本だけを借りていく保護者が多かったが、絵本コーナーの近くに育児書を配置するようになってからは、子どもの絵本を選ぶついでに、育児書も借りていく保護者が見られるようになった。(鳥取県南部町 Book P167-168)

●ベビーカーで移動する来館者の動線を考え、エレベーター前に「子育て応援コーナー」を設置。ブックスタートの案内のほか、絵本や育児書を紹介したり、子育て支援課で作成した資料を置くなど、小さな子どものいる保護者が必要とする情報を図書館内の1か所に集めた。(神奈川県藤沢市 NL23 2009/1)

●育児書だけでなく、市内の子育て支援施設の資料や育児に関する新聞記事、図書館でのおはなし会や保育園のイベント情報などを一か所に集めた「子育て支援コーナー」を設置。「一度にいろいろな情報を得ることができてとても便利。友だちにも紹介したい」と保護者にも好評だ。(香川県高松市 Book P168)



●2003年度からブックスタートを実施している。未就学児への貸し出し点数は実施前の2002年度から開始7年後の2009年度にかけて3.5倍に増加し、保護者の世代と思われる30代の貸し出し点数も1.8倍に増加した。(茨城県牛久市 PR P16)

●ブックスタートを開始してからボランティアと協力して月に2回、図書館でおはなし会を開催している。絵本の読みきかせだけでなく、手遊びやわらべうた、紙芝居などをまじえてプログラムを構成。くり返しやってくる親子も多く、子育て支援センターを利用する保護者の口コミで参加し始める親子もいる。(北海道美幌町 Book P165)

●図書館ではそれまで3歳以上を対象におはなし会を行っていたが、ブックスタートの開始にあわせて赤ちゃんから参加できるプログラムを新たに設け、ブックスタートで一組ずつの親子に丁寧に呼びかけた。するとブックスタートを受けたほとんどの方がおはなし会にやってくるようになり、回を重ねるごとに参加者は増え、想像以上の反響に図書館はうれしい悲鳴を上げるようになった。ブックスタートをきっかけに初めて図書館に来館する親子も多く、すべての方に丁寧に話をすることの手ごたえを感じた。(鹿児島県霧島市 NL31 2011/1)

●ブックスタートが始まってから「以前は来ることなど考えられなかった」という赤ちゃん連れの親子がおはなし会に参加するようになった。そこで「赤ちゃんのためのおはなし会」

として対象年齢を分けて実施することにした。今では「赤ちゃんのためのおはなし会」の方が幼児向けの会より盛況だ。(東京都北区 NL32 2011/3)

●「イクメンのすすめ！ パパの絵本デビュー」と題し、赤ちゃんを持つお父さん向けの絵本講座を開催。第1回目には定員いっぱいの15組47人の親子が集まり、大いに盛り上がった。(東京都北区 NL32 2011/3)



●お父さんも参加しやすい日曜日に、ボランティアグループの主催で、「パパもいっしょに絵本を楽しもう！」をテーマに親子で絵本を楽しめるイベントを開催した。(香川県高松市 NL18 2007/9)

●「絵本で楽しむ孫育て おじいちゃん・おばあちゃんのための読みきかせ学習会」を開催。絵本を介して孫と触れあう機会を持ってもらおうと企画し、読みきかせを始めてみたいという祖父母たちに好評だった。(静岡県御殿場市 Book P167)

② 保健センター

事例

●村には図書館も書店もなく、意識的に絵本とふれあう機会を作り出さなければ、せっかくブックスタートで届けたきっかけがその後につながらない可能性があった。そこでブックスタートのアンケートで寄せられた保護者の声に応える形で、健診や子育てサロンの会場となる保健センターに、「絵本コーナー」を設置し貸出しも行い、500冊以上ある絵本を誰でも自由に借りることができるようにした。

「村ではなかなか絵本を手にする機会がないのでとても助かります。ここで借りた絵本をとても気に入って、その絵本を買ったこともあるんですよ。」(保護者、福島県天栄村 NL26 2009/9)

●(市内に複数ある)健康福祉センターの中には、ブックスタートをきっかけにボランティアが定期的におはなし会を始めたところもある。(神奈川県横須賀市 NL16 2007/3)

- 保健センターで実施のマタニティスクールに図書館職員が出向き、言葉かけの大切さや、絵本・わらべうたの楽しみ方を紹介し、赤ちゃん向け絵本リストを配付している。その際、ブックスタートや乳幼児向けおはなし会のPRも行っている。(茨城県日立市 HB6 P63)

③子育て支援センター

事例

- 図書館のおはなし会に加えて、子育て支援センターでも2か月に1度ボランティアが絵本の読みきかせをしている。様々な月齢の子どもたちが集まるので、図書館から持参した絵本の中から、その子にあったものを一人ずつに読んでいる。普段から子どもたちの元気な声が響くセンターでの読みきかせは、気軽に参加できると保護者たちに好評だ。(広島県廿日市市 NL33 2011/6)
- 子育て支援センターが実施する「子育てひろば」は、ブックスタートでの声掛けもあり参加者が増え、月1回だった開催が週1回に増えた。(徳島県上板町 NL37 2012/6)
- ブックスタートを開始してから、子ども支援センターへやってくる親子が増えた。支援センターでは保護者の話をゆっくり聞くことができ、同時にブックスタートで出会った子どもたちの成長を見守ることもでき、継続的に親子とふれあう機会になっている。(青森県青森市 NL19 2008/1)
- 子育て支援センター内にこども図書室を開設し、ブックスタート後も絵本を通して親子がふれあえるよう、様々な取り組みを行っている。(静岡県沼津市 NL39 2013/1)



④ 保育園・幼稚園

事例

- 町立図書館がないため、ブックスタートの開始に合わせて、町内の保育所と幼稚園にある園文庫での貸し出しを始めた。通園していない子どもでも本を借りることができるようになったため、保護者に喜ばれている。(宮城県川崎町 Book P165)
- 町の読書環境が十分整っているとは言えない中、ブックスタートを実施する前から町内に3か所ある保育園の絵本を、保育園児以外にも貸し出していたが、それほど多くの利用はなかった。ところがブックスタート・バックに「絵本貸し出しカード」を入れ、「保育園に通ってなくても絵本を借りられますよ」と直接伝えるようにしたところ、早速絵本を借りに保育園へ来る親子が増えた。
「これまで行くのをためらっていた保育園も“ブックスタートの時に会った保育士さんがいる”ということで身近な場所になったと感じてもらえるのですね。今では“絵本を借りるなら保育園に行こう”ということが保護者の間でもごく自然なこととなり、ブックスタートで受け取ったバッグを手に提げて来てくれる方も多いんですよ。」(町立保育園、熊本県南小国町 NL6 2004/9)
- 保育園での絵本の貸し出しを開始したが、ブックスタートのラッコのバッグを持ってきて絵本を入れて帰る子どももいる。(保育園、埼玉県北本市 Interview)
- ブックスタートの会場では、公立保育所の保育士がボランティアとして活動に協力している。またこどもみらい課の事業として、認可外保育施設に絵本を支給する事業もある。絵本の支給を希望する施設は、必ず1名以上の担当者が、研修を受けることになっており参加者も多い。用意した絵本リストの中から、各施設が希望する絵本を選ぶが、リストには0・1・2歳児向けの絵本も充実している。こうした経緯もあり、市内の保育士の絵本やブックスタートに対する理解はとて高い。(沖縄県那覇市 Interview)

4. 子育てしやすい地域への愛着

出生率が下がっている現代において、ブックスタートのような活動に積極的に取り組むことは、行政が地域の子育て環境の充実に力を入れ、子育てを応援していることを住民にPRすることにもつながっている。

事例

- 「「日本一、子育てに優しい都市を目指す」という目標を掲げていますが、ブックスタートは市民と行政が協働し、その思いを親子に直接伝えていく象徴的な事業になっています。」(市長、新潟県新潟市 DVD-Shiawase)
- 「ブックスタートは手のひらの中にある玉のようなとても大切な事業。この活動は読書推進だけが目的ではなく、行政が赤ちゃんの誕生を祝福し、大切に育てたいという思いが込められているんですよ。」(図書館、東京都北区 NL32 2011/3)
- 保健センターのロビーで5年間の活動を振り返る企画展を開催し、市民にブックスタートをPRした。また何か新しい展開があるときには新聞社に情報提供し、継続的な広報も行っている。「様々な機会にブックスタートの情報を目にすることで、ボランティアさんのやる気にもつながるし、市民や他の市町村の住民に“境港市は子育てに力を入れているんだな”という印象を持ってもらうことにもなると考えています。」(子育て支援課、鳥取県境港市 NL22 2008/9)
- 図書館の出入口や駅の地下通路でブックスタートのポスターやバックなどを展示している。様々な世代の市民に活動をPRするとともに、街中でラッコのバッグを見かけ「何のバッグだろう?」と感じた市民にも、事業を知ってもらい、親子をあたたかく見守る人の輪を広げたいと考えている。(東京都八王子市 PR P11,20)
- ブックスタートで出会う赤ちゃんの笑顔を、たくさんの方に届けたいと考え、市内4会場で巡回写真展を開催。普段赤ちゃんに接する機会の少ない方からも「赤ちゃんの絵本を読んでもたくなりました」「赤ちゃんもかわいらしいですが、お母さん、ボランティアさんの笑顔も素敵ですね」といった感想が寄せられ好評だった。(大阪府豊中市 PR P23)



ブックスタート実施自治体では、ブックスタート事業を行政の様々な中長期計画の中に位置づけることがある。それにより事業の継続性が確保され、同時にブックスタートをその自治体が進むべき方向性の中で、長期的・多角的に評価することにもつながっている。¹³

事例

- 「母子保健推進事業」「市民との協働事業」に位置づけられたのをはじめ、「子ども読書活動推進計画」や「次世代育成支援対策行動計画」にも組み込まれ、各分野でその可能性が見出されている。(大阪府河内長野市 NL30 2010/9)
- 市では子育て支援に力を入れており、総合計画にブックスタート事業を位置づけている。市民の協力を得て、庁内各課との連携のもと実施できる意義ある事業である点などが評価されている。(千葉県八千代市 Interview)

先述のとおり、ブックスタートの実施・運営には地域住民が協力することも多い。自分たちが共有する目的や願いを持ったブックスタート事業の開始を行政に働きかけたり、その充実のために行政とともに活動することは、住民が地域への帰属感を高め、自分の住む地域への愛着を持つことにもつながっている。また人々が世代を超えて、地域子どもたちへの思いを共有するような、命のつながりも生み出している。



事例

- 「私はこの区がいいまちであってほしい、自分の住んでいるまちに誇りを持ちたいという思いがあるし、若い保護者にもそうあってほしい。それを実現するためには、私たちのような地域に暮らす先輩が率先して行動することが必要です。行政職員もボランティアも、元々は他人同士だったけれど、ブックスタートを通して赤ちゃんの幸せというひとつの目標のために協力合っている。そうした雰囲気というのはきっと親子にも伝わると思うし、それは保護者がこの地域に住んでいる事に幸せを感じることにもつながるのではないかと思います。」(ボランティア、東京都北区 NL32 2011/3)

13 ブックスタートが位置づけられたことのある計画については、125 ページを参照のこと。

- 隣町での活動を知ったボランティアが、自分の住む町でも取り組みたいと声をあげたことがブックスタート開始のきっかけとなった。町の子育て支援ボランティアグループの事務局が中心となり、活動に関する情報や必要となる予算、周辺自治体の実施状況など様々な資料を収集。町に要望を伝えたところ熱意が通じ、福祉保健課が予算を確保した。実際の活動では、ボランティアがブックスタート・パックの手渡しなど運営に協力する形で活動が始まった。(徳島県上板町 NL37 2012/6)
- 市の広報誌でブックスタートの特集を組んだ。ブックスタートに関わる人たちの「子どもが好き」「次の世代のために何かしたい」という純粋な思いを伝えることで、市民にこの町をもっと好きになってもらいたいと考えた。当初の予定よりページ数を増やして紹介したところ、市民から大きな反響が寄せられた。
「ボランティアの皆さんは赤ちゃんの笑顔が原動力になっているとおっしゃいます。でも、きっとそれだけでなく、活動を通じて地域社会や人との関わりを大切にしたいという思いもあると思うのです。市報に活動が客観的に紹介されることで、ボランティアの方ご自身も、自分が関わっている活動の社会的意義を再認識することができますし、ご家族や周囲の方にもより深く理解してもらえるのではないかと思います。」(図書館、広島県廿日市市 NL33 2011/6)
- 10年前にブックスタートを受けたときの印象が残っていて、今度は手渡す立場から活動に協力したいというお母さんがボランティアメンバーに加わった。(旧・愛知県幡豆町、現・西尾市 NL29 2010/6)
- 「自分たちが親子に話したことが、またその次の世代につながっていく……そんな命のつながりを感じています。だから、ある時期だけ行うような“点”としての事業ではなく、“線”としてつながっていくように、今後も行政の事業として実施していった欲しいんです。」(ボランティア、大阪府河内長野市 NL30 2010/9)
- 「“子どもたちが幸せに育ってほしい”という私たちの思いが、つながり合いながら、これからもこのまちがよくなっていくということだと思います。最初は赤ちゃんに絵本を手渡すだけのボランティアだと思ってやり始めた事ですが、実際にはまちぐるみで、赤ちゃんの笑顔が広がるまちづくりをしていこうというところにつながっていくんだということを教えてもらいました。」(ボランティア、鳥取県境港市 DVD-Shiawase)

(2) 母子保健事業

1. 健診の様子

ブックスタートの多くは、地域の保健センター等で行われる乳幼児健診が会場となる。健診は赤ちゃんの発育の確認、病気等の早期発見などを目的に行われているため、保護者の中には緊張して参加する人もいます。また自治体による集団健診は、ある期間にその地域に生まれたすべての赤ちゃんが対象となるため、自治体の規模や機会の持たれ方によっては、待ち時間がかなり長くなることもある。そのため健診は保護者にとって、必ずしも楽しい機会ではないという。



しかしそうした健診の中でブックスタートを実施すると、「健診の雰囲気が変わった」という声が聞かれることがある。図書館職員やボランティアが、待ち時間を利用して赤ちゃんの絵本をひらくことで、保護者もいっしょに絵本の読みきかせを体験したり、誰かといっしょにゆったりした気分で赤ちゃんをあやす時間をもてるようになり、会場の様子が大きく変化することがあるというのだ。

事例

- 「初めてのお母さんなどはすごく不安な思いを抱いて来ているんです。実際健診が終わったあとに、かなり緊張した表情でブックスタートコーナーに行ってもらおうのですが、ボランティアさんと手遊びをしたり、絵本を読んでもらうことで、お母さんの表情がすごく変わるんですね。ホッとした感じになったり、『すごく楽しかったです』『健診に来てよかったです』と言っただけのお母さん方が増えてきています。二人目、三人目のお母さんたちは、『ブックスタートを楽しみにして来ました』という方もいます。」(健康増進課、千葉県鎌ヶ谷市 DVD-Shiawase)
- 母子保健推進員、民生委員、ボランティアが、健診の待ち時間に親子一組ずつに声をかけ、ブックスタートを実施している。そのため会場に知り合いのいない保護者も孤立せず、楽しい雰囲気の中で待ち時間を過ごすことができるようになった。(広島県廿日市市 NL33 2011/6)

- 「健診会場の雰囲気がとてもやわらかくなったと感じています。以前の健診はバタバタと忙しく、保護者の側にも“チェックされるの？”という不安があったように思います。でもブックスタートを開始してみて、エプロンをつけた企画課の若い男性がいたり、図書館員さんや保育士さん、ボランティアさんがいるだけで、自分の赤ちゃんを優しい目で見てくれる人がたくさんいることをお母さんが知り、気持ちがやわらいだことが大きいのではないかと思います。」（保健センター、北海道中頓別町 NL3 2004/1）
- 「健康相談や健診というのは、保護者にとって困っていることを相談できる場ではありますが、指導を受ける形にもなってしまいがちです。でもブックスタートでは、保健師とは立場の違うボランティアの方が話をしてくれるのもいいのですね。みなさん、ほっとした表情になるんですよ。」（健康づくり課、静岡県沼津市 NL39 2013/11）
- 「健診の待ち時間が長くて住民からの評判が悪く、これまでは“どうにか時間を短くすること”ばかり考えていたが、ブックスタートを実施してからは、待ち時間のあり方を変えることも解決方法のひとつだったことに気づいた。」（教育委員会、岡山県西栗倉村 Book P142 P144）

2. 対象者の個別の状況に合わせた対応

自治体の集団健診では一度にたくさんの対象者が集まることが多く、健診全体のスムーズな流れを重視すると、個々の対象者の状況に合わせて十分な対応を図ることが難しいこともあるという。そんな中ブックスタートでは、一組一組の親子と実際に絵本をひらき、赤ちゃんに向き合う際の具体的な方法を伝えるが、こうした取り組みによって、特に支援を必要としている親子への対応が充実することがあるという。



また健診を受診しない対象者は、体調や都合が悪かったり、病院に入院中で受診できない場合もあるが、保護者が子育てに悩みや不安を抱えているため参加していないこともある。その中には、保護者が心身の健康を損なっていたり、育児放棄や虐待などのリスクが高まっているケースも含まれる。ブックスタートを活用することによって、そうしたケースへの対応がよりしやすくなることもある。

① 具体的なアドバイス

事例

- 「『子どもとどう関わったらいいかわからない』というお母さんに、ただ『あやしてあげて』と言っても具体的に何をしたらいいのかわからない。そこでボランティアさんといっしょに本を読んだり、赤ちゃんをあやす場面を体験することで、それが“こういう風に関わればいいんだ”とか“こういうことをすると、こんなうれしそうな表情をするんだ”ということをお母さんが自然と学ぶ機会にもなると考えました。その楽しさが実感できれば、お母さんもほっとするし、“家でもやってみよう”って思いますよね。」（保健センター、北海道恵庭市 Book P108）
- 「保健師として『赤ちゃんに言葉をかけてあげてください』と言うと、保護者から『赤ちゃんにはなんて声をかけたらいいんでしょうか』という質問がどんどん返ってくるようになりました。『こうしてみたらどうでしょう』とできる限り伝えますが、保健指導の限界を感じていました。ブックスタートのいいところは、実際に赤ちゃんの表情が変わる様子だとか、お母さんも“あ、楽しいな”“絵本を読んでもらえるとちょっとホッとするな”というのを

感じられるところじゃないかと思います。理屈ではなく、“ちょっと疲れたから絵本をひらいてみようかな”と、そういう感じを持ってもらえたらいいなあと思いました。」（保健センター、鳥取県鳥取市 Zenkoku-2 P16）

- 「どう言葉かけをしていいかわからなくても、そこで絵本に文字が書いてあると（中略）、関わり方が苦手なお母さんでも絵本を通してお子さんといっしょに心を通じ合わせることができないのではないかなと思うので、絵本というのはいいい役割をしてくれるんじゃないかなと思っています。」（健康推進課、滋賀県長浜市 DVD-Shiawase）

②「支援を必要としている人」に気づく

事例

- 「保健師との1対1の場面と異なり、ブックスタートでの読みきかせの様子を見ていると、保護者の表情が素直に出やすく、普段の赤ちゃんとの関わりの様子が見えやすいです。中にはうまく赤ちゃんに関われなかったり、笑顔が少なく表情が硬い方もいて、“支援を必要としている人”へのフォローに気づきやすくなりました。」（保健センター、鳥取県鳥取市 Book P131, Zenkoku-2 P10）
- ブックスタートでバックを手渡す際には、必ず親子一組一組に声をかけているが、会場での様子が少し気になった保護者には、より気を配りながら話しかけるようにしている。「赤ちゃんが絵本をよく見ていたということであれば、『おうちでもお母さんに読んでもらったら喜ぶよ』などと、親子のふれあいにつながるような言葉をお伝えしています。」（子育て支援課、静岡県沼津市 NL39 2013/1）
- 孤立した環境で、年の近い二人の子どもを育てている保護者が、子育ての大変さを泣きながら話してくれた。みんなで話を聞いて、図書館でのフォローアップ活動に誘うなどしたことで、この保護者は色々な行事に参加するようになり、後日「話を聞いてもらえてとても嬉しかった」と話してくれた。（茨城県筑西市 NL29 2010/6）
- 「ブックスタートを実施するまでは、保健師さんとの連携はほとんど無く、気になる親子の情報が入ったとしても、私たち（子育て支援センターの保育士）から保護者へアプローチするきっかけがなかったんです。それがブックスタートが始まって、保育士が健診に行くことで初めて、町のすべての赤ちゃんと保護者に会えるようになりました。“支援を必要としている保護者がどこにいるのかが分かるようになった”ということがとても大きな成果です。」（地域子育て支援センター、熊本県南小国町 NL6 2004/9）

③ 日本語以外の母語を話す方、障がいのある方への対応

事例

- 健診会場では、外国の方に通訳がついて内容を説明するほか、複数言語の問診票を用意するなど、手厚いサービスが行われている。ブックスタートでは、イラスト・アドバイス集の外国語版や、翻訳した絵本リストと図書館案内を開き、通訳を介して丁寧に説明している。その際、図書館では日本語以外の絵本もそろえていることや、料理や育児、小説などの大人向けの外国語の書籍も置いていることを説明し、図書館が親子で楽しめる場所であることを伝えている。また絵本は、字のないものや言葉のリズムの楽しいものを中心に手渡している。（滋賀県長浜市 DVD-Shiawase-Book）



- 特にスペイン語とポルトガル語を話す対象者が多いため、会場に通訳を配置することにし、事業予算の中でその費用を確保している。（愛知県豊田市 Book P159）
- ポルトガル語などを話す保護者が多いので、挨拶だけでもその国の言葉でできるようにしたいと思い、ボランティアを対象とした「ポルトガル語講座」を開催した。簡単なあいさつや「赤ちゃん元気？」といったブックスタートで使えるフレーズを関係者で練習した。（愛知県小牧市 Book P159）
- 外国語を話す保護者に少しでもリラックスしてブックスタート会場に入ってきてほしいと考え、入口に6か国語で「こんにちは」にあたる挨拶を書いたポスターを掲示している。（神奈川県藤沢市 Book P159）
- 市民からの提案がきっかけで、視覚障がいのある方には、ブックスタート用に点訳された絵本と図書館案内、イラスト・アドバイス集が用意されている。（香川県高松市 Book P160）
- 会場には、ブックスタートの事業説明と図書館利用案内を、点字版、テープ版、音声デジター版¹⁴で持参している。また点字をつけた絵本と布絵本も持参して、必要に応じて紹介している。父親が全盲で母親は弱視という対象者が来た際には、父親が点字を読めるというこ

14 音声デジター 音声圧縮してCDに記録したデジタル録音図書。カセットテープによるアナログ録音に変わるものとして開発され、見出しの検索やページへの移動などができる。

とだったので、図書館の点訳ボランティアに協力をお願いし、手渡す絵本に点字をつけ、絵にも輪郭がわかるようにシートを貼って、後日保護者にお渡しした。(大阪府豊中市 NL40 2013/3)

- 聴覚に障がいがある対象者が来たときのために、会場には筆談器を用意し、必要に応じて活用できるようにしている。筆談器であれば、文字を書いてもすぐに消せるので会話がしやすいのではないかと考えた。実際には使用しなくても、保護者が安心されるということもあるようだ。(神奈川県藤沢市 NL40 2013/3)

④ 参加しなかった方（健診未受診者）への対応

事例

- 「(未受診者に家庭訪問をすると)、以前は『もう、いいです』と断られることが多かったんですが、『絵本をプレゼントします』と言うと、わざわざお母さんが来てくれたり、あるいは訪問しても“待ってます”という感じで受け入れてくださったりと、保護者の反応も違ってきています。」(健康増進課、千葉県鎌ケ谷市 DVD-Shiawase)
- ブックスタートの機会に参加しなかった親子が地域で孤立することのないよう、子育て支援センターの職員が家庭訪問を行い、すべての赤ちゃんにブックスタート・バックを手渡ししている。バックを持っていくことで自然な形で迎え入れてもらえ、ゆっくりと話をすることができ、保護者が抱えている悩みや不安を聞くことができ、その後の支援にもつながっている。(三重県いなべ市 NL21 2008/6)
- (健診未受診者宅への)母子保健推進員による訪問では、これまでは予防接種の案内や育児関連資料の紹介が主だったため、玄関先で話をすることが多かった。しかしバックを持参するようになってから、奥に通されてゆっくり会話をすることも増えたため、家庭の状況を把握し、それに合わせた支援がしやすくなった。(宮崎県三股町 NL17 2007/6)
- 「(家庭訪問の際に)保護者といろいろな話をして最後にバックを出すと、そこでまた少し打ち解けて会話ができるんです。そういう“余韻”を残しておくと、保護者から相談の電話がかかってきたり、逆にこちらが連絡した時も『この間絵本を持ってきてくれた保健師さんだ』と受け入れてくれたり、次につながっていくんですね。ブックスタート・バックは、保健師と親子とのコミュニケーションの媒体にもなっていると思います。」(健康づくり推進課、青森県青森市 NL19 2008/1)

3. 健診受診率や満足度の向上

ブックスタートを実施してから、健診の受診率や満足度に変化があった自治体もある。

事例

- 2000年に91%だった健診受診率は、(ブックスタート実施後)上がり続け、2006年には98%になっている。「受診率が上がるということは、恵庭で生まれた子に必ず会えるという機会が増えることでもあるんです。多くの親子に会って不安や心配なことがないかといった話を聞き、様々な情報提供ができることで、虐待予防にもつながっていくと思いました。」(保健センター、北海道恵庭市 Book P108)
- 健診会場では、親子がボランティアといっしょに絵本を楽しむ時間が持たれている。「健診事業の中でこうした時間が持たれることは、健診の満足度向上につながり、また次の機会にも参加しようと思うきっかけにもなっています。」(健康増進課、鹿児島県霧島市 NL31 2011/1)
- 「(ブックスタートを実施する4か月児健診の後に行われる)8か月児健診で、『今日もわらべうたや絵本の読みきかせがありますよ』と保護者に案内すると、嬉しそうに会場に行かれます。その様子から、ブックスタートが4か月児健診でのよい思い出として記憶されているのだと感じます。初めての集団健診で楽しい思い出を持ち帰ってもらうことは、乳幼児健診全体のイメージを良くして、受診率向上にもつながっていると思います。」(健康福祉課、栃木県野木町 NL25 2009/1)

4. ブックスタート後の健診内容の充実

「親子で絵本をひらき、心安らぐ楽しいひとときを持ってほしい」というブックスタートのメッセージと、そのきっかけを親子に繰り返し届けたいと考え、ブックスタートの実施機会となる健診の後に行われる健診の際にも、フォローアップを行い、さらなる活動の充実を図る地域もある。

事例

- 村には図書館も書店もないため、(9～10か月児が対象となるブックスタートの後に実施される)1歳6か月・3歳児健診でも親子に読みきかせをしながら再度絵本を手渡し、改めて絵本の時間の楽しさを伝えている。(福島県天栄村 NL26 2009/9)
- ブックスタートの後に行われる8か月児健診でも、わらべうたを歌ったり読みきかせを行っている。さらに「絵本についてもっと知りたい」という保護者からの声に応えるために、8か月児健診と3歳児健診の際にも、その月齢に合った絵本リストを手渡している。(栃木県野木町 Book P165)
- ブックスタートの前に行われる絵本に関連した取り組みを、ひとつながりの事業として位置づけて実施している。
母子手帳交付時：妊娠期から楽しめる絵本を1冊プレゼント
→両親学級：妊娠期の保護者向けの講座で絵本の読みきかせを実施
→ブックスタート
→ポリオなどの予防接種：待合スペースに絵本を配置
→ブックスタートプラス：1歳6か月児健診で絵本を1冊手渡し
(鳥取県境港市 NL22 2008/9)

(3) 活動に携わる人々

ブックスタートの運営と実施には、行政職員や地域の住民など多くの人々が携わっているが、彼らもまた活動に関わることで得るものがあるという。

例えば普段は「地域住民への読書推進」に取り組んでいる図書館職員にとって、ブックスタートという事業は、それまでは関わることの少なかった「子育て支援」に関わることで、自らの仕事の意義について思いを新たにすることがある。また、複数の行政機関や公と民の連携を通して、立場の異なる人々から刺激を受けたり、日常生活の中ではあまり接することのない小さな赤ちゃんや子育て中の保護者とのふれあいに喜びを見出す人もある。ブックスタートは活動に携わる個人に対しても変化をもたらすことがあるのだ。



親子とのふれあいの場



地域の人どうしが会える機会にも

1. 行政職員

① 業務の意義を再発見する

事例

- 「ブックスタートは“子育て支援”という要素を強く持っていますから、図書館員が図書館の活動の一環として取り組むことを考えると無理があります。図書館員という以前に、行政の仕事に関わる者として、部署とかセクションを超えて“子育て支援”をやると考えなくてはなりませんでした。」(図書館、東京都杉並区 Zenkoku-2 P6)
- 「私たちは図書館利用者の裾野を広げることを目指していますが、そこにつながる手段として、ブックスタートを子育て支援事業と捉え、図書館が子どもの成長を見守っていくことも必要だと思っています。赤ちゃん連れの親子の来館は、そうした役割を求められている証しだとも感じているんです。」(図書館、東京都北区 NL32 2011/3)

- 「子どもと本を結ぶこと」が図書館児童サービスの仕事ですが、それは一人の人間の成長を応援するということであり、突き詰めると子育て支援につながっているんです。ブックスタートを実施したことで、公共図書館の役割を改めて感じることができました。」（図書館、神奈川県藤沢市 NL23 2009/1）
- 「ブックスタートというのは、最初は“赤ちゃんからの読書支援”と捉えていましたが、始めてみるとそうではないということがわかりました。親子の心の交流やふれあいに、絵本の読みきかせが大きな成果があること、そしてブックスタート自体が、地域の方たちがそこで関わりあう、ひとつの大事な場になるということ。つまり、ブックスタートは単なる読書支援ではなく、お母さんの居場所作りにもなるのだということがわかり、図書館員でいながら子育て支援に関わっていくということを実感しました。読書振興だけではなく、子育て支援やお母さん方への支援という社会課題の解決に対して、図書館員として取り組む事ができたという実感はとっても大きかったと思います。」（図書館、北海道恵庭市 DVD-Shiawase）
- 「赤ちゃんに接する笑顔で市民と接してほしい」との願いから、市の新規採用職員の実地研修にブックスタートを導入。これから様々な部署で働く職員に、ブックスタートを知らせる機会にもなっている。（鳥取県境港市 NL22 2008/9）

② 業務に役立つ具体的な学びを得る

事例

- 「保育士とボランティアの方が“教える、指導する”ということではなく、“子育ての先輩”として接していることで、保護者も安心して楽しめるようです。おはなし会などをしている図書館員としても、そういう部分は見習いたいなと思います。」（図書館、青森県青森市 NL19 2008/1）
- 「3～4か月健診の間、2時間ずっと赤ちゃんを見続けるっていうのは、図書館の仕事では経験したことがないことだったんですね。赤ちゃんが発する言葉、目線、身体の動きなど、その月齢の赤ちゃんが絵本にどんな反応をするのかをつぶさに知ったことは、とても勉強になりました。ブックスタートでお話する保護者には、図書館を訪れる方とは違ったタイプの方もいるんですね。図書館から一步出たことで出会えた、そうした方々とのふれあいからも多くのことを学んだんですよ。」（図書館、東京都杉並区 Book P74）

- 「ブックスタートを始める前は、“0歳の赤ちゃんに絵本を読む事が本当に意味のあることなのだろうか”と思っていました。でも実際にやってみると、3～4か月児でも絵本に興味を持つし、何よりも我が子の様子を見て保護者が喜んでいました。そこで“まずは保護者に絵本をひらくひとときの楽しさを知ってもらうことで初めて、子どもと絵本を結びつけることができるんだ”とわかったんです。その後は、ブックスタート・バックの手渡しに、男性も含めた全職員が参加し、絵本を介した赤ちゃんとの交流をみんなで楽しむようになりました。」（図書館、東京都北区 NL32 2011/3）
- 「私たちは多くの文献から“絵本は赤ちゃんからのものだ”という理論は知っていました。でもそれは理論と知識でしかありません。つまり体験がなかったのです。」（図書館、北海道恵庭市 Zenkoku-1 P41-42）
- 「保健センターには、保健師、栄養士などの職員がいますが、ブックスタートを通して、今まで接点を持つことがなかった図書館との出会いがあり、以前より絵本やわらべうたに対する関心が高くなりました。」（保健センター、鳥取県鳥取市 Fukuoka P27）

2. 市民ボランティア

① 親子との関わりから得るもの

事例

- 「ボランティアを続けていけるのは、赤ちゃんに喜びをもらっているからです。ブックスタートに来るたび、赤ちゃんって素晴らしいなと思います。」（ボランティア、大阪府河内長野市 NL30 2010/9）
- 「たくさんの赤ちゃんとおしくできて、幸せをもらっています。」（ボランティア、徳島県上板町 NL37 2012/6）
- 「本を読んだり声をかけると、赤ちゃんが本当に素晴らしい笑顔を返してくれるんですね。その笑顔を見ていると、この笑顔のためにもっと私たちにできることはないかな、というふうに力をもらっているというか。それが幸せで10年間、もう本当に楽しくボランティアを続けて来られたんです。」（ボランティア、鳥取県境港市 DVD-Shiawase）
- 「保育園で働いていたので、そこで出会った子どもたちが親になり、ブックスタートで再会することがよくあるんです。あんなに小さかった子どもたちが、お父さんやお母さんになったということが感慨深くとてもうれしいです。赤ちゃんだけでなく、お父さんお母さんのこともいっしょに見守っていきたいと思っています。」（ボランティア、沖縄県那覇市 NL24 2009/3）

② 地域の人々との関わりから得るもの

事例

- ブックスタートにはボランティアとして「沖縄県子どもの本研究会」「母子保健推進員」「沖縄地域児童文庫連絡協議会」「市立保育所職員及びその退職者」の4団体が関わっている。「本について詳しい人、地域の親子をよく知っている人、赤ちゃんの健康に詳しい人、保育の専門家が揃っている」ので、育児についての相談をしたい保護者がいれば保育士が対応す

るなど、お互いの専門性を活かしながらブックスタートを行うことができます。また、ブックスタートに関する研修会は4団体合同で行っていますが、それぞれが主催する勉強会の際にも、他の団体に声を掛けています。ともに学ぶことで、皆がスキルアップすることができ、ブックスタート以外の活動もより一層充実してきました。これは大きな変化だと思います。」（ボランティア、沖縄県那覇市 NL24 2009/3）

- 「ボランティアどうしの横のつながりができ、同じ地域にいろいろな活動があることを知ることができました。赤ちゃんのおかげで周りにいる大人たちもつながりあうことができています。」（ボランティア、佐賀県武雄市 NL38 2012/9）
- ボランティアの中には、ブックスタートがきっかけとなり、今まで福祉関係の活動に関わってきた方が読書の活動にも参加するようになったり、子どもだけでなく高齢者を対象とした活動にも興味を持つようになったりと、徐々に活動の場を広げる方も増えてきた。（岡山県高梁市 NL15 2007/1）
- 以前は読みきかせ活動をしていなかったが、ブックスタートに関わったことがきっかけで、子ども向けのおはなし会で積極的に読みきかせをするようになり、自身の活動の幅が広がった。「ボランティアをするようになって、多くの人と関わりを持つことができ、いろいろな話も聞いて視野が広がりました。」（ボランティア、香川県高松市 NL18 2007/9）
- 「保護者がニコニコしながら『また会いたいですね』と言ってくれるなど、たくさんの親子と出会えることや、ボランティア仲間が増えることがとても楽しくて、自分自身の励みになっています。」（ボランティア、静岡県御殿場市 NL23 2009/1）
- 「私は今、年金で不自由な生活をしています。それは定年を迎えるまで、社会人として無事に勤めさせていただくことができたからです。だから今度はどこかでそれを還元したい、人の役に立ちたい、そんな思いでボランティアを続けてきました。この年になっても、こうした活動に受け入れていただけること、そのお陰で生まれた数々の出会いに、私自身が助けられてきたことを、本当にありがたいと思っています。」（ボランティア、旧・福岡県稲築町、現・嘉麻市 NL12 2006/3）

まとめ

第3部の分析からは、ブックスタートがそれを実施する市区町村自治体や関係者に対して、様々な肯定的変化をもたらしていることが分かった。

まず「地域の子育て環境」にもたらすものとして見出されたのは、地域の子育て環境について考える「枠組み」である。それは単独の行政機関だけではなく、また公的機関や市民ボランティアのどちらかの立場だけでもなく、地域コミュニティ全体にまたがる連携を元に作られたブックスタートの実施体制だ。様々な機関や立場の人々が協働するこの体制があるからこそ、ブックスタートは活動をただ実施するだけに留まらず、地域の子育て環境全体をよりよいものへと変化させるような展開を持ち得たと考えられる。

さらに特筆される点としては、ブックスタートが活動に関わる人々の間に「赤ちゃんに健やかに育てほしい」「安心して子育てができる地域を作りたい」という思いを共有する機会を作り出していることだった。形ある取り組みを血の通ったあたたかいものにする「人のつながり」をも生み出しうる点が、ブックスタートの持つ大きな特徴のひとつだと言えるだろう。活動の中心に赤ちゃんの笑顔があり、定期的に行われる健診の機会に、関係者が繰り返しその原点に触れられるという活動の形も、その特徴を支えているのではないだろうか。そしてその「人のつながり」は、世代を超えて思いをつなげていくような縦のつながりをも生み出していることが分かった。

また、ブックスタートは地域の公共施設の設備や子育て支援活動の充実を促し、ブックスタートに積極的に取り組むことに象徴されるような「子育てしやすい地域」に対して、住民が愛着を持つきっかけをも生み出している可能性を見出すことができた。

次に「母子保健事業」にもたらすものを分析すると、ブックスタートは活動が実施される以前の事業が抱えていた課題を解決する可能性があることが明らかになった。ブックスタートでは、健診の待ち時間等を利用して活動や読みきかせが行われるため、会場の雰囲気楽しく和やかなものへと大きく変化することがあることが分かった。また、活動では絵本が入ったパックを手渡ししながら、1対1や少人数のグループで「絵本の楽しいひとときを体験」してもらうことから、対象者それぞれに合った個別の対応が図られ、それによって母子保健活動自体がさらに充実している様子も明らかになった。

また「活動に携わる人々」にもたらすものとしては、特に図書館職員が自分たちの業務の意義を再発見し、地域社会の中での役割を捉えなおしたり、赤ちゃんにとって絵本のひとときがどのような意味を持つのかについて、体験を通した学びを得ていることが分かった。また、市民ボランティアにとっては、普段は直接接することの少ない赤ちゃんや子育て中の保護者との関わりに喜びや生きがいを見出したり、地域の人々と協働することで、地域社会の中での自分の役割や居場所を見つけ、喜びを見出していることも分かった。

第3部 資料

NPO ブックスタート 発行物

- ・「ブックスタート・ニュースレター」年4回発行
- ・『ブックスタート・ハンドブック（第5版）』（非売品）2008年9月発行
- ・『ブックスタート・ハンドブック（第6版）』（非売品）2012年3月発行
- ・『ブックスタート広報アイデア集（第7版）』（非売品）2013年3月発行
- ・『赤ちゃん絵本をひらいたら ブックスタートはじまりの10年』
NPO ブックスタート編著 / 岩波書店 / 2010年2月24日発行
1,600円＋税 / 四六判・並製 / 244ページ / ISBN 978-4-00-022058-3 C0095
- ・事例集『はじめての取り組み』（販売終了）2004年2月発行 / A5版 / 48ページ
- ・『第1回全国大会報告書』（販売終了）2002年12月発行 / A4変形 / 48ページ
- ・『第2回全国大会報告書』（販売終了）2004年7月発行 / A4変形 / 64ページ
- ・『ブックスタート・フォローアップイベント in ふくおか
赤ちゃんの笑顔から広がる地域のつながり 報告書』（非売品）2008年6月発行
NPO ブックスタート発行 / 2008年6月発行 / 44ページ
- ・DVD『ブックスタート しあわせ広げる、愛情ことば。』
NPO ブックスタート企画・発行 / 2013年1月発行
DVD1枚 / 冊子（A5変形・32ページ） / 1,500円＋税
- ・ビデオ『3つの地域の事例から』（非売品）NPO ブックスタート企画・発行 / 2006年1月発行
- ・ビデオ『ブックスタート 本のひととき赤ちゃんといっしょ』（販売終了）
NPO ブックスタート企画・発行 / 2002年3月発行

ブックスタートと行政の計画

●国

- ・2002年8月2日「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」閣議決定
- ・2008年3月11日「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）」閣議決定
- ・2013年5月17日「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）」閣議決定

●都道府県

- ・子ども読書活動推進計画
- ・次世代育成支援行動計画

●市区町村

- ・総合計画
- ・子ども読書活動推進計画
- ・次世代育成支援行動計画
- ・母子保健計画／健康増進計画
- ・社会教育計画／教育振興計画
- ・男女共同参画基本計画
- ・定住促進計画／過疎地自立促進計画

※実際の位置づけの有無は、各都道府県・市区町村による

おわりに

本研究レポートでは「ブックスタートがもたらすもの」について検討した。

第1部での分析からは、赤ちゃん絵本をひらくことが、単に赤ちゃんの成長や発達に役立ったり、短期的な視点から捉えられる「効果」のようなものを生み出すだけではないことが分かった。

「絵本のひととき」は、「赤ちゃんとの関係を育む過程を豊かなもの」にし、子育ての日常に「様々な喜び」を生み出し、ときには保護者にとって「子育ての助け」ともなっていることが推測された。また赤ちゃん自身にとっては、「絵本のひととき」そのものが大きな喜びであり、「誰かと分かり合う」という体験が、共同性を育む機会にもなっていると考えられた。さらに誰かといっしょに絵本をひらく時間は、家族という枠や世代を超えて「受け継がれる」ことがあり、ともに絵本をひらいた者同士が「いっしょに生きていた証し」としても捉えられていることが分かった。

第2部のアンケート調査結果の分析からは、ブックスタートが、対象となった各家庭において、絵本のひとときを持ち始める具体的なきっかけとなったことが推測された。

ブックスタートを受けた家庭では、読みきかせを開始した時期が、ブックスタートが実施された時期とほぼ重なっており、ブックスタートで受け取った絵本を活用している(していた)とする回答が多かった。また自由記述欄の分析からは、ブックスタートの会場で赤ちゃんが絵本をひらく様子を見たり、その楽しさを体験したりすることや、その時の赤ちゃんの様子をどのように解釈するかということが、ブックスタートが絵本のひとときを持つきっかけになるかどうかに関わっていることが分かった。さらに家庭で絵本のひとときを持つにあたっては、子育ての日常における「時間的なゆとり」や「精神的な余裕」といった生活環境的な要素も大きな影響を及ぼすことが推測された。

第1部では、「絵本のひととき」が「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」に豊かな成果をもたらしうることを明らかにした。また第2部でのアンケート調査の結果の分析からは、ブックスタートの対象となった多くの家庭において、ブックスタートが絵本のひとときを持つきっかけとして機能したと推測された。この2段階の分析から、ブックスタートによって、より多くの家庭で「絵本のひととき」による豊かな成果が享受されている可能性が示された。

第3部では「ブックスタートがそれを実施する市区町村自治体や関係者にもたらすもの」について分析し、その結果を対象別に「地域の子育て環境」「母子保健事業」「活動に携わる人々」としてまとめた。

ここでは自治体を単位として行われるブックスタートが、直接活動の対象となる赤ちゃんや保護者だけではなく、それを実施する市区町村自治体や活動に携わる人々に対しても様々な肯定的な変化をもたらしている可能性を見出すことができた。

ブックスタートを実施する地域では、行政の複数の機関や市民ボランティアが連携することで、地域の子育て環境を考える枠組みが作られ、赤ちゃんや保護者の幸せを願う人々の力強くあたたかいつながりが生まれていた。また、活動が地域に生まれたすべての赤ちゃんを対象とし、保護者と向き合い個別のアプローチをしていくことから、地域の母子保健事業がさらに充実する可能性があることも分かった。さらに活動に携わる人々は、赤ちゃんや保護者との出会いや関係者との関わりを通して新たな学びを得たり、活動に協力することに生きがいや喜びを感じていることが分かった。

ブックスタートがすべての赤ちゃんの周りに届けたいと願う「絵本のひととき」から生まれるものが、「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」にもたらされることは、小さな赤ちゃんとその家族が言葉を交わし、気持ちを通わせることでお互いを知り合い、一緒に過ごす幸せな時間を生み出しているのではないだろうか。そして、赤ちゃんが家族の中で、さらには社会で人々とともに幸せに生きていく力を付けることの助けにもなるのではないかと考えられる。

また、ブックスタートを実施する市区町村自治体や関係者にもたらされた肯定的な変化からは、その地域で赤ちゃんが健やかに成長し、保護者が安心して子育てができ、さらにそこに住む人々の幸せにもつながるような、大きな循環が生まれていることも推測された。ブックスタートが読書推進、子育て支援という枠に留まらず、まちづくりの活動としても捉えられる背景にはこうした状況があり、活動は今後も各地でそうした広がりも含みつつ発展していくのではないかと考えられる。

もちろんブックスタートによって、対象となった多くの家庭に絵本のひとときを持つきっかけが届けられたとしても、それだけで今回明らかにしたことが将来にわたって実現し続けるわけではないだろう。

第1部で事例に対する考察を加えていただいた佐々木宏子教授は「ブックスタートが赤ちゃんのすべてを決定づけるわけでも、すべての課題を解決できるわけでもないでしょう。赤ちゃんとの“絵本のひととき”やそれが実現する家庭環境は、時間的に限定されたものです。“ある時点までは幸せな時代があった”という土台の上に、その後のその子の成長があるのです。」と語る。子どもの成長とともに家族がどのような関係を築くのか、そして保護者が子どもの選択をどのように支えるのかを繰り返し考える子育ての時間において、赤ちゃん時代の「絵本のひととき」は、いつでも立ち戻ることのできる幸せのひとつのかたちとして記憶されるのではないだろうか。

このことは地域についても同じことが言えるのかもしれない。ブックスタートを実施するだけで、地域の子育て環境が良くなるわけではない。活動に関わる人々や住民が、ブックスタートをひとつのきっかけとして、赤ちゃんや子どもにとっての幸せについて考え、自分たちの地域にどのような環境を作り出したいのかを考え、それぞれの地域に根ざした取り組みへとつなげていくことに大きな意味があるのではないだろうか。

NPO ブックスタートでも、本研究レポートで明らかになったことを元に、実施自治体への情報提供の内容やあり方にさらに工夫をこらし、今後も支援活動の

充実を図っていききたい。

最後に本研究レポートを作成するにあたり、子どもとの絵本のひとときの大切な思い出を記録し、事例として提供して下さった保護者の方々、ブックスタート実施自治体でアンケート調査に協力して下さった保護者の方々、アンケート調査を引き受け、その実施に協力して下さった自治体関係者の方々、全国各地でブックスタートに携わり、活動内容や活動を通して考え感じたことを話し共有して下さった関係者の方々に深く御礼申し上げる。

本研究レポートが、地域の活動の充実と継続に役立つことができれば幸いである。またブックスタートに注目して下さる方々の関心に応え、活動がより多くの共感と支持を集めることにつながればと願っている。

卷末資料

[A市]

調査概要

調査協力者

A市3～4か月児健診にてブックスタート・パックを受け取り、2011年6月～7月にA市にて1歳6か月児健診を受診した赤ちゃんの保護者

調査方法

1歳6か月児健診受付時に調査票（A4・1枚）を配布。待ち時間に記入してもらったものを当日回収。

- ・調査票配布数（健診参加者数） 386
- ・回収数 363（回収率94.0%）
- ・集計対象（A市でブックスタート受けたと回答した方） 306

調査結果

*各設問は無回答を除いて集計。nは回答者数。

A. お子さんやご自身についておたずねします

（以下の質問では、今回健診を受けに来られるお子さん についてお答えください）

● A 1: お子さんは？（n = 301）

第1子	170	56.5%
第2子	97	32.2%
第3子以降	34	11.3%
総計	301	100.0%

● A 2: あなたはお子さんの？（n = 300）

母親	288	96.0%
父親	12	4.0%
祖母	0	0.0%
祖父	0	0.0%
親戚	0	0.0%
その他	0	0.0%
総計	300	100.0%

● A 3: ご家庭でお子さんと絵本を見たり、読みきかせをしたりすることがありますか？（n = 302）

全くしたことがない	10	3.3%
することがある	292	96.7%
総計	302	100.0%

● A 4①: (A3で「することがある」と答えた場合) その頻度は？（n = 291）

週1回未満	55	18.9%
週1～2回	68	23.4%
週3～5回	61	21.0%
ほぼ毎日	107	36.8%
総計	291	100.0%

● A 4②: (A3で「することがある」と答えた場合) 何か月の頃から？（n = 284）

1～2か月	31	10.9%
3～4か月	85	29.9%
5～6か月	49	17.3%
7～8か月	39	13.7%
9～10か月	27	9.5%
11～12か月	28	9.9%
それ以降	25	8.8%
総計	284	100.0%

● A 4③: (A3で「することがある」と答えた場合) 誰が読んでいますか？（複数回答・n = 282）

母親	278	98.6%
父親	172	61.0%
祖母	79	28.0%
祖父	23	8.2%
きょうだい	44	15.6%
その他*	7	2.5%

*「その他」の記述内容：保育園・託児所 4件／姉1件／曾祖母1件／teen's mamaの会で1件

● A5: (A3で「することがある」と答えた場合) ご家庭での読みきかせの状況について、A3・A4でそうお答えになった理由は何ですか？（複数回答・n=271）

楽しいので	119	43.9%
ゆったりした気持ちになれる	32	11.8%
子どもとふれあう時間になる	151	55.7%
きょうだいと一緒に読むので	80	29.5%
ブックスタートで絵本を受け取ったので	86	31.7%
まだ早いと思う	3	1.1%
子どもが関心を示さない	20	7.4%
時間にゆとりがない	19	7.0%
絵本を持っていない	1	0.4%
その他	38	14.0%

B. 「ブックスタート」と、ご家庭での読みきかせについておたずねします

● B 1: A市では赤ちゃんのまわりで絵本を介した楽しくあたたかいひとときが持たれることを願い、「ブックスタート」を実施しました。この事業の趣旨を覚えていますか？（n = 295）

覚えている	127	43.1%
だいたい覚えている	136	46.1%
覚えていない	32	10.8%
総計	295	100.0%

● B 2: ブックススタートを受けて、どのように感じましたか？

		そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 楽しかった	(n=295)	147 49.8%	127 43.1%	19 6.4%	2 0.7%
② ほっとする時間があった	(n=292)	104 35.6%	149 51.0%	35 12.0%	4 1.4%
③ 読みきかせ時の子どもの様子を見られてよかった	(n=295)	173 58.6%	106 35.9%	12 4.1%	4 1.4%
④ 赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった	(n=295)	166 56.3%	99 33.6%	23 7.8%	7 2.4%
⑤ 子どもとのコミュニケーションに役立ちそう	(n=298)	198 66.4%	91 30.5%	8 2.7%	1 0.3%
⑥ 自分には難しいと感じた	(n=296)	14 4.7%	47 15.9%	124 41.9%	111 37.5%
⑦ 自分の子どもにはまだ早いと感じた	(n=293)	16 5.5%	52 17.7%	103 35.2%	122 41.6%
⑧ 絵本がもらえてうれしかった	(n=298)	246 82.6%	48 16.1%	1 0.3%	3 1.0%
⑨ 絵本についてもっと知りたいと思った	(n=295)	138 46.8%	127 43.1%	30 10.2%	0 0.0%
⑩ 図書館員やボランティアと話ができてよかった	(n=294)	115 39.1%	144 49.0%	33 11.2%	2 0.7%
⑪ 赤ちゃん連れで行ける施設や催しの情報が得られてよかった	(n=294)	124 42.2%	137 46.6%	28 9.5%	5 1.7%
⑫ ⑩の施設や催しに行ってみたいと思った	(n=290)	122 42.1%	127 43.8%	34 11.7%	7 2.4%

● B 3: ブックススタートで受け取った「絵本」を、活用しています(しました)か? (n = 297)

かなり活用している (した)	112	37.7%
活用している (した)	142	47.8%
あまり活用していない	38	12.8%
活用していない	5	1.7%
総計	297	100.0%

● B 4: 今後もこの事業を継続してほしいと思いますか?(n = 298)

そう思う	231	77.5%
ややそう思う	60	20.1%
あまりそう思わない	4	1.3%
そう思わない	3	1.0%
総計	298	100.0%

● B 5: ブックススタートについて、ご意見・ご感想がございましたら自由にご記入ください
 (B 3・B 4でそうお答えになった理由や、ブックススタートで受け取った絵本をどのように活用されているかなど)

自由記述記入数：72 件 文末括弧内：対象児出生順位

●とてもよいと思いました。絵本は大切だと思いました！(第1子)

●本に興味がある事がわかったし、読みきかせの時期がわかったので、とても助かりました。(第2子)

●上の子が下の子に、頂いた絵本を読んできます。すんなり読み終われる事は少ないですが、二人の楽しい時間作りに、役立っています。(第2子)

●もらった絵本以外にもいろいろと本を買いましたが、今でも一番初めにもらった本を手に取り読みます。一番のお気に入りのようです。(第1子)

●第1子の時にこのような制度があるとありがたかった。第2子となると、既に自分で情報を得るので、第1子の時の制度としては大変よい制度だと思う。(第2子)

●私の場合、姉の帰宅時間があり、ゆっくりなんてできなかったで、人それぞれで希望を取るべきだと思う。もし全員にというなら健診を午前からにしてみらわないとムリです。(第3子以降)

●絵本に触れる機会を大切にしていきたい。(第1子)

●3～4か月で絵本は、ちょっと早いかな……。1歳ぐらいになる頃には、本がボロボロ。(第2子)

●頂いた本がすぐ破れる本なので、固い厚紙の本を頂けるともっと嬉しいです。(第1子)

●持っている本だったりするので、いくつかの中から選べるとよい。(第3子以降)

●本を身近に感じるよいきっかけになった。頂いた袋に本を入れて図書館へ行くのが楽しい様子です(←3歳のお兄ちゃんですが……。)(第2子)

●3か月という小さい月齢で、本とふれあうことはほとんどなかったで、貴重な体験でした。(第3子以降)

●もらった絵本は、夜、寝る前に読みますが……。読み方を変えると……。興奮して寝なくなったり、反対にやさしく読むと、早く寝ます。また、きょうだいに参加すると、さらに楽しくなるが……。早く寝なくなる。本を頂いてよかったです。(第2子)

●絵本を読んであげるきっかけになりました。難しい絵本でも、興味があればよく聞かし、簡単な絵本でも、全く聞かないで、どこかにいってしまうことがありました。本人の興味次第ですね。(第2子)

●持っている本ばかりで、選べる本を増やしてほしい。(第1子)

●3～4か月健診で早いと思ったが、話を聞いて、そうでもないと感じた。(第2子)

●絵がわかりやすく、子どもが自分から読んでほしいと持てきます。(第1子)

●子どもが楽しそうなのでよかった。(第1子)

●とてもよいことだと思いました。(第2子)

●『もこもここ』をもらったのですが、保育園にもあるらしく、とても気に入って読んでほしがります。(第2子)

●『もこもここ』の本は3歳児のお姉ちゃんも大好きです。二人とも大はしゃぎで大人にはわからないおもしろさがあるのだと感じました。自分では購入しない本だと思うので、本選びの参考になりました。(第2子)

●選べる本を増やしてほしい。二つとも家にあった。(第2子)

●1歳までは他の絵本が好きだったが、越えてからもらった絵本がすごく好きになった。自分でも(一人で)読んで楽しめるようになりよかった。(第1子)

●(代筆)中国の方で説明があまりわかりませんでした。(第1子)

●頂いた『いないいないばあ』の本をとても気に入っていつまでも見えています。とてもよい経験でした。(第1子)

●子どもが小さい頃から絵本を読んであげていると、大きくなるにつれてもっともっと絵本が好きになったと思う。まだ1歳半ですが自分で本を広げてモゴモゴ話している。これからもずっと絵本を読んであげたいと思っています。(第2子)

●本を舐めたりかんだりしてボロボロにしまいい、読めなくなってしまった。うちの子にはまだ早い

かな?って思った。(第1子)

●子どもからも、本棚から絵本を取ってくるようになった。(第1子)

●おすすめの絵本をもらえたので、コミュニケーションもとれるし、記念にもなっています。(第2子)

●お古でもよいので、複数冊あればいいと思う。何冊か買っているが、けっこう額が……。 (第1子)

●上の子が下の子に読んであげている。ひらがなだけだし字も大きいので二人ともにとって大満足。(第3子以降)

●子どもが本に興味を持ったときに、もらってよかったと思った。(第1子)

●絵本を始めるよいきっかけになりました。どういう絵本を選んだらよいか分からなかったの、すごく参考になりました。(第1子)

●上の子はあまり本がスキでなかったの(赤ちゃんの頃)、「どーせ……」と下の子も読みませをしていませんでした。けれど、本を頂いて読んでみたら、なんだか楽しそうにしてくれて、「この子は本が好きなのかも」と知る事が出来ました。ありがとうございます。上の子の時もあったら(まだブックスタートがなかったのです)、違っていたのかなー?と(笑)。(第2子)

●『いないいないばあ』の本を頂いたのですが、似た本(第2子のため)をもっていたので、数冊から選択できるとよかった。引き渡しは後日でもかまわない。(第2子)

●『ももこもこ』の本を、3か月健診でもらって、最近毎日、子どもが持ってきて「読んで!」と言う。子どもも一緒になって、絵本の言葉をまねして、話せる言葉も増えてきてよかった。(第2子)

●本を読みかせるきっかけになってよかった。(第2子)

●子どもは本を破るので、破れにくい材質の本にしてほしい。(第2子)

●姉兄がいるので絵本時間(寝る前)には、一緒になって読んだりしています。時間に余裕がある時はじっくり物の名前や色も説明しています。(第3子以降)

●夜眠る前に読んだり子どもが持ってきたりして、絵本を読みます。(第1子)

●もらった『いないいないばあ』で覚えてくれた

ので、今後もぜひやってほしい。(第1子)

●寝る前に毎日読んでいる。子どもの目の留まる場所に絵本を置いておく。(第1子)

●ベビーサインで使っている。(第2子)

●ブックスタートで頂いた本は、とても気に入って、今でもよく読んでいます。今後も月齢・年齢に合った絵本をどんどん紹介していただきたい。(第1子)

●子どもにどんな本を与えるとよいかわからないので目安になると思います。(第2子)

●まだ早いと思っていましたが、絵本を読んであげる機会があって、よかったと思います(第2子)

●予算あるの? 新品の必要なし。中古本でも充分です。(第2子)

●絵本がもらえることはとても嬉しいことだし、子どももとても喜んだのでよかった。布製の袋は必要ないように感じた。(第2子)

●寝る前に読んでいる。(第1子)

●ブックスタートの時の読みかせでは寝ていたけど、お家で読んだら興味を示していた。(第3子以降)

●本を読みつつ、いないいないばあをして遊んだりした。(第1子)

●『ももこもこ』をもらいました。まだ別のものに興味を示しています。(第1子)

●絵本を読ませようとしても、あまり関心がなく、おもちゃばかりなので、もっと興味を持ってもらえるようにしています。(第1子)

●私は図書館に勤めていた友達にいろいろ教えてもらっていたので、参考になったかどうか微妙ですが、まったく知らない、知る機会がない人にはとてもよいと思う。(第1子)

●絵本にふれあう機会が持ててよかった。絵本が選べるとよい(複数あると)。(第1子)

●こちらで頂いた本で、色に興味があることがわかりブックスタートのお話も聞けたので、よかったです。(第1子)

●受け取った絵本はすでに持っていたため使っていない。(第1子)

●お腹にいる時から読ませていた本を、1歳半の今になって本棚から自分でもってきます。が、1歳未満で本を破っている中で中身がない絵本に……。もらった『いないいないばあ』も、自分から「ばあ」と言ってめくるので、とてもよい影響を受けていま

す。(第1子)

●『いないいないばあ』の本は喜んでくれた。(第2子)

●一人目の時に、こうした事業があるとよかったなと感じました。(第3子以降)

●毎日、楽しみに読んでほしいと持ってくるので、二人で楽しく読んでいます。(第2子)

●『いないいないばあ』は知っていたし持っていたので、別の本をもらえて嬉しかった。『ももこもこ』は知らない本だったし、はじめはまったく興味を示さなかったが、少し成長したらとても好きになった。色々な本を教えてもらえて親にとってもよいと思う(第1子)

●頂いた『いないいないばあ』のおかげで動物が大好きになりました。(第1子)

●早いうちは絵本をかじったり破ってしまうので、厚い素材の絵本だと長く使えるのでよいと思います。(第1子)

●絵本は何冊あってもいいので、嬉しかったです。お姉ちゃんも一緒になって読んでいます。これからも、続けてほしいと思います(みなさん絵本を読むきっかけにもなると思います)。(第2子)

●あまり本読みに興味はありませんが同じ本を繰り返し返して聞かせていたら、内容がわかるようになってきたので、本が頂けてよかったです。(第3子以降)

●きっかけとしては、とてもよい制度だと思っています。(第1子)

●本を買ってあげたくてもどんな本がいいのかわからず、紹介してもらえれば参考になる。(第2子)

●ぐずっていたので、早く終わって欲しかった。楽しんでいないのも残念だった。(第2子)

●小さいうちから読みかせをしていると、大きくなっても絵本をちゃんと読めるような気がします。でも、たくさんある絵本からどれがよいか選ぶのは難しいので、もらえると嬉しいし参考になる。(第3子以降)

●はじめ、どんな絵本を選べばいいかわからなかったの、本を教えてもらいよかった。(第1子)

●絵本は親子共々とても癒しになっています。ブックスタートで頂いた本は今でも大好きです!!(第1子)

[B市]

調査概要

調査協力者

B市3～4か月児健診にてブックスタート・パックを受け取り、2011年4月～5月にB市にて1歳6か月児健診を受診した赤ちゃんの保護者

調査方法

- 1歳6か月児健診の対象者に事前に送付する問診票などの資料とともに調査票（A4・1枚）を郵送し、健診時に回収。
- 調査票配布数（健診対象者数） 704
 - 回収数 612（回収率 86.9%）
 - 集計対象（ブックスタートを実施している3～4か月児健診を受けたと回答した方） 523

調査結果

*各設問は無回答を除いて集計。nは回答者数。

A. お子さんやご自身についておたずねします

（以下の質問では、今回健診を受けに来られるお子さん についてお答えください）

● A 1: お子さんは？（n = 522）

第1子	270	51.7%
第2子	179	34.3%
第3子以降	73	14.0%
総計	522	100.0%

● A 2: あなたはお子さんの？（n = 522）

母親	510	97.7%
父親	12	2.3%
祖母	0	0.0%
祖父	0	0.0%
親戚	0	0.0%
その他	0	0.0%
総計	522	100.0%

● A 3: ご家庭でお子さんと絵本を見たり、読みきかせをしたりすることがありますか？（n = 522）

全くしたことがない	9	1.7%
することがある	513	98.3%
総計	522	100.0%

● A 4①: (A3で「することがある」と答えた場合) その頻度は？（n = 509）

週1回未満	77	15.1%
週1～2回	129	25.3%
週3～5回	134	26.3%
ほぼ毎日	169	33.2%
総計	509	100.0%

● A 4② (A3で「することがある」と答えた場合) 何か月の頃から？（n = 501）

1～2か月	56	11.2%
3～4か月	151	30.1%
5～6か月	103	20.6%
7～8か月	48	9.6%
9～10か月	61	12.2%
11～12か月	56	11.2%
それ以降	26	5.2%
総計	501	100.0%

● A 4③: (A3で「することがある」と答えた場合) 誰が読んでいますか？（複数回答・n = 506）

母親	496	98.0%
父親	280	55.3%
祖母	103	20.4%
祖父	34	6.7%
きょうだい	106	20.9%
その他*	16	3.2%

*「その他」の記述内容：保育園・保育士・保育ママ 7件／叔母 4件／いとこ、友人、知人 1件／自分で 2件／記入なし 2件

● A5: (A3で「することがある」と答えた場合) ご家庭での読みきかせの状況について、A3・A4でそうお答えになった理由は何ですか？（複数回答・n=488）

楽しいので	174	35.7%
ゆったりした気持ちになれる	66	13.5%
子どもとふれあう時間になる	303	62.1%
きょうだいと一緒に読むので	159	32.6%
ブックスタートで絵本を受け取ったので	159	32.6%
まだ早いと思う	3	0.6%
子どもが関心を示さない	27	5.5%
時間にゆとりがない	47	9.6%
絵本を持っていない	1	0.2%
その他	119	24.4%

B. 3～4か月児健診で実施した「ブックスタート」と、ご家庭での読みきかせについておたずねします

● B 1: B市では3～4か月児健診の際に、赤ちゃんのまわりで絵本を介した楽しくあたたかいひとときが持たれることを願い、「ブックスタート」を実施しました。この事業の趣旨を覚えていますか？（n = 497）

覚えている	222	44.7%
だいたい覚えている	234	47.1%
覚えていない	41	8.2%
総計	497	100.0%

● B 2: ブックススタートを受けて、どのように感じましたか？

		そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 楽しかった	(n=498)	206 41.4%	262 52.6%	26 5.2%	4 0.8%
② ほっとする時間がもてた	(n=498)	152 30.5%	265 53.2%	69 13.9%	12 2.4%
③ 読みきかせ時の子どもの様子を見られてよかった	(n=497)	247 49.7%	209 42.1%	31 6.2%	10 2.0%
④ 赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった	(n=495)	270 54.4%	181 36.5%	40 8.1%	4 0.8%
⑤ 子どもとのコミュニケーションに役立ちそう	(n=500)	340 68.0%	151 30.2%	7 1.4%	2 0.4%
⑥ 自分には難しいと感じた	(n=497)	16 3.2%	62 12.5%	206 41.4%	213 42.9%
⑦ 自分の子どもにはまだ早いと感じた	(n=497)	21 4.2%	87 17.5%	162 32.6%	227 45.7%
⑧ 絵本がもらえてうれしかった	(n=498)	395 79.3%	90 18.1%	10 2.0%	3 0.6%
⑨ 絵本についてもっと知りたいと思った	(n=499)	191 38.3%	214 42.9%	87 17.4%	7 1.4%
⑩ 図書館員やボランティアと話ができてよかった	(n=500)	160 32.0%	252 50.4%	71 14.2%	17 3.4%
⑪ 赤ちゃん連れで行ける施設や催しの情報が得られてよかった	(n=499)	143 28.7%	250 50.1%	84 16.8%	22 4.4%
⑫ ⑩の施設や催しに行ってみたいと思った	(n=497)	116 23.3%	255 51.3%	100 20.1%	26 5.2%

● B 3: ブックススタートで受け取った「絵本」を、活用しています(しました)か? (n = 504)

かなり活用している (した)	228	45.2%
活用している (した)	218	43.3%
あまり活用していない	50	9.9%
活用していない	8	1.6%
総計	504	100.0%

● B 4: 今後もこの事業を継続してほしいと思いますか?(n = 507)

そう思う	342	67.5%
ややそう思う	145	28.6%
あまりそう思わない	12	2.4%
そう思わない	8	1.6%
総計	507	100.0%

● B 5: ブックススタートについて、ご意見・ご感想がございましたら自由にご記入ください
 (B 3・B 4でそうお答えになった理由や、ブックススタートで受け取った絵本をどのように活用されているかなど)

自由記述記入数：143 件 文末括弧内：対象児出生順位

●受け取った本は子どもが興味を持てる物だったので、一緒にまねっこして楽しんで読めてよかった。本はいまだに大好きでお出掛けや車の中に持って行き活用させていただいています。持ち運ぶのにちょうどいいサイズなので荷物にならずに持って出掛けられるのでありがたかったです。(第1子)

●絵本の読みきかせをすることで親子のスキンシップにも繋がると思うので、すごくよいと思います。本当はもっと読んであげたい!!と思っているのですが……。ただ、3〜4か月だとちょっと早いような……。まだ反応がない子もいると思うので、反応がないとまだいいかな〜と思ってしまいそうな気がします。(第3子以降)

●絵本は忙しさにかまけてしまい、なかなかゆっくり見る時間が持てずにいます。毎日の習慣になっていないせいもあるのか、ひざに座って何ページかめくるとどこかへ行ってしまったり。興味がない訳ではないのですが。このような時のコツ(例えば毎日同じ時間に見るとか子どもがいなくなっても読み続けるとか何かありましたら)を教えてくださいたいと嬉しです。(第2子)

●ブックススタートで頂いた絵本は、かなり使いました。形だけでなく、色の識別ができるようになってきた今も読んだりします。3〜4か月の頃はただ眺めていただけでしたが、少しずつ反応も見えておもしろかったです。ありがとうございました。(第3子以降)

●『じゃあじゃあびりびり』の本を頂いて、子どもも自分で本をめくったり、なめたりして楽しんで遊んで気に入っています。本を動かしたりすると子どもが喜ぶとアドバイスをいただき……。実際にやってみたら、喜んだので、良かったです。(第1子)

●家事等々で忙しくてなかなか相手出来ない日は、寝る前に絵本を読んで関わり、スキンシップの時間を持つようにしています。短い時間でゆったりとした気持ちになる事が出来るし、深い子どもとの時間が過ごす事が出来ます。今では子どもがたくさん絵

本を持って、ちょこんとひざに乗って来ます。(第1子)

●よい時期の試みだと感じました。(第1子)

●ブックススタート? そんな物があったのですか……。 (第1子)

●頂いた本『じゃあじゃあびりびり』はかなり活用しました。子どもも強い反応を示し、お気に入りの1冊です。ありがとうございました。(第1子)

●『じゃあじゃあびりびり』の絵本を頂きました。よく読んでいます。よい本を頂きありがとうございました。(第1子)

●『じゃあじゃあびりびり』大好きな絵本になっています。ブックススタートの時には、まだそんなに反応はありませんでしたが、今では、全部覚えて読んでいます。あの頃の読みきかせが、意味のあるものだったのだらうと実感しています。最近では、単語のみならず、文章になっているお話もできるようになってきました。絵本の読みきかせの結果かなと思っています。(第1子)

●とても子どもにとって本はよいと思います。私も子どもにそんな時間を作ってあげたいのに普段の生活が大変でしてあげられません。(第3子以降)

●絵本を破くので困っている。気に入ったページを破いてしまう。(第1子)

●受け取った絵本は、持ち運びできるサイズであり、子どもが気に入っているのも、常にバックに入れて出先でも読んだりしている。(第2子)

●受け取った絵本は姉、兄が積極的に読みきかせをしてくれて、お互いが楽しんでいる。ウチでは、特にきょうだい間の絆が強くなり、よいきっかけ作りになったと思う。しかし、ボランティアとの話は正直必要ないと感じた。絵本やわらべうたが子どもにとってよいコトは知っているの、あえて、また一から説明されると……。 (第3子以降)

●本人はあまり興味がないようだが、絵本を読みかせで子どもとの時間を自然と作ろうと思った。(第1子)

●少し慌ただしく時間が過ぎてしまった様に感じます。もっとボランティアの方から、親子のコミュニケーションの仕方やおすすめの絵本等の情報を、ゆっくり時間を取って得られたら、もっとよかったのではと思います。(第2子)

●ブックスタートの時、対応してくださったスタッフの方々の笑顔がとても印象的でした。まだまだ子育てに不慣れで不安でしたが、なんだかほっとしました。(第1子)

●隣接する市の友人にブックスタートについて教えたなら、すごくらやまいしと言っていた。B市の私の友人たちは、頂いたリストを参考に月齢に合った絵本を買っている、その友人にもコピーしてリストを差し上げた。ママとしてとても大切な情報なので、本のプレゼントがなくても、あのリストは配ってほしい！(第2子)

●ブックスタートを受けたのは1年以上前になりますが、ボランティアの方に読んでいただいたのを覚えています。ゆったりした気持ちで持てました。絵本まで頂いて、子どもへの読みきかせのきっかけになりました！お手本まで見せていただいていたのです。これからも続けてほしいです。(第1子)

●子どもが絵本を気に入っています。1日何回も、読んでと本を持てきます。ブックスタートで絵本をもらえなかったら、他の絵本をあんまり読みきかせしていなかったかもしれません。絵本をもらえてよかったです。(第1子)

●雪の寒い日の健診だったので、できればあまり移動せずに早く済ませて帰りたいかった。3～4か月の赤ちゃんを連れて所内を行ったり来たりするのはかなりの負担であった。資料も荷物として重く持ち帰るのが大変だった。ブックスタート自体は大切なことだと思うが、なるべく負担にならないように資料を郵送するなどしたほうがよいように思われる。(第2子)

●絵本のおかげで早くから、車はブーブ、犬はワンワンとしゃべれるようになりました。(第1子)

●毎日寝る前に読んでいて、楽しそうにしているのでもとてもよいことだと思う。(第1子)

●頂いた『じゃあじゃあびりびり』をずっと読み続けています。今では何冊もある絵本の中からその本を持って来て「はい！」と渡すようになりました。(第

1子)

●頂いた本は子どもが今でも一番のお気に入りです。(第2子)

●姉兄の方が本に関心があり、ずっと見てました。自分達も欲しかった……と言っていました。(第3子以降)

●絵本はたくさんあり、何から読んであげればいいのか……と思っていたので、このブックスタートで頂いた『じゃあじゃあびりびり』が絵本読みきかせのいいきっかけとなった。(第1子)

●絵本を頂いたのは、すごく嬉しかったです。たくさん絵本がありすぎる中、選ぶことができなかったのですごく助かりました。ブックスタートは、これからも絶対に継続するべきです！！よろしく願います。(第2子)

●上のお兄ちゃんが絵本に興味を持ち、読んであげていたら、覚えて妹に読んであげるようになっていました。母と子だけではなく、きょうだいのコミュニケーションとしても成長も見られてとても良かったです。(第2子)

●絵本は大好きで毎日読みきかせに使用していました。子どももいつかそれを手に、読んでと持っていました。(第2子)

●ブックスタートで頂いた『じゃあじゃあびりびり』の絵本が大好きで、頂いた時からずっと読みきかせをしているのですが、1歳を過ぎた頃から自分でも読み始め、こちらで「みず」と言うと「じゃあじゃあじゃあ……」、「ふみきり」と言うと「かんかんかん……」と答えたりして、理解力だけでなく親子の言葉のふれあいにもなり、とても楽しませてもらっています！！うちの子にとって初めての絵本だったので、親にとっても大切な思い出の一冊となりました。(第1子)

●うちの場合は例外かと思いますが、本を下の子とも一緒に読むという事が難しく(発達障がいのある上の娘が独り占めしたがるので)、活用しきれない部分がありました。そういった場合の上手い使用法も出来れば知りたいと思いました。(第2子)

●絵本については大変役に立っています！本当にぼろぼろになるまで読みこんでいます。布袋も大変役に立っています。これからも続けてほしいです。(第1子)

●絵本は自分から進んで棚から持ってくるので、読んでほしいとが見たいというのがわかる。ブックスタートはとてもよいきっかけになりました。継続してほしいと思います。(第2子)

●とくに姉(4歳)があの絵本を気に入りました。もう少ししたら、本人(1歳)も読みだすと思います。(第2子)

●素敵な本を頂けて嬉しかったです。今でも読んでいます。子どもがとても気に入ったようで、乗り物にも関心をもつきっかけになりました！(第2子)

●続けてください。(第2子)

●絵本が頂いたのは大変嬉しかったです。二人目だとなかなかゆったりした時間を過ごせませんなるべく読みきかせをしてあげようと思います。(第2子)

●3～4か月の頃に頂いた時点では、うちの子はまだ興味をほとんど持っていませんでしたが、6か月になると少し色々な事に興味を示し、絵本もその中のひとつになりました。その頃から頂いた絵本でよく読みきかせをしてあげていました。今では1歳半なので言葉を理解し始めた事もあり、読んでほしいみたいでよく親のころまで持ってくるようになりました。(第2子)

●子どもに携帯やゲームを与えている親が多い中、こういった試みはとてもよい事だと思います。キレやすい子が多くなったと聞きます。本のすばらしさを知り、我が子は健やかに育ってくれることを望みます。(第2子)

●本はボロボロになるまで使っていて、今でも見ているのですごくよかった。(第1子)

●健診の度に、その年齢にあった本を頂けると嬉しいです。どんな本が合っているのか未だにわかりません。買ってみても全く興味を示さなかったり、本選びは本当に難しいです。しかもけっこう値段が高かったりする……。失敗だとがっかりします。『じゃあじゃあびりびり』は今でも大好きで、読んであげると大喜びです。ここから絵本の世界が始まったので、大変感謝しています。(第2子)

●バッグは不要。(第1子)

●上の子どもが好きなので、本人も同様に本を読むのは一つの遊びとして楽しんでいます。お下がりが多い中で、頂いた本はいつも自分のものという意識

が強いようで喜んでいきます。ブックスタート時に頂いた本は厚いページだったのでビリビリもせず、少しなめるくらいじゃ破れることもなくよかったです。かなり口に入れていました。。。(第3子以降)

●今でも『じゃあじゃあびりびり』は大好きな本で、犬や鳥など鳴きまねをして遊ぶのととても喜びます。踏切もこの本で覚えしました。(第1子)

●第2子以降の場合、絵本の内容を変えてもらえる嬉しい。同じ本は2冊もいらないと思います。(第2子)

●ブックスタート事業はよいと思うが、エコバックみたいな布製の袋はいらないと思う。(第2子)

●ブックスタートにて既に持っていた絵本をいただいて、重なってしまったので、もし持っている人がいれば、別の代替用絵本が選択できるという事ができれば、一層ありがたいなあと思いました。(第2子)

●絵本を頂いて家で赤ちゃん(4か月)に数回読むと、笑顔になり、とても喜んでる様子でした。頂いた『じゃあじゃあびりびり』が気に入っていたので、同じ作家の別の本を2冊試したが、ダメでした。1歳前後は絵本に興味なく、ようやく最近『きんぎょがにげた』を気に入り、読んでいます。(第2子)

●受け取った本が初めて見せた本で、「猫」を、ニャーンはどれ？って聞くとそのページを探して、鳴きまねをしたりできるようになった。(第2子)

●絵本をよくかじっていたので、しっかりとした絵本でよかったなと思いました。(第1子)

●文字を覚え始めた上の子が読んであげたりしたのでよかったです。(第2子)

●楽しい絵本を頂き、子どもも興味を持っていたのでよかったです。色々な本を通しこれからも子どもに絵本を読んであげたいと思いました。(第1子)

●頂いた絵本は、あまり子どもが興味を示してくれませんでした(『じゃあじゃあびりびり』)。そのうち、3歳の甥っ子が来て、字を覚えてでちょうどよかったのか、気に入って、あげてしまいました。(第1子)

●絵本はかなり読んで喜んでくれました。(第1子)

●会場で読みきかせをしていただいて、とてもよかったです。読み方が参考になりました。トートバッグも活用しています。図書館へいつも持っていくします。月1回の中央図書館の読みきかせを楽しみにし

ています。おかげさまで、本も手遊びも大好きになり、毎日のように楽しんでいます。(第1子)

●ブックスタートについては、とてもよい絵本を頂いたし、読みきかせをしてあげようと思ったのでよかったと思います。今でも絵本は活用しています。0歳の頃からもっと絵本の読みきかせをしてあげたかったが、子どもがなかなか絵本の前でじっとしてきてくれず、「今はまだ興味がないのかな?」と思い、毎日読みきかせを継続するのをやめてしまったので少し後悔しています。(第1子)

●『じゃあじゃあびりびり』は大好きで全部暗記するようになりました。本棚から色々出てきて、読んでと持ってくるので一緒に声を出しています。(第1子)

●上の子も一緒になって、絵本を楽しんでいてよかった。(第2子)

●第1子の時は、この事業がまだなくて、絵本を読んだり買ったりしてあげたいと思いながら、忙しさ等から遅くなってしまった経験があるので、3~4か月の時にブックスタートがあるのは、本も手に入るし、絵本と関わるよいきっかけになると思う。(第2子)

●健診の時だと忙しくB2の設問のように感じることはなかった。(第2子)

●『じゃあじゃあびりびり』の絵本を受け取りましたが、ボロボロになる程読みました。今でも気に入っているようです。(第1子)

●3~4か月健診では時期が少し早いような気がしました。せっかく素敵な機会なので、赤ちゃんがもう少し大きくなってからの方がよい気がしました。母親も3~4か月だとまだそんなに余裕が持てない時期な気がします。(第1子)

●『じゃあじゃあびりびり』は何度となく読んだ。実際紙を破ってみたり、踏切を見に行ったり、猫を見たりとスタートとしてはとてもよい本だと思う。子どもを膝の上に乗せてボランティアの方が読んでくださったので、子どもの顔があまりよく見えなかったのが残念です。(第1子)

●『じゃあじゃあびりびり』はとてもシンプルで絵もかわいらしく、色もきれいで、上の子も気に入って見ていました。(第2子)

●ブックスタートで頂いた『じゃあじゃあびりびり』

は初めからよくくいついてくれて、広げると喜んでくれた。少し落ち着こうか……という時に本を出す静かに読んでいたのでもとても助かり、徐々に本の数も増えていった気がします。(第1子)

●本を好きになってもらいたいで赤ちゃん向けの絵本やみんなの知っている歌をもらえたのはよかったです。子どもと一緒に遊ぶよい時間、大切な時間だと思う。(第1子)

●まず、ブックスタートを事業として、やることはとてもよいが、3~4か月健診で「イスに座って」というのがまずNG!!ゴザなどを用意し、座ってゆったりしながら絵本を読んで、コミュニケーションを取らないと、母や子も落ち着かず、絵本に集中することもできない!!ただやっているだけで、何の役にも立たない!!荷物も多くなり、一人で来ている者としては荷物が多くなるのはちょっと。図書館や市役所の図書室をもっと利用して、ブックスタートを、そこでやるのがよいと思う!!本の紹介も、小児向けではなく、4歳むけの目で、印象を与える『くだもの』とかそういったものの方が、何となく本の幅も広がる。字通りに読まなくても、本に触れるという点では、こういう読み方もあるよ、と教えたほうが、よいと思う!!(第2子)

●3~4か月ではどのような絵本がいいかわからなかったもので、ブックスタートでもらえてとても参考になりました。子どももとても興味を持って聞いていました。(第1子)

●絵本は1歳近くまでかんだり破ったりしていましたが、それ以降はよく母親のところへ持ってきて、読んでくれとせがまれます。頂いた『じゃあじゃあびりびり』は色使いもきれいで擬音もおもしろく、いまだに読んでいます。(第1子)

●ブックスタートで頂いた絵本は子どもがずっと好きなので、この作者の他の絵本を本屋で買おうと思いました。定期健診ごとに年齢に合った絵本を紹介していただけると助かります。(第1子)

●ブックスタートで頂いた絵本は、2歳半年上の兄にもわかりやすく、よく、妹に自分で読んであげていたようです。親だけでなく、兄妹で絵本を通じてそういうふれあいができて、よかったと思っています。(第2子)

●上の子の頃にはこのような事業はなかったので、

今回初めて絵本を頂き、とても嬉しかったです。大体、どこのお家に行っても同じ絵本があるので、子どもたちはみんな、見つけると「読んでー!」と持って来て、とても興味を持って真剣に聞いてくれます。(第3子以降)

●ブックスタートで絵本を頂けたことで、絵本を読んであげようと意欲がわきました。ブックスタートによって絵本の魅力を知ったり、楽しさを感じたりする人が増えると思います。(第1子)

●頂いてすぐは、あまり興味を示さなかったのですが、成長するにつれて『じゃあじゃあびりびり』の本がとても好きになっています。一時すごく好きで、一時あまり興味を示さなくなり、最近また本棚から引っぱり出して来て、読むのを催促されます(笑)他の本はすぐに破れたり、汚れたり、折れてしまったりしていますが、この本はとても長くキレイなままで楽しませてもらっています。ブックスタート、ぜひぜひこれからも続けていただきたい活動です!とても素敵な絵本を頂きまして、ありがとうございました。これからも絵本を読む時間を大切にしたいと思います。(第1子)

●子どもとのコミュニケーションのひとつとして、活用しています。絵本は子どもも親も落ち着いた時間を過ごしたい時に使用しています。(第2子)

●絵本の絵を覚えていて、外で見たもの(犬、猫、踏切など)に興味を持ち始めた。お散歩の後、絵本を見ると、積極的に指さしたり、声を出したりするようになったので、とても役に立ったと思います。ありがとうございました。(第1子)

●0歳児に見せるには分かりやすく、ゴロもよいので親子で楽しめました。ボロボロになって、テープを貼りながら読みました。(第1子)

●絵本の読みきかせをいつから始めたらよいのか、よいきっかけになりました。(第1子)

●ブックスタートで受け取った絵本『じゃあじゃあびりびり』はわかりやすく、子どももすごく気に入って、よく使わせていただきました。この絵本に出会えてよかったと思います。(第1子)

●ブックスタートをきっかけに絵本の読みきかせをするようになった。はじめは、絵本に興味がない感じでしたが、だんだんと絵本に興味を持つようになり、今ではおとなしく絵本を聞いていられるように

なりました。ありがとうございます。(第1子)

●『じゃあじゃあびりびり』以外の本がよいと思います。(第1子)

●頂いた本の絵が子どもにとってわかりやすく、また持ちやすいのか小さい頃から子どもも自身、自分でよくめくって読んでいます。(第1子)

●ブックスタートで受け取った絵本は今でも読んでいます。子どもが自分で選んで読んでと持ってくる中に必ず入っています。最初にこの本をもらったおかげで、次に本を探す目安にもなってよかった。もらってから何度も読んでいるのに破かずにキレイなままです。使えらるのでありがたいなと思った。これからもぜひ続けてほしいと思いました。(第1子)

●『じゃあじゃあびりびり』の絵本はとても気に入って何度も読みました。今ではボロボロになってしまいましたが、他に用意した絵本も、毎日たくさん読んで喜んでます。絵本の時間はとてもよい経験になっていると思います。(第1子)

●ブックスタートで頂いた『じゃあじゃあびりびり』は何度も読み、本人も得意そうに読み上げています。ただ、もう一人欲しい私にとっては、次回の子どもも全く同じ本になってしまうとせっかく頂く本がもったいない……。同じシリーズの『みんなであれ』や『じょうずじょうず』など何冊か用意していただき、その中から選べるようになれば、上の子とかぶらず、また上の子も下の子に1冊でも多く、違った物語が読まれたらよいなと思います。中には既にこの本を持っている方もいるかもしれませんが、選べるシステムは、いろんな意味でよいのではないのでしょうか。今後も続けていただきたいです。(第1子)

●絵本にふれあうきっかけになるのでとてもよい事業だと思います。(第2子)

●ボランティアの方には恥ずかしがらずにしてほしい。(第1子)

●第1子の時は、ブックスタートはまだ導入されていなかったけれど、早い段階で読みきかせをしていました。第2子は本をかじるのに夢中でなっていました。思うようにできていません。やっと最近では感じる感じになってきました。個人差があるなあと実感しています。あまり関心がない保護者に感心を持ってもらったりできると思うので、ブックスタートは意味があると思います。(第2子)

●もらった本は子どもにも見やすく、3～4か月から今もずっと使えて助かっています。1歳半になると自分で指をさしながらカンカン（ふみきり）など言って、身近なものが載っているので、とても興味を持って読んでいます。ありがとうございます。（第2子）

●すぐに、口に入れて本がポロポロになるので、ポロポロになりにくいものも欲しかったです。（第1子）

●絵本はまだ早いだろうと思っていたが、読みきかせ時の娘の様子を見て、読んであげたいと思いました。ブックスタートで頂いた絵本は娘にとって、お気に入りの1冊です。言葉を覚えていく、きっかけにもなりました。ありがとうございます。（第1子）

●ブックスタートがあって、初めて我が子がこんなに絵本に興味があったのか！ということを知り、読みきかせを始めるきっかけになったので、よかったと思います。（第1子）

●もらった本は外出時も持ち歩いています。（第1子）

●ブックスタートで頂いた『じゃあじゃあびりびり』、とてもよかったです。息子にジェスチャー付きで読みきかせていたら一緒にやるようになり、自分から「読んで！ やって！！」というようにこの本を持ってくるようになりました。今では本がなくても私「じどうしゃ」息子「ぶーぶー」などかけ合いができるようになりました。（第1子）

●頂いた絵本は、小さい頃は、ただ見てるだけでしたが今はその絵の意味がわかり、ふみきり「かんかん」と喜んでいます。長い時間絵本を楽しませてもらっています。（第1子）

●ブックスタートの絵本は評判のよい本だったので、いつか手にしたいと思っていたのが頂けてうれしかった。子も喜びました。（第2子）

●『じゃあじゃあびりびり』は子どものお気に入りです。最初にこの本をもらえてよかったです。よいきっかけになったと思います。今後も続けてほしいです。（第1子）

●頂いた絵本はしっかりした厚いものだったので、破くことなく今も喜んで見ていて、とてもよかったです。1歳くらいまでは破くのがおもしろくてビリビリされ、私も、も～と思っていました、その経

験があったからか、今では破くことなく絵本や図鑑が大好きでよく見えています。（第1子）

●一番お気に入りの本がブックスタートで頂いた絵本です。読むまねをしていたり、読んで欲しい時に持ってきます。（第1子）

●ブックスタートで頂いた『じゃあじゃあびりびり』という本をとてお気に入り、最近になってまた持って来て読んでいます。出てくる順番、音を覚えて、まためくりやすいので一人でもめくって順番に「ぶーぶー、わんわん、じゃあ、びー……」と言っています。とてもよかったです。ありがとうございます。今では、じゃあじゃあの「あ」やおしまいまたねの「お」「ま」「た」「い」を覚えて、教えてくれるようになりました。（第1子）

●あまりにも読みすぎて（かじったり、破いたり）、ダメになってしまい、本屋さんで同じ本を買いました。その時に他の絵本も買ったりして、今では毎日読んだりしています。（第3子以降）

●上の子が下の子にブックスタートで頂いた本を読んであげたりしていました。とてもよい事業だと思います。（第2子）

●全く絵本の読みきかせに関心のない人には効果的だが、今どきの母親は一般の雑誌（マニティ、ベビー向け）で絵本についての知識はあるはず。一冊の本を配るより、市内各所に小さな児童図書館を設けて、小学校低学年くらいまでが集まり本に親しめる方が、「本」との関係が持続すると思う。B市は図書館が少なすぎる。一町に一つあってもいいくらい。市政の本気はブックスタートでは感じられない。（第3子以降）

●絵本はかなり活用させていただきました。子どももとても興味を持ち（頂いた時は全く興味は持たず、まだ早い～という感じでしたが、8か月頃から）、言葉が出てくるきっかけにもなっていたので、とてもありがたいと感じました。（第3子以降）

●絵本を頂いた時期はまだ絵本にあんまり興味がなかったようで（ウチの場合はですが……）当時はあんまり見ませんでした。おすわりができるようになったくらいからは少しずつ絵本を見てくれるようになり、今では絵本が大好きです。（第1子）

●3～4か月児健診で絵本の反応するのは思っていたなかったので、すごく楽しそうにしていってビックリ

した。『じゃあじゃあびりびり』今でも大好きな本で、姉が読んで楽しませてくれるのを見ているのもなごむ。（第2子）

●子どもとのふれあいに活用しました。（第1子）

●我が家は私自身がとても本好きで、娘もそうになってほしいと願っていたので、このような事業はとても嬉しかったです。ですが、3～4か月では余り興味を示さず、1歳過ぎて、保育所に通い出すと一気に興味を持ち始めました。その子によって、いつからどのような本に興味を示すかは様々だと思いますが、子どもに対してどのように本を読んであげればいいのかなど、きっかけや知識を頂けてよかったです。（第1子）

●絵本を頂いた時は、子どもがあまり興味を示しているように感じませんでしたが、最近、自分から持って来て読んでほしいとせがむことがあり、記憶に残っているんだなあ。と感じました。本は子どもの手になじみやすく、ちょうどよい大きさと厚みがあるので、破いてしまうこともなく、扱いやすくてとてもよいです。（第1子）

●本は厚めでカミカミしてしまう時期でもどうにか破れずに今でも時々読みながら娘が楽しそうにしているのでありがたいです。（第1子）

●『じゃあじゃあびりびり』は気に入っていました。親としても、0歳児にどのような本を読んであげたらいいか分からなかった、実際に「おススメ本」を教えてもらえたのはよかったです。（第1子）

●バック（布製）は立派なのに使いづらく、不必要。税金なのでやめるべき。初めての子育てで不安も多いお母さんがほとんどだと思いますのでぜひ続けてください。（第1子）

●何十回も読んで今もたまに読んでいます。音がよいみたいで最近では読んでほしい時は自分で頂いた本を持ってきます。この事業は、子どもの興味を持つものがわかったり感性豊かになると思うので続けてほしいです。（第1子）

●子どもとのコミュニケーションに、絵本を読みきかせている。（第1子）

●頂いた絵本は自宅ではもちろん、大きさが荷物にならないので、外出先でも重宝しました。絵本が選べるとよいなと思いました。（第1子）

●第1子の時は『じゃあじゃあびりびり』を頂き、

第2子の時には別の本を頂きました。二人とも現在も楽しく読ませていただいています。（第2子）

●他の人達との事を思っか、声が小さく、ボソボソした感じで少し残念だった。頂いた絵本は今も子どもが気に入っているし、絵本も好きになったのでこの活動はすばらしいと思います。（第1子）

●赤ちゃんが絵本を読む時は、ゆっくり静かに読むと言う事をまねして読んでいました。（第1子）

●頂いた本『じゃあじゃあびりびり』大好きになっています。自分で本棚から取ってきて、読んで、とせがみます。特に「ふみきりカンカン」が好きです。ありがとうございます。（第2子）

●絵本はもうちょっと色どりのよい本の方が早い時期から使えると思う。1歳児頃からやっと興味を持ち、見るようになった。（第1子）

●ブックスタートで頂いた絵本が今でも大好きです。ずっと読みきかせをしたおかげで本が大好きな子になりました。ありがとうございます。（第1子）

●頂いた『じゃあじゃあびりびり』は、初めは関心を持ちませんでした、しばらくして自分からこれを読んでほしいと持ってくるようになりました。寝ぐずりする時も読んで覚えた本の内容を聞かせるとおとなしくなったりします。イライラするよりも同じものを読んで同じ時間を共有することで心が落ち着き、私自身にもよい面が多いように思います。（第1子）

●『じゃあじゃあびりびり』は、最初の読みきかせには、とてもよいと思います。絵もわかりやすいし、簡単な単語で、興味、関心を持ってくれました。本も丈夫でしゃぶりついても破れずよかったです。（第1子）

●図書館に乳幼児が泣いたり（騒いだり）しても大丈夫なスペースがあれば、もう少し絵本とかを借りに行きたいと思う。（第1子）

●子どもにどのような絵本を買えばよいか分からなかった、絵本をもらってよかった。3～4か月健診時には、あまり活用していなかったけど、1歳過ぎて物事が分かり始めてきた頃から、自ら、絵本を親に持ってきて「読んで」言うようになる。受け取った本は、今でも楽しそうに見えています。（第1子）

●絵本を頂いてとても子どもが楽しそうに見たり聞いたりしているのがとても伝わったのでとても役に

立ちました。(第1子)

●本は子どもがかなり興味を持った。今も自分から持って来て読んでほしいと示す。特に『じゃあじゃあびりびり』は一番初めに与えるのによいと有名な本なので、頂けてとても嬉しかった。(第1子)

●絵本はまだ小さすぎるのでは?と思ったが、読みきかせました。本人も喜んでいました。(第1子)

●絵本をよく読みきかせると喜んでくれました。ただ、反応がよくなってきたのは、しばらく経ってからかな……。とてもよい事業だと思います。(第1子)

●お兄ちゃんのときは、もっと遅い時期から(3〜4か月頃は、まだ早いんじゃないかと勝手に思っていたので)の読みきかせだったのですが、ブックスタートでもらった絵本をきっかけに、下の子は3〜4か月の頃から、絵本で楽しむ時間を作ることができて、とっても嬉しく思います。(第2子)

●こちらで頂いた絵本がお気に入りで、泣いている時や機嫌の悪い時に読んであげるとすぐに泣き止み、とても喜んでいました。ありがとうございました。(第1子)

●今でも、よく頂いた本を気に入って読んでいます。(第1子)

●いろいろな絵本を与えましたが、1歳半になった今でもブックスタートで頂いた絵本が一番のお気に入りのようです。そういう意味で、うちの子にはブックスタートは、とても意味のあるよい事だと思いました。(第1子)

●ブックスタートで受け取った絵本を繰り返し読むうちに、子どもの反応がよくなり、楽しい時間を持っています。それをきっかけに他の絵本もたくさん読むようになりました。(第1子)

●最初はこんな早くから?と思ったけど、早くから本を読んであげようという意識づけができたので、結果的にはよかった。『じゃあじゃあびりびり』は今でも喜んで見ていて、絵本の力を感じた。言葉も絵本から覚えたりするので、読みきかせの重要性や効果を実感した。そして、本を通して子どもとコミュニケーションがとれるので子育てする上で大きな手助けとなっている。本に助けられ、教えられ「たかが本、されど本」だなあと考えた。ありがとうございました。(第1子)

●最初はよくわかっていなかったみたいですが、1

歳くらいになって見慣れた絵本なので自分からひらいて見るようになった。絵本の中の好きなページがあることも知れてよかった。(第1子)

●いつ頃から、子ども自身から本を読んで欲しいとせがむようになったかは覚えていないのですが、3〜4か月の頃はあまり興味を示していなかったように思います。私(母親)の方が、この時期は無理して読みきかせていた感じでした。頂いた『じゃあじゃあびりびり』の本は、1歳半の今でも、他の本がたくさんあっても、好きなようです。(第1子)

●頂いた本はすぐ出して読めるので活用していました。最近では子どもが自分で選んでもってきます。(第2子)

●『じゃあじゃあびりびり』は姉の時に頂き、妹(本人)の時は『いないいないばあ』を頂きました。もう少し本の種類を増やし、選んだ本(欲しい本)を頂けるようなシステムでもよいかと思いました。(第2子)

●絵本をもらった時に一緒にいた姉が、読みきかせをするようになりました。(第3子以降)

●ブックスタートで受け取った『じゃあじゃあびりびり』は頂いてすぐに興味を示さなかったものの、いつの間にかお気に入りになっていました(その後も何度かブームがありました)。ブックスタートがあったおかげで早くに絵本への道が開けた気がします(そうでなければもっと手に取るのが遅かったと思います。胎教もしなかった位なので……)。どうもありがとうございました。(第1子)

[C市]

調査概要

調査協力者

C市3か月児健診にてブックスタート・バックを受け取り、2011年5・7・8月にC市にて1歳8か月児健診を受診した赤ちゃんの保護者

調査方法

- 1歳8か月児健診の対象者に事前に送付する問診票などの資料とともに調査票(A4・1枚)を郵送し、健診時に回収。
- ・調査票配布数(健診対象者数) 432
 - ・回収数 322(回収率74.5%)
 - ・集計対象(ブックスタートを実施している3か月児健診を受けたと回答した方) 263

調査結果

*各設問は無回答を除いて集計。nは回答者数。

A. お子さんやご自身についておたずねします

(以下の質問では、今回健診を受けに来られるお子さんについてお答えください)

●A1: お子さんは? (n = 263)

第1子	121	46.0%
第2子	111	42.2%
第3子以降	31	11.8%
総計	263	100.0%

●A2: あなたはお子さんの? (n = 262)

母親	260	99.2%
父親	2	0.8%
祖母	0	0.0%
祖父	0	0.0%
親戚	0	0.0%
その他	0	0.0%
総計	262	100.0%

● A 3: ご家庭でお子さんと絵本を見たり、読みきかせをしたりすることがありますか？
(n = 261)

全くしたことがない	8	3.1%
することがある	253	96.9%
総計	261	100.0%

● A 4 ①: (A3で「することがある」と答えた場合) その頻度は？ (n = 253)

週1回未満	52	20.6%
週1～2回	59	23.3%
週3～5回	58	22.9%
ほぼ毎日	84	33.2%
総計	253	100.0%

● A 4 ② (A3で「することがある」と答えた場合) 何か月の頃から？ (n = 249)

1～2か月	22	8.8%
3～4か月	65	26.1%
5～6か月	53	21.3%
7～8か月	35	14.1%
9～10か月	30	12.0%
11～12か月	30	12.0%
それ以降	14	5.6%
総計	249	100.0%

B. 3か月児健診で実施した「ブックスタート」と、ご家庭での読みきかせについておたずねします

* C市の事業名は、「ブックスタート」とは異なるため、調査票にはC市事業名及び「ブックスタート」を併記した。

● B 1: C市では3か月児健診の際に、赤ちゃんのまわりで絵本を介した楽しくあたたかいひとときが持たれることを願い、「ブックスタート」を実施しました。この事業の趣旨を覚えていますか？ (n = 250)

覚えている	90	36.0%
だいたい覚えている	117	46.8%
覚えていない	43	17.2%
総計	250	100.0%

● A 4 ③: (A3で「することがある」と答えた場合) 誰が読んでいますか？
(複数回答・n = 252)

母親	248	98.4%
父親	147	58.3%
祖母	56	22.2%
祖父	11	4.4%
きょうだい	64	25.4%
その他*	6	2.4%

* 「その他」の記述内容：保育園 4件／叔父叔母 1件／いとこ 1件

● A5: (A3で「することがある」と答えた場合) ご家庭での読みきかせの状況について、A3・A4でそうお答えになった理由は何ですか？
(複数回答・n=243)

楽しいので	82	33.7%
ゆったりした気持ちになれる	29	11.9%
子どもとふれあう時間になる	150	61.7%
きょうだいと一緒に読むので	84	34.6%
ブックスタートで絵本を受け取ったので	39	16.0%
まだ早いと思う	2	0.8%
子どもが関心を示さない	17	7.0%
時間にとりがない	33	13.6%
絵本を持っていない	1	0.4%
その他	48	19.8%

● B 2: ブックスタートを受けて、どのように感じましたか？

	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 楽しかった (n=236)	98 41.5%	112 47.5%	18 7.6%	8 3.4%
② ほっとする時間がもてた (n=235)	79 33.6%	112 47.7%	36 15.3%	8 3.4%
③ 読みきかせ時の子どもの様子を見られてよかった (n=234)	119 50.9%	93 39.7%	16 6.8%	6 2.6%
④ 赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった (n=234)	117 50.0%	90 38.5%	23 9.8%	4 1.7%
⑤ 子どもとのコミュニケーションに役立ちそう (n=235)	145 61.7%	80 34.0%	9 3.8%	1 0.4%
⑥ 自分には難しいと感じた (n=237)	5 2.1%	29 12.2%	122 51.5%	81 34.2%
⑦ 自分子どもにはまだ早いと感じた (n=237)	14 5.9%	48 20.3%	85 35.9%	90 38.0%
⑧ 絵本がもらえてうれしかった (n=240)	178 74.2%	58 24.2%	4 1.7%	0 0.0%
⑨ 絵本についてもっと知りたいと思った (n=237)	87 36.7%	109 46.0%	38 16.0%	3 1.3%
⑩ 図書館員やボランティアと話ができてよかった (n=230)	74 32.2%	106 46.1%	40 17.4%	10 4.3%
⑪ 赤ちゃん連れで行ける施設や催しの情報が得られてよかった (n=230)	65 28.3%	120 52.2%	39 17.0%	6 2.6%
⑫ ⑩の施設や催しに行ってみようと思った (n=229)	65 28.4%	97 42.4%	55 24.0%	12 5.2%

● B 3: ブックスタートで受け取った「絵本」を、活用しています(しました)か？ (n = 257)

かなり活用している (した)	89	34.6%
活用している (した)	125	48.6%
あまり活用していない	38	14.8%
活用していない	5	1.9%
総計	257	100.0%

● B 4: 今後もこの事業を継続してほしいと思いますか？(n = 254)

そう思う	181	71.3%
ややそう思う	64	25.2%
あまりそう思わない	9	3.5%
そう思わない	0	0.0%
総計	254	100.0%

- B 5: ブックスタートについて、ご意見・ご感想がございましたら自由にご記入ください
(B 3・B 4でそうお答えになった理由や、ブックスタートで受け取った絵本をどのように活用されているかなど)

自由記述記入数：82件 文末括弧内：対象児出生順位

- 絵本は子どもが好きなので、ふれあいの時間としても読んであげたいと思います。(第2子)
- 一人目で頂いた『じゃあじゃあびりびり』は二人目もお気に入り。兄が読みきかせてくれることも、たびたびあります。(第2子)
- お姉ちゃんがブックスタートでもらった、『じゃあじゃあびりびり』を何度も何度も繰り返し読んでいます(自らひろげて!!)。ありがとうございます。(第2子)
- 子どもが興味を持つ様な絵なので、指をさして笑ったりするのでいいと思います。(第2子)
- 健診の順番が早かったせいか、質問項目に関して答えられないものがあります。読みきかせの時の子どもの様子は見ていませんし、最後に「お子さんに読んであげてくださいね」とくださったのです。家に帰って読もうと思いましたが、絵だけの絵本で、どうやって読んであげればよいのか分からずに困りました。せっかく渡しているなら、健診の1番の人から最後の入までキチンと説明をされる方がよいと思います。(第2子)
- 本人が、頂いた本に興味を示さなかった。(第2子)
- 受け取った絵本は、子どもが大変興味を持ち今でも毎日読んでいます。(第1子)
- 絵本の内容はよかったが、色がもっとキレイな色のほうがよいと思った。はじめは関心がなかったが、1歳6か月過ぎの言葉が増えた頃から、絵だけでも内容を言えるようになっていた。ボランティアの方に読み方を教わる事ができた。(第1子)
- 絵本は子どもによいと思うので続けてほしい。お友達の家に自分の持っているのと同じ本があると反応して楽しい。(第2子)
- ご本を選んで持ってきてもらっている。(第2子)
- 本はとても好きなのですが、破いたり、落書きしたりして困っています。皆さんはどう対処しているのかわかりたいです(家にある幼児本はどれもビリビリのボロボロです)。(第3子以降)
- 上の子(H17生まれ)の時に頂いた、『じゃあじゃあ

- あびりびり』の方を好んで読んでいます。(第2子)
- 最初は度々読みましたが、上の子の本を読むうちにその本にはあまり興味を示さなくなった。(第3子以降)
- 3か月で頂いた本ですが、1歳8か月になった今も大好きな本のひとつで、手にとって私の所に持てきます。本を通じて色々話ができるので、この事業はとてもすばらしいと思いました。(第1子)
- 何かしてもらった覚えがありません。なので答えられませんでしたが、すみません。絵本は頂いて、子どもも喜んでいました。よく見たのでボロボロになりました。絵本選び、難しいので教えてもらえると嬉しいです。(第1子)
- 私はもう少しかわいい絵本がよかった気がします。が、赤ちゃんには音を聞かせる絵本もいいのかなーと思い、いろいろな絵本にふれあうのも大切だと思いました。(第1子)
- もらった本が字のない本で、自分で言葉を選んで読まないといけなくて、活用していない。読みきかせは確かによいことだと聞くので、事業は続けてもらいたいと思います。(第2子)
- 寝る前に見て、読んで、楽しんでます。子どもも自ら本を持って、自分の好きなページをひらいて指をさし「うっうっ」と言って興味を持って楽しんでます。(第2子)
- 頂いた絵本が大好きで、今もいろいろある絵本の中から選んで読んでと持ってくる。最初に読みきかせた2冊は、今もとても喜んで見るので、初めての絵本がいかにか大切に感じる。これからもいろいろなよい本を親子で楽しんで読んでいきたい。(第1子)
- 子どもが嬉しそうに絵本を読んでいるのを見ると、いいなあと思います。他の地域の人にもとてもうらやましがっています。是非これからも続けてください。ありがとうございます。(第2子)
- 0歳児に絵本を読んで聞かせたところで、理解できるのだろうか?と思い、身の周りのおもちゃ類に

- 絵本はなかったのですが、抱っこして絵を見せながら読んでいると、不思議とおとなしく絵を見ていたので、早すぎるということはないのかもと思いました。一人で座って遊べるようになってくると、自分で絵本をひらいて「これ(は)おとうさん」と指さしている話してくれます。最近では「あれ?そんな言葉教えたかな?」というようなことも多々あるのですが、よく考えてみると、3か月健診の後の絵本の読みきかせを始めるようになった時期に少し教えてたかも……?というのもあったりで、絵本に早くから触れさせるのもよいのだと思いました。(第1子)
- 絵本がもらえて嬉しかったです。(第2子)
- 文字がまったく書かれていない絵本を読みきかせるのは難しい。(第2子)
- 3か月健診の時は、子どもが寝ていたのを受けたら読んで読みきかせ等はしてもらえなかったもので、残念でした。本は読むというよりおもちゃになっていて、なめる、かむ、破るとボロボロになってしまったのをテープで直し続けていますが、最近やっとめくって見ることが多くなって、絵本として利用してくれるようになりました。(第1子)
- ページをめくりすぎて絵本のページがボロボロになった。ページの色を指さして赤色と教えたり、そうじ機のページはする動作をしてみせたり、関連した動作なども言ってみた。(第1子)
- まず新しい絵本を頂けたのが嬉しかったのと、子どもがすごく興味を持っていたので嬉しかったです。(第1子)
- 『じゃあじゃあびりびり』を頂きました(上の子のとき)。身近にあるものでいろいろ読み方(音)を変えて読んであげるととても喜びました。まず、自分では選ばない類の絵本なので、頂けたことで、いろんな本を知る機会ができてよかったと思っています。(第2子)
- 本以外の遊びが好きな為、あまり興味を示さなかったです。本を破いたり、食べたりするので、あまり読みきかせはしませんでした。(第2子)
- 1番目、お兄ちゃんの時に頂いた本は、くたくたになるほどのお気に入り、その本にちなんだ想い出もでき、頂いて本当に良かったです(第3子以降)
- 小さい頃は色で興味を持ってくれて使い始めまし

- た。今では「ブーブー」とか物を見て言葉で伝えてくれるので、長く活用させていただいています。ありがとうございます。(第1子)
- 絵本を読み始めるきっかけになるのでよいと思います。寝る前などに読んでいました。(第1子)
- まだ絵本を見せた事がない時に絵本を読んでいただけだったので、子どもの反応が見られてとても良かったです。また、少し早いとも思っていたので、そうでない事がわかり、絵本を読むよいきっかけになりました。(第1子)
- 絵本はいくつあっても楽しめるし、たくさん欲しいので助かりました。(第3子以降)
- 月齢に合った絵本を受け取る事で、他の絵本を選ぶときの参考になったし、子どもがすごく興味を示していたのでよかったと思う。(第2子)
- 上の子と同じ絵本だったので1冊は使うことがなかった。(第3子以降)
- 第3子なので、上の子のときの絵本と重なりました。また、近所の方からも同じ本を頂いたり……。毎年、何種類かの違う絵本があればいいのにな、と思いました。(第3子以降)
- 家にある絵本にはあまり関心がなかったのに、こちらで頂いた本はよく見てくれたので、よく使わせてもらっていました。赤ちゃんに向いている絵本というのもわかり、大変勉強になりました。(第1子)
- 上の子と同じ絵本を頂きました。理由を説明し、交換していただきましたが、本当はダメなんです……といった感じでした。どうしてでしょう?? 無料!で頂いているので文句は言えませんが、違う本を頂き、家に帰ると上の子も喜んで、一緒に読みました。兄も、3か月健診でもらった本をまた持ってきて下の子に読んでいました。(第2子)
- 絵本は好みがあるものののに、一方的に決まった絵本を配られても、それが興味と合わない場合あまり嬉しくない。特に3人目にもらった本。絵本袋はサイズが中途半端で絵柄もイマイチ。あまり使えないのではないかと思います。(第3子以降)
- 3か月健診の時は、まだ本人はあまり分かっていない様子ですが、今5歳の娘は、昔C市からもらった絵本を大事にしており、下の子に読んでくれています。その本は「ブーブー」や「ワンワン」等の言葉が発する本で、娘が2〜3歳の頃に、親子で一緒

に覚えたもので、楽しかった思い出があります。下の子は、まだ正直、本に興味はあまりない様子ですが、上の子の様に大きくなってから、意味があるものになるのではと思います。(第2子)

●よいきっかけになりました。(第1子)

●どのような絵本を選んでよいのか分からなかったで、この事業がよいきっかけとなりました。おすすめ絵本が載っている小冊子も活用して図書館にもよく足を運んでいます。(第1子)

●上の子の時に買った絵本がたくさんあるので、頂いた本は、その中の1冊になっているので、何回も読んだ……というわけではないです。でも、大切に読ませていただいています。(第2子)

●C市に引っ越ししてきたばかりで不安だったけど、絵本の読みきかせによって、子どもだけでなく私までホッとできました。(第2子)

●絵本は子どもの成長に欠かせないものだと思います。(第2子)

●3か月健診で本を頂き、本を読んでやる時期になったんだなあと感じた(それまでは必死で、そんな事を考える余裕がなかったで……)。それからは色のきれいな単純な絵の本を選び何冊か購入し、親子で楽しむことができたので、いいきっかけを頂いたと思う。(第2子)

●娘は、もらった本がきっかけで、本が好きになったようです(それまでは、それほど……)。今でも、『じゃあじゃあびりびり』を大切にしています。(第1子)

●絵本は主に図書館で借りて特に気に入ったものを買ったりします。紹介してもらった本をまとめて5～10冊くらい配達してもらえると、絵本を選ぶ幅と、絵本が届けられるという楽しさが増えるかな、と思います。(第1子)

●健診で、大人数の母子や係の方がいて、時間、人の多さ、子どもをあやすことで手一杯で、この事業のことは申し訳ないですが覚えていません。しかし、赤い小さな絵本はいまもしょうちゅう子ども専用の本棚から子どもが取り出し、めくったり、読んで欲しいとせがまれたり……絵本はケータイやメール、ゲームに夢中になる前に覚えてほしい楽しいことなので、絵本を購入したりする習慣の無いお宅には、この事業は価値は有ると思います。(第1子)

●ほとんど覚えてなかったので、“あまりそう思わない”に○をつけさせてもらったのですが、もらった絵本は子どもと一緒に「○○してるね～」とか楽しく使わせていただけたのでよかったです。(第2子)

●『じゃあじゃあびりびり』今でも嬉しそうに子どもが見ています(1歳8か月)。親から見させてもらって、絵本の活用の仕方がわかった。ただ読むだけでなく、合わせて動かしてみたり、本物と照らしてみたり……。子どもの、想像力をつくるのかな……と思いました。もっともっと、子どもの為になる絵本、月齢に合わせた絵本を教えてください。(第1子)

●「絵本がいい」ということは漠然とわかっていてもどの本がいいのか、どう選んだらいいのか、どんな風に読んでいったらいいのかわからないので、こういった事業があると心強く思います。(第1子)

●子どもを出産してからおもちゃは色々と買いましたが、絵本はまだ早いと思って1冊も持っていませんでしたので、絵本をもらい大変嬉しかったです。1歳8か月になった今は、自分で本を見て絵を指さすようになりました♪本の素材も頑丈なものなので、多少子どもがなめても乱暴に扱っても大丈夫な所が気に入っています。(第1子)

●とてもよいと思う。(第2子)

●子どもも自分のものだ大切にしていました。(第2子)

●事業の時は、赤ちゃんがぐずっていたので、あまり覚えていませんでしたが、絵本は、たまに読んであげると喜びます。身近な動物や物がシンプルに分かりやすく描いてあるので、赤ちゃんにとっても分かりやすかったのではないかと思います。これからも続けてもらいたいです。(第1子)

●どのような絵本を買えばいいかわからない人が多いので(特に初めての子の場合)参考になったし、また他の人にすすめたりも出来たのでよかったです。病院に行く時や、祖父母の家に行く時には必ず頂いた絵本を持って行きました。ちょっとした時間つぶしになり、本自体も小さくカバンに入れても邪魔にならないのでよかったです。(第2子)

●3か月健診で受け取った本は今でも読みます。子どもが口に入れたりしてぼろぼろになりましたが、

思い入れがあり捨てられません。おかげでもっと絵本に触れさせてあげたいなと思いました。(第1子)
●どのような本を買ったらよいのかわからなかったで、嬉しかったです。上の子が下の子に読んであげている姿が微笑ましかったです。これからも続けてもらいたいです。(第2子)

●頂いた絵本を何度も繰りかえし読むことができ、初めての子どもにどう関わっていいかわからなかった父親も、絵本を介して、自然に遊んでくれるようになりました。同じ絵本でも、月齢と共に見どころが違っていたりで、何度も取り出して見えています。おもちゃは一過性なところもありますが、絵本は何度でも見ることができ、今のところ絵本は大好きでよく見ていてくれます。(第1子)

●絵本を買うとき、どれがいいか迷うので、年齢にあった絵本をもらえてよかった。(第2子)

●最初はまだ早いかと思ったが、3か月健診で子どもが読みきかせを楽しんでいるようなので、本にふれあうきっかけになった。(第1子)

●『じゃあじゃあびりびり』は今でも子どもが喜んで見えています。特に「赤ちゃん」と「ねこ」のページでテンションがあがります。(第1子)

●赤ちゃん(子ども)に絵本を読ませる時期やどのような本を読んであげたらいいのかわからなかったが、3か月健診で本をもらったり、会場で実際に子どもに読んでもらったのは色々な発見になった(参考にもなった)。幼児(5、6歳)まで年齢別のおすすめ絵本の情報があるといいと思う。(第2子)

●頂いた本『じゃあじゃあびりびり』は他の絵本より簡単で、子どもも興味を持って見てくれたのでよかったです。(第1子)

●こんなことにお金をかける必要はない。はっきりいって、ムダ。絵本のふれあいは、親がすればすむこと。こんなことに健診の時間をとらせないでほしい。忙しい人もいるんだ。(第2子)

●絵本といえど最初から何冊も揃えるのは大変だと思うので、よいきっかけになると思う。3か月健診だけでなく、他の健診でもやって欲しい。(第1子)

●上のお姉ちゃんが下の子に読みきかせをしてくれたりと家族で楽しましたが、男の子ということもあるのか、すぐに投げたりしてしまって、なかなか最後まで読みきかせることが大変でしたが、リビン

グに置いてると、一人で手に取って見ている姿とかも見られるようになり、よかったと思っています。ぜひ、続けてください。(第2子)

●兄の時の本は少し汚くなるまで活用し、初めての言葉が出るきっかけになりました。また、兄がその本は多少字が読めなくても覚えていたので、覚えている内容で読みきかせを弟にしていたのには、少し感動しました。(第2子)

●読みきかせは大切だと思うし、関心がありました。が、いざやってみると1歳4か月頃にならないと子どもが興味を示さず、本をかじるばかりだった。コミュニケーションを取りたいと思うのだが、自分一人で読んでいる事が多く、自身もすぐにくじけてしまった。1歳6か月頃からやっと自分で絵本を持つてくるようになり、読むがすぐに飽きる。根気よく続けていきたいです。(第1子)

●『じゃあじゃあびりびり』をいただいて、毎日読んでいるうちに、今では絵を見るだけで、「びりびり」「かんかん」などセリフを言えるようになっていいます。他の本でも同じように話の内容など覚えているようで、発達に役立っています。(第2子)

●第1子の時に頂いた『じゃあじゃあびりびり』はお気に入り、で、第2子も自分から手にとって見ようとすることが多かったです。年子なので、時期的に、読みきかせてあげようと思っても本の取り合いになってしまったり、二人とも興味の対象が違ったりで、なかなか読みきかせることが今は難しいのですが、上の子が4歳近く、下の子が3歳になったら、一緒に仲よく読みきかせできるかなと思っています。本とのふれあいは、これからもずっと続けていきたいと思います。(第2子)

●第1子の時は小さい時から沢山の絵本を読めたけれど、二人目からは忙しくて読みきかせの時間を作ることがあまりできていない。できるだけ読みきかせする時間を作るようにしたい。(第2子)

●3か月でもらった本は『じゃあじゃあびりびり』で、とりえず本に興味を持つかなと思って読みきかせをしていました(本人は気に入っていたかはよく分かりませんが……)。事業の趣旨は知らないのもっと広く知れるように告知すべきで、子どもは本が好きなのだから活用できる場を維持することはとても大切だと思います。(第1子)

●3〜4か月の時に読んだ時と、今読んだ時の子どもの反応が当たり前やけど違うので、成長した部分や、今どんなところまで感じているのか、子どもがわかっているのかわかったりするので、よかったです。子どもから、読んでと言う時もあるので、子ども自身も好きなんだと思いました。(第1子)

●赤ちゃんにもわかりやすい絵本で、うちでは毎日読んでいました。私の所へ持って来て、読んでと言います。(第1子)

●自宅ですでに持っている場合もある。何冊かの中から選ぶとか、出生時にブックスタートの時にはこの本がもらえますとか知らせがあればいい。少々押しつけ感あり。(第3子以降)

●絵本の中で出てきたフレーズを覚え、他の本や実物を目にした時に言葉に出すことができている子どもの姿を見た時、絵本がもたらす影響を実感することができた。ありがとうございました。(第1子)

●きちんと年齢にあった本をくださっていたので、読んであげると大好きになり、その本ばかりをいつも私のところに持ってきます。なかなか絵本は高価で、買ってあげられません。図書館で借ると、今の年齢では破いてしまったり(自分でページをめくりたがる)しそうで心配で……。なので継続してほしいです。(第3子以降)

●まだ早いかなあと思っていた時期でしたが、色々な色を見るだけでもすごく楽しめたので、いろんな楽しみ方があるんだなあと思いました。(第1子)

●すみません。あまり覚えていません。(第2子)

●頂いた絵本がお気に入りになって、毎日読んでほしそうだったので読んであげられてよかったです。今は違う絵本が気に入っていますが、それがなかったら、絵本大好きになっていなかったと思います。(第1子)

[D市]

調査概要

調査協力者

D市6か月児育児相談にてブックスタート・バックを受け取り、2011年4月〜5月にD市にて1歳6か月児健診を受診した赤ちゃんの保護者

調査方法

- 1歳6か月児健診の対象者に事前に送付する問診票などの資料とともに調査票(A4・1枚)を郵送し、健診時に回収。
- ・調査票配布数(健診対象者数) 991
 - ・回収数 796(回収率80.3%)
 - ・集計対象(ブックスタートを実施している6か月児育児相談を受けたと回答した方) 704

調査結果

*各設問は無回答を除いて集計。nは回答者数。

A. お子さんやご自身についておたずねします

(以下の質問では、今回健診を受けに来られるお子さんについてお答えください)

●A 1: おさんは？ (n = 702)

第1子	340	48.4%
第2子	276	39.3%
第3子以降	86	12.3%
総計	702	100.0%

●A 2: あなたはお子さんの？ (n = 700)

母親	694	99.1%
父親	5	0.7%
祖母	1	0.1%
祖父	0	0.0%
親戚	0	0.0%
その他	0	0.0%
総計	700	100.0%

● A 3: ご家庭でお子さんと絵本を見たり、
 読みきかせをしたりすることがありますか？
 (n = 703)

全くしたことがない	9	1.3%
することがある	694	98.7%
総計	703	100.0%

● A 4 ①: (A3で「することがある」と答えた場合)
 その頻度は？ (n = 685)

週1回未満	102	14.9%
週1～2回	130	19.0%
週3～5回	185	27.0%
ほぼ毎日	268	39.1%
総計	685	100.0%

● A 4 ② (A3で「することがある」と答えた場合)
 何か月の頃から？ (n = 680)

1～2か月	61	9.0%
3～4か月	113	16.6%
5～6か月	180	26.5%
7～8か月	136	20.0%
9～10か月	87	12.8%
11～12か月	75	11.0%
それ以降	28	4.1%
総計	680	100.0%

**B. 6か月児健診で実施した「ブックスタート」と、
 ご家庭での読みきかせについておたずねします**

● B 1: D 市では6か月児育児相談の際に、赤ちゃんのまわりで絵本を介した楽しくあたたかいひとときが
 持たれることを願い、「ブックスタート」を実施しました。この事業の趣旨を覚えていますか？ (n = 689)

覚えている	232	33.7%
だいたい覚えている	389	56.5%
覚えていない	68	9.9%
総計	689	100.0%

● A 4 ③: (A3で「することがある」と答えた場合)
 誰が読んでいますか？
 (複数回答・n = 683)

母親	675	98.8%
父親	390	57.1%
祖母	189	27.7%
祖父	63	9.2%
きょうだい	179	26.2%
その他*	18	2.6%

* 「その他」の記述内容：保育園 7 件／曾祖母 1 件／お
 ば 3 件／いとこ・おば 1 件／姪 1 件／親の兄弟・友人
 1 件／家に来た方 1 件／自分で 2 件／記入なし 1 件

● A5: (A3で「することがある」と答えた場合)
 ご家庭での読みきかせの状況について、
 A3・A4でそうお答えになった理由は何ですか？
 (複数回答・n=650)

楽しいので	273	42.0%
ゆったりした気持ちになれる	90	13.8%
子どもとふれあう時間になる	392	60.3%
きょうだいと一緒に読むので	241	37.1%
ブックスタートで絵本を受け取ったので	195	30.0%
まだ早いと思う	2	0.3%
子どもが関心を示さない	32	4.9%
時間にかたまりがない	47	7.2%
絵本を持っていない	1	0.2%
その他	151	23.2%

● B 2: ブックスタートを受けて、どのように感じましたか？

	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 楽しかった (n=669)	356 53.2%	282 42.2%	30 4.5%	1 0.1%
② ほっとする時間がもてた (n=666)	245 36.8%	332 49.8%	83 12.5%	6 0.9%
③ 読みきかせ時の子どもの様子を見られてよかった (n=669)	424 63.4%	208 31.1%	31 4.6%	6 0.9%
④ 赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった (n=670)	428 63.9%	201 30.0%	35 5.2%	6 0.9%
⑤ 子どもとのコミュニケーションに役立ちそう (n=668)	512 76.6%	142 21.3%	14 2.1%	0 0.0%
⑥ 自分には難しいと感じた (n=671)	19 2.8%	79 11.8%	283 42.2%	290 43.2%
⑦ 自分子どもにはまだ早いと感じた (n=670)	24 3.6%	76 11.3%	211 31.5%	359 53.6%
⑧ 絵本がもらえてうれしかった (n=672)	592 88.1%	74 11.0%	5 0.7%	1 0.1%
⑨ 絵本についてもっと知りたいと思った (n=670)	315 47.0%	286 42.7%	64 9.6%	5 0.7%
⑩ 図書館員やボランティアと話ができてよかった (n=666)	254 38.1%	344 51.7%	60 9.0%	8 1.2%
⑪ 赤ちゃん連れで行ける施設や催しの情報が得られてよかった (n=665)	255 38.3%	317 47.7%	87 13.1%	6 0.9%
⑫ ⑪の施設や催しに行ってみたいと思った (n=665)	251 37.7%	313 47.1%	91 13.7%	10 1.5%

● B 3: ブックスタートで受け取った「絵本」を、
 活用しています(しました)か？ (n = 683)

かなり活用している (した)	287	42.0%
活用している (した)	342	50.1%
あまり活用していない	45	6.6%
活用していない	9	1.3%
総計	683	100.0%

● B 4: 今後もこの事業を
 継続してほしいと思いますか？ (n = 681)

そう思う	577	84.7%
ややそう思う	98	14.4%
あまりそう思わない	5	0.7%
そう思わない	1	0.1%
総計	681	100.0%

- B 5: ブックススタートについて、ご意見・ご感想がございましたら自由にご記入ください
(B 3・B 4でそうお答えになった理由や、ブックススタートで受け取った絵本をどのように活用されているかなど)

自由記述記入数: 261 件 文末括弧内: 対象児出生順位

●今保育園に行っているのですが、子どもが気に入っていると連絡帳に書いて、持ってきて欲しいと依頼があって、持っていったら皆で読んだとの事、子どもが気に入る本がわかってよかったと言っていました。(第2子)

●受け取った当初は子どもも全く興味を示しませんでした。が、読んでる内に自分から本を持って来るようになってきました。(第1子)

●ブックススタート時、娘は寝ていて、ただ本を頂いただけでした。特に説明はなく、寝ていたのだから仕方ないと言えばそれまでですが、母親に対しての説明、もしくは、後日そういう公開の場があったら有難いと感じました。(第2子)

●ブックススタートで受け取った本を最初はあまり興味を示さなかったのですが、今では自分で持ってきて絵本の中の車を指さします。(第1子)

●私が行った時は『ぶーぶーぶー』という絵本でした。男の子だったので車に興味があり今でも大好きな絵本です。ただ女の子を持つママに聞いたところ、あまり興味を示さなかった子もいるようで、「女の子には女の子に合った絵本がほしかった」という声を耳にしました。(第1子)

●『ぶーぶーぶー』車の本をもらったが、0歳も3歳も楽しく読めた。車の音を声の出し方や大きさで変化をつけると、子どもがマネをして、他の子にも読んであげていたので、とてもよい本をもらったなと嬉しかったです。『こんにちは どうぶつたち』上の子がもらった本は、動物の種類がマンアックで、親の私ですら知らない動物であったりしたので、私自身読んであげるのが楽しく思えなかったです。動物園で見た事ある一。とか、今度親に行こうねの会話にも盛り上がりがなく、イマイチな本でした(ママ友の間でも不評でした)。「スタート」の本なので、単純でおもしろい本をプレゼントしてもらえると、ありがたいと思っています。 図書館の駐車場は無料にしてほしい!! 絵本を毎週借りたいが、駐車代を気にして行くのをやめるのは残念だし、子どもを

もっと本に触れさせたいが……。 (第2子)

●一人目の子どもがもらった本とは違うものにしていただいたので、2冊分活用できてよかった。特に『こんにちは どうぶつたち』は大好きで、これを見てから動物にも興味が出て、動物園も楽しむことができました。(第2子)

●お兄ちゃんの時にもらった、『こんにちは どうぶつたち』もとても気に入っていました。今回もらった『ぶーぶーぶー』も読んでほしいと自分で持ってくるので、そういう気に入った本を紹介してもらるのが嬉しい。(第2子)

●我が家には千近い絵本がありますが、その絵本部屋の一番手前の一番下の段は子ども達の「今一番お気に入りの絵本」のコーナーにしています。そしてそこに1年以前頑張って居座り続けているのが2年前に頂いたブックススタートの本です。自分で、または子どもが選ぶ本は時に偏りがちになるのでこうやって第三者から頂く絵本は貴重だな、と思いました。息子のブックススタートの際、絵本を読んでくださった女性スタッフさんに「今、息子さんが一番好きな絵本は何?」と聞かれました。答えると、その絵本の大判があるのよ、と教えていただき、後日出版社に問い合わせ購入しました。なかなか子ども二人(2歳と1歳)をつれて図書館などに何う事が難しいので、嬉しく思いました。(第2子)

●絵本はもともと私自身も好きだったので、子どもには読みきかせ、絵本の時間を作ってあげたいと思っていました。子どもの興味や本との関わり方を見ながら、その後、月1回送ってもらシステムに登録をして、ますます絵本が好きになっていく子どもたちが見られてよかったです。今後も、このような素敵な活動が続けてほしいと思います(初めての母さんには特に役立つと思います)。(第2子)

●『ぶーぶーぶー』という本をもらったので早い内からブーブと言うようになり、その本が今でも大好きです。(第3子以降)

●絵本を活用し始めるきっかけになった。子どもは

ページをめくる動作が楽しいらしい。絵よりも写真を好む。実物により近いものの方が理解できるらしい。(第1子)

●はじめは絵を見るというかおもちゃかわりにポイポイ投げてみたり食べてみたりと関心を持たせるのに苦労したが、自分でもページをめくり、絵を見ることを覚えるきっかけになりよかったです。(第2子)

●子どもの手の届くところに本をおいておくと、読んでほしい時に自分で持ってくるので、母親とふれあいたい時なんだなあと、すごくわかりやすい。(第1子)

●ブックススタートで本をもらう前から絵本が好きなので、もらった本も喜んで見ていました。もらった本は読むのが簡単な本だったので、4歳になる姉に読んでもらう事ができてよかったです。できれば、女の子向けの本(車より、花やぬいぐるみ)か、動物の本だったらもっと嬉しかったです。(第2子)

●ブックススタートは、子どもが泣いていたので絵本を受け取るだけになってしまったので、感じる事があまりなく、アンケートに役立つ答えはできていません。(第1子)

●ブックススタートはいい事だと思うし、絵本を初めて選ぶ人にとっては、どんな絵本がいいのか分からないと思うので、頂けるしよと思う。けれど、健康診査と一緒にやるのは、ちょっと辛い。健診だけで子どももぐずったりで親はぐったりだから、ゆっくり話を聞かなくても聞けない。(第2子)

●絵本が頂けることは、素直に嬉しいけど、本屋へ行って、自分で子どもに読んでほしい本を選びたい。たとえば、本を買う時に少しでも安くなるチケットを渡してくれるとか……その場で子どもに選ばせるとか……(難しいかもしれないけど)。ただ、本を子どもに見せると、どんな反応があるか知るチャンスであるので、本を読みきかせてもらえるだけで充分だと思う。また、このブックススタートの事業はとていいと感じた。また1歳児にいいとされる本の紹介チラシの配布や本の読みきかせが、なぜよいのか、子どもの将来にどうよいのかなど、もっと母親に伝えたいほうがいいと思った。(第3子以降)

●ブックススタートで本を頂けるのは、親子ともに絵本が大好きなのでとても嬉しいのですが、持ってい

る本と重なってしまうと残念なので、3冊ほどから選べるとよいと思います。(第1子)

●ブックススタートで頂いた本は、今でも一番好きな本ようです。最近では、一緒になって『ぶーぶーぶー』と声を出して読んでいます。ありがとうございます。(第1子)

●ブックススタートで頂いた絵本は祖母(子どもから見ても)が買って来てくれた絵本と同じだったので、何種類か用意して選ばせて欲しいです。(第1子)

●ブックススタートでボランティアの方に読んでいただいた時、子どもがものすごく真剣に聞いていました。家に帰り、私が読んであげると、とても嬉しそうに一緒に「ブーブー」と読んでいました。この頂いた本が、一番のお気に入りになりました。(第2子)

●車の本はとてもよくひらいて興味を示していたので、すごいなあと思った(赤ちゃんの的を射た本なのだなあと感じました)。(第1子)

●きょうだいと一緒に読んでいますが、やはり年齢に合った本がいいですね。どうしても上の子には合わせて長い本をたくさん借りてきてしまっていますが、赤ちゃん用の本はそれなりに意味があるのだと。今はできるだけ上の子がいないときに読んでいます。

私が飽きる程、同じ本を何度も読まされたり……。言葉が遅い我が子ですが、アーアーウーウー指をさしたり、楽しんでいることはとてもよく伝わってきます。絵本を読むことは子どもだけでなく私も楽しんでいて、次はどんな本を借りてようか……とワクワクします。上の子は(小3、小2、年長)ですが、自分で本を読めるのに、毎日の読みきかせはとても楽しみにしていて、誰が今日は私の近くで聞くのかを争う程で、とつてもにぎやかな10分間です。とってもすばらしい事業だと思います。続けていってほしいと思います。親子にとって、ふれあう時間(たとえ数分でも)を持てるし、子どもの頭の中の世界も広がるし、知識や心も豊かになると感じています。本はすばらしい!! 大好きです。ありがとうございます。(第3子以降)

●ブックススタートで頂いた絵本を家に帰って読んでから、何度も読んでほしいと子どもにせがまれるようになり、よいきっかけになりました。これからも続けていってください。(第1子)

●『ぶーぶーぶー』家族で楽しく見えています。車が

大好きなので、指さして「ぶっぶー」と教えてくれたり、絵本の車にチューをしたりして、お気に入りの1冊になりました。6歳の兄に読んでもらったりもして、お兄ちゃんも一緒に楽しんでいます。丈夫な素材の本だし、大きさもちょうどよく、自分でページをめくこともできるので、親としても嬉しい絵本だと思います。ありがとうございました。(第2子)

●6か月の子どもにはまだ早いと思っていたが、子どもが真剣に見ているのをみて、本の読みきかせを始められました。(第1子)

●聞いた話ですが、他県は男女で絵本が違ったり選ばせてくれるみたいです。『ぶーぶーぶー』は、初め、男の子用だと思っていました。今は車が大好きになりました。女の子だけ……。 (第1子)

●無理やり本を見せるのではなく、気持ちかゆったりしている時に一緒に楽しめるといいと思っている。元々絵本は好きなので子どもにも見せますが、絵本に興味のない人にブックスタートはよい機会だと思います。(第1子)

●毎日絵本をよんでいます。シールを貼ったり、とびだす絵本などは大好きです。最近は仕事を始めて図書館に行かないので、毎月絵本を送ってもらっています(こどもちゃれんじのもの)。(第1子)

●ブックスタートで頂いた本はとても子どもも興味を持ち、よかった。2子目で頂いた袋は必要ないと思いました。洗濯するとすぐにヨレヨレになるし、中途半端なものを配るくらいなら必要ないと思います。図書館のおはなし会は、読んでくれる人が声が小さく、あまり上手じゃないせいか、子どもがひきつけられない。せっかく開催するのであれば、もっと子どもがひきつけられるような本を選んだり、声を大きくして読んだりしてほしいです。(第2子)

●頂いた本を娘がとても気に入り、楽しんでいます。『ぶーぶーぶー』でしたが、この頃では色の勉強にもなり、段階に応じて読み方を変化させていけるので大変重宝しています。子ども「ぶーぶー」と車を見るとすぐに反応。ありがとうございます。(第1子)

●今は絵本よりもテレビやDVDの方を多く見せている家庭があると思います。うちもDVDを見せることがあります。絵本の方が好きになってほしく

て、図書館にもたくさん行っています。かわいい絵本がたくさんあるので、これからブックスタートを通じて広めていってほしいなと思います!! (第2子)

●赤ちゃん用にと、口に入れても大丈夫な本と聞き、そんな本があったんだあ〜と初めて知りました。安心して、一人遊びの時もこの頂いた本を渡せました。今は、飛び出す絵本に興味を持っている様です。有難うございました。(第2子)

●絵本をなるべく早い時期から読んであげたり、子どもが絵本を自由に手に取れる環境を作ることは大切だと思います。ブックスタートで頂いた絵本が、初めての絵本となるご家庭もあるかもしれません。そういったご家庭のためにも、ブックスタート事業は続けていただけるとありがたいです。読みきかせの大切さは理解していても、なかなか時間を作ってやれないのが現状ですが、たとえ1冊・2冊でもひざに子どもを座らせて絵本をひらく時間を持たたいものです。(第2子)

●男の子なので、やはり動くものに特に興味があるように感じます。頂いた本は、偶然車の本で、また、色もはっきりしていて厚紙でできているので、小さいうちから見せたり持たせたりする事ができたり、水をもはじくので「汚したら……」と気にせず楽しめました。(第2子)

●上の子と一緒に話しながら絵本をみせていたら、下の子もこれ読んでって感じに持ってきたので本に興味が出てきたのがわかってうれしかった。(第2子)

●私の母親(子の祖母)が小学校の読みきかせボランティアをしています。小学生の真剣な様子、時に涙をうかべていること、などの感想を聞くと、絵本、本の大切さを実感しています。小さい頃からの積み重ねが大切だと思うので、いっぱい本に触れさせてあげたいと思います。(第1子)

●6か月の時に頂いた『ぶーぶーぶー』の絵本はお気に入りのようで、一人でも見たりしながら「ガタゴト」「ぶー」など楽しそうに言いながら見えています。私が絵本を見ずに「あかじどうしゃ ぶーぶーぶー」など話し始めると、急いで『ぶーぶーぶー』の絵本を持ってきます。読みきかせのきっかけにもなりよかったです。(第1子)

●姉二人がいる3番目なので、新しくこの子用という本を用意したことがなく、ある物を読んでいる状態だった。『ぶーぶーぶー』という車の本をいただいて、車も好きだし、自分の本というのが分かるらしく、持ってくる頻度が高い。自分でもくって、ぶーぶーと言いつつ読んでいる。親が選ばないようなというか、与えていただいた本をきっかけに、新たに子どもの違う面が見つけられる気がする。(第3子以降)

●今回頂いた車の絵本は擬音付きで、赤ちゃんはもちろん3歳の兄にも好評でしたが、兄の時に頂いた動物の顔の絵本は、なかなか興味を示してくれず、あまり楽しめませんでした。(第2子)

●頂いた絵本はお気に入りのようです。ありがとうございました。(第1子)

●子どもが、本を見せてもすぐにページをめくってしまったり、聞いていなかったりで、読みきかせは成立していない感じです。好きな本(動物の絵)は自分で持ってきて指をさすのですが、文章はまだまだみたいです。(第2子)

●本に興味がある(好き)ことがわかりました。(第1子)

●男の子というのもあるのか、車の絵に興味を持って、よく見ています。正直、本屋などに行ってもたくさんあって何を選んでいいかわからない。上の子の本など一緒に見えています。(第2子)

●お姉ちゃんの時と本が同じだったのが残念でした。(第2子)

●ほとんど毎日おもちゃ箱の中から本を持ってきて、読んでと言ってきます。読んでると一緒にまねをして読んで楽しそうです。(第1子)

●小さい子どもは、単純な言葉を繰り返す事が好きなんだと知りました。リズムに乗って読むと、似た様なリズムで何か言っています。とても役立っていて、ありがたいです。(第2子)

●自宅で読みきかせをする絵本を選ぶ参考になりました。子どもがどんな絵に興味がありそうか、目を向けていなくても耳で聞いていると気づかせてくれました。まだ子どもの反応がはっきり感じられなかった時の気づきのポイントを教えてもらえたので、読みきかせの前の絵本に興味を示すまでをじっくり見守れた気がします。(第1子)

●長男のときに『こんにちは どうぶつたち』を頂きました(3年前)。この本で、動物が好きになりました。何回も読み、背表紙や角もボロボロですが、今も長男と次男で読み続けています。次男のときには、エコバックももらえて、長男はそのバックを持って図書館へ行くのが楽しいようです。(第2子)

●子どもの興味が分かるし、知育にもなるのでブックスタートを受けられてよかった。子どもとのコミュニケーションが本を通じてとれるから、今助かっています。言葉を発するようになり、本を見せると、名前を言うので、成長がわかって嬉しい。(第1子)

●どんな絵本をよんであげればよいのか参考になりました。(第1子)

●ブックスタートで絵本を受けとってから、パパが自ら読んでくれています。(第3子以降)

●子どもが車に興味を持ち、車を好きになったので、頂いたのを気に入って何度も見えています。(第1子)

●本にもよりますが、上の子の時に頂いた動物の写真が載っている本に興味を示しました。(第2子)

●本を頂いてから、ほぼ毎日読みきかせをしていたら、車に興味を示すようになった。今は色を覚えさせるのに活用している。(第1子)

●本を選べないので、少しう〜んって思った。あの本にした理由がわからない。うちの子は気に入らなかった。何冊かあってその中から選べたらいいと思う。(第2子)

●ついつい時間がなく忘れがちですが、こういう思いつき機会が持てればいいと思っています。(第2子)

●女の子なので、結局車の本には興味を持たなかった。いろいろな種類の本が、くだものや動物のほうよかったかなと思いました。(第3子以降)

●子どもが絵本を選び、私のひざに乗ってページをめくりまわす。ぶーぶーぶー、パッパッパなどの発音練習にもなっているようです。(第1子)

●『ぶーぶーぶー』を頂いたのですが、娘もとても気に入ってくれてよく「読んで」と持ってきます。本屋でみて買わなそうなお本だったので、(娘なので車の本よりは違うものが目がいってしまうので……)ブックスタートで頂いてよかったです。今後ぜひ続けてください。(第1子)

- お母さん（親）にとっても、絵本の読みきかせは大切な時間となるので、少しでも絵本と子どもとふれあうきっかけをつくってもらう為にも、ぜひブックスタートは継続してもらいたいです。（第1子）
- ブックスタートでもらった頃は、あまり関心なさそうだし、読んでいただいた時も泣いてしまったけど、それから1、2か月たったくらいからは、嫌がることもなくなってきて、今は絵本を自分で出してきて、めくったりしています。（第1子）
- 車の本を頂きました。本を読んだ後にベランダに出て抱っこして、外の車を走る様子を見せると絵本の車と外の車を理解するのが早く、「プププ」と早く言えるようになりました。自分で本をひらける様になってからは自分で進んで読んでいます。（第1子）
- ほしい本、読みきかせたい本は自分でどんどん買うので……なくてもよい。何冊かの中から選べるともっとよい。ブックスタートが6か月では遅いと思う。私は出産祝いに絵本をプレゼントしている。1か月とか……。 （第2子）
- 絵本のイラスト⇒もっとリアリティーのあるものに関心があるように思える。（第1子）
- 車が大好きで、よく、「プープー」と頂いた絵本を指さしていました。（第2子）
- 子どもが本を持ってきた時、読んであげたりしている。色々な人に本で子どもとコミュニケーションを取る方法などを教えてあげる場があるのも大切だと思った。（第1子）
- 上の子の時にもらった本と違う本だったのでよかった。（第2子）
- 絵本の種類が、一番上の子のときにもらったものが一番よかった（『いないいないばあ』『じゃあじゃあぴりぴり』）。昔から読まれ続けている本のほうが子どもも興味を持ってくれるので、せっかく配るので、本の種類をもう少し考えた方がいいと思います。（第3子以降）
- 最近乗り物や動物に興味を示していて、自分から頂いた絵本を持ってくることがあるので、時間のある時に読んでいる。（第1子）
- とても難く本を利用させてもらっています。ありがとうございます。（第1子）
- ブックスタートで絵本を頂いた時は興味を示しま

- せんでしたが、車に興味が出てから（『ぶーぶーぶー』という本をもらいました）毎日読んでいます。赤、青と言えるようになって色が出てくるのも嬉しいみたいです。本の種類が選べるともっと嬉しいです。（第1子）
- ブックスタートで受け取った絵本はとても気に入っています。子どもはよく私の所に本を持ってきて、一緒に読んでいます。（第2子）
- 絵本をもらったばかりの時は見ているだけだったが、今は夜読みきかせる時、「絵本持っておいで」と言う時々ブックスタートでもらった絵本を持ってきて、読んであげると「プー」と言ったり「ぱっぱ」と言ったりして、私が読んでいるのをよく聞いていて言葉をまねしようとしている様子がみられる。（第1子）
- 本をめぐって遊んだり、おもちゃ感覚で遊んだり、色々な遊び方ができるし、そうしていました。子どもは楽しいのだなと思いました。（第1子）
- 本の中の車に興味を持ち、外出しても車を指さし何か話そうとしている様子がよくあります。本には、体験した事がないような事がたくさんあるので、とてもよいと思います。これからも、ブックスタートを継続して欲しいです。（第2子）
- 最近車に興味をもって、もらった車の本を1日1回は必ず持ってきて、読んであげています。「プー」という言葉も覚えて、すごく役立っています。（第1子）
- 受け取った絵本は子どもがとても気に入っていて、よく読んでほしいと持ってきます。（第1子）
- 絵本の読み方など参考になりました。強弱つけた間をあげたり工夫すると喜びます。（第1子）
- 頂ける絵本を何種類かの中から選ぶことができたから、よりよいと思います。（第1子）
- 娘のすごく嬉しそうなりアクションを、今でも忘れられない位、ブックスタートは思い深い素敵な行事でした。今でも時々、頂いた本を読みかかせています。（第1子）
- 車がとても好きで、ブックスタートで頂いた絵本は、気に入って今でも読んでいます。このブックスタートがきっかけで、本と一緒に（読みきかせ）見たりするようになり、子どもも本が好きになりました。これからも、絵本を読み続けていきたいと思っ

- ています。このブックスタート事業は、親子のコミュニケーションがとれる時間として大切なものになると思うので、継続してほしいと思います。（第1子）
- 受け取った時点ではまだあまり絵本に興味を示さなかったが、今では絵本が大スキで読んでほしい本を自分で持ってくるようになった。頂いた本は『ぶーぶーぶー』で、こちらの本は残念ながら今でもあまり好きではないらしく、ほとんど読んでいません（女の子だからなのか）。ただ、子どもが自分でめくりたがるので、1ページ1ページが厚手なのでそれはよいと思います。（第1子）
- 車の絵本で、うちの子どもはすごく気に入っています。いまでも時々読みます。子どもによって好きな絵本の系統が違う気がしますが、誰でも喜びそうな本です。また、ブックスタートの時、紹介してもらった本も何冊か購入し、とても気に入っています。（第1子）
- 時間が午後の時間帯で、眠くて説明を聞ける状態ではなかった。（第1子）
- ブックスタートがきっかけとなり、絵本を読むようになり、子どもと楽しい時間を過ごしています。ありがとうございます。ただ、頂いた本が車の絵本であったため、娘はあまり興味を示しませんでした。女の子でも楽しめる絵本を頂けたら、もっとよかったと思いました。（第1子）
- きょうだいで、同じ本を2冊もらうことがあり……。やはり同じ本をもらっても困るので、「どちらがよいですか？」とか何冊から選ばれたりするとよいなと思いました。（第3子以降）
- 寝る前に絵本を読んであげる事が多いです。子どもに「好きな絵本を持っておいで」と言うとかたくさんある絵本の中から必ず頂いた『ぶーぶーぶー』を嬉しそうに持って私のひざの上に座ります。大好きなようです。子どもがどの絵本に興味を示すのかわからず、選ぶのに悩むので買う事をためらう事もあります。こうやって頂く機会があると助かります。ありがとうございます。（第1子）
- 姉、兄の本があったのですが、すでにボロボロなので、この子としての新しい本を頂けて嬉しかったです。また、月齢にあった本があまり無かったので、楽しく使わせていただきました。ありがとうございます。姉が、よく読んであげていて、それを

- 見てほほえましく思い、私も読みきかせをもっとしたいなと思いました。（第3子以降）
- ブックスタートを受けた時、子どもが声をあげて笑ったところを見てすごくあたたかい気持ちになりました。本で車や電車などを見せていたおかげで、本物の電車に乗った時はすごく嬉しそうでした。（第1子）
- 上の子ども（兄6歳）に、あまり読みきかせをしてあげられませんでした。私自身にも時間をうまく使う事ができず、余裕がなく、夜も「早く寝かせなくちゃ!!」との気持ちから、読んであげていませんでした。幼稚園に入り、読みきかせが大事だと改めて感じ、下の子には、なるべく本を見せてあげようと思っています。おかげ様で、兄の本がいっぱいあるし、兄が本を見ていると、自分も一緒に、ページをめくったり少し話を聞いたりしてくれそうです。（第2子）
- ブックスタートの時期が早かったです、もう少し後でもよいのかもしれません。（第2子）
- ブックスタートで受け取った絵本『ぶーぶーぶー』は、とてもお気に入り、もらったあと、しばらくの間、毎日のように頁をめくっていました。後半のトラックが出てくる部分などは、読む前から身構えて次にくる音を待っている感じで、読んでいるこちらにもその反応がおもしろくて何度も読みました。（第1子）
- ファミリーサポートセンターの方にお問い合わせするとき、絵本を持たせています。大きくなったら、反応する箇所も変わってきて、絵本の奥深さ、子どもの成長を感じます。（第1子）
- ブックスタートの事業自体は素晴らしいと思いますが、6か月育児相談の折では、待ち時間が非常に長くて、子どもも眠くなってしまったりで、せっかくの機会がもったいなかったように思います。待ち時間をうまく利用したら、よりよい活動になるのではないかと感じました。（第2子）
- 最近は読んでほしいと、自分で本を持ってきて、お願いするようになっています。繰り返しの言葉が好きなように思ったので、その後、村上康成さんの『とんとん とんとん』を読みきかせるようにしたら、これも、大好きになってくれました。（第1子）

●もらった『ぶーぶーぶー』の本は早い頃から気に入りました。歩けるようになった今では、自分で本棚から持ってきては「よんで」とお願いし、私と一緒に「ぶーぶーぶー」と声を出して楽しんでいます。最後の「ぶーぶーぶわあーん」の所は車が走っているように本を動かすと大喜び。最近で本を持ち、自分でも車を走らせています。(第1子)

●ブックスタートで本を頂いて約1年、家にある本も少ない為、同じ本を今でも頻繁に読んでいます。1年で少しずつ反応が変わってきたり、言葉を真似するようになってきたのがおもしろいです。他にもいろんな本を読んでやりたいと思うのですが、なかなか……。 (第1子)

●5歳の上の子の時頂いた本2冊を、下の子に読んでくれています。(第2子)

●子どもが動物や車が好きなので、絵本の絵を見ているだけでも嬉しそうだった。(第2子)

●他の絵本に、あまり興味を示さなかったわが子でしたが、頂いた絵本は、気に入って、特に「おおきいじどうしゃ ぶわーん!」で必ず笑っていました。いい絵本を頂けたと、感謝しています。でも、女の子と男の子で別の絵本にするとか、2、3冊の中から親が選べたりしたら、もっとよいかなとも思いました。(第1子)

●絵本の読みきかせ方は人それぞれでよいのだと思い、自分以外の人にも読んでもらう機会を作ろうと思った。絵本ありがとうございました。(第1子)

●どんな本を選んだらいいのか参考になりました。(第3子以降)

●ブックスタートで絵本を頂いたおかげで、読みきかせのきっかけを持てるようになりました。『ぶーぶーぶー』の絵本を動かして車が動く様子をみせた所、まねをして遊ぶようになりました。今後は色を覚えるきっかけになればいいと思います。(第1子)

●自分が社会人になって本を読んだり、図書館を利用することが減ってしまっていたのですが……子どもがいることで一緒に本を見たり、図書館を利用しようと思うようになった。今、子どもは本を見ること、読むことが大好きなようで、私も嬉しいです。続けていきたいですし、私も色々な本を読みたいです。(第1子)

●いろんな物に興味があり、行動してしまう年齢の

子どもを連れて公共の場へ行く事に心配がある。ブックスタートのお話の時も、子どもをあやしなからだったので、あまり覚えていない。(第1子)

●『ぶーぶーぶー』を頂いて、最初の頃は「ぶーぶー」言うと言で終わっていたのが、最近是一緒になって読むようになりました。(第1子)

●私は第4子の子どもの時、初めてブックスタートを知りました。赤ちゃんにも絵本はいいんだと思い、上の子の時にはなかったのですが、ブックスタートは続けてあげてほしいです。今は、上の子どもが学校の音読の宿題があるので、それと一緒に1歳半の子どもも絵本を広げて何かしゃべっています。(第3子以降)

●6か月健診の時に頂いた本は、読みきかせというより、一緒にページをめくって遊ぶような感じでした。まだ聞くという事があまりできず、自分の気に入っている絵や写真のページを何度もひらいてみたり、遊び道具の様な感じでした。(第1子)

●ブックスタートに参加した時は、まだ小さくて、あまり意味も分からず……でしたが、自分で本をひらける様になってから(1歳過ぎて)、一人でひらいて見えます(ブックスタートで頂いた本を……)。もっと積極的に絵本を読んであげたいと思います。(第1子)

●ブックスタートで頂いた本は、よく自分で持ってきて、「これ、これ」と言って読んでほしいそうです。とにかく、めくっては閉じめくっては閉じ、特にストーリーがわからなくてもよいみたいです。しか絵本や色がきれいだったり、大好きなネコがでてきたり、好みの本で楽しませてあげてます。テレビばかりじゃなく、絵本はママとふれあいが深まってよいです。お兄ちゃんも一緒に『いないいないばあ』なんかを読んでくれます。(第2子)

●ブックスタートよりも前から、自宅で絵本を読みきかせていましたが、なんとなく手ごたえがなく感じていました。ブックスタートで読んでいただいた時の子どもの反応、興味をひく読ませ方を目のあたりにし、これからもっと楽しく続けられそうだと思いますし、何より本人が頂いた本が好きで好きで、今でも一番読む回数が多いです。きっかけがつかめると、その後の関わりが楽しいし、保育園でも毎月絵本を注文して届くたびに「読んで!」とばかりに

持ってきて、膝に座ってきます。ぜひ、これからも続けていただきたいと思います。ありがとうございました。(第1子)

●とても丈夫な本なので安心して持たせられます。今でも自分で持ってきて読んだりします。(第1子)

●色がとっても鮮やかで、子どもたちも目をキラキラさせて読んでいます。「ブーブー」などの片言も載っているので言葉覚えにも役立ちました。(第2子)

●とても簡単な内容なので、子どもも親しみやすいようだった。色もわかりやすく興味へと繋がっていった。ハードブックで子ども一人でもめくりやすく、子ども自身も気に入っている様子がみられた。(第1子)

●6か月の時点では本人より兄(当時2歳)の方が頂いた絵本を気に入り、よく読んでいました。今では兄が読みきかせていて、お陰様で二人とも本が好きな様子です。ありがとうございました!(第2子)

●どのように絵本を読んであげたらいいのか全く分からなかったけど、実際図書館員の方と話しをしてすごく勉強にもなったし、子どもがすごく喜んでいたので、是非続けていってほしいと思います。(第1子)

●文章は理解できないが絵や色などに大きな反応を示す。本をめくるという動作を覚えるのに役に立つ。(第2子)

●ブックスタートは、とても楽しかったです。対応してくださった方がとても親身に接してくださり、私も子どもも楽しみました。ありがとうございました。なかなか、定価で毎度、本を買うのは大変なので、嬉しかったです。(第2子)

●絵本については、もう少し何種類か選べればよかったと思います。(第1子)

●子どもへの読みきかせのやり方を教えていただき、とても参考になりました。本をプレゼントしていただいたことがきっかけで、子どもも絵本が大好きになりました。(第1子)

●ブックスタートで頂いた本が車の本だったので、女の子には車も覚えやすいですが、動物の本などでもよいかなと思います。今では車に興味をもちましたが、始めのうちはあまり興味がないようでした。(第1子)

●ほぼ毎日寝る前に読みきかせをしています。今5歳のお兄ちゃんが赤ちゃんの頃からで、下の子は、まだ自分の本を読んでもらうというより、お兄ちゃんが聞いている隣に居るって感じ。ブックスタートの本は、当時4歳位のお兄ちゃんでも喜んで、今は、お兄ちゃん(5歳)が読んで第(1歳7か月)に聞かせてくれています。(第2子)

●どんな本にしたらいいかわからない時期なので、頂けて嬉しかったです。子どもも喜んで見ていました。「ばいばい」マネしていました。(第2子)

●子どもがまだ6か月の時は、絵本なんてまだ早いわ、どんな絵本を選んでいいのかわからなかったし、読みきかせ方もわからなかったで、絵本を読んであげるキッカケにもなったしよかったです。(第1子)

●絵本に興味を持つきっかけになってよいと思う。年齢に合わせたオススメ本を教えてください。(第1子)

●絵本の車を見てとても喜んでます。頂ける絵本の選択肢があればもっとよかったと思います。(第1子)

●一番最初に読んだ本だからか、とても気に入っています。おかげで、車が(タイヤ)大好きで、何回も読んでいます。(第1子)

●ブックスタートで頂いた本『ぶーぶーぶー』が、すごく気に入ったことから、子どもに本を見せたり、読んだりするようになりました。特に今でも、『ぶーぶーぶー』が大好きで、何度も読んだ私はまる暗記して、本がなくても、車が通ったときにお話したり、声を出したりしてくれます。よい本に出会えてとてもよかったです。ありがとうございました。(第2子)

●子どもが好きなページがあって、自分でパラパラめくってはそのページを開き、見せてくる。読みきかせができる程大人しくしてくれないので、文章を読むよりもイラストや写真を見て「○○だね～」と話しかけることの方が多いかな。(第1子)

●小さい時から本を読みきかせしていると、本好きになると聞いたので、たくさん本を読みきかせしています。一人で座って、本をペラペラとめくって動物の絵本などを見て、お話をしています。まだ子ども

は小さいですが、たくさんの本を読んでいます。頂いた本も「ブーブ」と言ってページをめくっています。すごく楽しそうです。かわいい本をありがとうございます。大切にしています。(第1子)

●頂いた絵本は車の本でしたので、少々、男の子向けのように感じました。初めての娘という事もありましたので、女の子らしく……というような気持ちもあり、女の子向けの物だともっと嬉しいのになあ……と思った記憶があります。赤ちゃんが反応する音ということでは、よい物かとも思いますが……。 (第1子)

●頂く絵本の種類を2〜3種類用意してもらいたいです。子どもによって興味を示す本は違うと思うので。もし用意しているのなら、選ばせてもらえたら嬉しいです。(第1子)

●ブックスタートで受け取った本は、かなりの頻度で読んでいます。他にも本は30冊程ございますので、選んで持ってくる事が多いです。『ぶーぶーぶー』は少し破れていますが、車が好きなので大活用中です。色も覚えられていい本だったと思います。(第1子)

●上の子どもの時に頂いた本と同じだったので、違う本が欲しかった。(第2子)

●おすすめする本だけあって子どもがとても気に入っているようで、まねをしてしゃべってとても楽しそうなので、よい活動だと思えます。(第1子)

●図書館の読みきかせはいつ行っているのかよく知らない。ブックスタートを受けた時の事をあまり覚えてないので答えられない。(第1子)

●車の絵本を頂き、時々読みきかせをしています。ただ、動物の絵本の方が関心を示すので、2〜3種類の絵本から選ばせてもらえたらもっとよかったのかなと思います。(第1子)

●ブックスタートを受けた時はあまり関心を示さなかったのですが、片言を言えるようになった頃から、かなりの興味を示し本を見るようになった。わからなくても、読んでいくうちに興味を持ってくれてよかった。続けることが大事なんだとわかりました。(第1子)

●子どもがよく本を自分で取り出して、ページをめくってみている。(第1子)

●この子で頂いた本『ぶーぶーぶー』よりも、上の

子の時に頂いた本『こんにちば、どうぶつたち』の方がくいつきがよく、「いいこいいこしてあげて」などと言うと、本をなでなでしたりしてかわいいです。動物はやっぱ赤ちゃんでも好きなんですね。(第3子以降)

●ブックスタートは、絵本を頂けて「絵本をこれから子どもに読んであげよう」と思うきっかけになり、いい事だと思います。しかし、絵本が毎年同じだったり、もう少し、子どもの好きな動物や、しつけのある本だと毎日でも読むのになあ……とは思いました。年齢の近いきょうだいと全く同じ本なのも……とも思いました。(第2子)

●私が行った時は、6か月育児相談に来ている方がとても多く、なんだかととても慌ただしかったです……。絵本は、上の子の時から每晚読みかせをしていて、私自身大好きなので、もっとゆっくりブックスタートを受けられればよかったな……と思えます。(第2子)

●ブックスタートは子どもが本に接するよい機会だと思います。受け取った絵本は上の子と一緒に読んだり見たりしました。楽しい本に興味を示していて、これからも読みかせはできるだけしていきたいです。(第2子)

●子どもが見たい時に見ている。幼稚園などに行き、子どもと親と一緒に過ごせる時間が減った時、読みかせが親子の楽しみのひとつになる。ついつい、子どもをきつく叱ってしまった時、毎晩読みかせが習慣になっているとフォローできる。(第3子以降)

●本を頂けるのは、とても嬉しい。また姉(3歳)のときと本も違い、姉は本がボロボロになるまで読み、その本を弟も読み、同じ本を姉弟で読めるのは親としても嬉しく思う。また、弟のときは本を入れるバックもいただき、図書館で本を借りるときに、大いに役立っている。ただ、大きな本が入らないので、もう少し大きいともっとありがたい。(第2子)

●子どもが本が好きで、自分で持ってきて、読むとまねをしたり、他の本も興味を持つようになった。父親とのコミュニケーションにとっても役立っている(父親が帰宅すると真っ先に本を持ってひざに座り、読んでもらっている)。絵本を通して、数や色、生き物など区別している事がわかるので、子どもの成

長がよく感じられる。(第1子)

●小さい子どもにどのような本が向いているのか分からなかったので参考になりました。今でももらった絵本は子どものお気に入りです。自分でめくっておしゃべりしたりして楽しそうです。とてもよいきっかけになったと思うので、参加してよかったと思っています。ありがとうございます。(第1子)

●本の内容も「ブーブー」とか子どもにとっては耳に残るようで、今ではお気に入りの1冊となりました。1ページ1ページが厚めにできているのも、ブックスタートの本として適していると思います(薄いと破ってしまうので……)(第1子)

●最近では自分から頂いた絵本を持ってきて、読んでとせがみます。お気に入りの絵本です。(第1子)

●子どもの反応が見られてよかったです。私が読むのとは、反応が違います。お兄ちゃんの方が、よく本を見ていたりします。「これ、ブーブー!!」とか言っているのを真似して、指をさしてみたりしています。(第2子)

●子どもがとても関心を持つ絵本を頂けて嬉しかったです。3歳の娘と一緒に喜んで聞いてくれます。(第2子)

●6か月健診とは違う日にやってもらいたい。長い……。子どもがぐずっていて大変だった。それが先にやって。もらった本で待っている間読ませたりできるから。(第1子)

●なかなか図書館に足を運ぶのは難しいですけど、家では、きょうだいと一緒によく絵本を読んでいます。上の子も下の子に読んであげたい!と思うようで、とてもほほえましい様子を見る事ができます。(第2子)

●頂いた絵本を、息子はとても喜んで見てくれました。(第2子)

●図書館も常に利用しているので、ブックスタートも、より身近に感じられありがたいです。(第3子以降)

●子どもが本を楽しむだけでなく、大人も楽しませてもらえたので、ブックスタートで本を受け取れてよかったです。(第3子以降)

●きっかけができて、よかったと思います。(第1子)

●本をもらって読んでいたら、初めに話した言葉が、

「ブーブ」でした!「ママ」と呼んでもらえたのは、1か月後位でした!(第2子)

●こどもの好きそうな絵本でとてもいいです。(第3子以降)

●見やすくわかりやすく、よかったので。(第1子)

●子どもがとても喜びました。(第1子)

●受け取った絵本を一人で見て「ブーブー」とまねをしながら、まるで一人で読んでいるようにしています。(第3子以降)

●車やトラックに興味があり、本を頂いてから実物を指さして、「あった」と伝えてくれることが増えた。本で見たもので自然とコミュニケーションができていたので、事業はありがたかった。(第1子)

●ブックスタートが、子どもが絵本を手にするきっかけとなりました。6か月頃は、まだ本に興味がないようでしたが、最近は読んでほしいと、私のところに本を持って来るようになり、ブックスタートで頂いた本をよく読んでいます。ありがとうございます。(第1子)

●「まだ早いかな?」「何の本に興味を示してくれるか分からない……。」など、迷ってしまうのですが、ブックスタートのお陰で一步を踏み出せました。時間を見付けて、今まで以上に、読みかせの時間を作りたいと思います。(第2子)

●簡単なお話だったので、次女が覚えて長男(第3子)に読んであげていた。ほほえましい光景だった。(第3子以降)

●男児なので頂いた絵本に車に乗っていてとても興味を示しています。今でもよく見て、「ぶー、ぶー」と言っています。(第1子)

●ブックスタートで頂いた本が大好きです。(第1子)

●女の子なので、車の本にはあんまり興味を示してくれませんでした。色に興味を持ち始めた時、再度見せたら、少しだけ見るように。もう少し女の子でも楽しめる本だと嬉しいです。ただ、健診の時に6か月でも本を見る事を知り、子どもと遊ぶのがより楽しくなりました。(第1子)

●図書館へ行き、子どもと借りて、家で楽しんでいます。絵本を見るきっかけとなりよかったです。(第3子以降)

●本に触れることは大切だと思う。子育てに追われ

ているので、こういう機会があると、改めて取り組みもうと思える。(第2子)

●ブックスタートでもらった本が、大好きで毎日のように読んでいます。ブックスタートを受けてよかった。(第1子)

●図書館等の読みきかせに行こうと、なかなか思えないのだけど、子どもが興味を持つ本等の紹介はとても役に立った。おすすめの本がわかると選びやすい。(第1子)

●『ぶーぶーぶー』という絵本は子どもにとって覚えやすかったようで始めの頃はどの絵本をひらいても自分で「ぶーぶーぶー」と言って読んでいました。私自身乗り物に興味がある方ではないし、子どもも女の子なので自分で絵本を選んでいたら、この車の本は選ばなかったと思います。ブックスタートでよい絵本に出会えてよかったと思います。(第2子)

●まだうちの子は本に興味がなかったので、おとなしく聞くことができなかったですが、興味を示した時に絵本があればスタートしやすいし、絵本はたくさんあって何から始めていいのか分からなかったの、行ってよかったと思います。(第1子)

●絵本を読むきっかけになったし、ブックスタートで頂いた本をとて子どもが気に入っているのとてよかったです。何度も読んでいますのでポロポロです。これから続けていってほしいですし、なかなか協力する事はできませんが、がんばってください。すみません。(第1子)

●6か月健診の相談を待つのが長すぎて、子どもが寝てしまい、読みきかせはしてもらいませんでした。本をすすめるのはよいと思うが、健診の後に……というのは望ましくない気がします(親も疲れているし……)。別の日にしては? 頂いた本は子どもも気に入っているし、何度も何度も読んでいます。(第1子)

●なかなか家で本を読む習慣のない子どもや家庭にはとても大切な機会であると感じる。なので、ぜひ今後も続けてほしい。(第2子)

●下の子が頂いた本は上の子(3歳)も喜んで見えています。(第3子以降)

●ブックスタートでもらった『ぶーぶーぶー』は、かなりお気に入り、よく持ってきます。はじめはおとなしく聞いていますが、いつしかめくるのに夢

中になっています。一緒に「ぶーぶー、ぶっぶっ……」と発音し楽しそうです。(第2子)

●『ぶーぶーぶー』の絵本が大好きで、ポロポロになる位持ち運び読みました。そこから「ブーブ(車)」など言葉を覚えるきっかけにもなりました。(第1子)

●子どもに合った本の選び方や読み方など教えてもらえると嬉しい。(第2子)

●『ぶーぶーぶー』をもらってしばらく読み続けたが、他の絵本も沢山あったので最近まで読んでいなかった。久しぶりに読もうとすると、自分で声を合わせて音読し子どもの記憶力に驚いた。とてもよい本だと思う。(第1子)

●はじめはどのような絵本を選んでいいかわからないし、選んだ本もこれでよかったのかなと思うことがあったので、ブックスタートで絵本をもらえてとてもよかったです。『ぶーぶーぶー』の絵本をもらったのですが、女の子のせいなのか、車にあまり興味がないう。家にある絵本も、動物や食べ物が出てくる本のほうが、興味があるようです。(第1子)

●6か月健診の時に本をもらって、早速、家で読みきかせしてみたが、ほとんど興味を示さなかった。少し指さしていただく。全然じっとしていないのでムリだった。それ以来やらすじまい。(第1子)

●『ぶーぶーぶー』という絵本を頂いたのですが、まだ車にあまり興味がなく最後まで読めませんでした……。頂く身分でぜいたくを言って申し訳ありません。もし可能でしたら、2〜3冊の中から興味がありそうなものを選べたら……と思いました。(第1子)

●読む調子をかえて「ぶっぶっぶっ」「ぶーぶーぶー」とよみきかせている。子どもたちに絵本の楽しさを知ってもらいたいです。(第1子)

●ブックスタートを受け取るにあたって、本を読みきかせるきっかけとなった。今では、自分で本をひらいて見えています。(第1子)

●さすが、絵本に詳しい方々が選んだ絵本! お姉ちゃんがブックスタートで頂いた『こんにちはどうぶつたち』もこの間の『ぶーぶーぶー』も大好きな絵本のひとつで毎日のように「はい! 見る! 見る!」と持ってきます。言葉を覚えたり、親子のふれあひになったり、想像力が磨かれたりとい

っぱいで、何より読んでいて楽しいので、私たちも絵本が大好きです。図書館もブックスタートがきっかけで、お姉ちゃんの時からよく行くようになりました(絵本だけでなく育児書や手芸本で私自身が助けられたこともあります)。是非これからもこの事業を継続してたくさんの人に絵本のよさを伝えてください!(第2子)

●ブックスタートで頂いた本を子どもがとても気に入ったようで、本棚にしまっただけある本を自分で取り、絵を見ながら楽しそうにしています。本を読んであげるととても喜ぶので、こちらも嬉しくなります。この頃の子どもに用意してあげる本が、どういった物がよいかわからなかったの、本を頂いて参考にすることができました。(第1子)

●絵本を破ることに興味がっぱいで、なかなか落ちついて読んであげることができていません。(第1子)

●本を頂けてとても嬉しかったです。一人目の子どもだったら毎日読んでいたと思います。二人目の子どもだったので、すでに家に沢山本があり、ストーリー性のあるものを読みきかせていたので少し物足りなくて、あまり読みませんでした。でも月齢にあった本の、認知はしました(ストーリー性のあつ本といつてもノンタンとかそういうものです)。2冊程違うパターンの本を用意していただいで気に入った方を選べると嬉しいです。(第2子)

●ブックスタートで頂いた絵本はよく活用させていただきましたが、未だに静かに応じてくれず、ただページを好き勝手にめくったり途中で勝手に本を閉じたりしてばかりで、読みきかせることがほとんどできません。ページを破いたりもします。ストーリーを1ページ1ページめくりながら進めていくことができないので(ページを飛ばし飛ばしめくってしまうので)今はストーリー性の少ない「動物」といった本を好んで読んでいます。(第1子)

●『ぶーぶーぶー』は、娘が6〜7か月の頃、興味を示すことは、ほとんどなかったのですが、2歳差のお兄ちゃんの方がかなり気に入、何回も何回も見ていました。上の子が興味を示すことで、少しづつ下の娘も興味を持つことが出来るため、ブックスタートを受けてよかったと思います。本を読むことが苦手でしたが、子どものために少しづつ、できる

限り毎日読むことで、自分が楽しんで読みきかせをするようになりました。絵本を読んであげることで、自分が一番リラックスした時間が持てることに気が付きました。読みきかせは子どものため……と思ってやっていますが、実は、自分のためなのかもしれない……とも思っています。『ぶーぶーぶー』ははっきりとした色で描かれているため、最近では色を覚えさせるためにも使えるなあーっと思っています。(第2子)

●もらった時は、まだ口にいれてしまう時期で、角がポロポロになってしまいましたが、本自体は好きそうなの事がわかってよかったです。(第1子)

●子どもの頃に好きだった本は大人になつても心に残っていて、親から子へと読み継がれていきます。読書の習慣がない保護者にとつてこそ、ブックスタートの意義は大きいと思います。財政的には厳しい事業だとは思いますが、ぜひ継続してほしいです。(第2子)

●本は、言葉をコミュニケーションの中で教えてあげることができます。きょうだいもいるので、年齢に応じた本の読み方がしてあげられます。子どもと接する大事なひとつの手段です。(第2子)

●絵本『ぶーぶーぶー』を頂いたのですが、とても単純でわかりやすい絵本だったため上の子(3歳)が下の子に読みきかせてくれる(字が読めないの、絵を見てオリジナルストーリー)時があつて、「よい絵本を頂いたな」と思いました。(第2子)

●初めての子育てで余裕のない中、ブックスタートの機会を与えていただいたことで、子どもと絵本を通してふれあう楽しさを教えていただきました。車好きの男の子にとつては、『ぶーぶーぶー』は、興味を引く本となり、とても読みやすくよかったです。今でも自分で本棚から持ってきては読んでほしいという時もあり、自分でめくって、見ている時もあります。(第1子)

●ちょうど頂いた本が車の本で、男の子が喜ぶ絵で、毎日のように見せていた。子どもも指さして、「アーウー」とかお話をしているようでした。上の子も下の子も、ブックスタートの本をよく使わせてもらいました。私も本が好きで、自分の子どもの頃の絵本や好きで買求めた本を、子ども達に読みきかせています。(第2子)

●合併前の自治体ではもっと早くやっていたので、静岡市もやっと始まったとわかり嬉しかったです。第一子の時はなかったので、これから子どもの為に続けていってほしいです。(第2子)

●『ぶーぶーぶー』繰り返しのリズムのよい言葉と単純明快な絵と色づかい、サプライズもある展開に？とても惹きつけられています。今は自分でページをめくって遊んでいます。親子のふれあい、やりとりに活用しています。(第1子)

●ブックスタート等のボランティア活動はとてもよい事だと思います。1歳未満の子どものどのような本を読ませたらいいのか、また1〜2歳の子どものように本に興味をもつのか知りたいです。働いている母親には時間が特になく、読みきかせをしてあげたくても何を読んであげたらいいかわかりません。子どもだけでなく、母親にも何かよい本があったら教えてもらいたいです。(第1子)

●6か月の頃は私がまだ絵本を読んであげていなかったせいもあってか、読みきかせしていただいても興味を示さないどころか、おとなしく座っているコすらできなかったのですが、頂いた絵本をはじめいろいろな絵本を徐々に見ていくうちに絵本が好きなになり、今では寝る前に毎日必ず読むようになりました(……というか、絵本を読まないし納得して寝ないほど)。仕掛け絵本も最初は引っ張って破いたりしましたが、今では「本を大切にする」することも覚えしました。読みきかせを始めるタイミングや、初めての絵本はどのようなものがよいのか判らない人も多いかと思うので(……というかそんな余裕もない状態でした、私は。)、ブックスタートは素晴らしいサービスだと思います。(第1子)

●子どもが自分で本を持ってくるので、持ってきた時は私も何かやっけていても手を止めて、本を読むように心がけています。最後まで聞かないことも多いですが、コミュニケーションの一つだと思って、お互い楽しくやっています。(第1子)

●ブックスタートで初めて絵本を体験しましたが、自分の子どもがすごく楽しそうだったのでビックリしました。それがわかって私もすごく嬉しかったです。(第1子)

●絵本がよいということは分かっていましたが、どのような本が始めるのにちょうどよいか、少し迷っ

ていましたので、『ぶーぶーぶー』をいただいて参考になりました。(第1子)

●ブックスタートで頂いた絵本がお気に入り、一時期、何度も繰り返し、「読んで」と持ってくるがありました。本を頂いたのをきっかけに、他の絵本も調べて購入し、子どもと読むこともでき、ありがたかったです。(第2子)

●上の子が下の子に読んであげている姿を見てとても嬉しかったです。(第2子)

●『ぶーぶーぶー』は、子どもが破いてしまわないので安心して部屋に置いておくことが出来ます。一度きりでなく何回か絵本をいただけたら嬉しいなと思いました。(第1子)

●ブックスタートで頂いた本は、私も暗唱できる程に。寝る前は部屋を暗くして、子どもに聞かせています。好きなフレーズになると笑顔になったり、手を叩いて喜んでいきます。きっと絵を見なくても、その絵がイメージできているんでしょうね。絵本のもうひとつのよさが分かったような気がしました。(第1子)

●第1子でもらった『こんにちは どうぶつたち』は、とてもよく使った。(第2子)

●理想としては、子どもが寝る前に読みたい本を自分で持ってきて、夜絵本を読んであげてから寝るとするのが理想です。もう少し子どもが本に興味を持つように、これから接していきたいと思います。(第1子)

●一人目の時に頂いた、『こんにちは どうぶつたち』がお気に入りです。動物のまねをして楽しんで見えています。絵本は、一人目も二人目も大好きです。(第2子)

●『ぶーぶーぶー』は大好きで、今でも持ってきて読んでと言います。赤い車を指して、「ママブー」と家と同じ色の車をしっかり分かっているようで楽しいです。(第1子)

●ブックスタートで頂いた『ぶーぶーぶー』は子どもが一番のお気に入りの本です。自分で「ぶっぶ」「ばっば」と声を出して読んでいるつものようです。毎日のように私の手を本の所に持っていき、読んでとせがみます。もうすっかりボロボロですが、これからもまだお世話になりそうです。とても役に立っているのが本当に感謝です。ありがとうございます

います。(第1子)

●絵本を読む&ふれあうきっかけになると思う。(第2子)

●6か月健診の時に頂いた本が車の本で、その本を読みきかせていたら車に興味を持つようになり、今でもきょうだい二人でよく読み活用させていただいています。(第2子)

●ブックスタートでボランティアさんが読んでくれた時、子どもがすごく反応がよく、楽しそうで「こんなに本で笑うんだ」と初めて知る事ができました。それまで本を読んであげてもあまり反応がなくて、読むのをやめてしまったりしていましたが、頂いた本はとても気に入ったみたいでたくさん活用してもらいました。そのおかげか？今では自分で本を持ってくるし、その時車の本をもらったのですが、車が大好きになりました。子どもにとってとってもありがたかったです。(第1子)

●仕事をしているので、なかなか図書館に行きたくても行けないのですが、ブックスタートで頂いた絵本は子どもも気に入って、最近では車を見るとぶーぶーぶーと言ったりします。もっと本当はいろんな絵本も読んであげたいのですが、買うのは高いし、図書館にはなかなか行けないし、悩むところもあります。(第1子)

●年齢に適した絵本を紹介してもらえると、書店で選ぶ時に助かると思う。(第1子)

●毎年、同じ本なので年ごとに替えてほしい(きょうだいでも同じ本をもらった子もいるため)。(第1子)

●6か月健診の時に、子どもとふれあう時間で本を読んであげることもいいな〜と思い、その後図書館へ行き本を借りたりしました。これからも仕事が休みの日など、一緒に図書館で本を選んだりしたいと思います。(第1子)

●第1子の時、色々を読ませようとしたが、興味が出てからでないとイヤがるので、目にふれる場所には置くが無理に読むことはしていない。でも3歳になった第1子は、今は自分で本を読むのが大好きです。(第2子)

●保育園に行っていると本を毎月購入するので、自然と本に興味を持ってくる。(第2子)

●絵本を受け取った時は、まだ読んであげてもあま

り興味を示さなかったが、8か月くらいになると興味を持ってくれた。今でも『ぶーぶーぶー』は大好きで毎日のように読んでいます。(第1子)

●本をもらう事ができて、すごくよかった。本を読んでもらっている時に、子どもがすごく笑顔で嬉しそう様子を見て自分でも嬉しくなった。ありがとうございました。(第1子)

●今回頂いた『ぶーぶーぶー』も、上の子の時の『こんにちは どうぶつたち』も子どもが大好きです。女の子だと、動物の本も自分だったら選ばないかもというもので、ちょっとびっくりしました。一人目の時はこれが本当の読みきかせのスタートになったし、本のセレクトのうまさからもこれからも続けてほしいです。(第2子)

●車が好きなので、好んで「読んで!」と私の所へ持ってきます。(第1子)

●ブックスタートは必要なことだと思った。(第2子)

●ブックスタートで絵本を頂いた頃は、まだあまり興味を示しませんでした。最近になって、自分で本を持ってきたり、めくったり、指でさしたりするようになったので、これから本をたくさん読んであげられるといいと思っています。(第2子)

●意味はよくわからないようでしたが、本をめくったり、色を見て楽しんでいました。頂いた本をよく私のところへ持ってきて、ひざの上に座り、読んでと言っていました。(第1子)

●最初は何もわからないようでも、毎日のように絵本を見せていると、そのうち子どもが自分で本を持ってきて読んでもらいたがるようになった(読み出すとすぐに違う本を取りに行ってしまうが)。続けていればそのまま本の好きな子になってくれると思う。ブックスタートは健診のおまけのような感じでやってもらいましたが、もっと本格的に時間と場所を設けてやった方がよい。子どもは小さいのでわからなくても、どちらかという親に対して意識付けが大切だと思うので。ブックスタートの試みそのものはとてもありがたく、よいと思っている。(第1子)

●毎年、絵本を変えてほしいです。(第1子)

●D市でもブックスタートをやっているとわかって、子ども達の事を考えてくれているんだという気がし

て、嬉しかったです。(第2子)

●本は大好きなようで、自分でページをめくっては気になるところで止まったりするのですが、読みきかせとなると難しいです。自分で触って、気になるページで力が入って破ってしまったり、ブックスタートで頂いた厚紙の本も、なめてボロボロです。修復するのが面倒で、本の出番は減ってしまっています。(第1子)

●上の子が女の子だったのでいくつか絵本は持っているのですが、車の絵本をもらえて嬉しかったです。最近は車で遊んだりするので、絵本の出番も多くなっています。(第2子)

●図書館の読みきかせに参加する予定で、楽しみにしています。(第3子以降)

●『ぶーぶーぶー』を何度も何度も読んであげたり、暗記して外でも語りかけるようにしていたら、外で赤や青などの車を見つけると指をさすようになりました!! 又、テレビのリモコンに同じ色がついているのに気が付くと、自分で本をもってきて「同じ!!」という感じに一生懸命教えてくれました。単純(シンプル)な絵本の魅力がとてもわかる本を頂いて嬉しかったです。これからもぜひ続けてください!! (第1子)

●なかなか時間が無くて本を与える事や、選ぶ事が無かったけど、頂いた本は利用させてもらっています。子どもも興味を持ちやすい内容でした。(第3子以降)

●ブックスタート前から絵本を読んだことがありましたので、アンケートでは「あまりそう思わない」が多くなりました。私自身絵本が大好きなので、産まれる前から絵本を集めていたので、よく活用しています。(第1子)

●男の子で車のおもちゃに興味を持っていたので本にも大変興味を示しました。5歳のお姉ちゃんが読みきかせてあげています。(第2子)

●図書館で行うおはなし会等のイベントに参加はしたいが、駐車場がないため参加が難しい。(第2子)

●頂いた時はその本に興味をあまり示さなかったのですが、今は大好きな絵本です。こんな本おもしろいと思うのかなーと、はじめは思ったのですが、さすが!と思いました。(第1子)

●ブックスタートで頂いた本が、言葉が増えてから更に好きになったようで真似して口にします。最初はあまり興味を示さなかった本も成長とともに関心するようになり、自ら持って来るなどします。ブックスタートで絵本に触れる機会を与えていただいてありがたく思っています。(第1子)

●今となっては6か月育児相談の時のことはうる覚えで、ただ必死だった気がします。とっても疲れて帰って来たように思います。なので出来ればブックスタートは育児相談以外の時にゆったりとした気持ちで受けたかったです。慌ただしく終わった気がして残念でした。(第1子)

●車という言葉を早く言えるようになった。(第1子)

●絵本がもらえ、家にある事で、繰り返し読みきかせる事ができてよかった。又、このシリーズがよいと知ることができ、絵本選びの参考になった。(第1子)

●本を頂けて嬉しかったのですが、すでに持っているものと一緒だったので少しガッカリでした。(第1子)

●頂いた絵本は、子どもの月齢に合ったものなので、すぐに活用できて大変助かりました。初めはめくるだけだったのが、今では続けて読んでも座っていられるようになり、読んで欲しい本を持ってくるようになりました。小さい子どもがいて本を選んだり買いに掛けるというのは、大変だと思いますし、何を選んであげればよいのか迷う所だと思うので、ブックスタートはとてもよいと思います。これからも是非続けていただきたいです。(第2子)

●絵本に接するよい機会になりました。ブックスタートで頂いた本は、活用しましたが、私の読みに耳を傾ける事は少なく、もっぱら、こどもがページをめくるのが楽しかったようで、ペラペラ、ひたすら、めくっていました。今はもうその絵本よりも、動物や車の写真が載っている本や、音の出る本をめぐっては指を指しています。(第1子)

●6か月の頃はまだまだあまり本に触れさせず、持っている数も少なかったのですが、ブックスタートで子どもと一緒に楽しい時間を共有できることはとても大切だと感じました。今では本が大好きで、6回は繰り返し読みます。(第1子)

●よい絵本が頂けて嬉しかったです(頂いた本は)。読みやすいので、3歳上のお姉ちゃんが読みきかせをしてくれます。(第2子)

●受け取った絵本は、しばらくよく読んであげたのですが、ちょうど何でも口に入れる頃で、本をかじったりで少しボロボロになってしまいました。最近では、破ったりするので怖くて図書館の本などを見せられません。(第3子以降)

●最初は最後のページまで集中力がもたずにすぐ飽きてしまうようでしたが、何度も見せていくうちに最後まで集中して話を聞くようになり、自分で声を出すようになり、今では自分から本棚から絵本を取り出してきて、「読んでー」と来てくれます。(第1子)

●この頃の子どもに用意してあげる本が、どういった物がよいのかわからなかったのので、本を頂いて参考にすることができました。ブックスタートで頂いた本を子どもがとても気に入ったようで、本棚にしまっておく本を自分で取り、絵を見ながら楽しそうにしています。本を読んであげるととても喜ぶので、こちらも嬉しくなります。(第2子)

●何種類か本があって選べると嬉しいです。男の子だから、女の子だから、と決めつけるのはよくないのですが、実際、兄二人の時と本の趣味が違います。また、持っている本とかぶってしまうのもったいないので……。 (第3子以降)

●本をくれるだけあって、子どもの興味がわかってるか、ものすごくもらった本に興味津々でした(男の子だから余計に車に対して)。他にも気になった本があったので、本屋で買って帰りました。自分の小さな頃に読んだ本とかを買ってあげたいと思う。(第1子)

●もらった絵本はお気に入りで、よく本棚から自分で持ってきます。こんなに絵本が好きだとは思わなく、嬉しく思いました。ありがとうございました。(第1子)

[E市]

調査概要

調査協力者

E市6か月児健診にてブックスタート・バックを受け取り、2011年6月～7月にE市にて1歳6か月児健診を受診した赤ちゃんの保護者

調査方法

1歳6か月児の対象者に事前に送付する問診票などの資料とともに調査票（A4・1枚）を郵送し、健診時に回収。

- ・調査票配布数（健診対象者数） 298
- ・回収数 267（回収率 89.6%）
- ・集計対象（E市でブックスタート受けたと回答した方） 247

調査結果

*各設問は無回答を除いて集計。nは回答者数。

A. お子さんやご自身についておたずねします

（以下の質問では、今回健診を受けに来られるお子さん についてお答えください）

● A 1: お子さんは？（n = 247）

第1子	112	45.3%
第2子	101	40.9%
第3子以降	34	13.8%
総計	247	100.0%

● A 2: あなたはお子さんの？（n = 246）

母親	243	98.8%
父親	1	0.4%
祖母	2	0.8%
祖父	0	0.0%
親戚	0	0.0%
その他	0	0.0%
総計	246	100.0%

● A 3: ご家庭でお子さんと絵本を見たり、読みきかせをしたりすることがありますか？（n = 247）

全くしたことがない	0	0.0%
することがある	247	100.0%
総計	247	100.0%

● A 4①: (A3で「することがある」と答えた場合) その頻度は？（n = 246）

週1回未満	44	17.9%
週1～2回	58	23.6%
週3～5回	59	24.0%
ほぼ毎日	85	34.6%
総計	246	100.0%

● A 4② (A3で「することがある」と答えた場合) 何か月の頃から？（n = 242）

1～2か月	21	8.7%
3～4か月	35	14.5%
5～6か月	67	27.7%
7～8か月	53	21.9%
9～10か月	26	10.7%
11～12か月	25	10.3%
それ以降	15	6.2%
総計	242	100.0%

● A 4③: (A3で「することがある」と答えた場合) 誰が読んでいますか？（複数回答・n = 245）

母親	242	98.8%
父親	158	64.5%
祖母	88	35.9%
祖父	25	10.2%
きょうだい	59	24.1%
その他*	4	1.6%

*「その他」の記述内容: 保育士 1件 / 支援センター職員 1件 / 叔母 1件 / 親戚 1件

● A5: (A3で「することがある」と答えた場合) ご家庭での読みきかせの状況について、A3・A4でそうお答えになった理由は何ですか？（複数回答・n=234）

楽しいので	96	41.0%
ゆったりした気持ちになれる	38	16.2%
子どもとふれあう時間になる	151	64.5%
きょうだいと一緒に読むので	94	40.2%
ブックスタートで絵本を受け取ったので	53	22.6%
まだ早いと思う	0	0.0%
子どもが関心を示さない	10	4.3%
時間にゆとりがない	21	9.0%
絵本を持っていない	0	0.0%
その他	46	19.7%

B. 6か月児健診で実施した「ブックスタート」と、ご家庭での読みきかせについておたずねします

● B 1: E市では6か月児健診の際に、赤ちゃんのまわりで絵本を介した楽しくあたたかいひとときが持たれることを願い、「ブックスタート」を実施しました。この事業の趣旨を覚えていますか？（n = 235）

覚えている	99	42.1%
だいたい覚えている	117	49.8%
覚えていない	19	8.1%
総計	235	100.0%

● B 2: ブックススタートを受けて、どのように感じましたか？

		そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 楽しかった	(n=238)	135 56.7%	90 37.8%	9 3.8%	4 1.7%
② ほっとする時間があった	(n=239)	97 40.6%	116 48.5%	20 8.4%	6 2.5%
③ 読みきかせ時の子どもの様子を見られてよかった	(n=239)	156 65.3%	72 30.1%	10 4.2%	1 0.4%
④ 赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった	(n=239)	142 59.4%	81 33.9%	13 5.4%	3 1.3%
⑤ 子どもとのコミュニケーションに役立ちそう	(n=239)	162 67.8%	74 31.0%	1 0.4%	2 0.8%
⑥ 自分には難しいと感じた	(n=238)	4 1.7%	38 16.0%	111 46.6%	85 35.7%
⑦ 自分の子どもにはまだ早いと感じた	(n=239)	11 4.6%	29 12.1%	83 34.7%	116 48.5%
⑧ 絵本がもらえてうれしかった	(n=238)	203 85.3%	31 13.0%	3 1.3%	1 0.4%
⑨ 絵本についてもっと知りたいと思った	(n=239)	85 35.6%	121 50.6%	30 12.6%	3 1.3%
⑩ 図書館員やボランティアと話ができてよかった	(n=238)	62 26.1%	127 53.4%	39 16.4%	10 4.2%
⑪ 赤ちゃん連れで行ける施設や催しの情報が得られてよかった	(n=236)	54 22.9%	137 58.1%	36 15.3%	9 3.8%
⑫ ⑩の施設や催しに行ってみたいと思った	(n=235)	58 24.7%	122 51.9%	46 19.6%	9 3.8%

● B 3: ブックススタートで受け取った「絵本」を、活用しています(しました)か? (n = 239)

かなり活用している (した)	105	43.9%
活用している (した)	115	48.1%
あまり活用していない	16	6.7%
活用していない	3	1.3%
総計	239	100.0%

● B 4: 今後もこの事業を継続してほしいと思いますか?(n = 239)

そう思う	209	87.4%
ややそう思う	24	10.0%
あまりそう思わない	2	0.8%
そう思わない	4	1.7%
総計	239	100.0%

● B 5: ブックススタートについて、ご意見・ご感想がございましたら自由にご記入ください
 (B 3・B 4でそうお答えになった理由や、ブックススタートで受け取った絵本をどのように活用されているかなど)

自由記述記入数：88 件 文末括弧内：対象児出生順位

- ありがとうございます。ありがとうございました。(第2子)
- 年齢にあった絵本で子どもも喜んで見ている。絵本に興味を持ってくれるので嬉しい。(第1子)
- 赤ちゃんに読みきかせる絵本はどんなものがよいのか、ブックススタートやその時頂いた資料等を参考にさせてもらうことができてよかったです。頂いた絵本も何度も読みきかせして活用させていただいています。(第1子)
- 絵本を頂いた6か月の頃は、ページをなめたり食べるだけでしたが、だんだん内容に興味を持ち始め「読んで」と持ってきたり、上手にページをめくられるようになったり、成長を感じられます。(第1子)
- ブックススタートでもらった本を読んでいたが、子どもがめくるのに破れてしまったりしたので、始めのうちはぶ厚いページの本がよいと思います。でも自分ではどんな本を与えてよいのかわからなかったので、本をもらって嬉しかったです。(第2子)
- 最近、やっと絵本に興味を持ち始め、読んで欲しい本を持って来るようになった(それ以前は、1～2ページ読んだくらいで興味がなくなり、どこかへ行ってしまうたり、他のおもちゃで遊びだしたりしていた)。絵本を楽しそうに見る様子を、私自身も本を読んであげることが楽しくなり、毎日読んであげるようになりました。頂いた本も子どもが持って来た時に一緒に読んで楽しんでいます。(第1子)
- 最初はどんな本を買ったらよいかわからないので、参考になった。本のプレゼントはお姉ちゃんたちのお古でなく、マイブック!という感じで、少し大きくなってわかるようになったとき、話してあげたら嬉しいかも……。 (第3子以降)
- 対象絵本が持っている絵本と重複した場合、交換してもらえるのがありがたいと思った。『くだもの』が大好きになりました。(第1子)
- きっかけがないと行えない人とかいるし、どんなものを読ませていいのかわからない方もいるので、よいきっかけになる。仕事を普段しているので、市

- の健診などあれば休みやすいので、子どもとのふれあいがしやすい。(第2子)
- 上の子の時もそうでしたが、本に興味があっても、絵やお話を聞いて喜ぶのではなく、本をちぎるのが楽しいようで、もらった絵本は残念ながら全部破ってしまいました。個人差はありますが、もう少し遅めのスタートでもよいのではないかと思います。無料で絵本を頂けるのはとても嬉しいことなので、ぜひ続けてほしいと思います。(第2子)
- 自分にはなかなか余力がないと本を読んであげることは難しかった。初めて本を子どもが聞いたり見たりするのを見て、あ、関心あるんだ、と分かり、大変よいきっかけをもらった。(第1子)
- 今、絵本も有名で皆さん興味はあると思います。絵本の種類や、選択肢を、増やしてもらいたいです。(第2子)
- 絵本を選ぶ時(本屋で)、自分が好きかどうかで選んでしまうので、自分の普段なら手に取らない本を知る事ができてよかったです。(第3子以降)
- 赤ちゃんの絵本はなんで固いんだろう?と思っていましたが、かじかじしてもへたれなくて丈夫にできているんだと分かりました。なかなか二人目になると読んであげられる時間がないのですが、自分で見て楽しそうにしています。(第2子)
- 『くだもの』で食べるまねをして遊んでいます。(第1子)
- 兄がいるので、兄のときにもらった絵本とかぶらないように配慮してくださってありがとうございました。ブックススタートは健診時間にするので、健診の時間が長くなり、子どもがぐずぐずしてしまうのが残念です。希望者のみでもよいのかな? (仕事などや、保育園などのお迎えのある人は時間がないので)と思います。(第3子以降)
- 最初は私が読んで聞かせるだけだった絵本を、そのうち子どもが引っぱり出してきて、バラバラめくったり、指さしたり、色んな遊びが増えていき、成長したなあと思えました。1冊ずつの本が成長す

ることに色々活用できて(いないないばあや物の名前を覚えたり)とても楽しいなあと思いました。

(第1子)

●図書館で借りたりもしますが、いつも手に届く所に置いておけるというのは、大きいと思います(返却しないでよい)。絵本を頂き、6か月の頃に、また、「出産おめでとう。生まれてきてくれて嬉しいよ」と言っていたいでいるようで、とても嬉しかったです。ブックスタートは、ずっと続けてほしいです。(第2子)

●何冊かある中でそれぞれ自由に好きな本を親が選べるようにしたら、もっとよいと思います。(第2子)

●ブックスタート、とても嬉しい企画だし、大切な時間だと思います。ただ、E市の健診は子どもが眠い時間帯に、しかもものすごい数の子どもたちが集まるので、正直ブックスタート(読みきかせ)を楽しむたくても親も子ども疲れています。できたら健診を、もっと少人数でできるようにしていただければ、ブックスタートのことに関してもゆったりとした心・状態で受け入れることができるように思います。(第2子)

●「いないないばあ」は大好きなようで、すでにボロボロです。最近、ほぼ毎日、読んでほしいと本を持ってきます。(第1子)

●スタート時期は本をかじったり、すぐ他のものに興味を移して聞いているのか?と思っていたけれど、だんだんと自分から本を持ってくるようになり、楽しんでいて分かった。必ずひざの上に座るのでかわいらしく、よい習慣となり嬉しく思っている。車、動物、あいさつ等、絵本から教わったような……活躍している。今では一人で絵本をひらき、「いないないばあ」や何だか分からないけどおしゃべりしていたりして、成長したなあ、そっと見ている。赤ちゃんでも絵本を楽しむことが分かるきっかけとなり大変よかった。(第1子)

●子どもが読むような本でなく、単語が並べてあるだけの本のほうが、よく反応すると思いました。自分が買った本よりもらった本の方が、食いつきがいいです。ありがとうございました。(第3子以降)

●絵本はたくさん読んで聞かせたいので、嬉しかったです。おすすめの本をいっぱい紹介していただけるとありがたいと思います。頂いた本のうち、1冊

を気に入り、何度も「読んで」と持ってきていました。(第2子)

●絵本はたくさん買って用意していましたが、娘は、ブックスタートで頂いた本(『くだもの』『いないないばあ』)に一番興味を示したように思いました。絵本のセレクトもとても大切なのだなあと感じました。(第1子)

●絵本に興味を持ち始める時期が少し遅かったので、絵本はずっとしまっておりましたが、最近になって興味を持ったので、6か月の頃頂いたこの絵本を取り出して、読みきかせをするようになりました。他の絵本よりも気に入っているようで、特に『いないないばあ』の絵本は、ケラケラと笑うほど好きです。(第1子)

●動物の名前や食べ物教えるのに、活用しています。(第3子以降)

●絵本を読むと、子どもが笑顔になり、特に『いないないばあ』は6か月頃から、意味がわかったのか、必ず「ばあ」のところで笑っていました。『くだもの』の絵本は、色彩がとても鮮やかで、本物の果物を見ているような感覚で大人も楽しめました。(第1子)

●ブックスタートを受ける前から、図書館の読みきかせや、自宅での読みきかせをしていたので、6か月健診より以前にブックスタートを受けられたらよかったと思いました。(第1子)

●1歳7か月になった今でも、よく読んでいます。頂いた頃よりも、今の方が気に入っているようです。(第1子)

●1年前のことをはっきり覚えているわけではないので、このタイミングでのアンケートは遅いかなと思います。(第2子)

●とてもよい事業であり、みんなが応援されている!と強く感じました。(第1子)

●私自身、実母にずっと絵本を読んでもらっていたので、娘にも本を読む楽しさを知ってもらいたくて、ブックスタートを活用させていただきました。時間がある時や寝る前に読んでいます。『くだもの』は6か月の時に少し早いかな……。と思いました。今はよく読んでいます。(第1子)

●ブックスタートの時は、読みきかせをされていた方が上手で娘もとても興味津々で見えておりましたが、

自宅で作ってみた所だめでした。今もあまり関心がなく、他の遊びに夢中になってしまいます。(第2子)

●ブックスタートでもらった絵本をきっかけに、自分でも絵本を買ってみよう、見てみようというきっかけになると思うので、今後も続けてほしい。上の子とは違う絵本をくれるので嬉しい。(第2子)

●健診時間に行ってもらったため、子どもが眠たくなる時間と重なって機嫌が悪く、あまりきちんと、その時本を聞けなかったのが残念でした。子どものタイミングのよいときだと、なおよかったと思うが、なかなか難しいと思う。(第1子)

●絵本をもらえるのが嬉しい。(第2子)

●娘が3人いますが、ブックスタートの時、3人とも違う本がもらえて嬉しかったです。長女は毎日たくさん本を読んであげていましたが、次女、三女と、下の子になるにつれて、なかなか読んであげられないのが悩みです。(第3子以降)

●ブックスタートを受けるまで絵本をほとんどもってなくて、絵本と接するきっかけのひとつになりました。はじめはどんな感じ、内容のものがよいかなど、参考になると思います。(第1子)

●『いないないばあ』と『くだもの』の2冊を頂いたのですが、子どもが『いないないばあ』を特に気に入っているようで、絵本を読みながら、一緒に「ばあ!」と声に出してくれます。親子のコミュニケーションにすごく役立っています!!(第1子)

●もらった時からあまり関心を示さず、その後も時々試みたが破るほうが楽しい様子。仕事も復帰したのであまり時間もとれず、あまり活用できていない。今後、関心を持つようになったら寝る前に読んであげたいと思う。(第1子)

●本がもらえるのでありがたいです。(第2子)

●自分より読みきかせがうまいし、楽しんでいたので今後とも続けてほしいと思いました。(第1子)

●『いないないばあ』の本は、初めて自分から本を渡して催促してくる本で、毎日何回も読みました。自分でもページをめくって「ばあ」と言うようになり、本もボロボロですが、無料で頂いた事もあり、神経質に取り扱うこともなくていいのがよかったです。高価なしかけ絵本よりはボロボロにできる本

が今の時期にはありがたかったです。後に同じ本をいただき、友人にプレゼントしたところ、友人の住む自治体では本をもらったりしていないと、うらやましがられ、本も、子どもが喜んだと言ってもらいました。自分も本は好きですが、子ども向きの絵本は年齢が低いほど、思ったほど興味を持ってくれなかったり、難しいので、こういう機会のアドバイスはとてありがたいです。(第1子)

●頂いた絵本、何度も見えています。何度も見るたびに興味も出てきました。今では、けっこうボロボロです。絵本を投げたり、踏んだりするので、絵本(物)の大切さも、しっかり伝えていきたいです。(第1子)

●第1子の場合は、特に読みきかせを始めるきっかけになっていいと思う。そんな小さい時に絵本を読んであげるのは意外だったので、どんな本を選ぶかも最初は難しいので、赤ちゃん向けの本をもらえるのは嬉しい。(第2子)

●どの様な絵本に興味を示すのか参考になった。(第3子以降)

●手遊びや絵本の読みきかせが楽しかったようで、家に帰ってからその時間いた手遊びなどしている、にこにこして喜んでた。また、父親は絵本に関して「まだ早い」という考えだったが、ブックスタートで絵本をもらって来たら、読みきかせをしてくれるようになったので、きっかけとしてとてもよかったと思うので、これからも続けてほしいと思う。(第1子)

●私自身も本が好きなので、お兄ちゃんの時に買った絵本やもらった絵本がいっぱいあります。その中から子どもたちが選んで持ってくるので、よく読む本や全く読まない本が出てきていますが、食べものや動物が出てくる絵本が気に入っているようです。お兄ちゃんの時は「読ませんといかん!」と思い、寝る時間が遅くなくても1冊読んで寝かせていたが、今は睡眠時間を少しでも長く取るように心がけているので、毎日読まなくなりましたが、時間に余裕がある時、子どもが「読んで!」と持ってきた時(持ってきたら必ず読んでいます)、お休みの日には、読むようにしています。(第2子)

●子どもの興味を引く絵本がたくさんあり、上の子にももらった絵本とは違う絵本を頂けるのがとても嬉

しく思います。本はいくつあってもよいし、子ども達が大きくなり、親になった時に活用出来るよう、落書きを含め、大切に保管してやりたいと思います。(第2子)

●家にある絵本と渡された絵本が同じで、別の本と交換してくださいと言ったら、担当の人にとても嫌な顔をされた。いろいろな本がありながら、自分たちで(子ども)選ぶことが出来るようにしてほしいです。(第3子以降)

●絵本を自分で見たり読んだりする時に、よく破ったり手を切ったりしているので、そういう点を考えた本だともっと嬉しい。(第2子)

●親がイライラする時、絵本の読みきかせをすると、子どもが笑顔になる。それを見て、イライラを反省したり、また、子どもをギュッと抱きしめる。生活(育児)に必要なものだと思う。(第2子)

●もらった時は読んでも興味を示さなかったけど、読みきかせをしていくうちに、ページをめくると一緒に(『いないいないばあ』の本)「ばあ!」といったりしてとても楽しかったです。絵本をもらってから、どんな本が喜んでくれるのかと考えて本屋さんで選んだり、図書館で借りてみて子どもの様子を見てから買ったりするようになりました。これからもぜひ続けてほしいです。持っている本だと他の本に替えてくれるのも、とても親切だと思います。(第1子)

●聞いていただけだったのに、月齢が進むにつれ、同じトコで笑うようになったり、自分でページをめくったり、同じ動作をしたりと、出来るコトが増えて楽しいです。(第1子)

●1歳半健診や次の健診でも、その年齢にあった本をもらいたいと思いました。(第1子)

●夜、寝る前に絵本を読んでもらうようにしているので、その習慣が子どもについて、自分から絵本を持ってくるようになったのでよかったです。(第1子)

●本を選ぶようにしてほしい。6か月健診よりも1歳6か月健診の時にもらいたかった。まだ早すぎて、結局頂いた本にはあまり興味なく別の本に興味がありました。1歳半だと、どの本とかが大体わかってくるのでその頃に欲しいと思いました。(第2子)

●6か月では早いのではないかと……と思ったが、実

際には6か月でも好きな本があったり、関心を示し、遊び・コミュニケーションのひとつとして続けていたら、今は読んで欲しい本を持って来たり、自分で一人ページをめくったり……絵本が好きなようです。その子によって違うとは思いますが、よいことのきっかけを与えていただいたので(6か月という、なかなか余裕がないです)「ブックスタート」はよかったと思います。(第1子)

●どんな絵本があるか、手に取って見る場があれば嬉しかったです(絵本コーナーはあったが、0、1歳くらいに合う絵本を紹介してもらえると、自分で購入する時に選びやすいです)。2冊ももらえると、すごく楽しみにしていました。自分で選ぶと、ついつい親好みで決めてしまうので、ありがたいです。(第1子)

●『くだもの』の本をもらったが、とっても気に入ったようで、今でも読めと持ってくる。ありがとうございました。(第1子)

●読みきかせ。(第1子)

●上の子の時もでしたが、ブックスタートで頂いた本は、家にもたくさん持っている中で、とても興味をもつ絵本ばかりでした。何度も何度も読みました。(第2子)

●毎日の絵本を読む時間(夜眠る前、昼、眠る前)に使っている。自分では選ぶことのないジャンルのものである、楽しんで使わせてもらっています。ただ、自分で欲しい本が選べたらと思います。(第2子)

●その年齢に合った本を頂いたの、子どもが大変気に入って何度も何度も読みました(『がたんごとんがたんごとん』大好きでした)。年齢が上がると興味をもつ本も少しずつ変わってくるので、毎年お誕生日に1冊本をもらえると嬉しいです(幼児期だけでいいので)。(第3子以降)

●ブックスタートの主旨を改めて読みたい、と思うけど、資料ができません。(第1子)

●今後にもこんな活動を沢山やってほしいです。6か月にも、1歳にも、1歳半にも……。 (第2子)

●言葉を覚えたりするいいキッカケになると思いますが、子どもが持ってきた時だけ読んでいますが、寝る前に本を読む習慣をつけたいです。(第1子)

●ブックスタートで頂いた本は、何度も読ませてい

ただいています。私(母親です)が読みきかせるのはもちろん、兄(5歳)がひらがなを覚え始めに丁度ひとりで読むことができる内容で、お兄ちゃんが読むのを弟(1歳)がそばで聞いて喜んだり、親子間だけでなくきょうだい間のコミュニケーションにも役立っています。ブックスタートをきっかけに、本に興味が出だした様子で、今では毎週末にお兄ちゃんが保育園から借りてくる絵本を楽しみにしています。図書館も利用するようになりました。ぜひ今後も続けていきたいと思います。(第2子)

●絵本の読みきかせは、とても大事な事だと思うので、家で、できれば毎日、最低1冊は読みきかせの時間をとる様に心がけたいと思います。(第3子以降)

●ブックスタートまでは、家で読んでも、まったく興味を示さなかったのに、この時ばかりは興味津々になって大喜び! 帰ってから読んでも同じように興味を持ってくれました。(第2子)

●絵本を読んであげたいが、忙しく、読む時間がありません。上の子が、幼稚園で絵本を借りて来るので、それを読んでいるので、少しは読んでいる事になります……か?『がたんごとんがたんごとん』は好きで喜びます。もっと、読んであげたいという気持ちはあります。(第2子)

●兄達と同じ本棚に置き、兄達が本を読めば、自分の絵本を出し一緒に並んで絵本を読んでいます。(第3子以降)

●初めての子供で、どんな絵本から読みきかせをするのがいいのか迷っていたので、ブックスタートで絵本の選び方や読み方を教えていただき、とても参考になりました。頂いた絵本は、子どもがとても気に入っていて『いないいないばあ』は、ページをひらくと一緒に「ばあ」と声を出してみたり、『くだもの』は好きな果物のところでは食べる真似をしてみたり。親にも子どもにもブックスタートは素敵な事業だと思います。(第1子)

●絵本を無料でいただき、ありがとうございました。●『くだもの』『いないいないばあ』共に、子どもはとてもよく気に入っています。『いないいないばあ』は、一人で絵本をめくって、遊んでいました(1歳頃にやっていたと思いますが、一人でタイミングよく読んでいて、私もとても驚きました)。2冊とも何度

も読みました。(第1子)

●赤ちゃんの頃は寝かせて上から絵本をひらいて見せていました。首がすわってから私にもたれてすわる姿と一緒に見ていました。今はひざに座ってじっとして楽しそうに見ています。絵本って高額だし、たくさん買ってやれないけど、もらったのを毎日見て聞かせています。最近では覚えていて自分でひらいたときにブツブツを言っています。絵本をどうもありがとうございました。今でも一緒に楽しんでいます。(第1子)

●6か月ではまだ興味がないかなと思っていましたが、子どもも家に本があると次第に関心を示すようになりました。ブックスタートは子どもと絵本を読むきっかけづくりになったと思います。ありがとうございました。(第1子)

●ブックスタートで絵本を受け取ってから、絵本を見たりするきっかけになりました。第1子の時は、どのような本を読ませたらいいのかよく分からなかったの、頂いた絵本は購入する際にも参考になって助かりました。(第2子)

●読みきかせ時の子どもの様子を見ることができてよかったです。(第2子)

●6か月健診の時は、まだ小さかったからだと思いますが、特に興味を示す示さない以前に、その場に慣れず、健診を受けるだけで精一杯で、絵本を楽しむ余裕はありませんでした。今は、絵本に興味を持ち始めているので、頂いた絵本を、どんどん見せていきたいと思います。(第2子)

●うちの子は6か月の頃は本を読む、聞くことに興味がなく、本はくちゃくちゃにしたり、破ったりと、おもちゃ感覚で、実際に読むと聞くようになったのはつい最近です。6か月で本は少しこの子には早いのかな?と感じました。(第1子)

●赤黒白絵本とか、もっと低年齢の絵本だと嬉しかった。もらえる絵本が、もっと色のはっきりしたものの方がよかった。いろんな種類の本から選べる、なおよかった。(第1子)

●『いないいないばあ』『くだもの』をもらいました。『いないいないばあ』では、動物の名前を覚えることができ(くまはどこ?等と聞くページをめぐって指さす)、また自分で、いないいないばあができるようになった。『くだもの』でも、同様にく

だものの名前が覚えられ、描かれている絵を触って、つまんで食べるフリをして嬉しそうにしたり、遊びの一部にもなっている。(第1子)

●子どもは何冊でも読んでほしいから、たくさん本があるとよいので。(第2子)

●このアンケートの設問が少し解りにくい(答えにくい)。(第3子以降)

●『くだもの』という絵本をいただき、娘もお気に入りです。毎日のように見えています。いろいろな果物を目で見て指差しをしたり、食べる真似をして楽しんでいます。一緒に見ることで「どうぞ」と絵本の中のものを口へ持って来てくれたり、食べることにも関心が持てるようになりました。育児をする中で、絵本と一緒に見る時間は、本当にホッとするとともに、子どもたちの表情を楽しんだり、自分なりに落ち着いてふれあえるタイムです。ブックスタートとてもよいと思うので、今後も続けてもらいたいです!!(第1子)

●お金もかかるので2冊も渡すのではなくて、親が(子どもに読ませたいと思う物を1冊)選んで1冊持って帰るほうが良いと思う。(第3子以降)

●どんな絵本を選んだらいいのか、興味をもつのか、参考になった。読み方を学んだり、子どもがどんな反応を示すのか、見ることでよかったです。(第3子以降)

[F市]

調査概要

調査協力者

F市乳児（9～11か月児）健診にてブックスタート・バックを受け取り、2011年5月～6月にF市にて、1歳6か月児健診を受診した赤ちゃんの保護者

調査方法

- 1歳6か月児健診の対象者に事前に送付する問診票などの資料とともに調査票（A4・1枚）を郵送し、健診時に回収。
- 調査票配布数（健診対象者数） 594
 - 回収数 512（回収率 86.2%）
 - 集計対象（ブックスタートを実施している乳児（9～11か月児）健診を受けたと回答した方） 447

調査結果

*各設問は無回答を除いて集計。nは回答者数。

A. お子さんやご自身についておたずねします

(以下の質問では、今回健診を受けに来られるお子さんについてお答えください)

●A 1: お子さんは？ (n = 447)

第1子	202	45.2%
第2子	147	32.9%
第3子以降	98	21.9%
総計	447	100.0%

●A 2: あなたはお子さんの？ (n = 441)

母親	401	90.9%
父親	33	7.5%
祖母	6	1.4%
祖父	0	0.0%
親戚	0	0.0%
その他	1	0.2%
総計	441	100.0%

- A 3: ご家庭でお子さんと絵本を見たり、
読みきかせをしたりすることがありますか？
(n = 447)

全くしたことがない	3	0.7%
することがある	444	99.3%
総計	447	100.0%

- A 4 ①: (A3で「することがある」と答えた場合)
その頻度は？ (n = 437)

週1回未満	71	16.2%
週1～2回	121	27.7%
週3～5回	117	26.8%
ほぼ毎日	128	29.3%
総計	437	100.0%

- A 4 ②: (A3で「することがある」と答えた場合)
何か月の頃から？ (n = 433)

1～2か月	42	9.7%
3～4か月	66	15.2%
5～6か月	92	21.2%
7～8か月	62	14.3%
9～10か月	87	20.1%
11～12か月	60	13.9%
それ以降	24	5.5%
総計	433	100.0%

B. 乳児（9～11か月児）健診で実施した「ブックスタート」と、 ご家庭での読みきかせについておたずねします

- B 1: F市では3か月児健診の際に、赤ちゃんのまわりで絵本を介した楽しくあたたかいひとときが
持たれることを願い、「ブックスタート」を実施しました。この事業の趣旨を覚えていますか？ (n = 418)

覚えている	229	54.8%
だいたい覚えている	155	37.1%
覚えていない	34	8.1%
総計	418	100.0%

- A 4 ③: (A3で「することがある」と答えた場合)
誰が読んでいますか？
(複数回答・n = 245)

母親	432	99.1%
父親	244	56.0%
祖母	87	20.0%
祖父	17	3.9%
きょうだい	127	29.1%
その他*	15	3.4%

*「その他」の記述内容：保育園・先生 3件／おば
4件／叔父 1件／いとこ・おば 1件／いとこ・親
戚の子 4件／自分で 1件／記入なし 1件

- A5: (A3で「することがある」と答えた場合)
ご家庭での読みきかせの状況について、
A3・A4でそうお答えになった理由は何ですか？
(複数回答・n=408)

楽しいので	200	49.0%
ゆったりした気持ちになれる	85	20.8%
子どもとふれあう時間になる	302	74.0%
きょうだいと一緒に読むので	154	37.7%
ブックスタートで絵本を受け取ったので	91	22.3%
まだ早いと思う	0	0.0%
子どもが関心を示さない	15	3.7%
時間にかたまりがない	30	7.4%
絵本を持っていない	0	0.0%
その他	70	17.2%

- B 2: ブックスタートを受けて、どのように感じましたか？

	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 楽しかった (n=402)	252 62.7%	145 36.1%	5 1.2%	0 0.0%
② ほっとする時間がもてた (n=402)	177 44.0%	198 49.3%	27 6.7%	0 0.0%
③ 読みきかせ時の子どもの様子を見られてよかった (n=400)	261 65.3%	123 30.8%	15 3.8%	1 0.3%
④ 赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった (n=405)	290 71.6%	95 23.5%	18 4.4%	2 0.5%
⑤ 子どもとのコミュニケーションに役立ちそう (n=405)	325 80.2%	75 18.5%	4 1.0%	1 0.2%
⑥ 自分には難しいと感じた (n=400)	14 3.5%	51 12.8%	161 40.3%	174 43.5%
⑦ 自分子どもにはまだ早いと感じた (n=399)	12 3.0%	29 7.3%	129 32.3%	229 57.4%
⑧ 絵本がもらえてうれしかった (n=405)	370 91.4%	34 8.4%	1 0.2%	0 0.0%
⑨ 絵本についてもっと知りたいと思った (n=400)	204 51.0%	172 43.0%	23 5.8%	1 0.3%
⑩ 図書館員やボランティアと話ができてよかった (n=394)	170 43.1%	193 49.0%	28 7.1%	3 0.8%
⑪ 赤ちゃん連れで行ける施設や催しの情報が得られてよかった (n=388)	148 38.1%	194 50.0%	35 9.0%	11 2.8%
⑫ ⑩の施設や催しに行ってみたいと思った (n=388)	124 32.0%	207 53.4%	47 12.1%	10 2.6%

- B 3: ブックスタートで受け取った「絵本」を、
活用しています(しました)か？ (n = 419)

かなり活用している (した)	174	41.5%
活用している (した)	214	51.1%
あまり活用していない	24	5.7%
活用していない	7	1.7%
総計	419	100.0%

- B 4: 今後もこの事業を
継続してほしいと思いますか？ (n = 421)

そう思う	379	90.0%
ややそう思う	39	9.3%
あまりそう思わない	3	0.7%
そう思わない	0	0.0%
総計	421	100.0%

- B 5: ブックスタートについて、ご意見・ご感想がございましたら自由にご記入ください
(B 3・B 4でそうお答えになった理由や、ブックスタートで受け取った絵本をどのように活用されているかなど)

自由記述記入数：124件 文末括弧内：対象児出生順位

●最初は絵だけ、徐々に内容や動物の名を呼んで楽しそうに使っています。本を買うきっかけになるので続けてほしいと思います。(第1子)

●絵本がもらえたことはよかったと思う。ただ、色がはっきりしているからとすすめられたが、うちで読んでも、子どもはあまり興味を示さなかった。当日は周りにもたくさん人がいてガヤガヤしていたので、読んでもらっても子どもは周りが気になってあまり見ていなかった。(第1子)

●今の時期は、絵本の色や絵が好きみたいで、ブックスタートでもらった絵本をきっかけに、自分で選んで(本を)これって言って持ってきてくれます。はっきりした絵や色があるのかわいいんだと感じました。(第1子)

●子どもが数ある中、自分で興味を示す絵本を選び、それを大切に読んで読みかきができるので、集中して何度も見ている子どもの様子が伺える。また、言葉の引き出しにも活用できるので、月齢に合った絵本を提供してくれるので、とてもよいと思う。(第1子)

●自分では選ばない本などもあって、この機会に読んで読む事ができてよかったと思いました。(第2子)

●ブックスタートをきっかけに、見せたり買ったりし始めたので、まだ早いな～と思う時期だったので、興味を持つことを知り、大いに助かりました。もらった絵本を今とても喜んでみていますよ～(動物の本)。何種類かから子どもに選ばせるのもいいアイデアですね!!(第1子)

●本を読んで聞かせる事で言葉の発達の早さに驚いた。今後も読んでいきたいと思う。(第1子)

●ブックスタートで頂いた本は(『くっついた』)。もらって数か月はずっとそれを読んでいたし、子どもも興味を持っていたが、最近は違う本に興味を持っている。乳児健診の時、図書館の利用方法を聞いてそれから本を図書館や支援センターで借りて読みかきかせをしています。本当は生まれてすぐ読ん

であげたかったのだが、なかなかできず、このブックスタートがきっかけになったので、とてもよかったと思っている。(第1子)

●子ども自身が絵本が好きなので、何冊かもってくる絵本の中にブックスタートでもらった絵本が入っています。『どうぶつのおかあさん』という本をもらったのですが、最近動物にも興味も出てきていて、これからのお気に入りの1冊になりそうです。(第1子)

●もっとやった方がよいと思う。(第2子)

●動物の絵本をもらいました。はじめ私自身がその絵本を見た時は、あまりにもリアルな絵だったので、子どもの絵本としてはちょっと……と思ったのですが、子どもに見せると意外に興味津々で、内心驚きました。本屋さんで選ぶとしたら、絶対に選ばないような絵本を子どもが気に入ったのを見て、大人の判断で子どもの視野や関心を狭めてはいけなないなと思いました。これからも継続してほしいです。もっと絵本の種類増やしてほしいです。(第1子)

●頂いた本がまだ年齢よりも少し早かったようなんです。でも最近興味がでてきたみたい。元々本が好きなようなので、ありがたいです。(第1子)

●5年前にお姉ちゃんがもらった本を、今は弟が読んでいます(『おつきさまこんばんは』)。自分で持って来て読んでとせがみます。(第2子)

●読みかきかせの大切さを気づかされたので、続けてほしいです。子育てに追われて読みかきかせの大切さを忘れていました。(第2子)

●子どもがとても気に入っています。頂いた本は『おつきさまこんばんは』なのですが、夜、空を見上げて「おつきさま」を指さします(笑)。わかっているのでしょうか。(第1子)

●9～11か月の健診で頂いた本ですが、上の子(3歳)も一緒に読んで、上の子は色や数のお勉強、下の子は絵本の楽しさと、二人同時に楽しめました(頂いた本は車の本です)。(第2子)

●本の読みかきかせを始めるきっかけになると思うの

で、今後も続けていってほしいと思います。(第1子)
●動物の絵本をもらいましたが、他の絵本に見向きもしないのに、この絵本だけはお気に入りでした。(第1子)

●ブックスタートでは『おつきさまこんばんは』をいただきました。欲しいなあと思っていた本だったのでとても嬉しかった事を覚えています。この本は、寝る前に父、母のどちらかで読みかかせています。たくさんの絵本の中でも特に気に入っているようで、よく子どもから持ってきます。まだ、1歳とはいえ、ある程度理解できるようで、「こんばんは」のところでは頭を下げてあいさつしたり、雲さんがお月さまを隠してしまうと「あ」というような表情を見せたりと、私もびっくりしました。絵本が大好きで、家にいる時は何時間も付き合われる事もあって、少し大変だなあと感じることもあります。親子で楽しい時間を持てたり、ふれあったりできる点がとてもよいなあと思います。意外にもお父さんに読んでもらえるコトが嬉しいみたいです。これからも絵本のよさを広めていってくださいね。ちなみに絵本は、図書館でもよく借っています。(第1子)

●子どもとのふれあいの時間も作れるし、助かります。(第1子)

●本を頂いた時期は、まだあまり本に興味がありませんでした。動物の本をいただきましたが、今では全部の動物を「わんわん!!」と言って喜んでみます。数をかぞえるようにもなりました。(第2子)

●やっぱり絵本と一言で言っても、いろんな絵本があり、実際自分で本屋に買いに行っても、何を選んでいいのか迷ってしまっ、困ってしまうので、ブックスタートがよいきっかけになって、子どもが何を好むか、次は少し物語になっている本にしようなど、絵本を選ぶのにもいい目安になって助かりました。私は3人の子どもがいますが、一人ひとり本を3冊買うと結構いい金額になってしまうので、家計的にも助かりました。(第3子以降)

●小学生になったお姉ちゃんたちも、ブックスタートで頂いた絵本(すっかりボロボロ)を弟や妹に読んでかきかせてあげています。眠る前のお約束みたいな感じです。(第3子以降)

●子どもが自分で見ていることが多い。本を読むということは大切だと思うから、このような事業があ

るのはいいことだと思う。また、もらった絵本も、ペラペラしたようなものでなく、本屋さんでちゃんと売られている本だったので、ビックリしました。9～11か月頃は、我が子は他の子と比べて興味の無い様子でしたが、今はよく見えています。また字があまり多くないので、5歳のお姉ちゃんが読みかきかせてあげたりしています。(第3子以降)

●頂いた絵本は寝かしつけの時に活用させていただきました。(第1子)

●娘は車に興味があったので、もらった絵本を何回も見て(すり切れるくらい)喜んでいました。(第1子)

●色々な出費がかさむ中、やはり絵本も高く感じる事が多く、なかなか新品は買ってあげられません。本を頂いたのはとても嬉しかったし、また1冊だけでなく広げていくためにも、本のリサイクル市などをやってほしいです。きちんと年齢や興味に分けて色々配列し、サポートの人たちもつけてもらって、子どもと遊びながら何冊かでも持って帰ったら嬉しいと思います。また、同時に卒業した絵本をリサイクルしてムダをなくしたい。本を大事にする気持ちや、もっと身軽に本とふれあえる環境を作りたいです。私は幸運にも親戚に、生まれた時にどっさりもらったので自然と絵本をスタートでき、今でも(1歳9か月)毎日たくさん読みます。成長もよく見えて子どもの吸収力に驚かされます。(第1子)

●ブックスタートで『ばいばい』の絵本をいただきました。はじめは絵を見ただけでしたが、だんだん、成長するにつれ、「こんにちは」「ばいばい」など、言葉を覚え、今では、絵を見て「そうさん」や「うさちゃん」等、動物の名前を覚え、言えるようになりました。(第1子)

●サイズが小さいので、おとなしくしてほしい出先や、車の中で読んでいます。上の子の時に頂いた本とセットで持ち歩いています。初めての子だと、子どもの成長にあわせた本を選ぶのが難しく、必要以上に買ってしまったり、レベルが合わなかったりするの、大変ありがたいです。(第2子)

●9か月健診で本をもらったことが子どもに絵本を読ませるきっかけになりました。今は、忙しくあまり読んであげられませんが、時間を見つけて読んであげたいです。(第1子)

●絵本に関心を持っているので、いい事だと思う。(第2子)

●何冊か絵本があった中から、息子が選んだ絵本を頂いたのですが、もっとゆっくり吟味して、親が選んであげればよかったなあ……と少し後悔しています。小さい時は見てくれたのですが、色んなモノに興味を示すようになってからは、見向きもしなくなってしまうので残念です。取り組み自体はよいと思いますのでぜひ継続してください。(第1子)

●私が買うと、どうしても偏りが(絵本の傾向に)出てしまいがちですが、ブックスタートで頂いた絵本は、いつもと違う感じの絵本で、子ども気に入って読んでいます。また、絵本は結構高いので、頂けると大変助かります。(第1子)

●上の子(現在3歳)の時に一冊、下の子双子で2冊、ブックスタートで頂いた3冊の絵本は今でも子ども達が大好きで何度も読んでいます。(第3子以降)

●絵本をもらって読みきかせをしたが、年齢が少し早かったのか、内容よりもビリビリと絵本を破ってしまった。でもその破るのを本人は楽しんでいたので、もっと違うタイプ(飛び出る絵本やシールをつけたりはがたりするような)の絵本がよかったのかなあとも思います。(第2子)

●今でも受け取った絵本を読んでもというジュエチャーで持ってきたり自分でパラパラめくって見ていたりします。お気に入りの1冊になりました。(第1子)

●職員の方の読みきかせが、雑に感じた。(第1子)

●姉(3歳)はまだ字が読めませんが、その姉が妹(1歳)に覚えている範囲で読みきかせていた。姉妹が絵本にこんなに興味があるってことを知ったのは、ブックスタートのおかげ。自分のように、子どもの好きなものに気付かないママも沢山いると思うので、そのような母子のためにもこのサービスは必要かなと思った。(第2子)

●もっと色んな種類の絵本が揃っているといいなあ……。 (第2子)

●ブックスタートで、『おつきさま、こんばんは』という絵本をもらいました。自分では買わないなという本でしたが、あえてその種類の絵本をもらいました。すると、今では子どものお気に入りの本の1冊になり、自ら読んでと持ってきたり、一人で絵本

をひらいて楽しんでます。いろんな種類の本があるから、とっても助かりました！(第1子)

●「ブックスタート」以前から、読みきかせはしたいとは思っていましたが、数ある絵本の中からどれを最初の1冊にしたらいいのか迷い、本屋に行っても買わずに帰ってきたり、また自分の子どもにはまだ早いかも(落ち着いて読みそうにないなとか、ビリビリに破ったりしそうだとか)と思って、先伸ばしになっていました。しかし「ブックスタート」で、4～5冊の本の中から子どもが嬉しそうに1冊を選ぶのを見たり、係の方が、よい意味で適当に(書いてある文章通りに読むわけではなかったり)読むのを聞いて、あまり難しく考えなくていいんだと思えて、気が楽になり、早速楽しく始められました。(第1子)

●赤ちゃん連れで行ける施設や催しの紹介や、図書館員やボランティアと話ができてよかったという設問については、よくわからない。何のこと？何かそういう活動がありましたか？受け取った絵本については、この本を頂いて嬉しかったし、ぜひ、この事業は継続して欲しい。子どもが喜ぶのはもちろん、親としても、貴重な体験をさせてもらっています。絵本好きの息子は、絵本以外でも、冊子になっているものに何でも興味をもち、雑誌も写真集も楽しそうに眺めています。3歳になる前に字が読めれば、自分で好きな本を読むこともできるのではないかと期待しています。ますます育児が楽しみになりました。(第1子)

●例えば……最初に頂いた本を、別の本(別の人がもらった本)と交換できる場があったりするのもよいかなと思います。(第1子)

●ブックスタートで受け取る絵本は、乳児期に合った絵本で、繰り返しの言葉や乳児でも、楽しい言葉や音なので喜び興味を示すので、どの年齢になっても、手に取り喜んでます。ありがとうございました。(第3子以降)

●兄の方がよく見ていて、本人はまだ関心が薄い。(第2子)

●本がもらえるので、こういう事は、続けてもいいと思う。子ども本を見て喜んでいたのでよかったです。(第3子以降)

●上の子と一緒に、お兄ちゃんの絵本(保育園から

もらった本)がお気に入り。アクセントや効果音など、読む人が楽しいと子どももそれにのってきますね。子どもの表情や、何に関心を持っているのか、何が好きで何が怖いのかなど、1冊の絵本の中に発見がたくさん積まっています。ぜひ、他の母親の方にも(まだ気付いていない方)子どもの表情を見てほしいですね。(第2子)

●時間がなくて絵本の受け取りとお話を聞かせていただいたのですが、絵本は本人が手を伸ばして受け取ったので今でも好きな絵本の一つです。ありがとうございました。(第2子)

●子どもと一緒に、楽しく本に接するきっかけになりました(本を引っ張って少し破いたりはしましたが……)。(第1子)

●最初の頃は楽しく読みきかせていましたが、薄い紙の本をもらってしまっただけなので活用していません。3歳くらいまでは厚みのある絵本がいいと思います。＊もらったのは三浦太郎さんの『くつついた』(こぐま社)でした。(第2子)

●毎晩、何度も催促され、とても気に入っていたようです。子どもに人気ある本のリストなどあるといいなと思いました。(第2子)

●私は、もともと絵本を読んであげていて、さらに絵本が頂けるありがたさを感じられたのがよかった。絵本に対して興味のなかった人に対しては、その場が絵本とふれあうよいきっかけになると思うので、続けることはいいと思う。『くつついた』の絵本をもらい、とても子どもが大好き。ママと自分の顔をまねして、「くつついたー」とすりすりする所が気に入っているようだ。(第3子以降)

●乳児健診の頃は、まだ本に対する興味・反応が薄かったのですが、1歳を過ぎた頃から関心が出てきて、今はとても大好きです。本をもらえる事もとても嬉しいですし、とても参考(成長の過程)になるのでありがたと思います。(第2子)

●絵本を選ぶ際、とても迷った時に職員の方が、お母さんの直感で選んでよいですよ、とアドバイスをもらい、簡単に、自分の好みの絵本を選びました。読みきかせは面倒で苦手ですが、簡単に読める本を選んだので、たまに読んであげることができた気がします。(第2子)

●絵本は1冊でも多い方がいいと思っているので、とてもよかった。あの頃はページをめくるのを楽しんでいる様子だったが、今は本が大好きになり、本に出てくる言葉をまねしたり、とても効果があると思う。毎日、家にある本を持ってきては、読んでとせがむくらいです。素敵な試みなので続けてほしいと思う。別の健診でも読みきかせがあるといいです。(第1子)

●初めての絵本の選び方がわからず迷っていたので、ブックスタートでもらった絵本を活用していった。(第1子)

●『ばいばい』の本をもらって、簡単すぎて大丈夫かなと思ったのですが、何回か読んでうちに、興味を示して、「こんにちば」「ばいばい」をマネするようになったので、とても役立ちました。(第1子)

●お姉ちゃんに読みきかせを毎晩していたからか、この子もとても大好きです。たまに、忘れてそのまま寝かせようとする、泣いて、絵本をせがむくらい大好きになっています。このまま絵本や本の好きな子どもに育ってほしいです。(第2子)

●「ブックスタート事業」はとてもよいと思います。長女の時はなかったので、今回、絵本をもらえて嬉しかったです！ずっと継続してほしいと思います！(第2子)

●割と早い時期から絵本に興味があったので、ストーリーのある『おつきさまこんばんは』を頂きました。とても気に入っていて、何度も読んで持てきます。なかなか寝ない時に読んだりもしています。最後には必ず「おつきさま」にチューをしています。(第1子)

●本をひらいたり閉じたりするのもしどものいい動きになると思います。それから、絵を見たり、説明をするとマネをするようになった。1歳には、絵本を見つけると、自ら見るようになった。本に興味を持つ事はいい事だと思うので、好きになるきっかけとして、これからやった方がいいと思いました。(第1子)

●ブックスタートでもらった絵本はまだ早いと感じたので活用していません。そろそろ活用する予定です。(第1子)

●読みきかせにも活用していますが、赤ちゃんが自分で触って遊ぶのにも活用させていただいていま

す。(第3子以降)

●上の子が、かなり絵本好きで、下の子も本好きにしたいと思いました。でも、なかなか絵本に興味を持ってくれず、悩んでいましたが、「子どもは皆、本が好き」という言葉を信じて、聞いていなくても読み続けました。今では毎日絵本を持ってきて、読んでとせがむ程好きになりました。親が「この子は本が好きじゃないかも」と決めつけなくて、本当によかったと思います。ありがとうございました。(第2子)

●一番上の子の時にブックスタートを知り、上の子に絵本の読みきかせをしているうちに、自然に下の子たちも絵本に興味を持っていました。子どもとのふれあいにもなりますし、大きくなって字にも関心が出てきて、無理に教えなくても字を読めるようになっていたので、すごくよいことだと思います(第3子以降)

●自分の絵本というので、他の絵本より大事にしています(読む回数も何回も繰り返して読んでいます)。(第2子)

●受け取った当時は持っている絵本が少なかった為、かなり活用しました。子どもが自分で選んだだけあって、絵本を読む時に今でもよく持ってきます。お気に入りです。色々な種類の絵本があったほうが、色々な事に興味を持つきっかけになると思うので、今後もこの事業を継続してほしいと思います。(第1子)

●赤ちゃん連れで行ける施設や催しに関して、特に紹介はありませんでした。もしそういう情報があるなら、もっとわかりやすく提示していただければ助かります。ブックスタートの本は『くっついた』を頂きました。読みきかせをするにこにこ笑ってすごく喜んでいました。どのような絵本を月齢にあわせて準備するか迷ったので、もう少し絵本の選び方について教えてもらえたら参考になったのかなと思います。(第1子)

●ブックスタートで受け取った本がすごく好きで、この本のおかげで、スキンシップが取れています。読みきかせのアドバイスを受け、リズムを取りながら読んだり、スキンシップを取りながら読んだりしているので、すごく喜んでくれます。(第1子)

●絵本はまだ早いと思って買ってなかったのですが、

もらった絵本を見せると反応がよかったので買うようになりました。もらった本はすでにボロボロになっちゃったけど、今でも大切に使っています。(第1子)

●ブックスタートで子どもが興味を持ちそうな本もわかりとてもよかった。「くっついた」を頂きましたが、あの時あった他の絵本も購入しました。「くっついた」は今でもお気に入りの一冊だし、本当によい事業だと思いました。(第1子)

●本のページの紙がやや薄かったので、もう少し厚いほうがよいと思った。また、月齢が低かったので角は丸くなっている本のほうがよいと思う。(第1子)

●赤ちゃんから様々な年齢にあわせた絵本を提供(案内)してもらえれば、子どもの感性豊かな成長に役立てるものとなる。(第2子)

●3歳と1歳の息子ですが、絵本が大好きです。絵本を持ってきて私のひざの上に座って、読んでほしい仕事をします。とても楽しそうです。いい事業だと思います。(第2子)

●子どもも自分専用の本と、喜んで進んで見ている。自分でバラバラめくって見るのが好きなようで、読みきかせをするより、一人で見ることが多い。よい事業だと思うのでこれからも是非続けてください。宜しくお願いします。(第3子以降)

●ブックスタートで受け取った絵本は、毎日読みきかせに使わせていただきました。子どももすごく興味を持っていたので、良かったです。ありがとうございました。(第1子)

●絵本を子ども本人に「どれがいい？」って選ばせてくださったのがすごく嬉しかったです。親目線で選ぶと、子どもが気に入らない事もあるのですが、自分で選んだので、今でも大のお気に入りです。次の子の時も楽しみです。ぜひ続けてほしいです。(第1子)

●ブックスタートで頂いた絵本を本人が持ってきて、読んでと催促したり、お姉ちゃんが読んであげたりしていました。(第2子)

●『くっついた』をいただきました。握手をしたり、ちゅうしたり、ほっぺたをくっつけたり、コミュニケーションが広がりました。(第1子)

●子ども用の本棚に並べて自分で取って読めるよう

にしています。(第2子)

●同じ年頃の子も同じ絵本を持っていて、仲よく見て遊んでいたのも、友達作りにも役立ちました。ありがとうございます。(第2子)

●子どもが喜びそうなおすめの本がもらえたのでよかったです。(第1子)

●絵本を持っていなかったのも、とても活用した。本は早いかなと思っていたが、絵本の動物の絵に興味を持ち、読んでいるうちに動物の名前を覚えていった。(第1子)

●最初は興味を示さなかったが、何回も読みきかせするようになり、本人も楽しそうに聞いてくれたり、「読んで」と本を持ってきたりと、色々な変化がみられた。読みきかせにより、言葉を覚えたり成長も感じられ、大切なんだと実感しました。(第1子)

●『くっついた』を頂きました。上の子は当時3歳で、二人に読んであげられるものを……と探していたところ、絵の優しいタッチにひかれて選びました。当初は上の子に、よく「読んで」と言われ、下の子(2番目)はあまり興味を示していませんでしたが、月日が経つにつれ、二人で「読んで」と持ってくる様になりました。母親自身では、いつから本と触れさせていいのか分からなかったのも、このブックスタートは、とてもよい機会だと思います。是非続けてほしいです!!(第2子)

●ブックスタートでもらった本を、もらった日以来、気に入ったようで、自ら取りに行き読んでと催促し、嬉しそうに寄り添って来ます。何度も繰り返し読んでいます(第1子)

●まだ早いと思っていたが、半年後から関心を示し、今ではお気に入りの本だから。(第1子)

●以前頂いた『ばいばい』の本を気に入って、今でも自分から持ってきて読んでいたり、声に出しておじぎや手を振ったりして、私に向けても読んでくれます。とても役立っています。ありがとうございました。(第1子)

●姉のお下がりがばかりの絵本だったので、「この子の為のもの!!」という、とても貴重な絵本を頂いた感じがしました。また、本人も自分で選んだので(一番反応がよかったもの)読んであげるととても嬉しそうで、何度も繰り返し楽しみました。今では自分で言葉を発しながらめくっています。ありがと

うございました。(第3子以降)

●文字がわからなくても、一生懸命、絵を見て楽しそうだった。(第2子)

●『くっついた』の絵本を頂きました。頂いた時は、まだ絵本に興味を持っておらず見もしませんでしたが、言葉の意味が少しずつわかってきた今、嬉しそうに読んでいます。(第1子)

●絵本に興味があり、読んでほしいと親のところへ持って来ます。また一人でも本箱から取って、絵本ををめぐったりしている時もあります。絵本は種類がたくさんあり、選択に迷うので、アドバイスをいただけたら助かります。もっとたくさんいい絵本を紹介してほしいです。(第1子)

●車の絵本をもらったのですが、車が好きな事が分かったのでもういいきっかけでした。(第1子)

●自分では選びそうな本を息子が選んだので、その本を頂いた。時々広げて見えています。(第3子以降)

●今では内容も覚えて自分で読んでいます。(第1子)

●ブックスタートで『おつきさまこんばんは』をいただきました。ありがとうございました。本を読んだら、夜、お月様を見つくと「お月様こんばんは」と言います。雲にかくれて見えない時は、「くもさん、くもさん、ふうー」と言って雲をどかそうとします。子どものお気に入り絵本ベスト5に入っています。(第1子)

●ブックスタートでもらった絵本は、車の絵本で、お姉ちゃん達と違った事にも興味を持っているんだなと気づけて良かったです。自分で選んだ事がないような絵本もあり、選択肢が増えたかなと感じました。ブックスタート、とてもよいと思います!!(第3子以降)

●赤ちゃんでも絵本を集中して見たり、親とのコミュニケーションにはとても大切なものだを確信しています。現在は一人で絵本を広げ、読んでもらった通りに読み上げたり、外出先で、絵本にあった物、人、動物を見て言葉で伝えます。目で見て、触って、という感覚も、絵本から学ぶ経験をしています。(第1子)

●受け取った本が、一番好きな本でお気に入りです。本人が嬉しそうで良かったです。(第2子)

●『ばいばい』という本を頂いたのですが、言葉を読む前に、絵本に向かって子どもが自分で「こんにちは」と頭を下げたり、行動をしたので、びっくりしたのと、絵本って子どもに必要な物なんだと実感しました。大分破れたりしていますが、今でも、娘のお気に入り1冊です。ありがとうございます。(第1子)

●今後も継続してお願いします。(第3子以降)

●ブックスタートで、読みきかせはしていませんでしたが、時間帯が合わなかったのでしょうか？どの絵本がいいか選んでもらっただけでしたが……。もらった絵本は、子どもが時々、持ってきて「よんで～」と言います。これからも続けてもらいたいです。(第2子)

●『くっついた』の絵本を頂きました。じーっと一緒に本を見ていたのから、指をさして喃語をしゃべり、自分で本を持ってきて「読んで～」と催促したり、本にほっぺをくっつけ、意味も理解してきていた事が実感できました。今、1歳7月ですが、今でも『くっついた』の絵本が大スキです!!(第1子)

●初めて買う絵本が、どういった物がよいのか分からなかったの、とても参考になりました。子どもも嬉しそうに見たり触れたりして遊んでいました。しかし、読んであげても全く興味を示さず、絵本を奪い自分で持っている事が多く、結局、読みきかせが出来るようになったのは1歳になる頃でした。今でも大事に使っているの、本人(子ども)も気に入っているようです。(第1子)

●9か月でもらった絵本は、好きすぎて汚れています。最近はお兄ちゃんの影響で戦隊物などに反応しますが、絵本も一人で読んだり、きょうだい、家族で読んだりして、反応も振りつけありで上々です。(第2子)

●ブックスタートがあるよと初めて子どもをもつ友人に知らせたりして、健診時必ず行くようにすすめています。子どもにとっても初めてなら、親にとっても初めての本選びになるので、よいアドバイスを受ける場になるので、続けて欲しいです。私は3人の子の親ですが、毎日忙しく追われている中、絵本を通しての子どもとの時間の大切さを思い出させてくれました。(第3子以降)

●絵本の読みきかせ方が勉強になった。(第1子)

●読みきかせをさせるよいきっかけになると思う。(第1子)

●9か月頃より絵本を読んであげていたの、今は毎日母親や父親に絵本を持って来て「読んで」と訴えるようになっていきます。子どもが絵本を持って来る事で、この子とのコミュニケーションを取る時間が持てて、とてもよいと感じています。(第1子)

●これからも宜しくお願いします。(第2子)

●絵本は、子どもの想像力や興味をもつので絵本の読みきかせはすごくよいと思います。これからも継続してほしいと思います。(第1子)

●子どもが『くだもの』の絵本を選んだので、『くだもの』をいただきました。初めは、表紙の角が気になり、(とがって目に入りそうになったので)一緒に見るだけでしたが、最近は、子どもが一人で持ってきてページをめくり、果物を食べる仕草や、私たちに「あ〜ん」と言ってくれる姿も見られます。もっと種類を増やしていただけると、子どもの好みの絵本を手にとれるのかなと思います。角が丸いものもあればよいです。絵本は大好きなので、これからもこの事業を続けて、子どもたちの驚きや笑顔といった表情を増やしてってください。(第1子)

●何より子どもがとっても絵本が好きなので。(第1子)

●ブックスタートで受け取った絵本を、子どもがとても気に入ってます。自分一人でも、絵本を読んでいます。ブックスタートを受けてよかったと思うので、これからも続けてほしいです。(第1子)

●いい絵本と一緒に販売もしてほしい。本屋さんだと、たくさんあって、何がいいのか、どういう本に子どもが興味を示すのかがよく分からなくて、選ぶのが大変なので……。。(第2子)

●『くっついた』という絵本を頂きました。絵が可愛いかったので選びましたが、本人もとても気に入って何度も何度も読みました。同じ作者の絵本を他にも買って楽しんでいます。そういう絵本選びのよいきっかけになったと思います。(第1子)

●年齢に合わせて、絵本もどのような内容のものがよいのかよく分からないので、健診(毎回)の時に選んで1冊もらえるとありがたい(何種類かあると、1冊もらい、他の種類は購入しようと思えるから)。(第1子)

●継続してほしいです。(第2子)

●もっと種類を増やしてほしい。(第1子)

●いろいろな本を手にするようになった。何度も見てはお話をしようとする様子があります(第2子)

●『おつきさまこんばんは』をいただきました。子どもが大好きで、おつきさまが、雲でかくれたり、出てきたりするたびに、表情がコロコロ変わり、子どもの反応がよく見られてすごくよかったです。ありがとうございます!!(第1子)

●9〜11か月健診だけでなく、1歳半健診等(その他の定期健診)でも、その年齢にあった絵本がもらえたり、紹介してもらえるといいと思う。(第1子)

●受け取った絵本は今でも本棚から引っぱり出します。私(母親)や姉のまねをして、自分の言葉で読んだりする時もあり、文字を読めなくても絵に合わせて声を出しているの、本人なりに楽しんでいる様です。(第3子以降)

●乳児健診では、スムーズに終われば、ブックスタートをゆっくり楽しむことができるが、混雑している時などは、子どももぐずるし、親の心のゆとりがあまりないのかな……とも思いました。絵本は大好きです。健診での待ち時間などにブックスタートの時間があると母親、父親他もホッとするといいです。嬉しい事業だと感じます。(第2子)

[G市]

調査概要

調査協力者

G市10か月児健康相談にてブックスタート・バックを受け取り、2011年5月～7月にG市にて1歳6か月児健診を受診した赤ちゃんの保護者

調査方法

1歳6か月児健診受付時に調査票（A4・1枚）を配布。待ち時間に記入してもらったものを当日回収。

- ・調査票配布数（健診参加者数） 423
- ・回収数 373（回収率88.2%）
- ・集計対象（G市でブックスタート受けたと回答した方） 352

調査結果

*各設問は無回答を除いて集計。nは回答者数。

A. お子さんやご自身についておたずねします

（以下の質問では、今回健診を受けに来られるお子さん についてお答えください）

● A 1: お子さんは？（n=352）

第1子	188	53.4%
第2子	117	33.2%
第3子以降	47	13.4%
総計	352	100.0%

● A 2: あなたはお子さんの？（n=352）

母親	343	97.4%
父親	8	2.3%
祖母	1	0.3%
祖父	0	0.0%
親戚	0	0.0%
その他	0	0.0%
総計	352	100.0%

● A 3: ご家庭でお子さんと絵本を見たり、読みきかせをしたりすることがありますか？（n=352）

全くしたことがない	8	2.3%
することがある	344	97.7%
総計	352	100.0%

● A 4①: (A3で「することがある」と答えた場合) その頻度は？（n=344）

週1回未満	70	20.3%
週1～2回	91	26.5%
週3～5回	71	20.6%
ほぼ毎日	112	32.6%
総計	344	100.0%

● A 4② (A3で「することがある」と答えた場合) 何か月の頃から？（n=344）

1～2か月	18	5.2%
3～4か月	42	12.2%
5～6か月	55	16.0%
7～8か月	34	9.9%
9～10か月	99	28.8%
11～12か月	74	21.5%
それ以降	22	6.4%
総計	344	100.0%

● A 4③: (A3で「することがある」と答えた場合) 誰が読んでいますか？（複数回答・n=344）

母親	337	98.0%
父親	184	53.5%
祖母	92	26.7%
祖父	29	8.4%
きょうだい	77	22.4%
その他*	9	2.6%

*「その他」の記述内容: 保育園・保育士 3件 / おば・おじ 1件 / おば 3件 / 記入なし 2件

● A5: (A3で「することがある」と答えた場合) ご家庭での読みきかせの状況について、A3・A4でそうお答えになった理由は何ですか？（複数回答・n=338）

楽しいので	150	44.4%
ゆったりした気持ちになれる	50	14.8%
子どもとふれあう時間になる	214	63.3%
きょうだいと一緒に読むので	105	31.1%
ブックスタートで絵本を受け取ったので	103	30.5%
まだ早いと思う	2	0.6%
子どもが関心を示さない	11	3.3%
時間にゆとりがない	15	4.4%
絵本を持っていない	0	0.0%
その他	50	14.8%

B. 10か月児健康相談で実施した「ブックスタート」と、ご家庭での読みきかせについておたずねします

● B 1: G市では10か月児健康相談の際に、赤ちゃんのまわりで絵本を介した楽しくあたたかいひとときが持たれることを願い、「ブックスタート」を実施しました。この事業の趣旨を覚えていますか？（n=314）

覚えている	114	36.3%
だいたい覚えている	164	52.2%
覚えていない	36	11.5%
総計	314	100.0%

● B 2: ブックススタートを受けて、どのように感じましたか？

		そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 楽しかった	(n=309)	176 57.0%	126 40.8%	7 2.3%	0 0.0%
② ほっとする時間がもてた	(n=309)	122 39.5%	155 50.2%	29 9.4%	3 1.0%
③ 読みきかせ時の子どもの様子を見られてよかった	(n=309)	201 65.0%	101 32.7%	6 1.9%	1 0.3%
④ 赤ちゃんも絵本に関心を示すことが分かった	(n=310)	202 65.2%	93 30.0%	13 4.2%	2 0.6%
⑤ 子どもとのコミュニケーションに役立ちそう	(n=309)	228 73.8%	76 24.6%	4 1.3%	1 0.3%
⑥ 自分には難しいと感じた	(n=309)	3 1.0%	55 17.8%	138 44.7%	113 36.6%
⑦ 自分の子どもにはまだ早いと感じた	(n=309)	8 2.6%	41 13.3%	130 42.1%	130 42.1%
⑧ 絵本がもらえてうれしかった	(n=310)	262 84.5%	46 14.8%	2 0.6%	0 0.0%
⑨ 絵本についてもっと知りたいと思った	(n=309)	156 50.5%	125 40.5%	27 8.7%	1 0.3%
⑩ 図書館員やボランティアと話ができてよかった	(n=309)	133 43.0%	146 47.2%	26 8.4%	4 1.3%
⑪ 赤ちゃん連れで行ける施設や催しの情報が得られてよかった	(n=309)	131 42.4%	146 47.2%	27 8.7%	5 1.6%
⑫ ⑩の施設や催しに行ってみたいと思った	(n=309)	107 34.6%	163 52.8%	38 12.3%	1 0.3%

● B 3: ブックススタートで受け取った「絵本」を、活用しています(しました)か? (n = 312)

かなり活用している (した)	138	44.2%
活用している (した)	145	46.5%
あまり活用していない	24	7.7%
活用していない	5	1.6%
総計	312	100.0%

● B 4: 今後もこの事業を継続してほしいと思いますか?(n = 312)

そう思う	265	84.9%
ややそう思う	42	13.5%
あまりそう思わない	3	1.0%
そう思わない	2	0.6%
総計	312	100.0%

● B 5: ブックススタートについて、ご意見・ご感想がございましたら自由にご記入ください
 (B 3・B 4でそうお答えになった理由や、ブックススタートで受け取った絵本をどのように活用されているかなど)

自由記述記入数：116 件 文末括弧内：対象児出生順位

- 10 か月健診の時は興味がなさそうだったので、最近は自分から読んでと持ってくるようになり、これからは積極的に絵本を読んであげたいと思っています。(第1子)
- 本を通して、言葉の理解が早くなった気がします。(第1子)
- 低月齢の子には、角の鋭いハードカバーの本は危ないと思い、目の前で読むのに抵抗がありました。『じゃあじゃあびりびり』は安心で『どうぶつのおかあさん』や『おつきさまこんばんは』は少し鋭く感じました。内容はとてもよいと思っています。(第2子)
- みんながあまり知らない、よい(子どもが喜ぶ)絵本を選んでほしいです。もらった『ぼんぼんポコポコ』が好きで、今は子どもが大変喜んでいます。(第2子)
- お姉ちゃんと一緒に読んであげたり、お姉ちゃんが読んでくれることもあったので活用してよかったと思います。(第2子)
- ハードブック(?) 固い紙の絵本が欲しかった。(第1子)
- たくさん読んでポコポコになりました。(第1子)
- 『くだもの』の本は、シンプルですが大人の読み方で子どもが興味を持つことがわかりました。色々な本がありますが、絵本を読むことは子どもの成長にとっても大きな影響があるように思いました。(第1子)
- ステキな絵本だったので。(第2子)
- 『ぼんぼんポコポコ』は特に気に入ったようで、自分で本をひらいてお腹をポンポンしたりし、子どもも満足しているようだった。(第1子)
- 10 か月健診で頂いた本は、読みこんでポコポコになってしまいました。(第2子)
- 何種類かの中から選べると、もっとよかった。(第1子)
- 子どもがいつも、ぼんぼんポコポコとお腹をたたいて喜んでます。果物の絵本も大好きです!! (第

- 1子)
- どんな絵本から与えてよいかわからないので、このような事業があると目安にもなるので、今後も続けてほしい。(第2子)
- 兄妹で楽しく聞いてくれるのが嬉しかった。(第2子)
- かどの角ばっていない本をもらいたかった。(第1子)
- 小さな子どもでも分かる内容で家でも楽しく読んでいます。(第1子)
- うちの子は、話を聞くというより、絵をみて楽しんでいるようです。上の子(3歳)も物語をおとなしく聞いてくれず、勝手に、自由に姉弟で楽しんでいるようです。(第2子)
- 『ぼんぼんポコポコ』が好きで、何回も「よんで」と私に持ってきた時期がありました。(第2子)
- 寝る時に絵本を読むようにしたら、本人も楽しむようになった。(第1子)
- 『いないいないばあ』と動物たちが手で顔をかくす本や、ピョンピョンとか動作の本だと、初めて見る時は興味を出すと思う。(第2子)
- これからも続いていくことを願います。(第3子以降)
- 頂いた本をお姉ちゃん(3歳)も一緒に楽しむことができてよかったです。(第2子)
- どういう本を買ったらよいかわからないので、もらえると参考になります。ありがとうございました。(第1子)
- ブックススタートで頂いた本は2冊ともお気に入り、3歳になる姉と一緒に楽しんでいます。(第3子以降)
- 紙(本)がもっと厚い方が、子どもが破かないのでよいかなと思いました。(第1子)
- できれば、ページが厚いものがよいです(興味を示して、引っぱったりして破いてしまうので)。(第3子以降)
- 毎日のように見せていたら自分でも手に取ってく



ようになり、他の本にも興味を持つようになった。『くだもの』の本は本物の果物を見てもよるこぶし、知っているという顔をするようになりよかったと思う。(第1子)

●一番最初に、何の本を買うか、買ってよいかわからなかったので参考になった。(第1子)

●小さい頃からもらった絵本を読んでいたの、今自分で子どもが本を持ってきて読んでと言ってくる。絵本を買ってあげようと、もらってから思うようになった。(第1子)

●まだ知らなくて教育や読みきかせにピッタリの絵本があるため、どんどん年齢別に紹介していいほしい。(第2子)

●一人で読むには、紙が破けてしまったりかんでしまうので、もう少し丈夫な紙の本だったらいいと思いました。でも内容などはすごくよかった。(第1子)

●毎日、子どもと一緒に絵本を読んで、ふれあう時間が増えて、本当によかったと思います。(第1子)

●絵本をもらって読んでみたら、すぐに『ぼんぼんポコポコ』(絵本のタイトル・内容)と口にするようになり、「ボンボン」と言えばその絵本を取りに行くなど、コミュニケーションが取れている感じを嬉しく思ったため。(第2子)

●子どもが興味を持って本を見るようになったので、とてもよかったです。(第3子以降)

●毎日のように読んでいます。(第1子)

●1ページずつ固い(分厚い)本だと、破れたりできないのでよいと思いました。(第2子)

●健診での慌ただしい中で、ゆったりと楽しい気持ちにはなれなかった。お兄ちゃんのときにすでに購入した絵本ばかりで、同じ絵本をもらってもあまり嬉しくなかった。もっと違う形で実施してもらいたい。(第2子)

●子どもに絵本を与えてやるよい機会になった。最初はあまり関心を示さなかったけど、今は自分から読んで欲しい本を持ってきて、読んでくれとせがむようになった。(第1子)

●絵本は、最初の頃はおもちゃのひとつで、ただ引っぱり出してきて遊んでいましたが、最近はお気に入り絵本があると何度も読んでほしいにしています。必ず好きなページにくると笑ったりするので、とても大好きです。本好きの子になってほし

いと思います。姉妹みんな本が大好きです。(第3子以降・ほぼ毎日)

●『ぼんぼんポコポコ』はだいたいハマっていて、実際にマネしたりして楽しそうでした。(第1子)

●『くだもの』も『ぼんぼんポコポコ』も、一日1回は読んでほしいようで、持って来て読んでいます。よい絵本をありがとうございました。(第1子)

●ある程度子どもの興味が持てる本を、親が選んできくと嬉しいです。(第3子以降)

●初めての子ども用の絵本なので、図書館の本のブックの方達のおすすめの本と思うと、安心して読みきかせに利用できました。ありがとうございました。(第1子)

●絵本を見るきっかけになりました。(第2子)

●年齢に合う本を選ぶのが難しいが、子どもが興味を持った本を購入できればいいと思います。(第1子)

●双子でそれぞれ違う本を頂けたので、ありがたかったです。わらべうたの絵本よかった(『とけこうよがあげた』。(第2子)

●絵本を読むと、ちょっとずつ関心を持てるようになったので、親の私も嬉しかったです。(第2子)

●『くだもの』の本は、果物を食べる時に見せながら、名前を教えたりしている(第1子)

●子どもが頂いた本が大好きで、毎日のように読み、今では内容も覚えて一人で読んでいます。本はポコポコで、テープで何度も直しています。他にも何冊も本を購入したのですが、『くだもの』と『ぼんぼんポコポコ』は本当に大好きで、毎晩のように持って歩いては読まれます。(第1子)

●バナナなどと言いながら楽しそうに見ています。『くだもの』は身近な題材でよかったと思います。ありがとうございました。(第1子)

●紙が薄いので、読むより先にびりびり破ったり折ってしまい、読みきかせどころではない。月齢にあった、本(ページ)の厚みがほしい(子の性格にもよるのでしょうか……)。(第2子)

●子どもに身近なものが出てきた本(くだものなど)なので、長く使えそうです。(第1子)

●お姉ちゃんと二人で、頂いた本を楽しく読ませてもらっています。(第2子)

●あれから、絵本が大好きになりました。(第3子

以降)

●ミニサイズの紙芝居があると嬉しいです。(第2子)

●頂いた本は子どもがとても大好きな本になり、とてもありがたかったです。(第1子)

●まだストーリーがあるお話には興味を示さないけど、イラストだけだったりすると、絵をみながら「ワンワン」や「バナナ」など言葉を言ったり指をさしたりするので、成長によいと思いました。頂いた絵本のひとつが薄い紙で、手を切った事があるので、小さいうちは厚めの紙がよいと思いました。(第1子)

●10か月健診後に絵本をたくさん買った。それまでは早いと思っていた。今は毎日欠かせません。(第1子)

●おもちゃばかりに気がいつてしまい、絵本になかなか関心を持てないのが現状です。(第1子)

●幼稚園でも読みきかせがあるため、上の子が絵本に興味をもっている。家庭で楽しい時間を過ごす、ひとつの方法としてとてもよいと思った。(第3子以降)

●本はビリビリに破かれてしまいました。(第1子)

●買い与える際、どんな本を選んだらよいのかわからないので(時間もないので)、おすすめがあると助かる!!(第1子)

●果物の本など身近な物でよかった(比べたり、実際、指をさしたりなどしていた)。(第1子)

●とてもよい本を頂けて感謝しています。子どもも時折自分でバラバラとめくって見えています。これからも大切にしていきたいです。(第1子)

●子どもが頂いた絵本にとても興味をもっていて、今でも毎日読んでいます。(第1子)

●10か月健診で頂いた本は、今でも毎日読んでいます。お兄ちゃんが10か月の時にもらった本も大切に読ませていただいています。本を買う事はなかなか我が家ではないので(図書館に通っている)、自分のものという意識があるみたいで、とても大事にしています。ありがとうございました。(第2子)

●何冊かあって選べたらいいなと思う。(第2子)

●頂いた本をとても気に入って、毎日読んでいます。(第2子)

●10か月では絵本の扱いが雑なので、丈夫な本だともっと楽しめると思います。(第1子)

●夜、寝る前に一緒に読んでいます。『ぼんぼんポコポコ』の本はとても気に入っているみたいです。(第1子)

●読みやすいから。(第1子)

●まさか本が頂けると思っていなかったのに嬉しかった。自分なりに簡単な本は買って見せてはいたものの、少し物語の本も読ませてみようと思うきっかけを頂いた。『ぼんぼんポコポコ』『くだもの』どちらも大のお気に入り、今は言葉をまねして(くだもの)言うなどして使っている。(第1子)

●果物の絵本がお気に入りです!(第1子)

●子どもが関心を示すものと示さない本があり、ブックスタートの本はやはりすごく関心を示し、その後も繰り返し読んだので、関心のある本がわかってよかった。他にも子ども受けする本を教えてください。(第1子)

●あまり種類を持っていなかったのに、よかったです。(第1子)

●頂いた2冊とも、母子ともに大変気に入っており、ます。『ぼんぼんポコポコ』は、カエルやゴリラ、タヌキなどがかわいらしく、子どもも興味を持ったようですし、『くだもの』は、本物そっくりに描かれた美味しそうな果物がとてもよかったです。これからもこのような事業を続けてほしいと思います。(第1子)

●頂いた本は大活躍しています!!(第2子)

●上の子と歳が近かったせいか、頂いた絵本が上の子と同じものだったのが残念です。1年周期ぐらいで本を変えてもらえるとよいと思います(第3子以降)

●絵本を読みきかせる事で私自身、しばらく絵本に触れる事がなかったのよかったです。(第1子)

●果物の本が大好きでその本を見ては、「あーん」とパパとママの口に果物を運んでくれます。(第1子)

●絵本はもともと好きなので、もらえてとても嬉しかったです。小さい子用の本も知る事ができてよかったです。(第1子)

●子どもの成長にとっても役立つと思います。(第1子)

●お母さんが絵本に触れたり知ったり、好きになれば、我が子と共感したくなりますもんね。赤ちゃんのうちから、親子で、よいものにたくさんふれあえたり、親子のコミュニケーションのきっかけになると思います。これからも続けてほしいです。(第2子)
●絵本はたくさんあって、どの本が今一番楽しめるかわからないこともあるので、いろいろなものを紹介していただけるといいと思います。(第1子)

●自分で本をひらいて見るようになったのでよかった。一日おきぐらいい一緒に読んで遊んでいます。どんな本を見せていったらいいのかが悩んでいるところです。何か機会があったら催しに参加したいです。(第1子)

●3か月頃から絵本を読みきかせていたので、10か月健康相談の時にもらえて助かりました(本もけっこう値段が高いので)。フルーツの絵本は特に子どもが気に入って、いつも読んでフルーツをパクパクしてました。(第1子)

●ブックスタートは様々な意見があると思いますが、我が家では大分早くから本に触れていたもので、10か月より早くてもよいかなと思います。(第1子)

●子どもが本にあまり興味を示さなかった(体を動かす遊びの方が好きだから)。(第2子)

●『ぼんぼんポコポコ』は子どものお気に入りになった。本を見ると「ポンポン」とよく言うので、とてもおもしろくてかわいいなと感じます。今でもよく読みます。読んでほしがって「ポンポン」×3とよく言います。ありがとうございました。(第1子)

●子どもが興味を示すと思うのでよいと思う。(第1子)

●今まで絵本を見せた事がなかったけど、10か月児健康相談の時に絵本を頂いて、1歳過ぎてから興味をすごく示していつも見えています。ここで絵本を頂いてから、絵本を見せる機会ができたので良かったです。(第1子)

●ブックスタートで頂いた本は、特に気に入ってよく見ていました。どの絵本を買ったらよいか悩んでいた時だったので、助かりました。(第1子)

●本を受け取ったときは、まだ本を持ってなかったので、よいきっかけになったと思います。ぜひこれからも続けてほしいと思います。(第1子)

●『くだもの』のおかげで食べ物に興味を持つよう

になりました。いまでは破かれてビリビリになってしまいましたが、それでも大切にしています。(第1子)

●まだ難しいのかなと思っていた字のある本にも興味を持ってくれて、それから選択肢が広がってよかったです。(第1子)

●月齢にあった楽しい絵本でよかった。(第1子)

●兄と一緒に楽しそうに本を見ているので私も嬉しい。(第2子)

●子どもが興味を持ちそうな本を紹介して欲しいと思う(年齢毎に)。(第2子)

●自分で購入する機会が少ないので、ぜひ頂きたいと思ったし、子どもとのコミュニケーションがひとつ増えてよかった。(第1子)

●『ぼんぼんポコポコ』がお気に入りで、もらってよかったと思いました。(第1子)

●子どもは第2子になるが、あまり本に興味を示さないで、頂いた本はまだあまり活用していないが、第1子の娘の時は、本が大好きでとてもよかったです。本に興味を持つのは個人差があると思いますが、とてもよい事業だと思います。(第2子)

●とても親切で、子どもとのふれあいになった。(第1子)

●絵本の内容がとてもよく、1歳過ぎてからの方が、興味が出てきたみたいです。『ぼんぼんポコポコ』は、自分でお腹をたたいたりしています。(第1子)

●子どもが本に対して、かなり関心を持った。(第1子)

●とても好きな絵本になっているので、これからも続けてもらいたいと思います。(第1子)

●果物の絵などを見せて、名前(くだもの)を言いつたり、食べるマネをしたりしている。お腹を冷やさないよう、絵本で教えられる。(第1子)

●コンパクトでお出かけのときには必ず車に乗せて持っていきます。(第2子)

●子どもが楽しそうに見ていたり、兄(5歳)と一緒にあって見ている姿が見られたのでよかったと思います。(第3子以降・全くしたことがない)

●妊娠中から(上の子の時から)読みきかせていて、上の子の時は時間にゆとりがあり、産まれてからずっと読んでいて、今でも本が大好きで、暗唱とかも好きです。下の子は、なかなか沢山読んであげ

られませんが、上の子の影響で絵本が大好きで、「読んで」と持ってくるので読んであげています。テレビやゲーム、DVDよりも、本を沢山読む子どもになって欲しいし、私自身母親に本を読む事をすすめられて、何かしら人生の役に立っていると思うので。(第2子)

●絵本は自分も好きでかなりの数をもっていて、二人の子どもに読みきかせをしているが、世の中のお母さん達はもっと読みきかせのよさを知ったらいいのになあと思うので、こういう事業はとてもよいと思う。(第2子)

●お姉ちゃんが、楽しそうに読んであげていた。その様子も見られてよかった。(第2子)

●お気に入りの本のひとつになっています。今では、ポンポンと自分のお腹を両手でポンポンとたたきながら嬉しそうです。そして『くだもの』も、気に入った果物を見つけ、指でつまんで食べるマネを楽しそうにしています。ありがとうございます。(第1子)

●内容よりも本をめくることがまだ好きなので、一所懸命にめくって閉じてを繰り返しています。(第1子)

●親子さんの中では、絵本の大切さや絵本の読みきかせ時期について分からない方がいらっしゃると思うので、親子さんに知らせてあげられる、よいチャンス・タイミングだと思うので、これからも継続を望みます。(第1子)

●ありがたかったです。ありがとうございました。(第2子)

ブックスタートについて

ブックスタートは、市区町村自治体が行う0歳児健診などの機会に、「絵本」と「赤ちゃん絵本を楽しむ体験」をプレゼントする活動です。赤ちゃん保護者が、絵本を介して、心ふれあう時間を持つきっかけを届けます。

●対象は？

活動を行う市区町村に生まれた、すべての赤ちゃんとその保護者です。



「赤ちゃん、すくすく幸せに育ってね」「地域みんなで子育てを応援していますよ」という気持ちを添えて、ブックスタート・バックを手渡します。

ブックスタート・バック

絵本のほか、各自治体で作成した絵本リストや子育てに関する資料も入ります。

※内容は自治体によって異なります。



1992年に英国で発祥

～read booksではなくshare books～

ブックスタートは、1992年に英国で始まりました。キャッチフレーズは、Share books with your baby! 絵本を読む(read books)のではなく、赤ちゃん絵本を開く楽しいひとときを分かち合う(share books)…。そのきっかけを、すべての赤ちゃんのもとへ届けようと始まったこの活動は、現在、世界各地で行われています。

2001年4月 日本でブックスタート開始

日本では、2000年の「子ども読書年」を機にブックスタートが紹介されました。同年11月、東京都杉並区での約200家庭を対象とした試験実施※1を経て、2001年4月に12市町村で本格的な活動が始まり、その後全国各地に広がっています※2。

※1 子ども読書年推進会議（子どもの読書に関わる約280の団体・企業・個人が参加）が杉並区の協力を得て実施。

※2 最新の実施自治体状況はNPOブックスタートウェブサイトに掲載しています。www.bookstart.or.jp

ブックスタートの大切な5つのポイント

目 的

赤ちゃん保護者が、絵本を介してゆっくり心ふれあうひとときを持つ、きっかけをつくります

絵本は、赤ちゃんに優しく語りかけ共に過ごす時間を、ごく自然に作り出します。赤ちゃんとの絵本の時間は、「読む(read books)」ではなく「分かち合う(share books)」だと考えています。

※ブックスタートは早期教育の活動ではありません。

対 象

活動を行う市区町村に生まれた、すべての赤ちゃんとその保護者が対象です

保護者の中には、絵本にもともと関心がある方も、そうでない方もいます。ブックスタートは、赤ちゃんの生まれた環境にかかわらず、好きな人と絵本を開くきっかけをすべての赤ちゃん保護者のもとへ届けます。

機 会

すべての赤ちゃんと出会う、0歳児集団健診などで行われます

多くの自治体では、すべての赤ちゃんに出会うため、受診率が高い0歳児集団健診でブックスタートを実施しています。健診を集団で行っていない自治体では、他の保健事業や子育て支援事業などの機会に実施されています。

方 法

絵本を開く楽しい体験といっしょに
あたたかなメッセージを伝え、絵本を手渡します

ブックスタートでは、絵本をただ配るのではなく、一組ずつの赤ちゃん保護者に、絵本を開く時間の楽しさをその場で体験してもらいます。実際の体験が、家庭でもまた絵本を開いてみようという何よりのきっかけになります。また、絵本をプレゼントすることで、家庭ですぐに絵本を楽しむ機会を持つことができます。

体 制

市区町村単位の活動として、様々な分野の人が連携して実施します
特定の個人や団体の宣伝・営利・政治活動が目的ではありません

図書館・保健センター・子育て支援課・住民ボランティアなど様々な分野の人たちがアイデアを出し合い、協力して事業を進めることが、活動の充実や継続につながっています。

※「ブックスタートの大切な5つのポイント」は、英国から引き継いだ活動の理念と、日本各地の実践の中で大切にされてきたことをまとめたものです。

編著者 NPOブックスタート

日本のブックスタートの推進団体。活動の正確な理念を伝え、ブックスタートを実施する自治体や実施を検討する地域等に対して様々な情報提供や支援活動を行う民間の非営利組織。2001年4月に「子ども読書年推進会議」内の「ブックスタート室」が発展するかたちで「ブックスタート支援センター」として発足。2002年1月に独立した中立的な立場から継続的な推進活動を展開することを目指し、東京都からNPO法人の認証を受ける。活動発祥の国、英国の推進団体「ブックトラスト」やほかの国々・地域の推進団体とも連携し、各国の経験を共有しながら、世界に向けてブックスタートを紹介する取り組みも行っている。

<事業内容>

情報提供（問い合わせ・相談対応、自治体向け資料・ニュースレターの発行）／自治体向けの研修（各地域での学習会・講演会などへの職員派遣、都道府県ごとの研修会開催）／主催イベントの開催（講師を招いた講演会等）／ブックスタート・バックの提供／広報活動／研究・調査

編集協力・第1部考察

佐々木宏子 鳴門教育大学名誉教授

40年以上にわたり、絵本と子どもの発達について研究。鳴門教育大学では、地域に開放された児童図書室長や、附属幼稚園長として、実践の場にも関わった。著書に、『絵本の心理学—子どもの心を理解するために』（新曜社）等。

編集協力

秋田喜代美 東京大学大学院教授

専門は教育心理学、発達心理学、保育学。人が育つ制度的な場としての保育所や幼稚園、小中学校での授業検討会等に参加しながら教育実践研究を行っている。著書に、『絵本で子育て』（岩崎書店）、『保育のみらい』（ひかりのくに）等。

「ブックスタートがもたらすもの」に関する 研究レポート

2014年7月20日初版第1刷発行

編著者 NPOブックスタート

発行者 白井 哲

発行所 NPOブックスタート

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 5-19 角田ビル3階

Tel: 03-5228-2891 Fax: 03-5228-2894

E-mail: infobs@bookstart.or.jp URL: www.bookstart.or.jp

©Bookstart Japan 2014

ISBN978-4-902077-04-9 Printed in Japan

ISBN978-4-902077-04-9

C0037 ¥900E

定価：本体 900 円＋税



9784902077049



1920037009007

